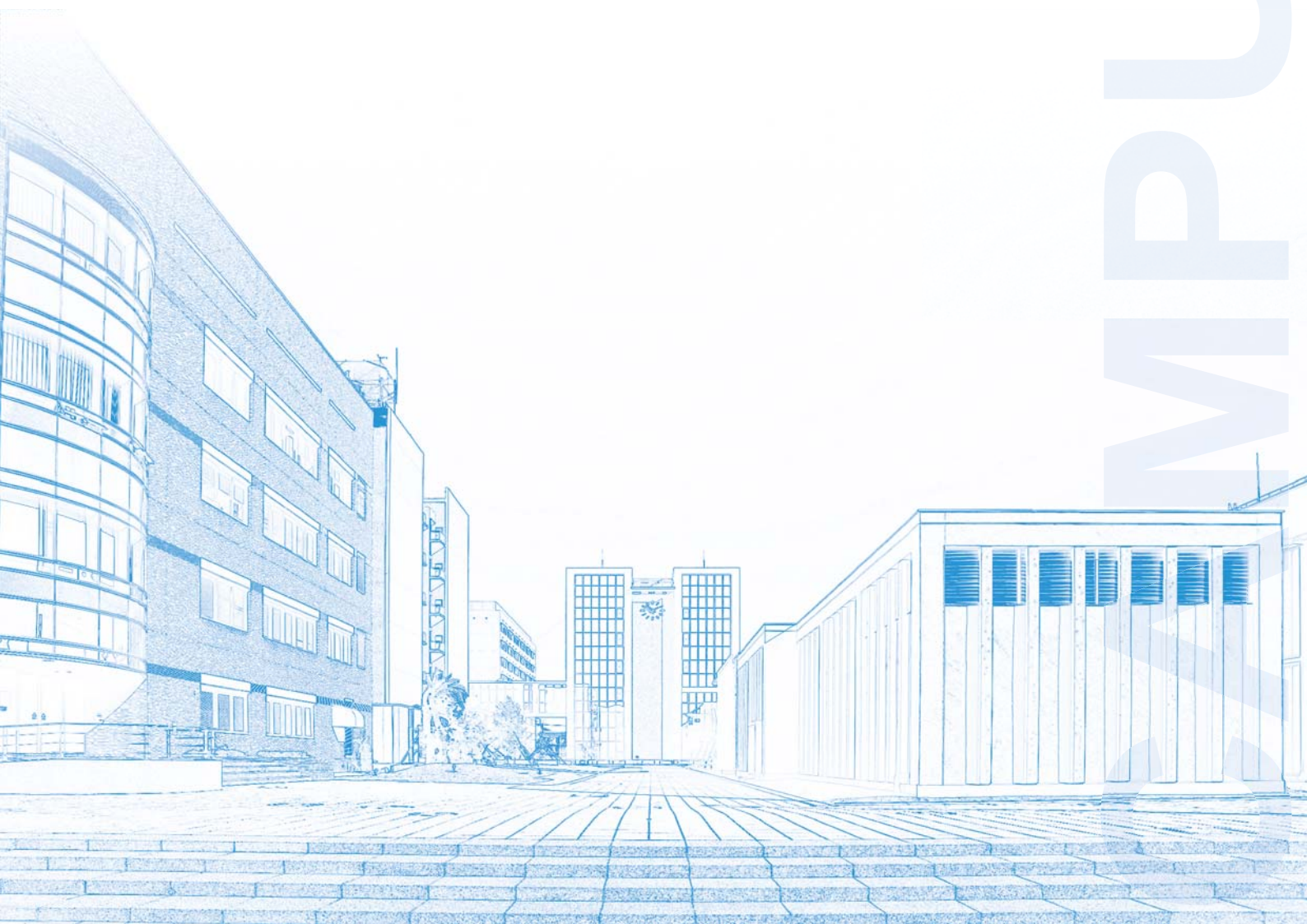


第4回 大学院生生活実態調査報告書 **CAMPUS LIFE**

キャンパスライフ



W
E
L
L
S
U
P
M

ま え が き

第4回大学院生生活実態調査報告書を作成しました。この調査は、本学大学院生の生活実態や要望を調査し、福利厚生等並びに修学指導における課題を把握し、本学における大学院教育全般の改善を図る目的で平成24年11月に7教育部の修士・博士前期及び博士・博士後期の学生全員(1,556人)にアンケート調査を実施しました(回収率は54%)。この調査は2年ごとに実施されており、今年度は4回目であり、その結果が纏まりましたので報告致します。

本報告書は、調査の概要、続いて調査項目①家族・住居・通学、②収入・支出、③健康状態、④学生生活上の問題点、⑤修学状況、⑥進路選択・就職について、総計80問の質問により調査(日本語と英語)し、各質問項目毎に分析結果とデータを示しています。更にこの調査から得られた各教育部の現状と課題並びに総括と提言を記載しております。

本調査からは本学大学院生の生活実態がよく見えます。例えば前期課程学生のほぼ半数はアルバイトをしていること、主な悩みは「就職や進路」、「勉強」であること、この悩み事を相談するのは友人や家族が多いこと、交通事故にも約35%の大学院生が遭遇していること、指導教員とのコミュニケーションは83%の人がある程度まで含め取れているが、あまり取れていない、全く取れていないを合わせると16%であること、また海外渡航が少ない(70%は入学後なし)が国際学会での発表は修士で27%、博士で50%あることなど、これから本学の大学院教育の改善・改革を進める上で貴重なデータが得られています。

今、大学教育は大きな変革を求められています。昨年6月には文部科学省から「大学改革実行プラン」、8月には中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」が出されています。本学でも社会から求められている大学の教育改革を進めるため、全学組織として設置しています「教学マネジメントチーム」、「教育戦略室」、「大学教育委員会」などを中心に審議し、実行できる事項は素早く進めています。私は今求められている大学教育改革のキーワードは、①「教育者中心」から「学習者中心」へ、②「教育の質保証」、③「グローバル化対応」などと考えています。本報告書はこの大学教育改革を進める上で貴重なデータを提供していると考えています。本報告書に見られる大学院生の意見を真摯に受け止め、大学院生が勉強しやすい教育環境作りと大学院教育のより良い制度設計及び改革を進めたいと存じます。また、各教育部におきましても大学院生の意見を真摯に受け止め、大学院教育の改善・改革を進めて頂きたいと存じます。

最後になりますが、本学学生支援センター学生生活支援室運営会議の委員の先生方および学務部職員の方々には、アンケート項目の設定、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中精力的に遂行して頂き、早期に報告書を作成して頂きました。岡田達也委員長をはじめとする皆様に深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただきました沢山の大学院生の皆様にもこの場を借りて深く感謝いたします。

平成25年3月

徳島大学理事(教育担当)

高石喜久

目 次

まえがき	1
序 章 大学院生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 回答票の回収状況	5
7 図中の％表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 教育部（研究科）の略語表示	5
附表 「平成 24 年度学生生活実態調査票」（日本人学生用）	8
附表 「2012 STUDENT LIFE SURVEY」（外国人留学生用）	20
第 1 章 本調査の対象者について	36
1-1 出身地	36
1-2 最終学歴	37
1-3 社会人大学院生と留学生	38
第 2 章 家族・住居・通学について	40
2-1 家庭の年間所得	40
2-2 住居区分	41
2-3 住居費	42
2-4 配偶者や子供の有無	43
2-5 通学方法	44
2-6 通学時間	45
第 3 章 収入・支出について	46
3-1 1 か月の平均収入額	46
3-2 親等からの援助額	47
3-3 1 か月の平均支出額（授業料支出は除く）	48
3-4 奨学金	49
3-5 アルバイト	50
3-6 アルバイト従事時間数	51
3-7 アルバイトの目的	52
3-8 アルバイト収入金額	53
3-9 アルバイトにおけるトラブル	54
第 4 章 健康状態について	56
4-1 睡眠時間	56
4-2 気になる症状	57
4-3 症状の内容	57

4-4	主な悩みと不安	58
4-5	相談相手	59
4-6	現在の精神状態	60
4-7	喫煙	61
4-8	飲酒	62
4-9	保健管理センターの認識	62
第5章	学生生活上の問題点について	64
5-1	迷惑行為	64
5-2	学生相談室の利用	67
5-3	犯罪被害・交通事故・違法薬物使用	69
5-4	大学事務室の対応	71
第6章	修学状況について	73
6-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	73
6-2	本学を選んだ理由と目的	77
6-3	研究活動と研究指導	81
6-4	研究環境と所属大学院に対する満足度	87
6-5	図書館の利用状況	90
6-6	海外渡航の経験と英会話	92
6-7	日本語会話	96
6-8	学習への取組みと本学の教育への期待	99
第7章	進路選択・就職について	103
7-1	後期課程への進学意思	103
7-2	進学希望先	104
7-3	就職希望職種	105
7-4	進路選択の要件	107
7-5	進路選択の情報入手手段	109
7-6	就職支援センターの利用状況	110
7-7	就職に関する大学への要望	112
第8章	教育部の現状と課題	116
8-1	総合科学教育部	116
8-2	医科学教育部（医学研究科）	118
8-3	口腔科学教育部	122
8-4	薬科学教育部	125
8-5	栄養生命科学教育部	128
8-6	保健科学教育部	132
8-7	先端技術科学教育部（工学研究科）	136
特記	留学生の現状と課題	139
第9章	総括と提言	141
	あとがき	143

序章 大学院生生活実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	岡 田 達 也	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	有 澤 孝 吉	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	松 山 美 和	”	教 授
委 員	佐 野 茂 樹	”	教 授
委 員	徳 村 彰	”	教 授
委 員	守 安 一 峰	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教 授
委 員	平 井 松 午	”	教 授
委 員	大 政 健 史	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	井 崎 ゆみ子	保 健 管 理 セ ン タ ー	准教授
委 員	金 成 海	国 際 セ ン タ ー	教 授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,556人（平成24年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各教育部（研究科）の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークカード）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成24年11月5日から11月13日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月14日までとした。

5. 調査の内容

調査項目は、大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 回答票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1,556 人のうち回答数は 841 人で、回収率は 54%であった。教育部（研究科）・専攻別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が 100%にならない場合がある。

8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と博士課程（医・歯・薬）を合わせて後期課程と表現した。

9. 教育部（研究科）の略語表示

本報告書中、教育部（研究科）名を以下のとおり略語で記載する。

総合科学教育部	→	総合科学
医科学教育部（医学研究科）	→	医科学
口腔科学教育部	→	口腔科学
薬科学教育部	→	薬科学
栄養生命科学教育部	→	栄養生命科学
保健科学教育部	→	保健科学
先端技術科学教育部（工学研究科）	→	先端技術科学
第1回大学院生生活実態調査（平成17年度実施）	→	第1回調査
第2回大学院生生活実態調査（平成20年度実施）	→	第2回調査
第3回大学院生生活実態調査（平成22年度実施）	→	第3回調査

平成24年度 大学院生生活実態調査 集計表 (教育部(研究科)・専攻・学年別)

教育部(研究科)名 専攻名	修士・博士前期課程										修士・博士後期課程																										
	1年		2年		小計		回収率		1年		2年		3年		4年		小計		回収率																		
	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)	全体 (人)	うち留学生 (人)																	
総合科学教育部	地域科学専攻	32	11	3	40	5	10	2	72	16	21	5	22.2	23.8	4	2	1	1	7	2	0	0	9	0	1	0	20	4	2	1	200	500					
	臨床心理学専攻	11	4	0	0	15	3	0	0	26	7	0	0	26.9																							
医学教育部 (医学研究科)	小計	43	15	11	3	55	8	10	2	98	23	21	5	23.5	23.8	4	2	1	1	7	2	0	0	9	0	1	0	20	4	2	1	200	500				
	医科学専攻	10	10	0	0	10	9	2	1	20	19	2	1	95.0	50.0																						
口腔科学教育部	医学専攻																																				
	プロテオミクス医学専攻																																				
口腔科学教育部	小計	10	10	0	0	10	9	2	1	20	19	2	1	95.0	50.0	54	18	10	6	51	10	9	4	42	13	3	2	51	18	5	3	198	59	27	15	298	556
	口腔保健学専攻	5	3	0	0	5	5	0	0	10	8	0	0	80.0																							
薬科学教育部	小計	5	3	0	0	5	5	0	0	10	8	0	0	80.0																							
	創薬科学専攻	26	22	0	0	34	25	2	1	60	47	2	1	78.3	50.0	18	14	4	4	16	11	6	6	15	6	4	2	21	11	2	1	70	42	16	13	600	813
栄養生命科学教育部	薬学専攻																																				
	小計	26	22	0	0	34	25	2	1	60	47	2	1	78.3	50.0	18	14	4	4	16	11	6	6	15	6	4	2	21	11	2	1	70	42	16	13	600	813
保健科学教育部	人間栄養科学専攻	32	25	0	0	33	26	1	1	65	51	1	1	78.5	100.0	9	5	2	2	13	5	2	2	12	4	3	0										
	保健学専攻	29	16	1	0	24	7	0	0	53	23	1	0	43.4		6	4	0	0	5	2	0	0	11	1	0	0										
先端技術科学教育部 (工学研究科)	知的力学システム工学専攻	112	61	8	3	103	46	16	7	215	107	24	10	49.8	41.7	17	7	8	5	8	3	2	1	23	3	9	0										
	環境創生工学専攻					95	56	2	1	95	56	2	1	58.9	50.0																						
先端技術科学教育部 (工学研究科)	物質生命システム工学専攻	73	53	1	0					73	53	1	0	72.6		6	1	1	0																		
	システム創生工学専攻	151	115	5	4	170	127	6	5	321	242	11	9	75.4	81.8	15	10	7	5	19	10	10	5	34	14	21	7										
情報システム工学専攻	機能システム工学専攻																																				
	情報システム工学専攻																																				
小計	小計	336	229	14	7	368	229	24	13	704	458	38	20	65.1	52.6	38	18	16	10	36	16	13	7	79	26	31	8										
	合計	481	320	26	10	529	309	39	18	1,010	629	65	28	62.3	43.1	144	73	33	23	140	54	30	19	182	56	43	12	80	29	7	4	546	212	113	58	388	513

(注) 在学者数欄は11月1日現在で、休学者を除いた数である。

〈学年別〉

課 程	学 年	全 体		回 收 率 全 体 (%)
		対象者数 (人)	回 収 数 (人)	
修士・博士前期課程	1 年	481	320	66.5
	2 年	529	309	58.4
	小 計	1,010	629	62.3
博士・博士後期課程	1 年	144	73	50.7
	2 年	140	54	38.6
	3 年	182	56	30.8
	4 年	80	29	36.3
	小 計	546	212	38.8
	合 計	1,556	841	54.0

〈男女別〉

課 程	教 育 部 (研 究 科) 名	回 収 率 (%)		
		男	女	計
修士・博士前期課程	総 合 科 学 教 育 部	16.7	28.6	23.5
	医 科 学 教 育 部	100.0	90.9	95.0
	口 腔 科 学 教 育 部	100.0	77.8	80.0
	薬 科 学 教 育 部	76.1	85.7	78.3
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	83.3	77.4	78.5
	保 健 科 学 教 育 部	22.2	54.3	43.4
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	63.9	76.1	65.1
	小 計	61.8	63.7	62.3
博士・博士後期課程	総 合 科 学 教 育 部	36.4	0.0	20.0
	医 科 学 教 育 部 (医 学 研 究 科)	27.0	33.3	28.6
	口 腔 科 学 教 育 部	53.8	67.7	60.0
	薬 科 学 教 育 部	60.0	72.7	63.4
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	46.2	38.1	41.2
	保 健 科 学 教 育 部	60.0	23.5	31.8
	先 端 技 術 科 学 教 育 部 (工 学 研 究 科)	37.0	50.0	39.2
	小 計	37.1	42.6	38.8
	合 計	53.7	55.1	54.0

平成24年度 学生生活実態調査

平成24年11月

徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成24年11月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

〔調査実施期間 11月5日(月)～11月13日(火)〕

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月14日(水)です。

所属教育部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成24年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号をHBの黒鉛筆で塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けています。質問中、回答用紙（マークカード）の裏面に記入する必要がある場合は、質問番号とその内容を記入してください。
また、大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A. 基本的事項について

1 【全員】所属教育部（研究科）はどこですか。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 総合科学教育部（人間・自然環境研究科） | 2. 医科学教育部（医学研究科） |
| 3. 口腔科学教育部 | 4. 薬科学教育部 |
| 5. 栄養生命科学教育部 | 6. 保健科学教育部 |
| 7. 先端技術科学教育部（工学研究科） | |

2 【全員】専攻はどこですか。

総合科学教育部

- [1. 地域科学専攻 2. 臨床心理学専攻 3. 人間・自然環境研究科（旧課程）]

医科学教育部（医学研究科）

- [1. 医科学専攻 2. 医学専攻 3. プロテオミクス医科学専攻]

口腔科学教育部

- [1. 口腔科学専攻 2. 口腔保健学専攻]

薬科学教育部

- [1. 創薬科学専攻 2. 医療生命薬学専攻 3. 薬学専攻]

栄養生命科学教育部

- [1. 人間栄養科学専攻]

保健科学教育部

- [1. 保健学専攻]

先端技術科学教育部（工学研究科）

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|
| 1. 知的力学システム工学専攻 | 2. 環境創生工学専攻 | 3. 物質生命システム工学専攻 |
| 4. システム創生工学専攻 | 5. 機能システム工学専攻 | 6. 情報システム工学専攻 |

3 【全員】何年生ですか。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 修士・博士前期課程1年生 | 2. 修士・博士前期課程2年生 |
| 3. 博士後期課程1年生 | 4. 博士後期課程2年生 |
| 5. 博士後期課程3年生 | 6. 博士課程1年生 |
| 7. 博士課程2年生 | 8. 博士課程3年生 |
| 9. 博士課程4年生 | |

4 【全員】性別はどちらですか。

1. 男
2. 女

5 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県
2. 四国（徳島県以外）
3. 九州
4. 中国
5. 近畿
6. 中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7. 関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8. 東北
9. 北海道

6 【全員】現在所属している教育部（研究科）に進学する前の最終学歴はどこですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 徳島大学 | 2. 徳島大学以外の国内の大学 |
| 3. 高等専門学校専攻科 | 4. 外国の大学 |
| 5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程 | 6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院 |
| 7. 外国の大学院 | |

7 【全員】社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生
2. 留学生
3. どちらでもない

B. 家族・住居・通学について

8 【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 250万円未満 | 2. 250～500万円未満 |
| 3. 500～750万円未満 | 4. 750～1,000万円未満 |
| 5. 1,000～1,500万円未満 | 6. 1,500万円以上 |

9 【全員】あなたの住居区分はどれですか。

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 自宅（家族と同居） | 2. アパート・マンション（家族と別居） |
| 3. 国際交流会館 | 4. 間借り |
| 5. 親戚・知人宅 | 6. その他 |

10 【国際交流会館及び日亜会館留学生宿舍入居者を除く自宅外通学者】1か月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3万円～4万円未満 |
| 3. 4万円～5万円未満 | 4. 5万円～6万円未満 |
| 5. 6万円～7万円未満 | 6. 7万円～8万円未満 |
| 7. 8万円～9万円未満 | 8. 9万円～10万円未満 |
| 9. 10万円以上 | |

11 【全員】あなたには現在、生計を共にしている配偶者・子供がいますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 配偶者なし、子供なし | 2. 配偶者なし、子供あり |
| 3. 配偶者あり、子供なし | 4. 配偶者あり、子供あり |

12 【問11で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき、子供の世話は誰がみていますか。（複数回答可）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親や親戚 |
| 3. 保育施設にあずける | 4. 小学校等の学校に通っている |
| 5. その他 | |

（注：要望事項があれば、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号12とともに書いてください）

13 【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。

- | | | |
|--------|----------|--------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. バイク（原付自転車・自動二輪） |
| 4. 自動車 | 5. バス・JR | |

14 【全員】通学時間はどれですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 15分未満 | 2. 15分～30分未満 |
| 3. 30分～1時間未満 | 4. 1時間～2時間未満 |
| 5. 2時間以上 | |

C. 収入・支出について

15 【全員】あなたの1か月の平均収入額（親等からの援助を除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15～20万円未満 |
| 7. 20～25万円未満 | 8. 25～30万円未満 |
| 9. 30万円以上 | |

16 【全員】親等からの援助はいくらありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 全くない | 2. 3万円未満 |
| 3. 3～5万円未満 | 4. 5～7万円未満 |
| 5. 7～10万円未満 | 6. 10～15万円未満 |
| 7. 15～20万円未満 | 8. 20万円以上 |

17 【全員】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15～20万円未満 |
| 7. 20～25万円未満 | 8. 25～30万円未満 |
| 9. 30万円以上 | |

18 【全員】奨学金を受けることを希望しますか。

1. 現在受給中であるが、更に希望する
2. 現在受給していないが、希望する
3. 現在受給していないし、希望もしない

19 【全員】現在、アルバイトをしていますか。

1. はい
2. いいえ

20 【問19で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。
(移動に要する時間も含む)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 5時間未満 | 2. 5～10時間未満 |
| 3. 10～15時間未満 | 4. 15～20時間未満 |
| 5. 20～25時間未満 | 6. 25時間以上 |

21 【問19で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1. 生活費や学費のため | 2. 学会参加のため |
| 3. レジャー・旅行費のため | 4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため |
| 5. 高額商品(パソコン, バイク, 自動車等)購入のため | |
| 6. 社会体験のため | 7. その他 |

22 【問 19 で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入（1 か月平均）はいくらですか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15万円以上 |

23 【問 19 で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。（複数回答可）

- | | | |
|---|-----------|----------------|
| 1. ない | 2. 給料の不払い | 3. 給料が契約より低かった |
| 4. 客とのトラブル | 5. 解雇 | 6. 雇用者との意見の不一致 |
| 7. 事故・ケガ | | |
| 8. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 23 とその内容を書いてください） | | |

D. 健康状態について

24 【全員】1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。（休日を除く）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 4時間未満 | 2. 4～6時間未満 |
| 3. 6～8時間未満 | 4. 8～10時間未満 |
| 5. 10時間以上 | |

25 【全員】現在気になる身体症状はありますか。

1. ない
2. 時々ある
3. 常にある

26 【問 25 で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。（複数回答可）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 頭痛 | 2. 腹痛・嘔気 |
| 3. 下痢・便秘 | 4. 動悸・不整脈 |
| 5. めまい・立ちくらみ | 6. 咳・痰 |
| 7. 生理痛・生理不順 | 8. その他 |

27 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。（複数回答可）

- | | |
|------------|------------|
| 1. ない | 2. 経済状態 |
| 3. 勉強 | 4. 交友・異性関係 |
| 5. 身体的不調 | 6. 家族関係 |
| 7. 自分の性格 | 8. 就職や進路 |
| 9. 生き甲斐や目標 | 10. その他 |

28 【全員】悩み事は誰に相談しますか。（複数回答可）

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 友人 | 2. 家族 |
| 3. 教員 | 4. 学生相談室 |
| 5. 保健管理センター | 6. 学務（教務）係 |
| 7. 1～6以外の人 | 8. 誰にもしない |

29 【全員】現在の精神状態はどうですか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 充実している | 2. 気分は普通 |
| 3. いらいらする | 4. なんとなく不安 |
| 5. 落ち込みやすい | 6. やる気がでない |
| 7. その他 | |

30 【全員】喫煙しますか。

1. 喫煙しない
2. ときどき喫煙する
3. 毎日喫煙する
4. 過去に喫煙していたが、現在はしない
5. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 30 とその内容を書いてください）

31 【全員】飲酒をしますか。

1. 飲酒はしない
2. たまに飲酒する
3. 1週間に1～2日飲酒する
4. 1週間に3～4日飲酒する
5. 1週間に5日以上飲酒する

32 【全員】保健管理センターを利用したことがありますか。（複数回答可）

1. 健康診断のために行ったことがある
2. 健康診断以外（診療、相談、健康機器の利用、証明書作成など）で利用したことがある
3. 保健管理センターがあることを知らなかった
4. 保健管理センターは知っているが、行ったことがない

E. 学生生活上の問題点

33 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、迷惑行為を受けたことがありますか。
（複数回答可）

1. 受けたことはない
2. 悪徳商法に引っかかった
3. いたずら電話を受けた
4. ストーカーにあった
5. 大学内でセクハラを受けた
6. 大学内でアカハラを受けた
7. 飲酒を強要された
8. インターネットによる誹謗・中傷を受けた
9. カルトのような集団への勧誘を受けた
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 33 とその内容を書いてください）

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）とは
相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること

アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは
大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

34 【問 33 で「5」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

35 【問 33 で「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

36 【全員】学生相談室を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことがない
3. 学生相談室を知らない

37 【問 36 で「1」を選んだ方】学生相談室を利用して対応はどうでしたか。

1. 満足である
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 37 とその理由を書いてください)

38 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。（複数回答可）

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難（盗み）に遭ったことがある
3. 強盗に遭ったことがある
4. 傷害に遭ったことがある
5. 痴漢に遭ったことがある
6. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 38 とその内容を書いてください）

39 【全員】あなたは、交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1. 被害者・加害者の両方になったことがある
2. 被害者になったことがある
3. 加害者になったことがある
4. 被害者・加害者両方ともなかったことがない

40 【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1. ある
2. ない

41 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 41 とその理由を書いてください)

F. 修学状況

42 【全員】所属する教育部（研究科）の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

43 【問 42 で「1」「2」を選んだ方】上記の教育部（研究科）の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

44 【全員】あなたは学位の授与（修了）に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 44 とその理由を書いてください)

45 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

46 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

47 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 研究環境が整っているため
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 47 とその内容を書いてください)

48 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。

1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
5. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 48 とその内容を書いてください)

49 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 49 とその理由を書いてください)

50 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。

1. 30分未満
2. 30分～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10～20時間未満
6. 20～40時間未満
7. 40～60時間未満
8. 60時間以上

51 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。

1. 教授
2. 准教授
3. 講師
4. 助教
5. その他

52 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。

1. 30分未満
2. 30～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10時間以上

53 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 53 とその理由を書いてください)

54 【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 54 とその理由を書いてください)

55 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。

1. 充分とれている
2. ある程度とれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない

56 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。

1. 充分に行われている
2. ある程度行われている
3. あまり行われていない
4. 全く行われていない

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 56 とその理由を書いてください)

57 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

58 【問 57 で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。（複数回答可）

1. 施設・設備
2. 研究費用
3. 研究時間
4. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 58 とその内容を書いてください）

59 【全員】あなたは所属している教育部（研究科）・専攻に全体として満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 59 とその理由を書いてください)

60 【全員】図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。

1. ほぼ毎日利用している
2. 1週間に2～3回くらい利用する
3. 1週間に1回程度利用する
4. 2週間に1回程度利用する
5. 1か月に1回程度利用する
6. 半年に1回程度利用する
7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

61 【全員】図書館ウェブサイトによる文献検索（SciFinder など）をどのくらいの頻度で利用しますか。

1. ほぼ毎日利用している
2. 1週間に2～3回くらい利用する
3. 1週間に1回程度利用する
4. 2週間に1回程度利用する
5. 1か月に1回程度利用する
6. 半年に1回程度利用する
7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

62 【全員】図書館ウェブサイトに対する満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号62とその理由を書いてください)

63 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。

1. よく学習している
2. かなりしている
3. あまりしていない
4. 全然していない

64 【全員】入学後、海外渡航をしたことがありますか。

1. ない
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回以上

65 【問64で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。(複数回答可)

1. 留学
2. 語学研修
3. 学会参加
4. 学術調査
5. 社会活動
6. 観光
7. 一時帰国
8. その他

66 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。

1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある
2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある
3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある
4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある
5. 国際学会で研究発表をしたことはない

67 【日本人の方】英会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

68 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。(複数回答可)

1. 英会話等の学校に通っている
2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
3. TOEIC, TOEFL 等を受験する
4. 外国語の新聞、雑誌を購読している
5. 外国のラジオ、テレビを視聴している
6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
7. 何もしていない

69 【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

70 【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。

1. 受講している
2. 以前受講したことがある
3. 今後受講する予定である
4. 受講の予定はない

71 【問70で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号71とその理由を書いてください)

72 【全員】あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)

1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究
6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号72とその内容を書いてください)
8. 特になし

73 【全員】本学は国際化への対応について積極的だと思いますか。

1. 非常に積極的であると思う
2. どちらかといえば積極的であると思う
3. どちらかといえば積極的とは思わない
4. 積極的とは思わない

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号73とその理由を書いてください)

G. 進路選択・就職について

74 【修士・博士前期課程の方】博士(後期)課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい(進学予定者を含む)
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 就職したい
4. 未定

75 【問74で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか、他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

76 【問74で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。

(複数回答可)

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 事務職
5. 企業等の研究職
6. 教育職
7. マスコミ関係
8. 専門職(医師等)
9. 既に就職している
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号76とその内容を書いてください)

77 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。(3個以内で回答)

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 経営方針
8. 企業規模
9. 転勤・異動の有無
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号77とその内容を書いてください)

78 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。(複数回答可)

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 就職相談員
4. 先輩・知人
5. 直接会社に照会
6. 就職情報誌・新聞・マスコミ
7. 家族等
8. 大学内資料
9. Web・インターネット
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号78とその内容を書いてください)

79 【全員】本学の就職支援センターを利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

80 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。(複数回答可)

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職ガイダンスの充実
6. 求人企業の開拓
7. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号80とその内容を書いてください)

〔 その他ご意見・ご要望等があれば回答用紙の裏面の自由記入欄に「意見・要望等」と記し具体的に
記載してください 〕

ご協力ありがとうございました

2012 STUDENT LIFE SURVEY

November 2012

The University of Tokushima

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at The University of Tokushima as of November 1, 2012. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 5 - 13]

Answer sheets (computer-scored answer sheets) must be submitted no later than November 14 (Wed.) at the School Affairs Section (Educational Affairs Section) of the graduate school you belong to.

NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2012.
2. Optical answer sheet (computer-scored answer sheet) is used for this survey. Please choose one answer for each question and fill out the numbered blanks using HB pencils.
Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. For the questions that require written answers, use the back of the answer sheet with the number of the question and the specifics.
You may also write comments or requests regarding school life on the back of the answer sheet (if any).

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A. BASIC INFORMATION

1. 【Subject: ALL】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Integrated Arts and Sciences (Graduate School of Human and Natural Environment Sciences)
2. Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)
3. Graduate School of Oral Sciences
4. Graduate School of Pharmaceutical Sciences
5. Graduate School of Nutrition and Bioscience
6. Graduate School of Health Sciences
7. Graduate School of Advanced Technology and Science (Graduate School of Engineering)

2. 【Subject: ALL】

What do you major in?

Graduate School of Integrated Arts and Sciences

1. Regional Sciences
2. Clinical Psychology
3. Human and Natural Environment Sciences

Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)

1. Medical Science
2. Medicine
3. Proteomics Medical Sciences

Graduate School of Oral Sciences

1. Oral Science
2. Oral Health Science

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

1. Pharmaceutical Chemistry (Pharmaceutical Sciences)
2. Pharmaceutical Life Sciences
3. Pharmacy

Graduate School of Nutrition and Bioscience

1. Human Nutrition

Graduate School of Health Sciences

1. Health Sciences

Graduate School of Advanced Technology and Science (Graduate School of Engineering)

1. Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering
2. Earth and Life Environmental Engineering
3. Life and Materials Systems Engineering
4. Systems Innovation Engineering
5. Functional Systems Engineering
6. Information System Engineering

3. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

4. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female

5. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. The University of Tokushima
2. University in Japan other than The University of Tokushima
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of The University of Tokushima
6. Graduate School in Japan other than The University of Tokushima
7. Graduate School abroad

7. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

B. FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

8. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. Less than ¥2,500,000 | 2. ¥2,500,000 – 4,999,999 |
| 3. ¥5,000,000 – 7,499,999 | 4. ¥7,500,000 – 9,999,999 |
| 5. ¥10,000,000 – 14,999,999 | 6. More than ¥15,000,000 |

9. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House of The University of Tokushima
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

10. 【Subject: All excluding International House/Nichia Kaikan International House residents】

How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 39,999 | 3. ¥40,000 – 49,999 |
| 4. ¥50,000 – 59,999 | 5. ¥60,000 – 69,999 | 6. ¥70,000 – 79,999 |
| 7. 80,000 – 89,999 | 8. ¥90,000 – 99,999 | 9. More than ¥100,000 |

11. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. No spouse or child | 2. No spouse, but have child(ren) |
| 3. Have a spouse, but no child | 4. Have a spouse and child(ren) |

12. 【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q11】

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research?

(Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------|---|
| 1. Spouse | 2. Your or spouse's parent(s)/relative(s) |
| 3. Daycare facility | 4. School (elementary school, etc.) |
| 5. Others | |

(Note: If you have any requests for the University, use the back of the answer sheet to write the number of this question (12) and the specifics.)

13. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

- | | | |
|---------------|---------------|---|
| 1. By walking | 2. By bicycle | 3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle) |
| 4. By car | 5. By bus/JR | |

14. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes 2. 15 – less than 30 minutes 3. 30 minutes – less than 1 hour
4. 1 – less than 2 hours 5. More than 2 hours

C. INCOME / EXPENDITURE

15. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000 – 49,999 3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999 5. ¥100,000 – 149,999 6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999 8. ¥250,000 – 299,999 9. More than ¥300,000

16. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None 2. Less than ¥30,000 3. ¥30,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 69,999 5. ¥70,000 – 99,999 6. ¥100,000 – 149,999
7. ¥150,000 – 199,999 8. More than ¥200,000

17. 【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000 – 49,999 3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999 5. ¥100,000 – 149,999 6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999 8. ¥250,000 – 299,999 9. More than ¥300,000

18. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

19. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes 2. No

20. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

1. Less than 5 hours 2. 5 – less than 10 hours 3. 10 – less than 15 hours
4. 15 – less than 20 hours 5. 20 – less than 25 hours 6. More than 25 hours

21. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions
2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel
4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences
7. Others

22. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. More than ¥150,000

23. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No
2. Unpaid salary
3. Paid less than agreed in contract
4. Trouble with customer(s)
5. Termination of employment
6. Disagreement with employer
7. Accident/injury
8. Others (use the back of the answer sheet to write the number of this question (23) and the specifics)

D. HEALTH CONDITIONS

24. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

1. Less than 4 hours
2. 4 – less than 6 hours
3. 6 – less than 8 hours
4. 8 – less than 10 hours
5. More than 10 hours

25. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes
2. Sometimes
3. Constantly

26. 【Subject: Those who chose (3) for Q25】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

1. Headache
2. Stomachache/ nausea
3. Dizziness/ light headedness
4. Palpitation/irregular heartbeat
5. Diarrhea/ constipation
6. Coughs/sputum
7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities
8. Others

27. **【Subject: ALL】**

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)?

(Multiple answers allowed)

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 1. No | 2. Financial concerns | 3. Research and Study |
| 4. Friends/relationships | 5. Poor physical condition | 6. Family relation |
| 7. Own personality | 8. Future career | 9. Motivation or purpose in life |
| 10. Others | | |

28. **【Subject: ALL】**

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. Friend(s) | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. School counselor |
| 5. Health Service Center | 6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty |
| 7. Those other than 1 – 6 | 8. Nobody |

29. **【Subject: ALL】**

What is your current emotional state?

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------|---------------|
| 1. Fulfilled | 2. Normal | 3. Irritated |
| 4. Anxious for no apparent reason | 5. Easily depressed | 6. Low energy |
| 7. Others | | |

30. **【Subject: ALL】**

Do you smoke?

- | | | | |
|--|--------------|-------------|---------------------------------------|
| 1. Never | 2. Sometimes | 3. Everyday | 4. Smoked in the past but not anymore |
| 5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (30) and the specifics.) | | | |

31. **【Subject: ALL】**

Do you drink alcoholic beverages?

- | | | |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 1. No | 2. Sometimes | 3. 1 – 2 times a week |
| 4. 3 – 4 times a week | 5. More than 5 times a week | |

32. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited the Health Service Center? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

33. 【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school?

(Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Cult-like group recruitment
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (33) and the specifics.)

SEXUAL HARASSMENT:

It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.

ACADEMIC HARASSMENT:

It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

34. 【Subject: Those who chose (5) for Q33】

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------|
| 1. Friend | 2. Family | 3. Teacher/professor |
| 4. School counselor | 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | |
| 6. Those other than 1 – 5 | 7. Nobody | |

35. 【Subject: Those who chose (6) for Q33】

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------|
| 1. Friend | 2. Family | 3. Teacher/professor |
| 4. School counselor | 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | |
| 6. Those other than 1 – 5 | 7. Nobody | |

36. 【Subject: ALL】

Have you ever visited School Counseling Room?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

37. **【Subject: Those who chose (1) for Q36】**

How was the service at the School Counseling Room?

1. Excellent 2. Satisfactory 3. Slightly unsatisfying 4. Unsatisfying

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (37) and the specific reasons.)

38. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (38) and the specifics.)

39. **【Subject: All】**

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. I have been both a victim and a cause. 2. I have been a victim.
3. I have been a cause. 4. I have never been either a victim or a cause.

40. **【Subject: ALL】**

Have you ever used any illegal drug(s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes 2. No

41. **【Subject: ALL】**

How would you rate the service of the administration office of The University of Tokushima?

1. Excellent 2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory 4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (41) and the specific reasons.)

F. EDUCATION ENVIRONMENT

42. **【Subject: ALL】**

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar 2. Moderately familiar
3. Slightly unfamiliar 4. Unfamiliar

43. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q42】**

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes 2. No

44. 【Subject: ALL】

How would you rate the curriculums of your graduate school?

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactor | 4. Unsatisfactory |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (44) and the specific reasons.)

45. 【Subject: Graduates of The University of Tokushima】

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

46. 【Subject: Graduates of universities other than The University of Tokushima】

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

47. 【Subject: ALL】

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed)

Because:

1. I am a graduate of The University of Tokushima.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (47) and the specifics.)

48. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (48) and the specifics.)

49. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (49) and the specific reasons.)

50. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes
2. 30 – less than 90 minutes
3. 90 minutes – less than 5 hours
4. 5 – less than 10 hours
5. 10 – less than 20 hours
6. 20 – less than 40 hours
7. 40 – less than 60 hours
8. More than 60 hours

51. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor
2. Associate Professor
3. Lecturer
4. Assistant Professor
5. Others

52. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30 – less than 90 minutes per week
3. 90 minutes – less than 5 hours per week
4. 5 – less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

53. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (53) and the specific reasons.)

54. **【Subject: ALL】**

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (54) and the specific reasons.)

55. **【Subject: ALL】**

How is the communication between you and your instructor?

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactory | 4. Unsatisfactory |

56. **【Subject: ALL】**

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. Highly appropriate | 2. Moderately appropriate |
| 3. Minimally appropriate | 4. Not appropriate |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (56) and the specific reasons.)

57. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the research environment?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

58. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】**

What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---|---------------------|------------------|
| 1. Facility/equipment | 2. Research funding | 3. Research time |
| 4. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (58) and the specific reasons.) | | |

59. **【Subject: ALL】**

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (59) and the specific reasons.)

60. **【Subject: ALL】**

How often do you visit the library?

- | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. Almost everyday | 2. 2 – 3 times a week | 3. Once a week |
| 4. Once in two weeks | 5. Once a month | 6. Once in six month |
| 7. Once a year or less | | |

61. **【Subject: ALL】**

How often do you use the bibliographic search systems (SciFinder, etc.) of the library website?

- | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. Almost everyday | 2. 2 – 3 times a week | 3. Once a week |
| 4. Once in two weeks | 5. Once a month | 6. Once in six month |
| 7. Once a year or less | | |

62. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the library?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (62) and the specific reasons.)

63. **【Subject: ALL】**

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. Very high | 2. High |
| 3. Low | 4. No effort |

64. **【Subject: ALL】**

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

- | | | |
|----------------|-------------------------|----------|
| 1. No | 2. Once | 3. Twice |
| 4. Three times | 5. More than four times | |

65. **【Those who chose (2), (3), (4), or (5) for Q64】**

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------|----------------------------------|
| 1. To study | 2. To learn language | 3. To attend academic conference |
| 4. For academic research | 5. For social activities | 6. Sightseeing |
| 7. Returning home temporarily | 8. Others | |

66. **【Subject: JAPANESE students】**

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

67. **【Subject: JAPANESE students】**

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

68. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

69. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

70. 【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

71. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q70】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of The University of Tokushima?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (71) and the specific reasons.)

72. 【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of The University of Tokushima?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (72) and the specifics.)
8. No particular expectations

73. 【Subject: ALL】

How would you rate the efforts of The University of Tokushima in responding to the trend of internationalization?

1. Very high
2. Relatively high
3. Relatively low
4. Very low

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (73) and the specific reasons.)

G. FUTURE CAREER

74. 【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

75. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q74】

Where are you planning to receive the education?

1. The University of Tokushima
2. Other university
3. Not decided yet.

76. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q74 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/ second program of the Doctoral Course】

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than answer (1)
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (76) and the specifics.)

77. 【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies
8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (77) and the specifics.)

78. 【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational assistant teacher/instructor
3. Occupational counselor
4. Older students/friends
5. Direct inquiry to the companies/schools
6. Job information magazine/newspapers/media
7. Family
8. Information available at the university
9. Web/Internet
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (78) and the specifics.)

79. 【Subject: ALL】

Have you ever used the Job Support Center of The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

80. 【Subject: ALL】

Do you have any requests for The University of Tokushima regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (80) and the specifics.)

〔 If you have any other comment or request, use the back of the answer sheet to write “COMMENTS/REQUESTS” and the specifics 〕

Thank you for your cooperation.

第1章 本調査の対象者について

本調査は、本学大学院の総合科学，医科学，口腔科学，薬科学，栄養生命科学，保健科学，先端技術科学の7教育部の前期課程に在籍する1,010名，および後期課程に在籍する546名の計1,556名を対象とした。

回答数は，前期課程で629，後期課程で212，計841であった。回収率は前期課程が62%，後期課程が39%，全体では54%であった。教育部ごとの回収率は，前期課程で24%から95%，後期課程で20%から63%と差が大きく，回収率の低い教育部については調査結果の解釈に注意が必要だと思われる。学年ごとの回収率や男子女子ごとの回収率に大きな差はなかった。

1-1 出身地 (図1-1-1, 図1-1-2)

回答者の出身地を見る。前期課程では徳島県(34%)，近畿(27%)，徳島県以外の四国(13%)と地元および近県出身者の割合が高い。日本以外の出身者は少ない。全体で見れば第3回調査の割合とほぼ同様であるが，教育部別で見ると徳島県出身者の割合は総合科学と保健科学で大きく減少し，医科学で増加している。今回の調査から加わった口腔科学では75%が徳島県出身者であった。後期課程においても前期課程と同様に近県出身者の割合は高い。しかし，日本以外の出身者が22%と高く，前期課程と異なる特徴をもつ。

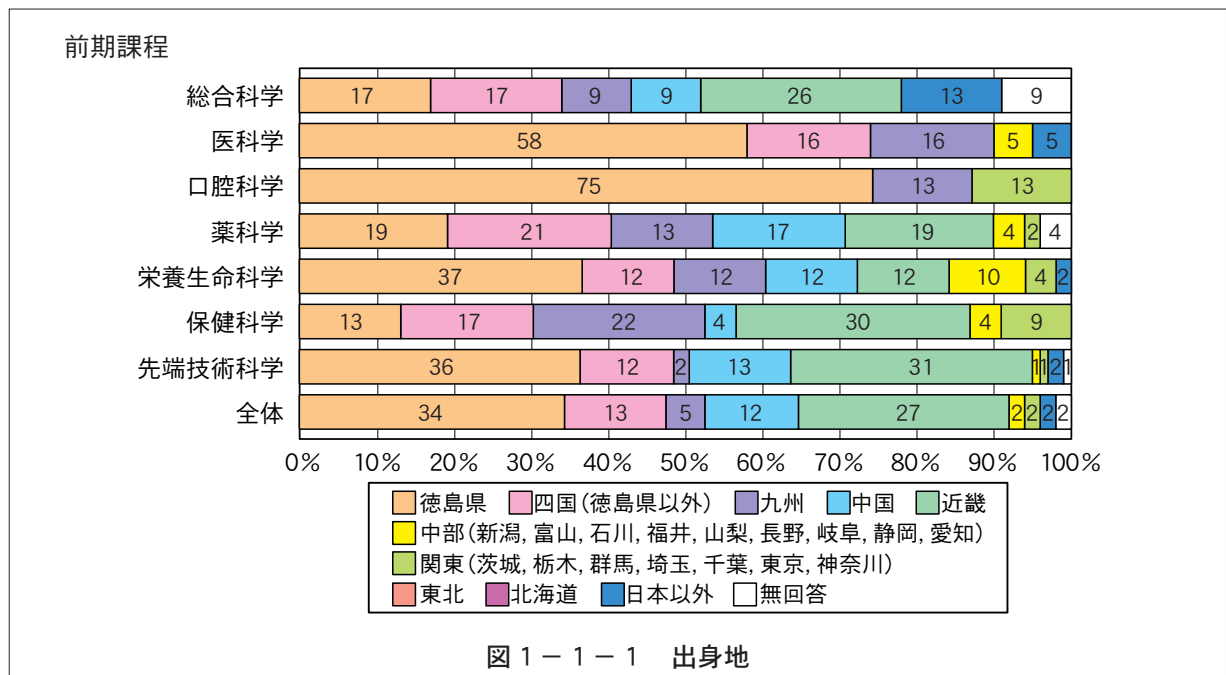
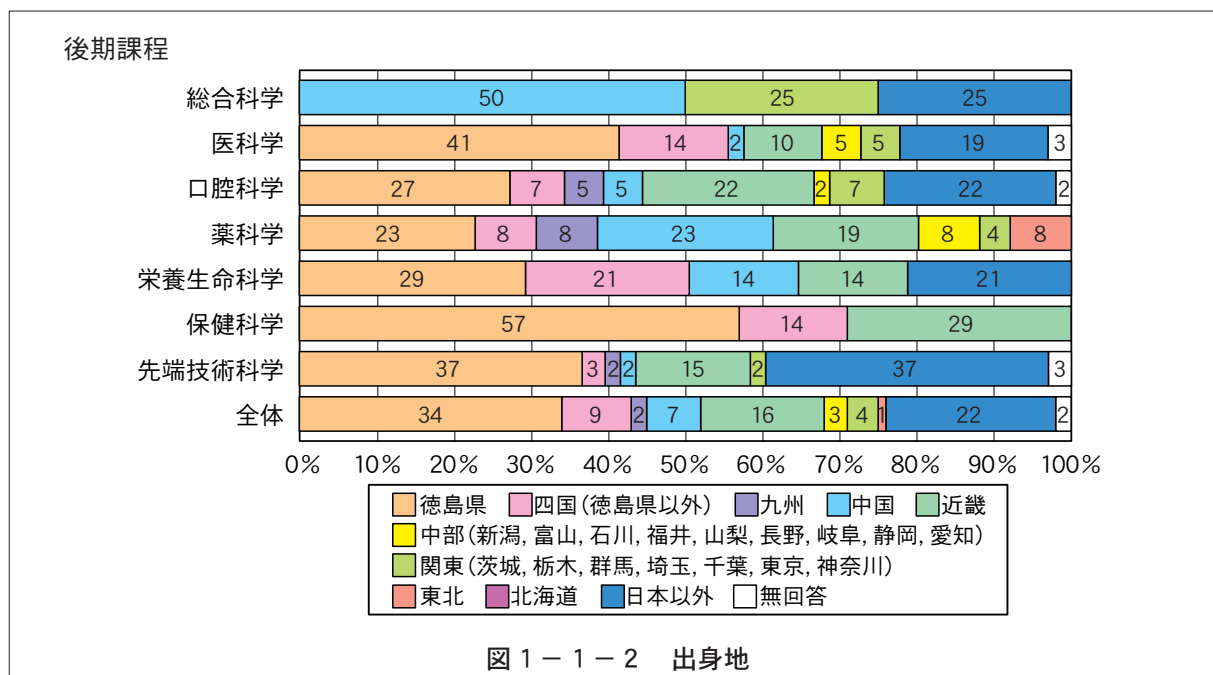
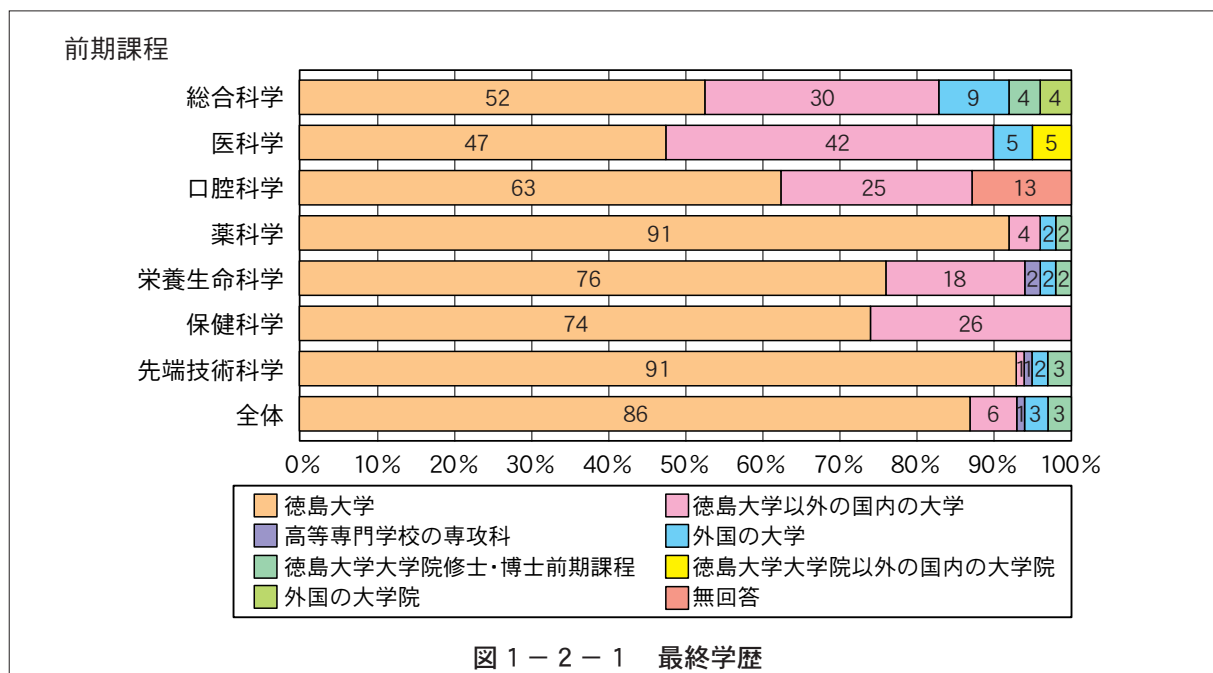


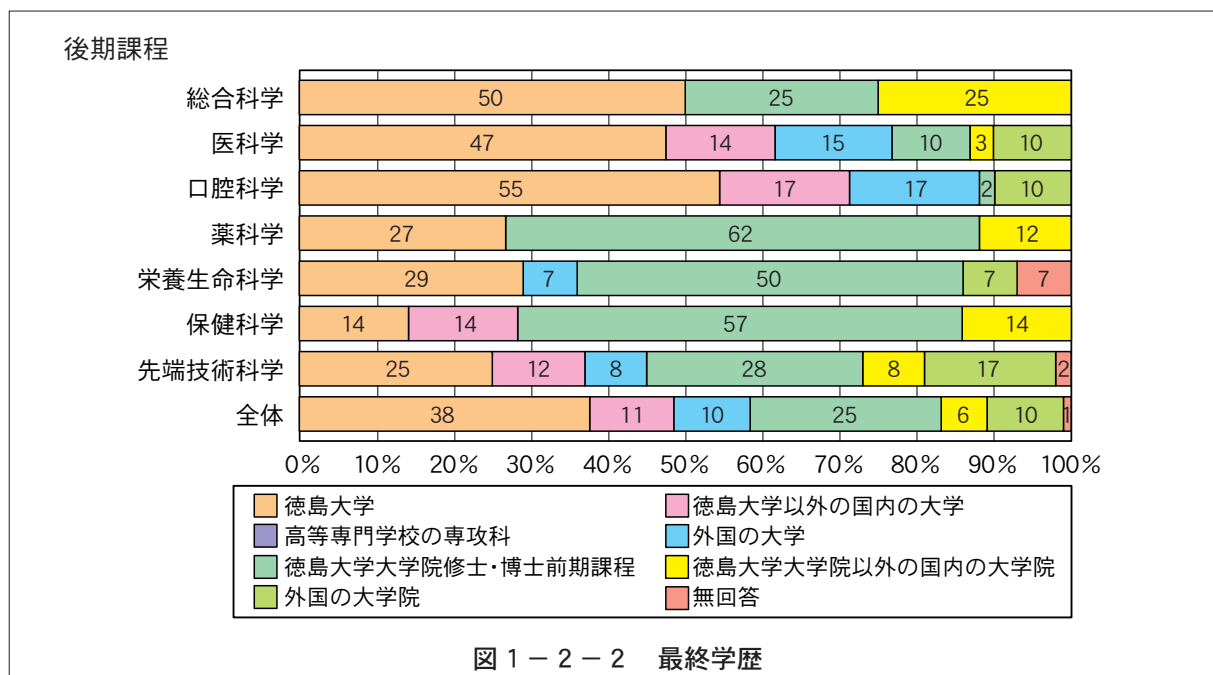
図1-1-1 出身地



1-2 最終学歴 (図 1-2-1, 図 1-2-2)

回答者の出身地大学(大学院)を見る。前期課程では全体の86%が本学出身者で、特に薬科学と先端技術科学では本学出身者の割合が91%と非常に高い。総合科学と医科学では半数程度が本学出身者であり、教育部によりかなりの差がある。後期課程では、徳島大学(38%)と徳島大学大学院修士・博士前期課程(25%)を本学出身者と考えれば、63%が本学出身者である。日本以外の大学(大学院)出身者の割合も大きく、20%である。教育部ごとに前期課程と後期課程を比べると、徳島大学(大学院)出身者の割合は、ほとんどの教育部で大きな差はないが、先端技術科学に差が見られる。





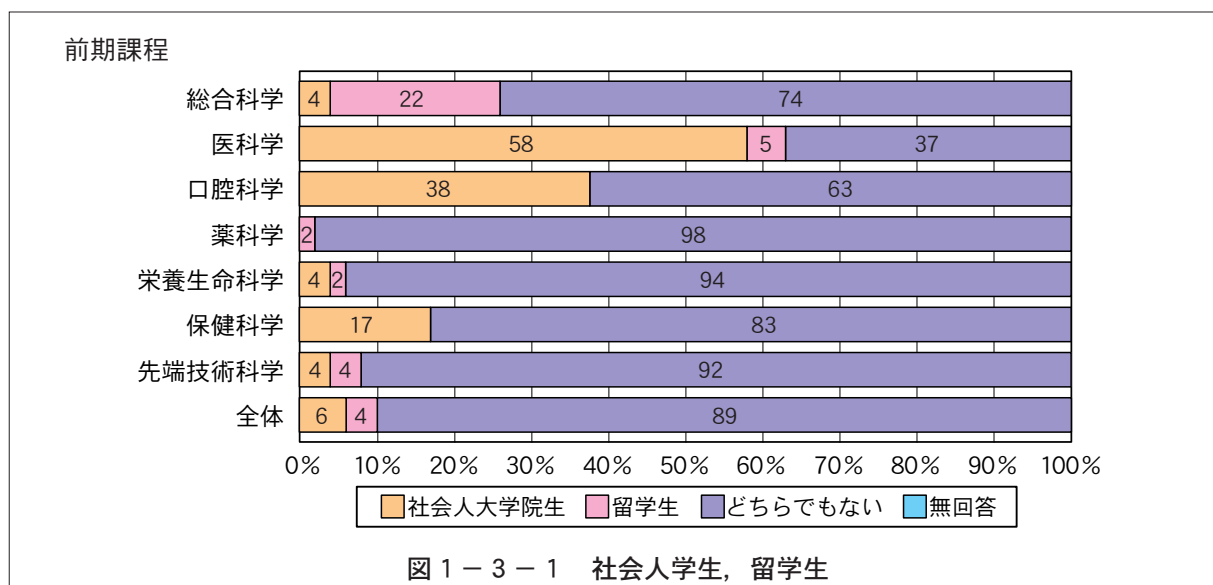
1-3 社会人大学院生と留学生 (図 1-3-1, 図 1-3-2)

この問では社会人学生であるかどうか、留学生であるかどうかをたずねた。

医科学(前期課程 58%, 後期課程 61%)は第3回調査時と同じく社会人学生の割合が高いが、保健科学前期課程は第3回調査の 56%から 17%に減少している。保健学科後期課程では社会人が 100%を占めているが、回収率が 32%であることを考慮する必要がある。

本学大学院在籍の留学生の割合は前期課程で 6%, 後期課程で 21%である。回収割合では、前期課程でやや少なく、後期課程でやや多くなっている。後期課程の留学生の割合は、薬科学と保健科学を除く 5 教育部で 25%を超えている。特に、先端技術科学では、第3回調査と同様に高い値である。

後期課程の留学生の割合が第3回調査(31%)と第2回調査(32%)に比べて少し減少しているが、前期課程と後期課程ともに全体の割合に大きな変化は見られない。



後期課程

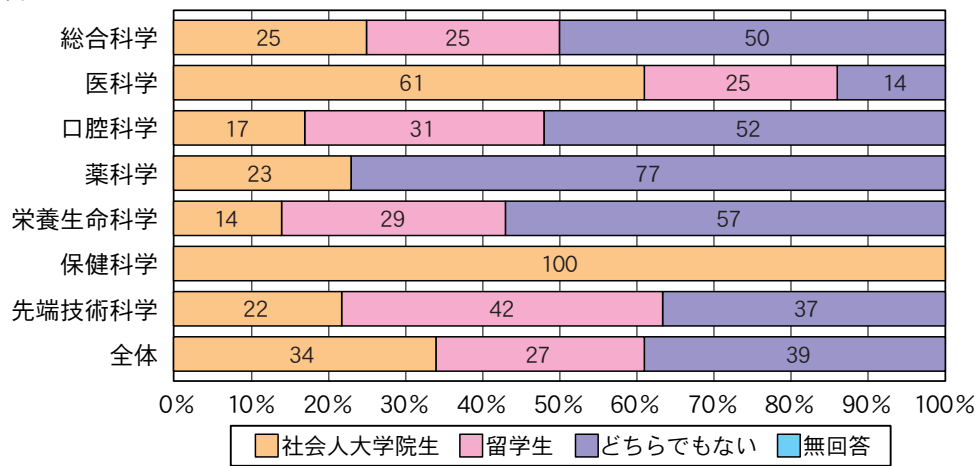


図 1 - 3 - 2 社会人学生, 留学生

第2章 家族・住居・通学について

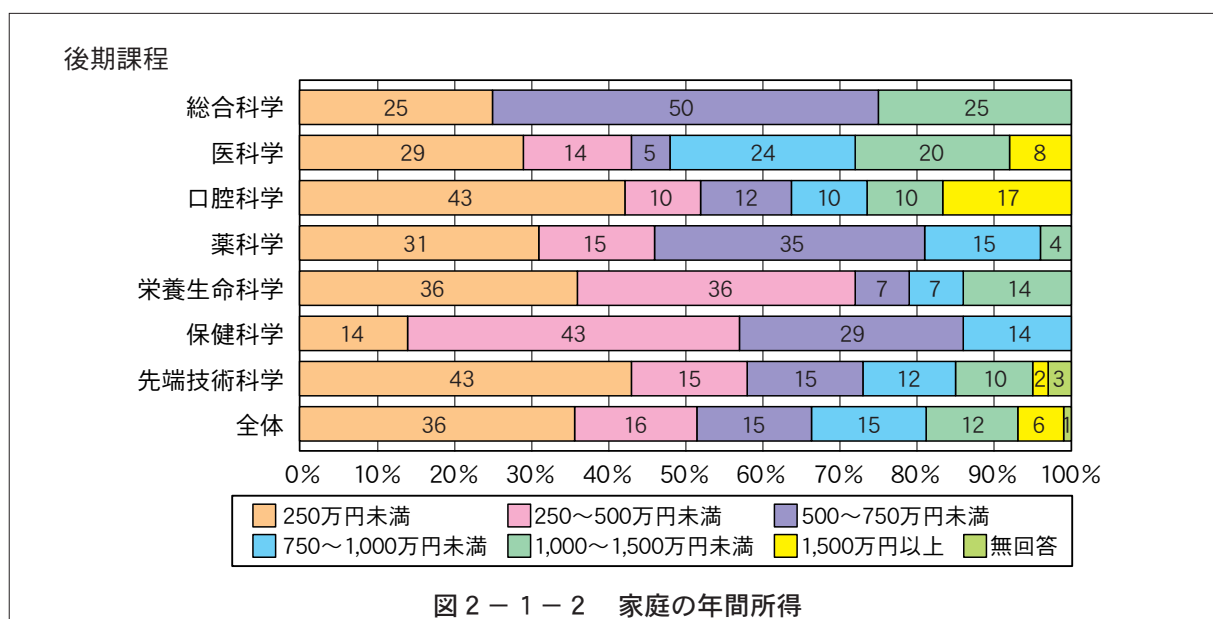
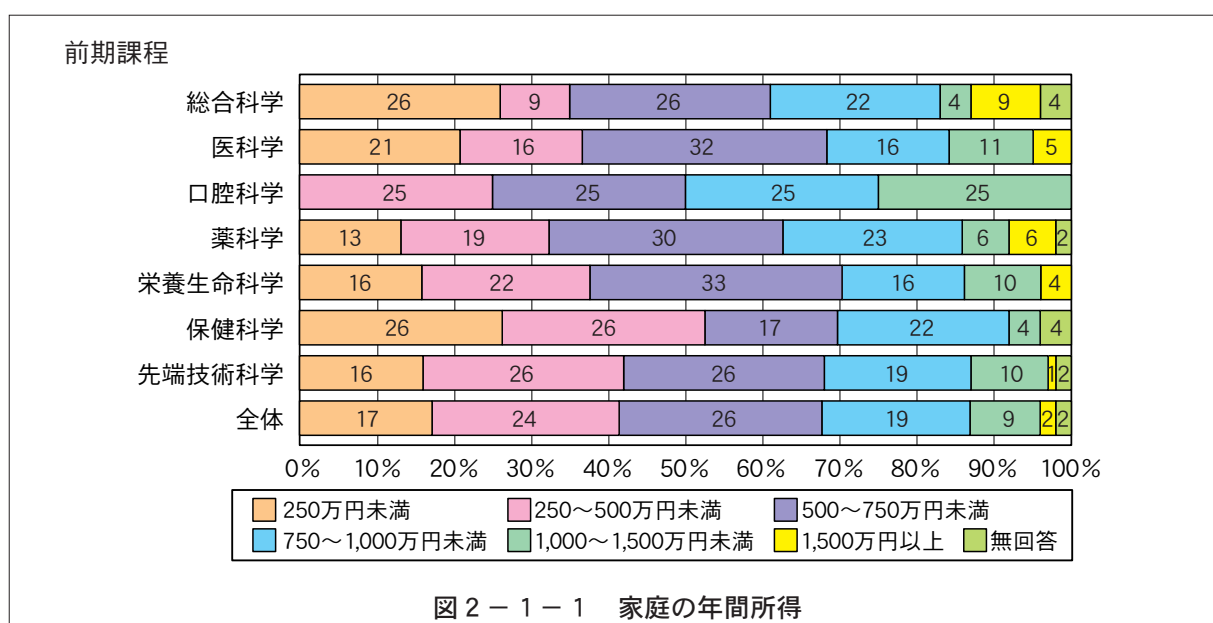
2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1, 図2-1-2)

家庭の年収に関しては、徳島大学全体としては、第3回調査が行われた平成22年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程では、全体で500万円～750万円未満が26%で一番多く、次いで250～500万円未満24%、750万円～1,000万円未満19%となっており、この3つの範囲で69%を占める。

大学院生総数の73%が先端技術科学の所属であるため、徳島大学全体の比率と先端技術科学の比率はほぼ一致している。

後期課程では、全体で250万円未満が36%と一番多く、次いで250～500万円未満が16%、500万円～750万円未満および750万円～1,000万円未満が15%となっている。総合科学や保健科学に在籍する実数がそれぞれ4人および7人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。



留学生は81%が250万円未満であり、この割合は平成22年度と大きな変化はなかった。後期課程に占める留学生の割合は27%であり、これが後期課程全体の結果に大きく影響して年間所得額を引き下げていると考えられる。

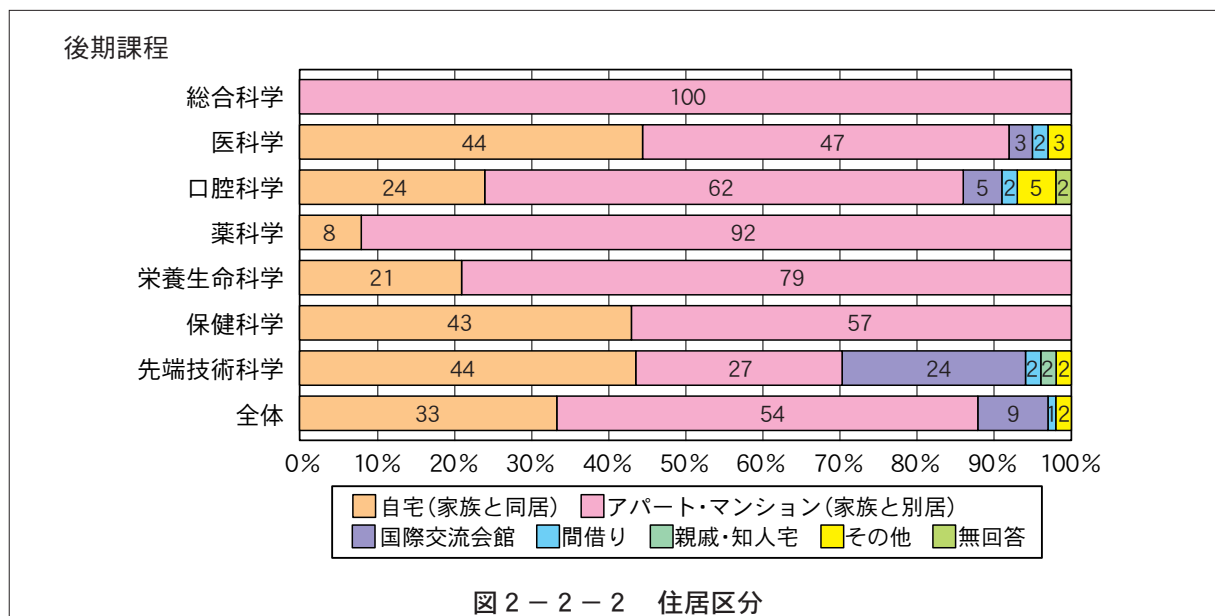
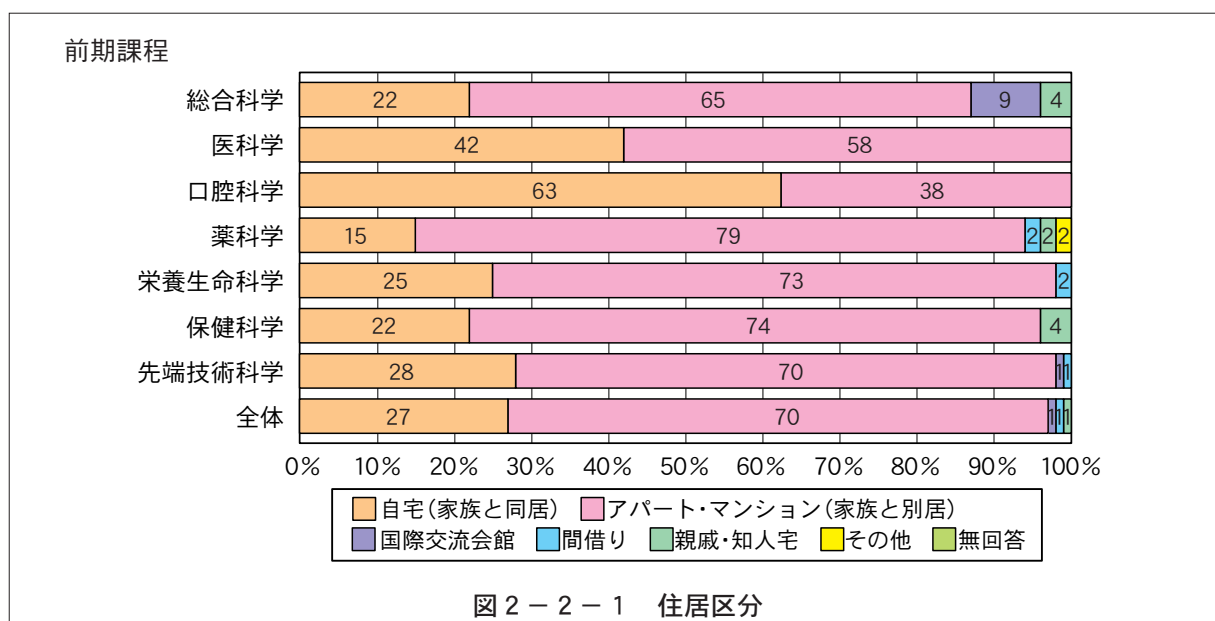
2-2 住居区分 (図2-2-1, 図2-2-2)

前期課程では、全体でアパート・マンションが70%、次いで自宅・家族と同居が27%となっていた。この2つで97%を占めている。国際交流会館入居者は実数5人であった。第3回調査が行われた平成22年度と比較し、減少している。

大学院生総数の73%が先端技術科学の所属であるため、徳島大学全体の比率と先端技術科学の比率はほぼ一致している。

後期課程も同様の傾向であり、第3回調査が行われた平成22年度と本年度では目立った変化はない。

後期課程では、全体でアパート・マンションが54%で一番多く、次いで自宅・家族と同居が33%となっていた。この2つで87%を占めている。国際交流会館入居者は実数18人であった。



総合科学や保健科学は実数がそれぞれ4人および7人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

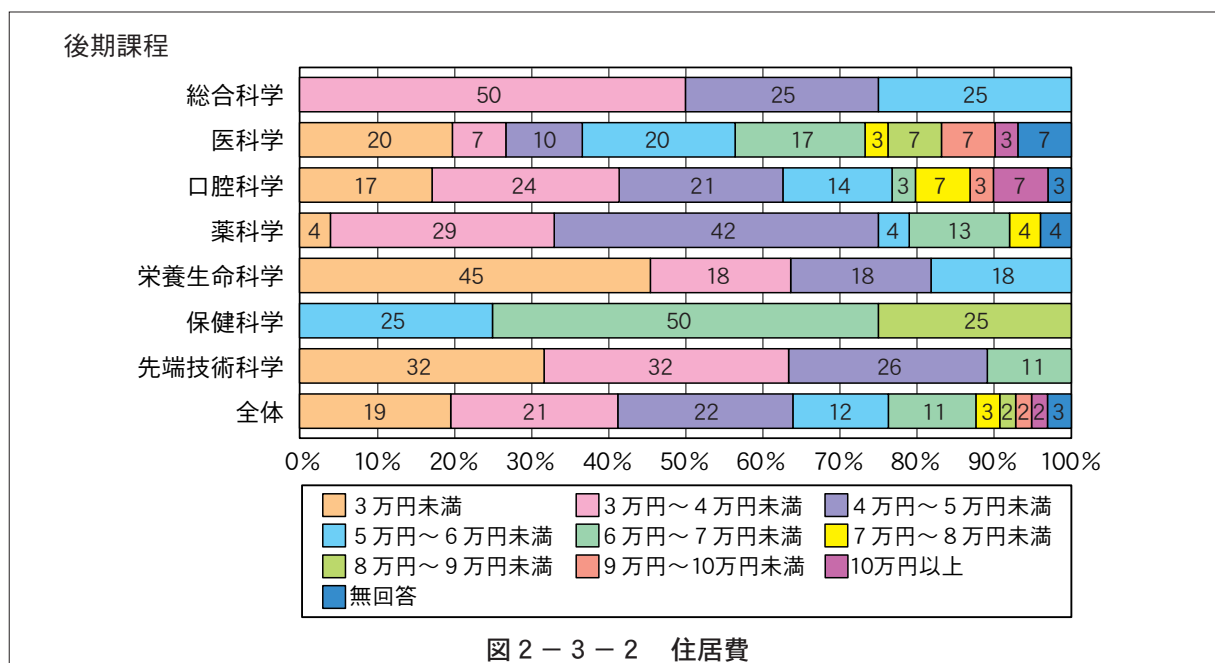
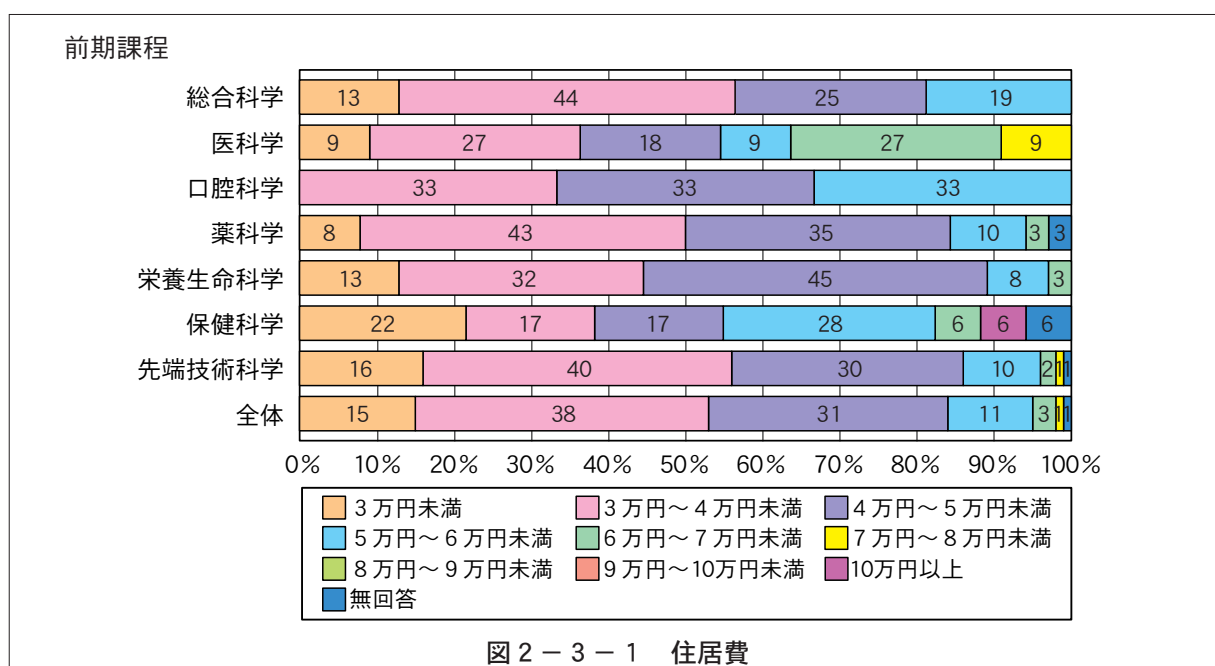
2-3 住居費 (図2-3-1, 図2-3-2)

住居費に関しては、徳島大学全体としては、第3回調査が行われた平成22年度に比較してやや減少傾向が見られる。

前期課程では、全体で3万～4万円未満が38%と最も多く、次いで4～5万円未満が31%、3万円未満が15%、5万～6万円未満が11%となっており、これら合計で95%となっている。

大学院生総数の72%が先端技術科学の所属であるため、徳島大学全体の比率と先端技術科学の比率はほぼ一致している。

後期課程も同様の傾向で第3回調査が行われた平成22年度に比較してやや減少傾向が見られる。



全体で4万～5万円未満が22%と一番多く、次いで3～4万円未満が21%、3万円未満が19%、5万～6万円未満12%となっており、これらで合計74%となっている。総合科学や保健科学は実数が4人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

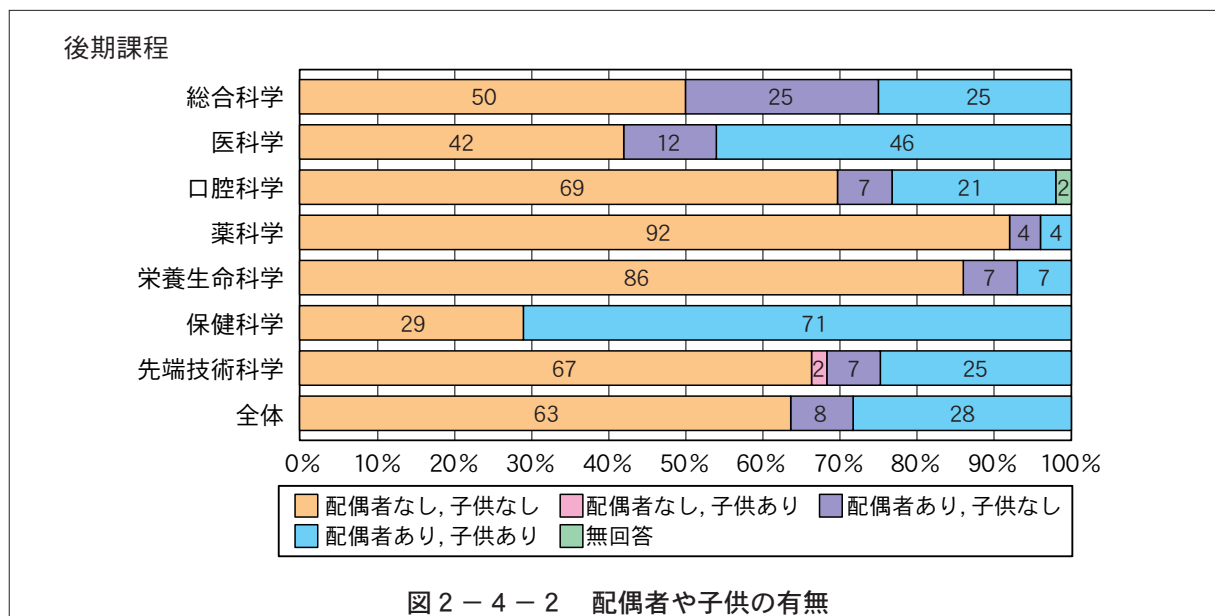
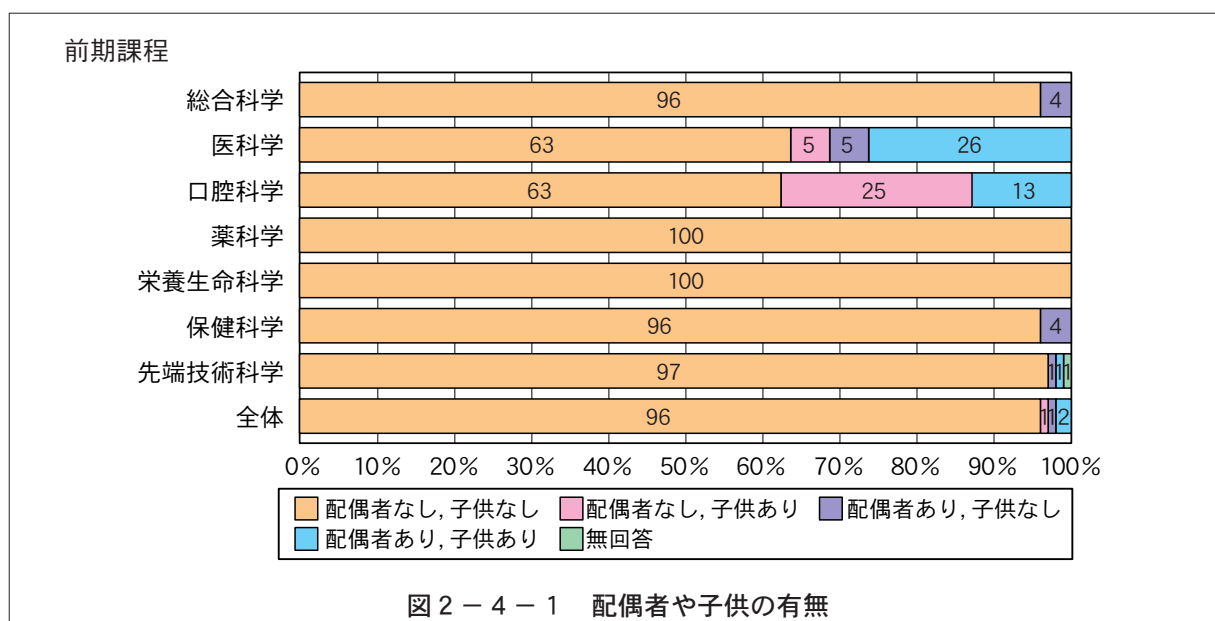
留学生は50%が3万円未満であり、次いで3万～4万円未満が30%であった。3万円未満の割合が平成22年度と比較してやや上昇した。

2-4 配偶者や子供の有無 (図2-4-1, 図2-4-2)

前期課程全体では96%が配偶者・子供ともいない。留学生のみでは、配偶者・子供ともいない人の割合は86%である。

後期課程では配偶者・子供ともいない人が63%である。28%が配偶者および子供と同居し、8%は配偶者のみがいる。留学生のみでは、配偶者・子供ともいない人が62%である。29%が配偶者および子供と同居し、7%は配偶者のみがいる。

後期課程で子供がいる人は、研究中はどのようにしているかの回答では、重複回答で69人中、多い



順に配偶者に預けるが55%，保育施設に預ける17%，小学校等が12%，親や親戚に預ける9%，その他4％であった。その他が何であるか不明であるが，大学として援助できることがないか考える必要があるかも知れない。

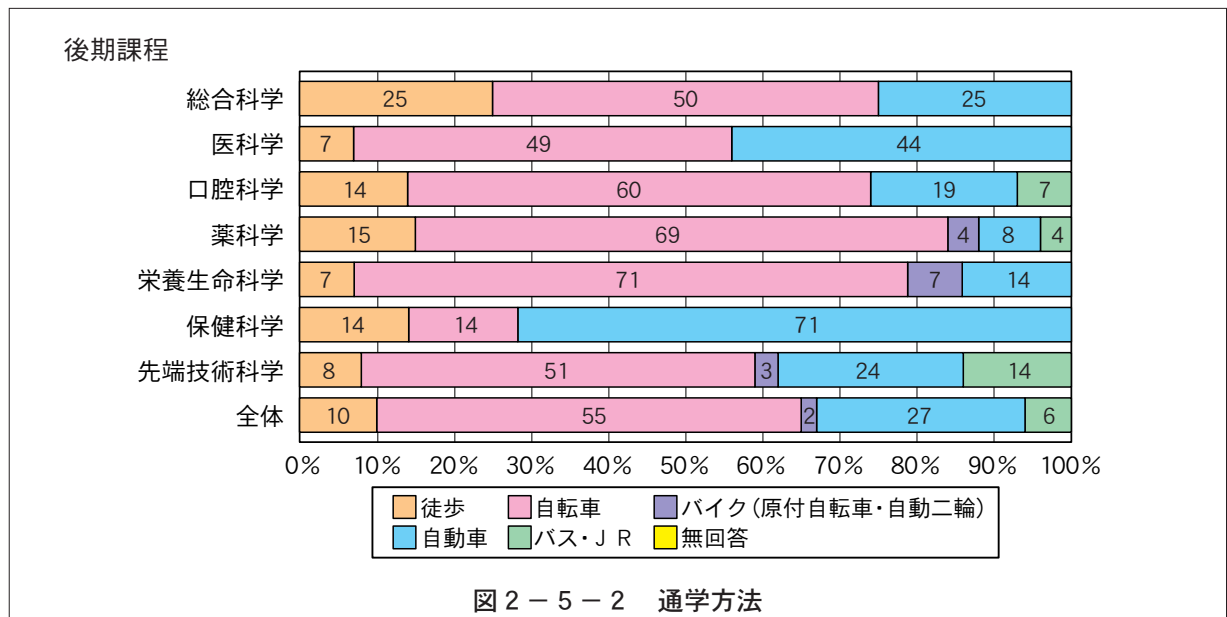
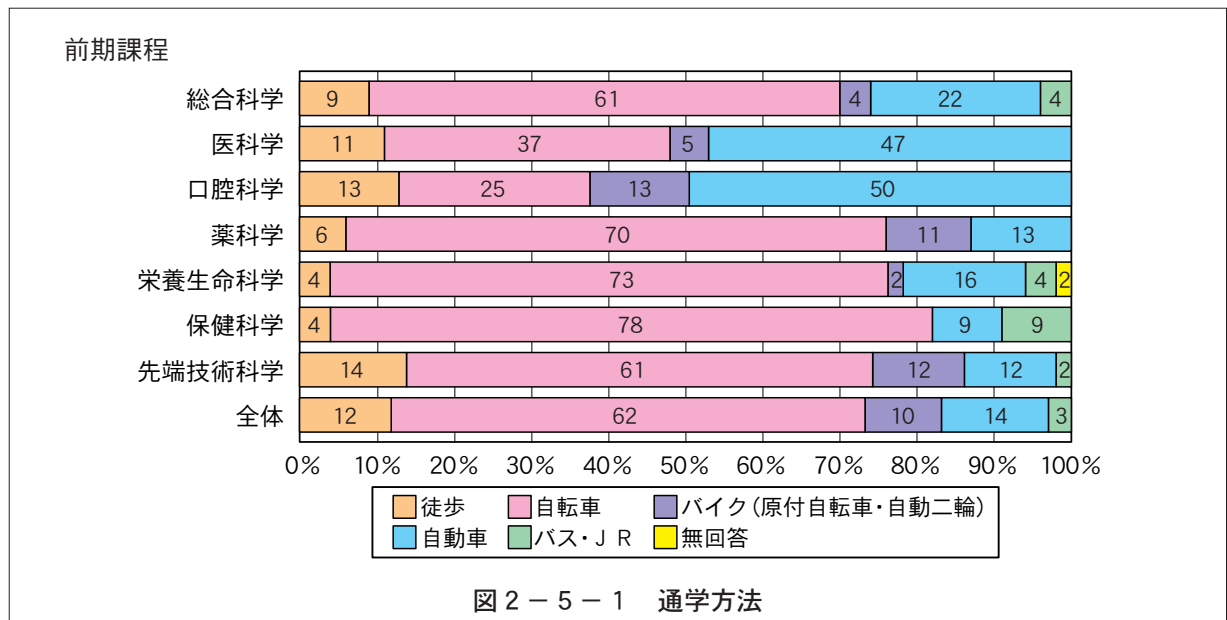
2-5 通学方法 (図2-5-1, 図2-5-2)

通学方法に関しては，徳島大学全体としては，第3回調査が行われた平成22年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程では，自転車通学が62％と一番多く，次いで自動車14％，徒歩12％，バイク10％となっている。

後期課程では，全体で自転車通学が55％と一番多く，次いで自動車27％，徒歩10％，バス・JR6％となっている。前期課程と比較すると自動車による通学方法の比率は高い。

総合科学や保健科学は実数がそれぞれ4および7人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。留学生は87％が自転車通学で一番多く，バイク3％，徒歩2％であった。



2-6 通学時間 (図2-6-1, 図2-6-2)

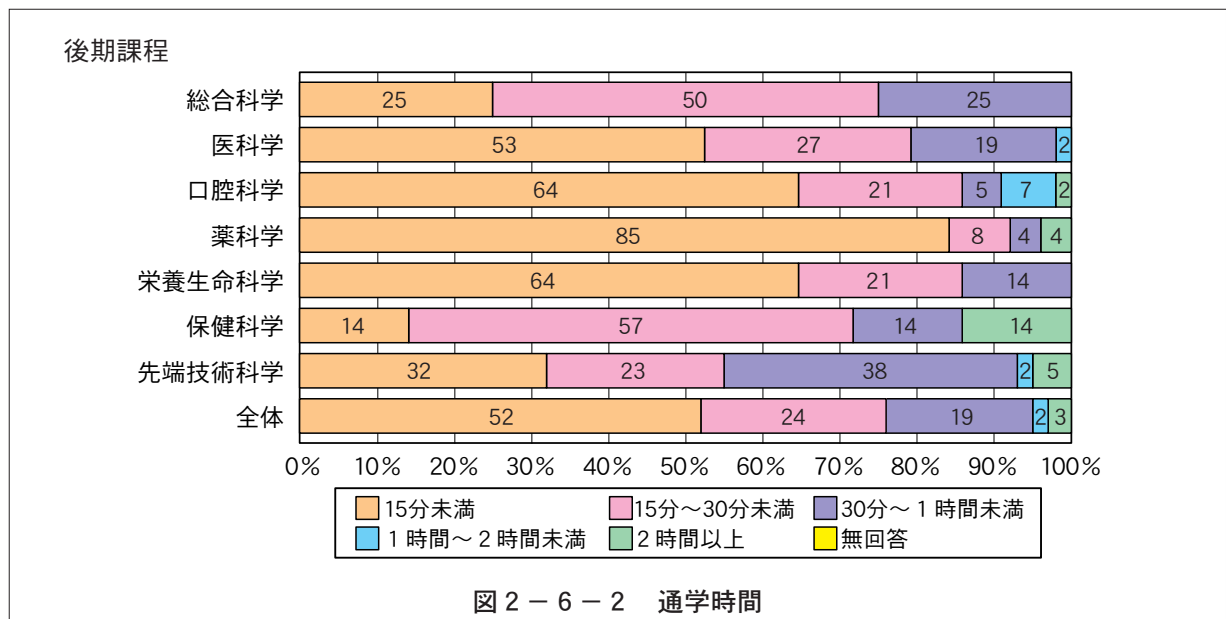
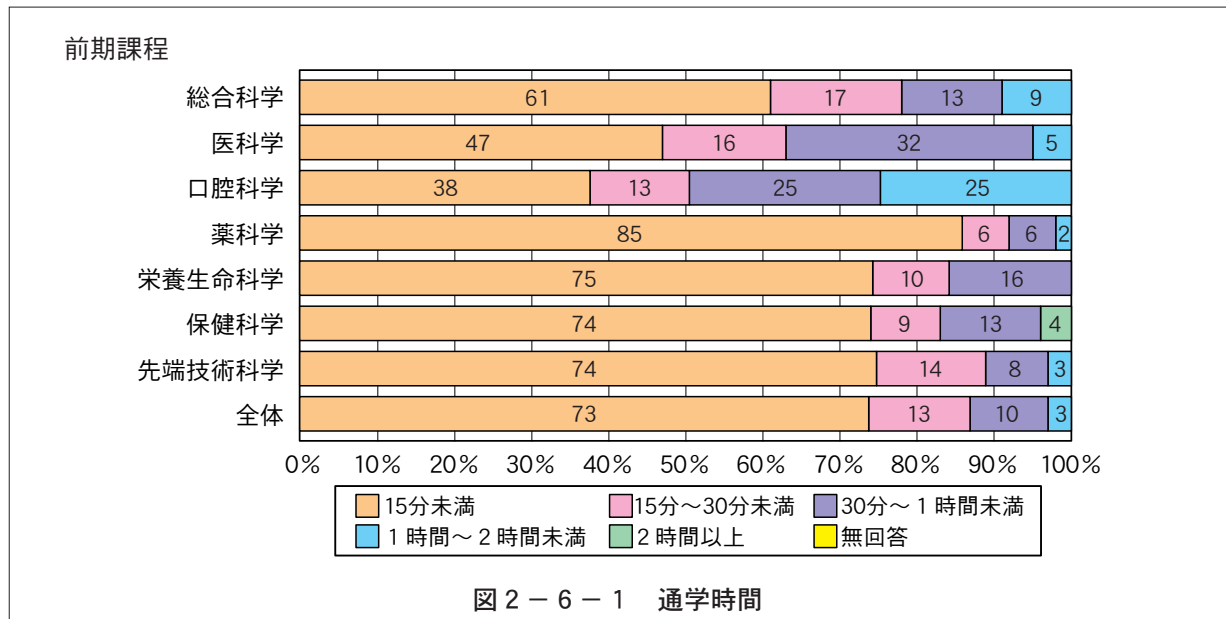
通学時間に関しては、徳島大学全体としては、第3回調査が行われた平成22年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程全体では、通学時間15分未満が73%と一番多く、次いで15分～30分未満13%、30分～1時間未満10%となっている。

後期課程全体では、通学時間15分未満が52%と一番多く、次いで15分～30分未満24%、30分～1時間未満19%となっている。2時間以上の人も3%みられる。

総合科学や保健科学は実数がそれぞれ4人および7人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

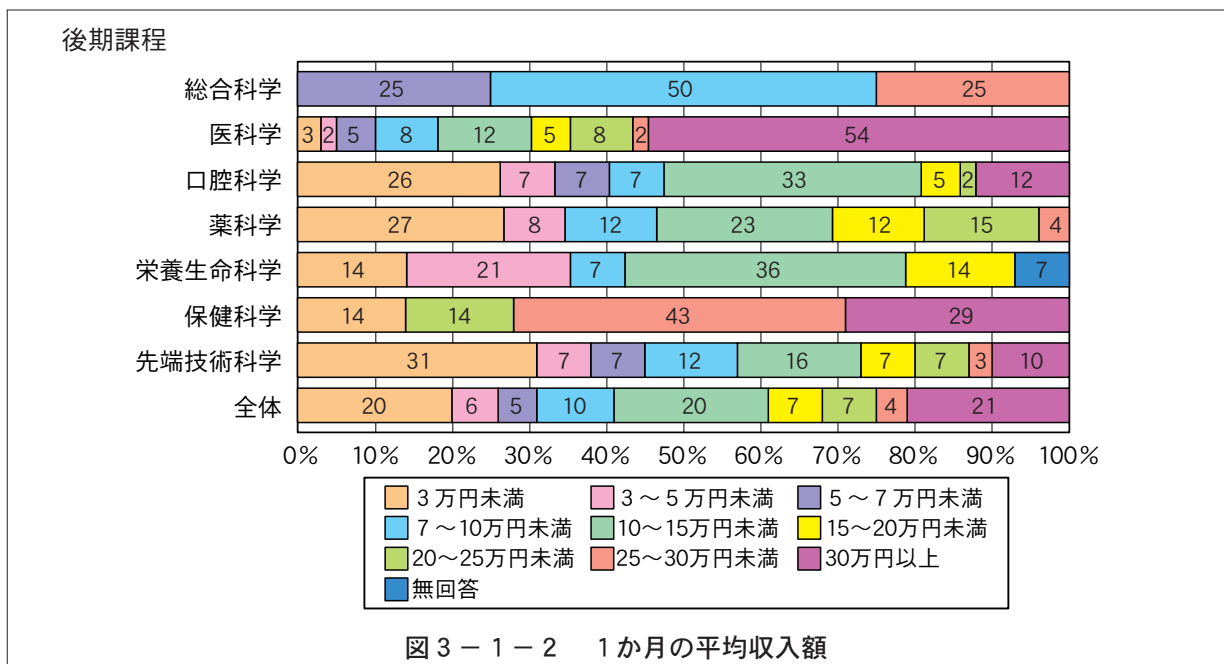
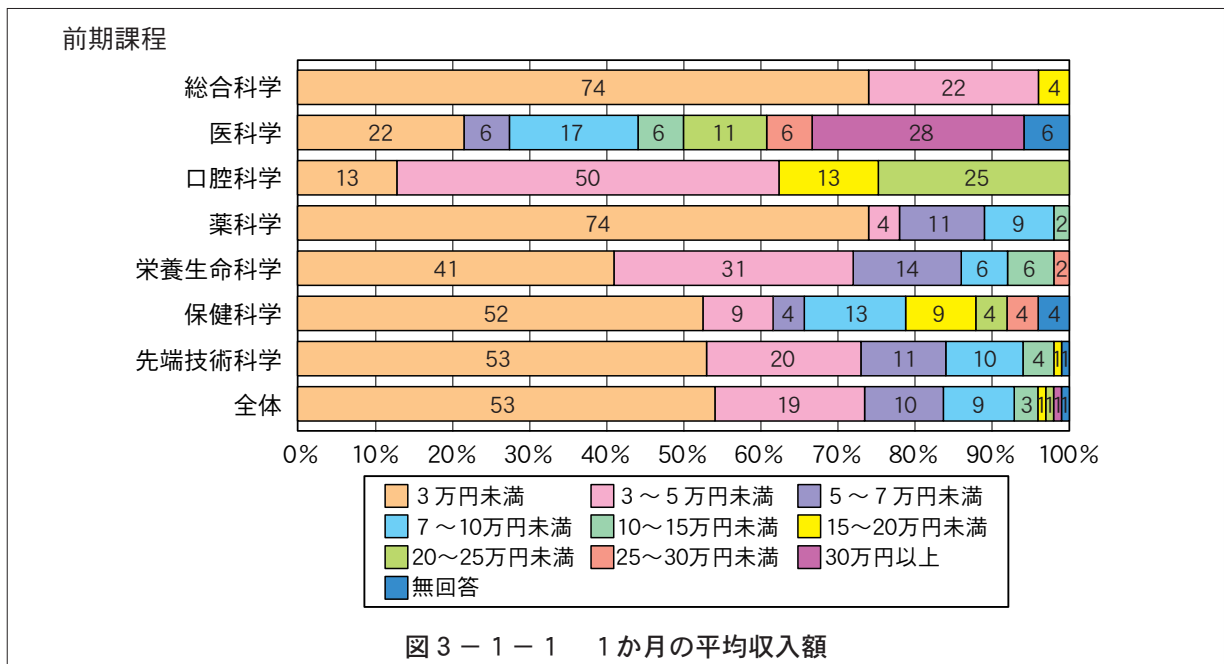
留学生の通学時間は、15分未満が59%と一番多く、次いで15分～30分未満21%、30分～1時間未満20%となっている。



第3章 収入・支出について

3-1 1か月の平均収入額 (図3-1-1, 図3-1-2)

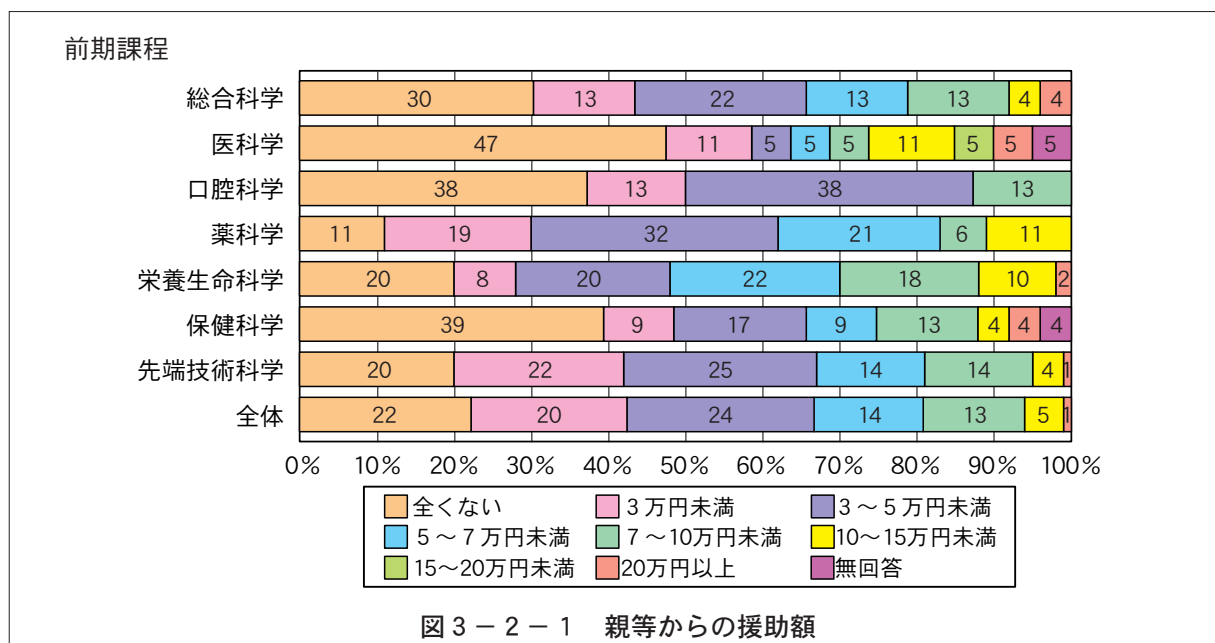
前期課程では、全体の53%は月平均収入額（親等からの援助を除く）が3万円未満で、91%は10万円未満である。教育部を比較すると、医科学や口腔科学では社会人大学院生が多いため、それぞれ50%、38%の学生が10万円以上の収入を得ている。一方、総合科学や薬科学、栄養生命科学、先端技術科学ではそれぞれ96%、98%、92%、95%の大学院生が10万円未満の収入となっている。保健科学では78%の学生が10万円未満だが、17%は10万円以上の収入を得ている。留学生の1か月の平均収入は3万円未満、3～5万円未満、5～7万円未満がいずれも29%であり、これは奨学金等の受給によると考えられる。



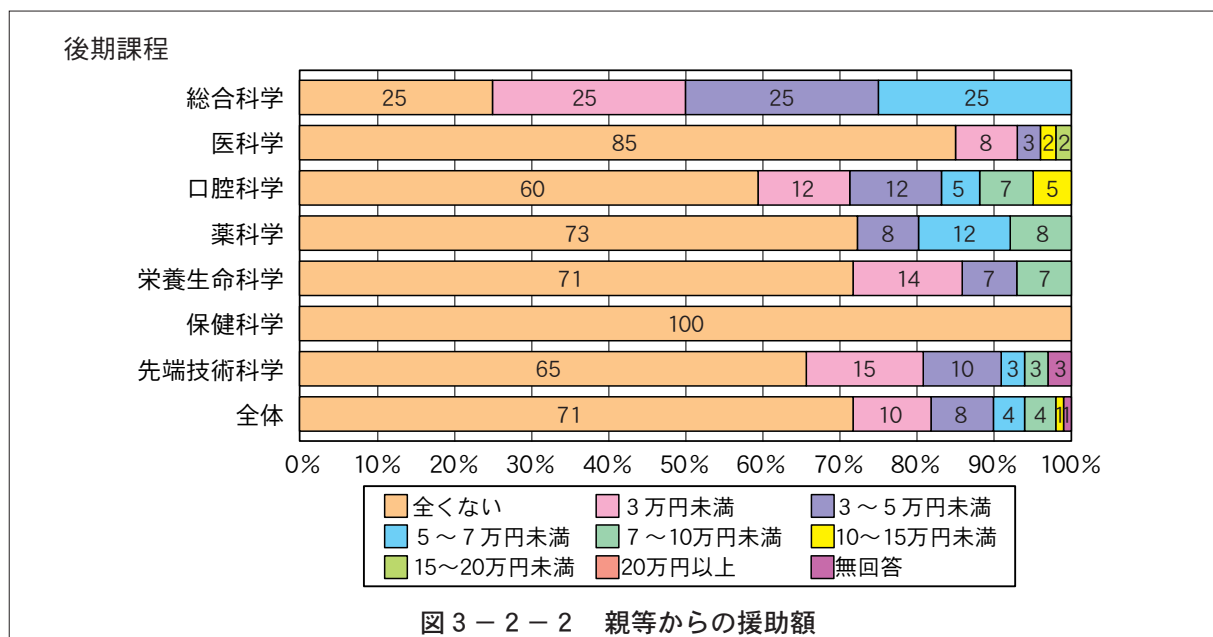
後期課程では、全体の20%が平均収入3万円未満であるが、一方、21%は30万円以上の収入を得ている。教育部を比較する（総合科学を除く）と、先端技術科学では6割弱の57%が平均収入10万円未満である。栄養生命科学では収入額10～15万円未満の割合が36%と最も高く、43%は収入10万円未満である。保健科学は86%の学生に20万円以上の収入があり、内29%は30万円以上の収入を得ている。医科学では収入額に個人差があり、54%が30万円以上の収入を得ているのに対し、19%は10万円未満である。口腔科学と薬科学では、半数弱の48%、46%が10万円未満の収入である。留学生については全体の40%が10～15万円未満の収入を得ており、これは奨学金受給によるものと考えられる。

3-2 親等からの援助額 (図3-2-1, 図3-2-2)

前期課程では、親等からの援助が全くない大学院生は全体の22%である。教育部によりばらつきがあり、親等からの援助が全くない大学院生の割合は医科学(47%)、保健科学(39%)と口腔科学(38%)で高く、薬科学では11%と低い。全体の約9割が受けている援助額は10万円未満であるが、20万円以上の援助を受けている学生もいる(1%)。留学生については、全体の54%は親等からの援助が全くない。

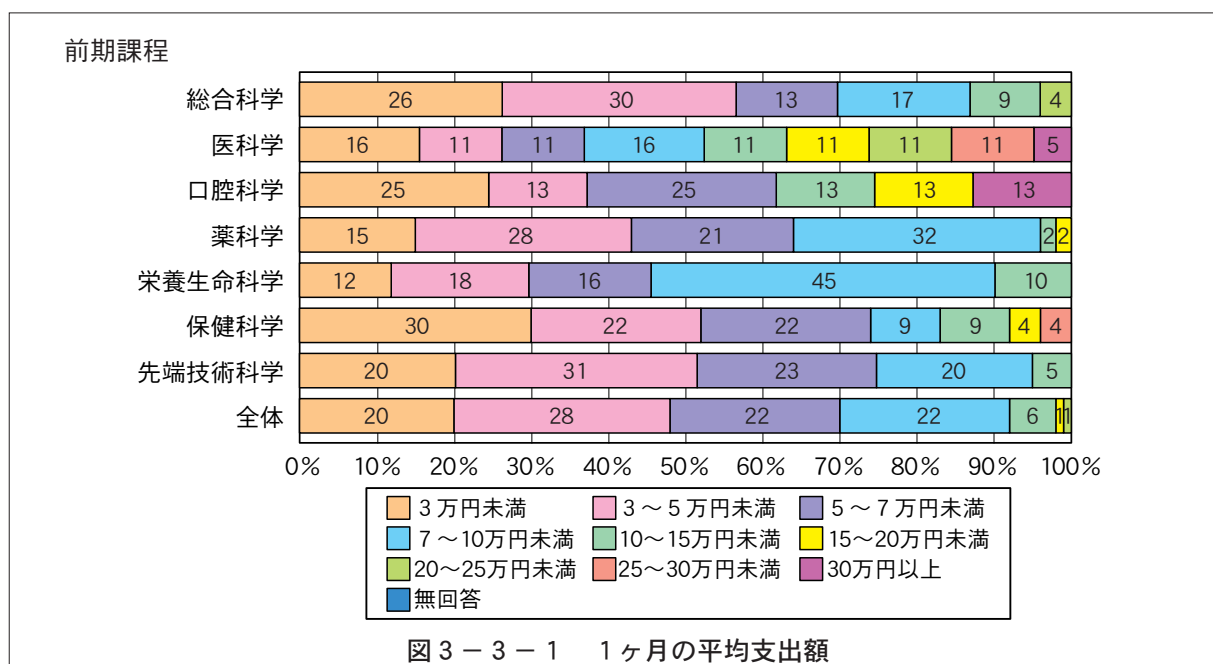


後期課程では、前期課程と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が高く、収入面での独立傾向がうかがえる。全体では、71%の大学院生が親等からの援助がなく、援助額5万円未満のものは18%であった。さらに、援助額10万円以上の大学院生の割合は前期課程(6%)よりも少なく、2%であった。教育部を比較する(少数のため総合科学を除く)と、保健科学では後期課程の大学院生すべてが援助を受けていない。援助を受けていない大学院生の割合は、医科学85%、薬科学73%、栄養生命科学71%と3教育部では7割以上を占めている。留学生については全体の78%が親等からの援助はなく、援助があるものの額は5万円未満である。



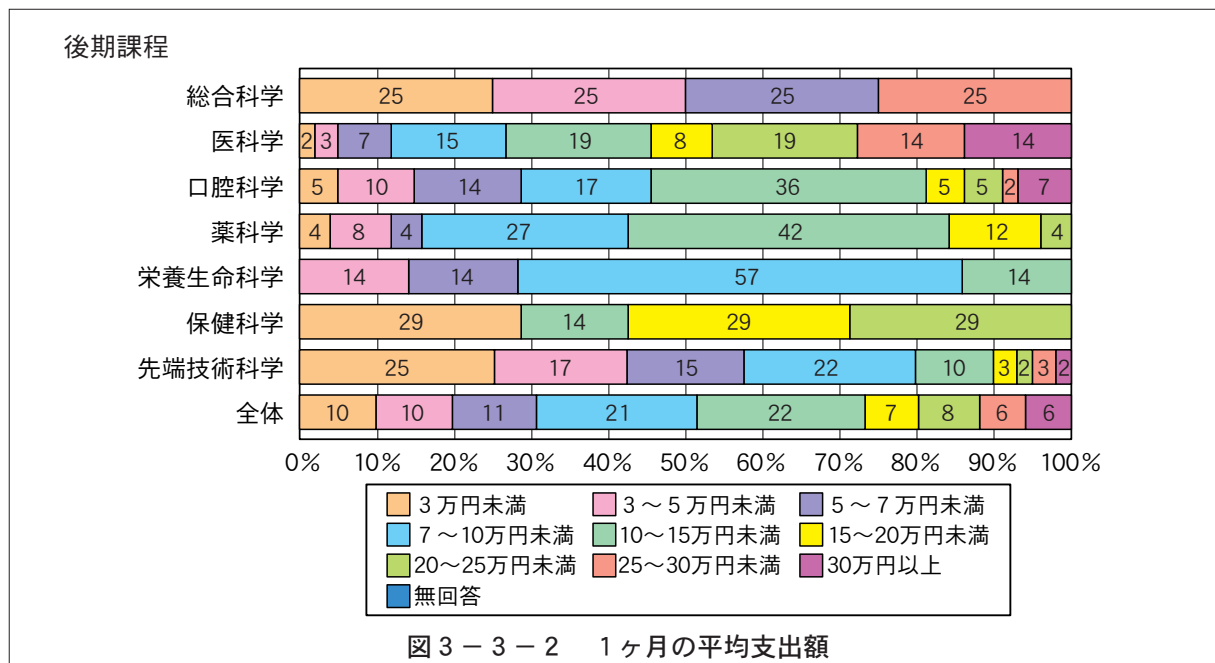
3-3 1か月の平均支出額(授業料支出は除く) (図3-3-1, 図3-3-2)

前期課程では、全体の48%が1か月平均5万円未満の支出で、92%が月平均10万円未満の支出で生活をしている。教育部を比較すると、月平均10万円未満の支出で生活している大学院生の割合は薬科学、先端技術科学、栄養生命科学、総合科学、保健科学の順に高く、それぞれ96%、94%、90%、87%、83%である。一方、医科学(53%)と口腔科学(63%)ではその割合は低い。留学生の89%は月平均支出額10万円未満で生活していて、とくに総合科学の留学生の40%は支出額を3万円未満に抑えている。



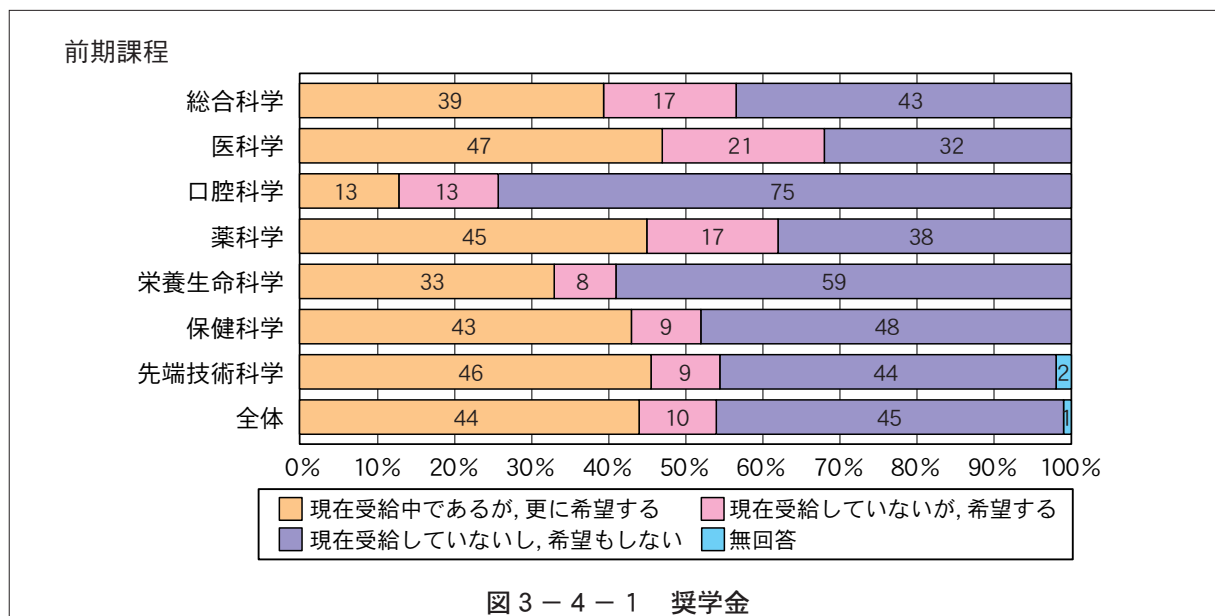
後期課程では、月平均支出額が5万円未満である大学院生の割合は全体の20%と前期課程(48%)に比べて低く、半数弱(48%)は月平均10万円以上で生活している。教育部を比較する(少数のため総合科学を除く)と、医科学では支出額10万円以上の大学院生の割合は73%であり、さらに25万円以

上の者は28%を占める。口腔科学と薬科学は傾向が類似し、支出額10～15万円未満の割合が最も高く、それぞれ36%と42%であった。また、5万円未満の割合はそれぞれ14%、12%と低かった。栄養生命科学では7～10万円未満の割合が最も高く57%であった。保健科学と先端技術科学では1か月の平均支出額にばらつきがみられた。留学生については、全体の31%は平均支出額が10～15万円未満である。また、医科学、栄養生命科学と先端技術科学の留学生は7～10万円未満の割合が高く、それぞれ40%、50%、28%であり、口腔科学の留学生の62%が10～15万円未満の支出を計上している。

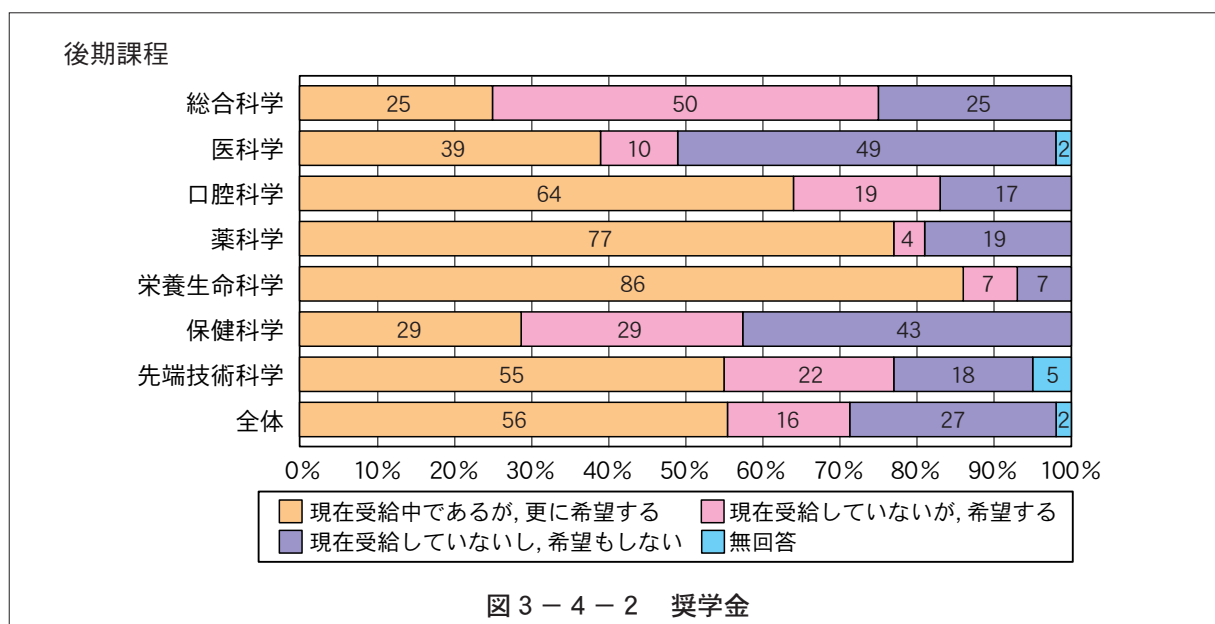


3-4 奨学金を受けることを希望しますか (図 3-4-1, 図 3-4-2)

前期課程では、全体の54%が奨学金を希望しており、一方で45%が将来的にも奨学金の受給を希望していない。現在奨学金を受給している割合は、口腔科学以外の6教育部で4割前後であり、将来的な受給希望を含めると医科学が68%と最も奨学金を希望する割合が高い。口腔科学では現在奨学金を受けている13%と将来的に奨学金を希望する13%をあわせても全体の4分の1であり、残りの4分の3は



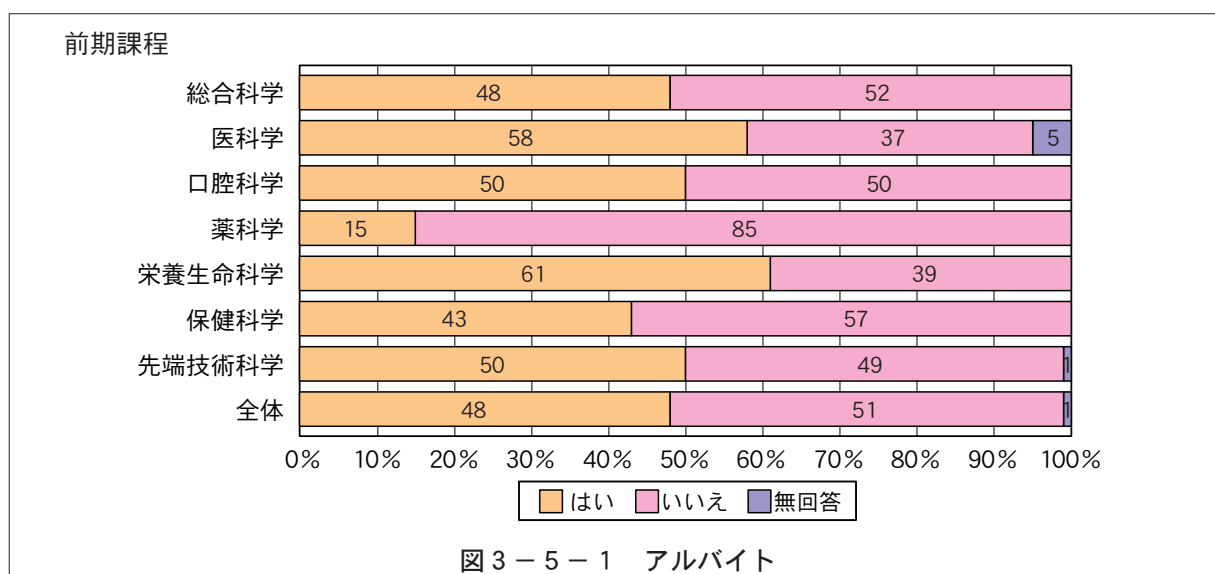
奨学金を希望していない。留学生では,先端技術科学の2名(7%)以外すべて,奨学金を受けたいと考えている。



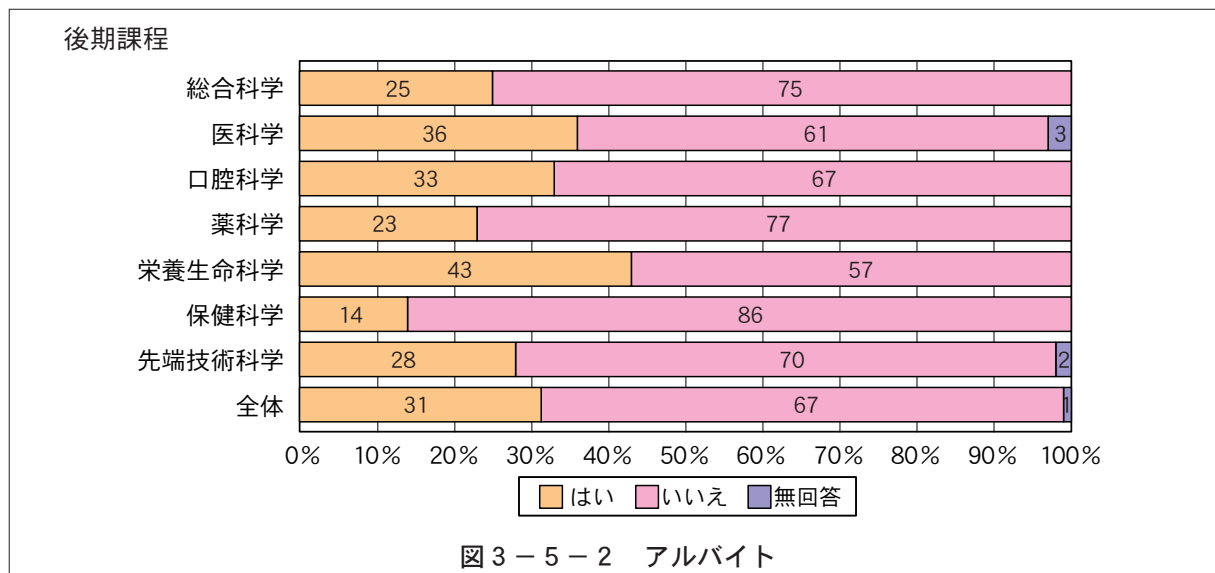
後期課程では,全体として奨学金を希望する割合は前期課程(54%)よりも高く,72%を占める。教育部を比較する(少数のため総合科学を除く)と,栄養生命科学で奨学金希望の大学院生の割合は最も高く(93%),ついで口腔科学,薬科学,先端技術科学の順に高い。一方,医科学と保健科学では現在奨学金を受けている割合は3,4割で,将来的希望を含めると5割前後を占めるが,残りは将来的にも奨学金の受給を希望していない。留学生では無回答1名を除き,すべてが奨学金を受けたいと考えている。

3-5 現在,アルバイトをしているか (図3-5-1, 図3-5-2)

前期課程では,全体の48%の大学院生がアルバイトをしており,残り51%は行っていない。教育部で比較すると,アルバイト学生の割合は栄養生命科学が61%と最も高く,ついで医科学(58%),先端技術科学(50%),口腔科学(50%)であり,いずれも半数以上を占める。留学生では71%がアルバイトをしている。

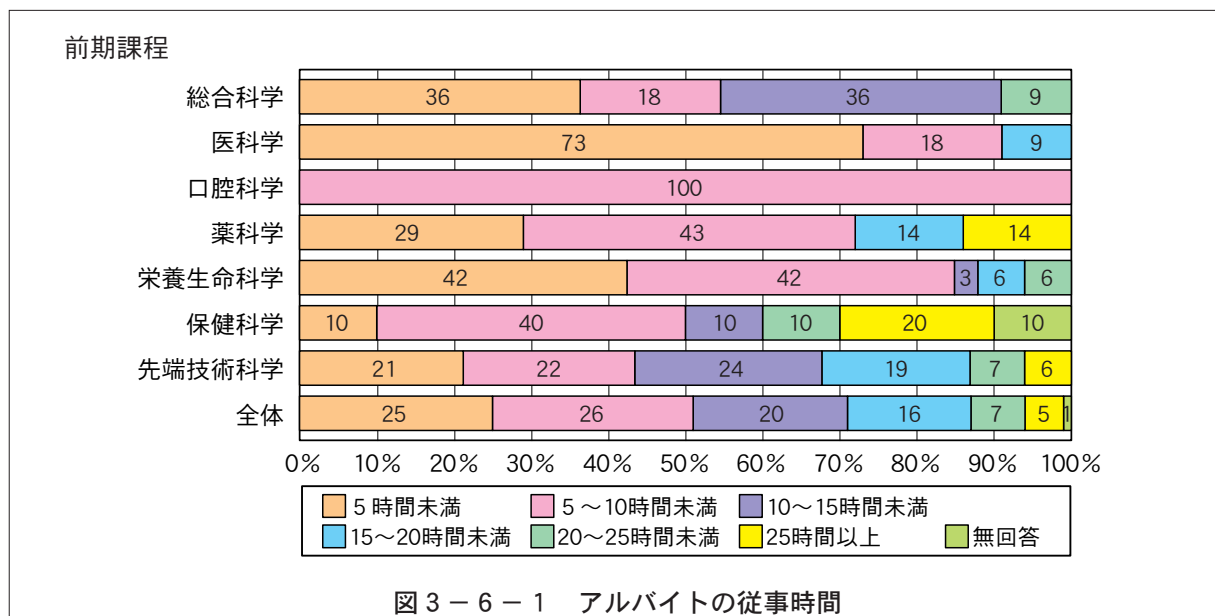


後期課程では、全体として31%の大学院生がアルバイトを行っており、前期課程（48%）と比較すると少ない。また、教育部ごとにみても、いずれも後期課程でアルバイトを行っている割合は減少している。理由として、後期課程では研究に従事する時間が増え、アルバイトをする時間的余裕が減ることが考えられる。教育部を比較すると、アルバイト学生の割合は栄養生命科学が43%と最も高く、ついで医科学（36%）、口腔科学（33%）、先端技術科学（28%）であり、前期課程と同様の傾向を示す。後期課程の留学生は、全体の16%のみがアルバイトを行っている。

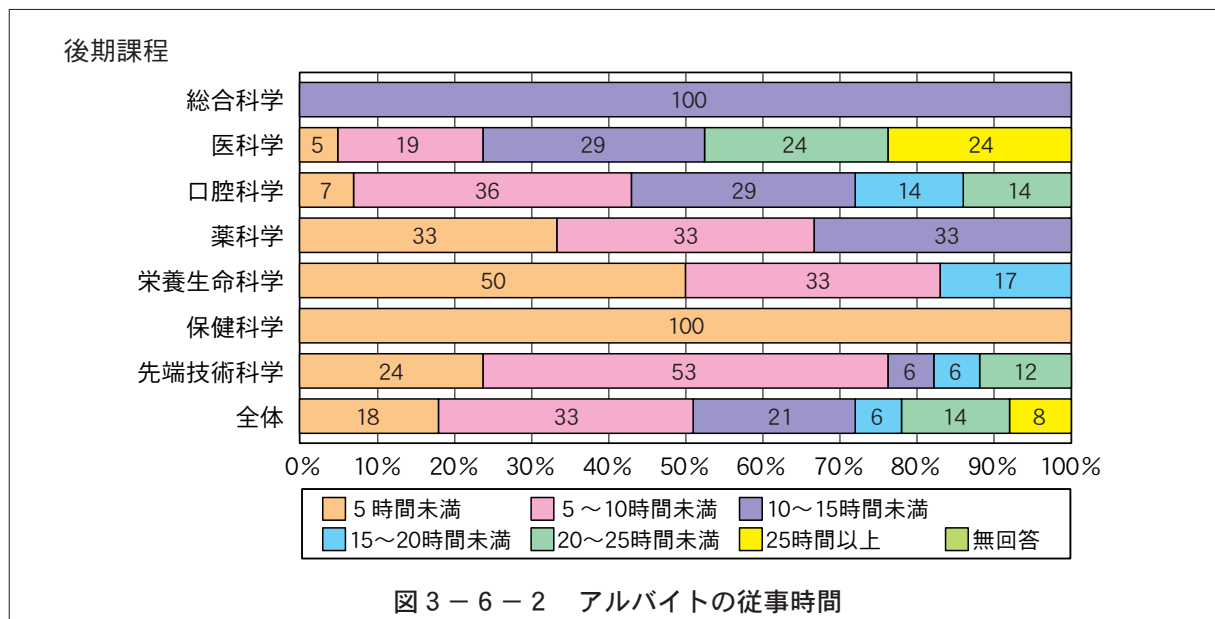


3-6 アルバイト従事時間数 (図 3-6-1, 図 3-6-2)

前期課程では、全体の51%はアルバイト従事時間10時間未満であり、残りの48%は10時間以上で、そのうち5%の大学院生は25時間以上のアルバイトに従事している。教育部を比較する（少数のため口腔科学を除く）と、医科学ではすべて20時間未満のアルバイト従事であり、そのうち91%は10時間未満であった。20時間以上のアルバイト従事学生は、保健科学の30%、先端技術科学の13%、総合科学の9%で、そのうち25時間以上の従事者の割合は保健科学の20%、薬科学の14%、先端技術科学の6%であった。医科学や栄養生命科学、薬科学の大学院生のアルバイト時間は、他と比較して時間数が



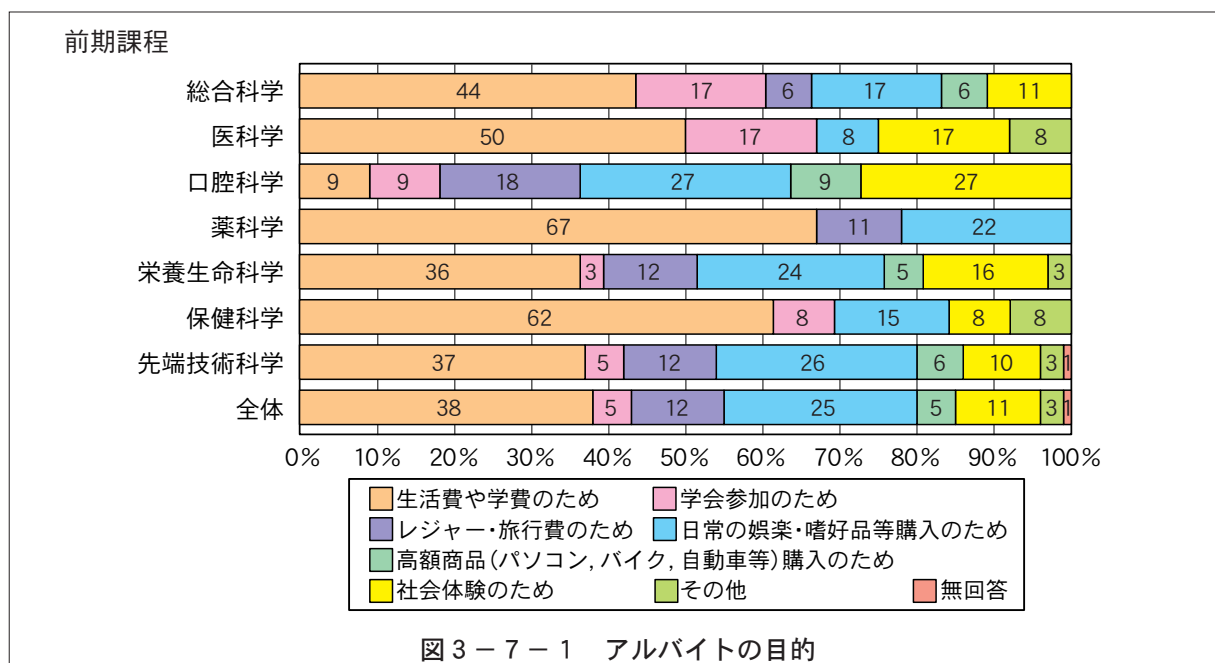
やや少ない。留学生については、10時間未満のアルバイトを行っている学生が45%を占めている。



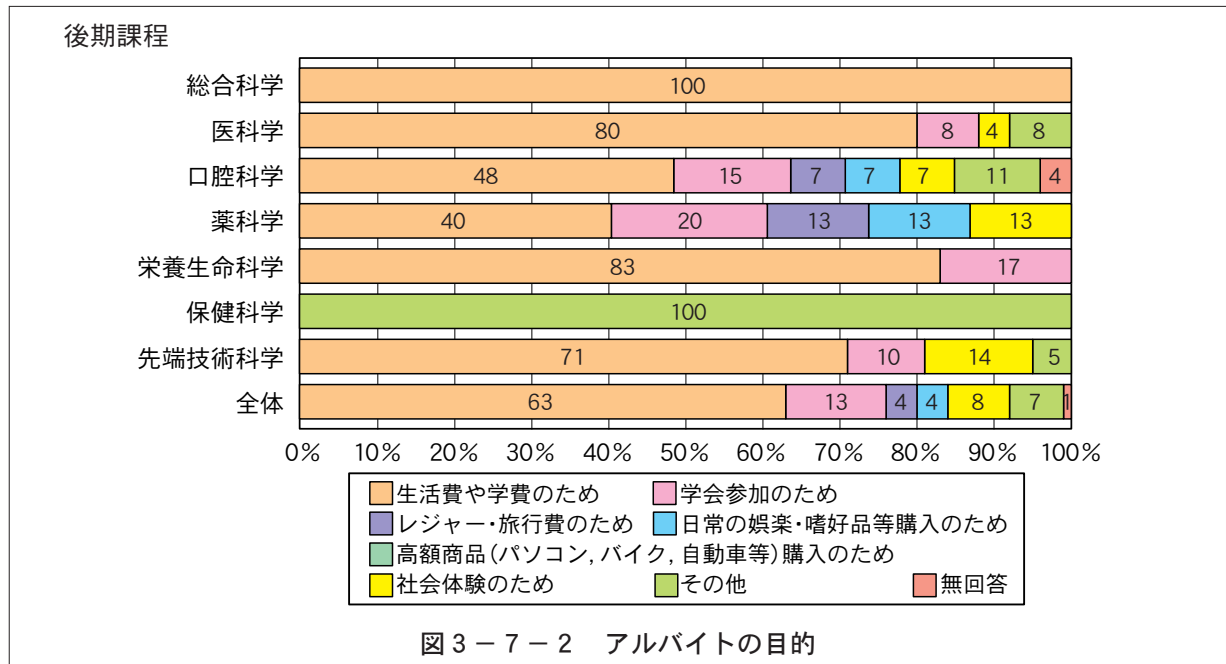
後期課程では、全体としてアルバイト時間10時間未満の大学院生の割合は51%で、前期課程と同等で、25時間以上従事している者の割合も8%とほぼ同等であった。教育部を比較する（少数のため総合科学と保健科学を除く）と、医科学では52%が20時間未満の、48%は20時間以上のアルバイトを行っている。口腔科学では86%が20時間未満のアルバイトに従事している。薬科学、栄養生命科学、先端技術科学の10時間未満のアルバイトに従事する院生の割合はそれぞれ67%、83%、76%である。留学生については、全体（9名）のうち、4名（44%）は10時間未満、4名（44%）は10～20時間未満、1名（11%）は20時間以上のアルバイトに従事している。

3-7 アルバイトの目的 (図 3-7-1, 図 3-7-2)

前期課程では、全体の38%はアルバイトの目的が「生活費や学費のため」であり、「学会参加のため」の5%を含めて、44%が大学院生としての生活費捻出のためにアルバイトを行っている。「レジャー・旅



行」,「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトは37%である。教育部を比較すると,学会参加費を含めた大学院生としての生活費捻出をアルバイトの目的としている割合は保健科学(69%),医科学(67%),薬科学(67%)と総合科学(61%)で高く,先端技術科学と栄養生命科学はそれぞれ42%,40%で,口腔科学は18%と低い。「レジャー・旅行」,「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトの割合は口腔科学(45%),先端技術科学(39%),栄養生命科学(36%)と薬科学(33%)において高い。「高額商品(パソコン,バイク,自動車等)購入のため」のアルバイトはすべての教育部で0~9%と低い。一方,「社会体験のため」のアルバイトと回答した割合は口腔科学(27%)で高く,それ以外は0~17%と低い。留学生については,全体の85%が「生活費や学費のため」のアルバイトであり,「社会体験」や「日常の娯楽のため」はそれぞれ10%,5%と少ない。

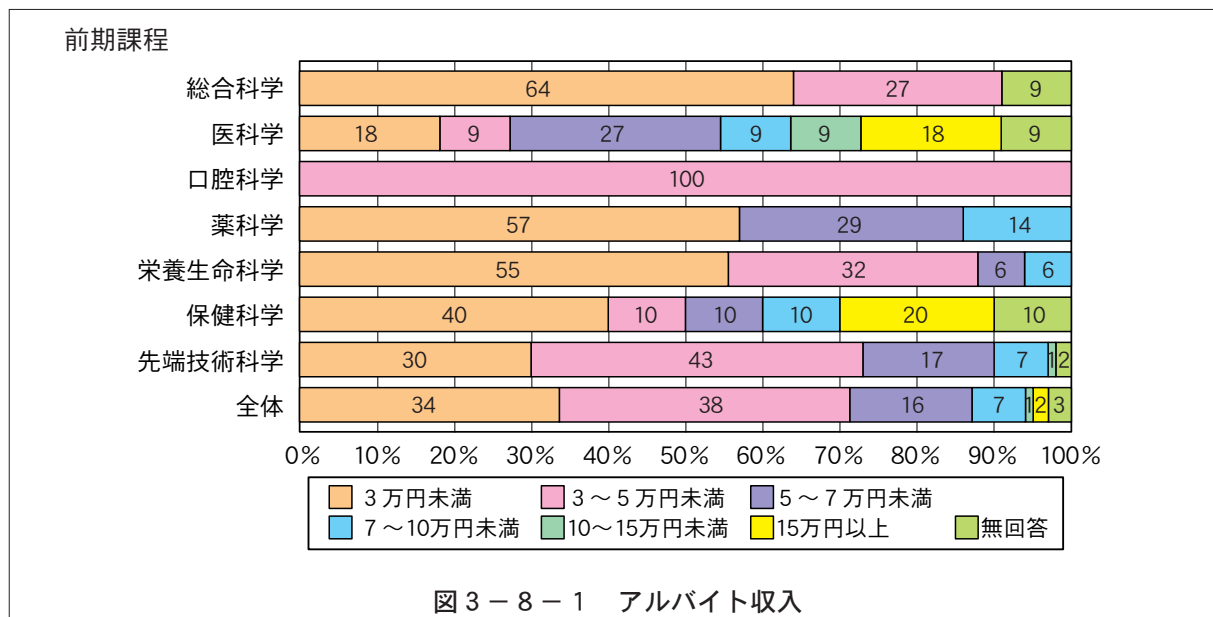


後期課程では,全体の75%のアルバイトの目的は「生活費や学費のため」と「学会参加のため」であり,前期課程(44%)と比較して割合が高くなっている。一方,「レジャー・旅行」,「日常の娯楽など」の交遊費捻出を目的とする割合は8%で,前期課程(37%)と比較してきわめて低い。教育部を比較する(少数のため総合科学と保健科学を除く)と,「生活費や学費のため」と「学会参加のため」など大学院生としての生活費捻出を目的としている割合は,栄養生命科学はすべて,医科学(88%)と先端技術科学(81%)は高く,口腔科学(63%)と薬科学(60%)でも6割強を占める。「レジャー・旅行」と「日常の娯楽など」にあてる割合は,薬科学が27%で最も高い。「社会体験のため」や「その他(詳細不明)」と回答したものは0~14%で,前期課程よりも低かった。留学生については,前期課程同様,「生活費や学費のため」のアルバイトである割合が89%と高く,残りの11%は「社会体験」を目的としている。

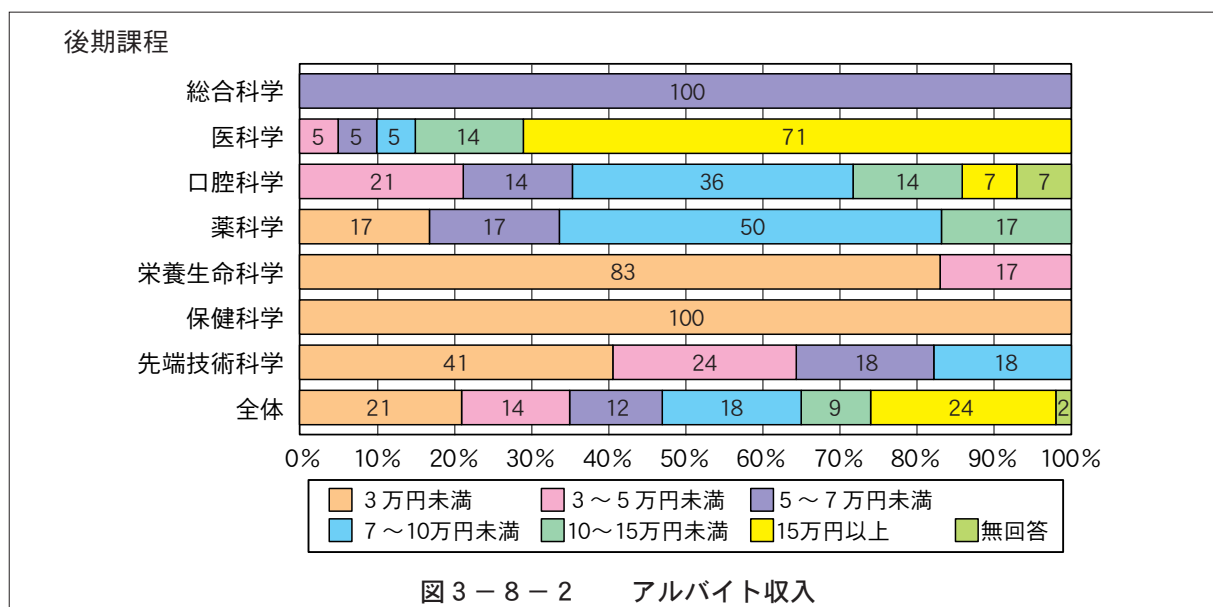
3-8 アルバイト収入金額 (図3-8-1, 図3-8-2)

前期課程では,全体の34%が3万円未満の,38%が3~5万円未満の,25%が5万円以上のアルバイト収入がある(無回答を除く)。教育部の比較では,総合科学,薬科学,栄養生命科学ではアルバイト収入が3万円未満である割合は64~55%で,すべての大学院生のアルバイト収入は10万円未満である(無回答を除く)。医科学では5~7万円未満の割合が27%と最も多く,27%は10万円以上の収入を得ている。保健科学では3万円未満が40%と最多で,20%は15万円以上を得ている。先端技術科学では

3～5万円未満の割合が43%と最も多い。留学生はすべて7万円未満の収入である。



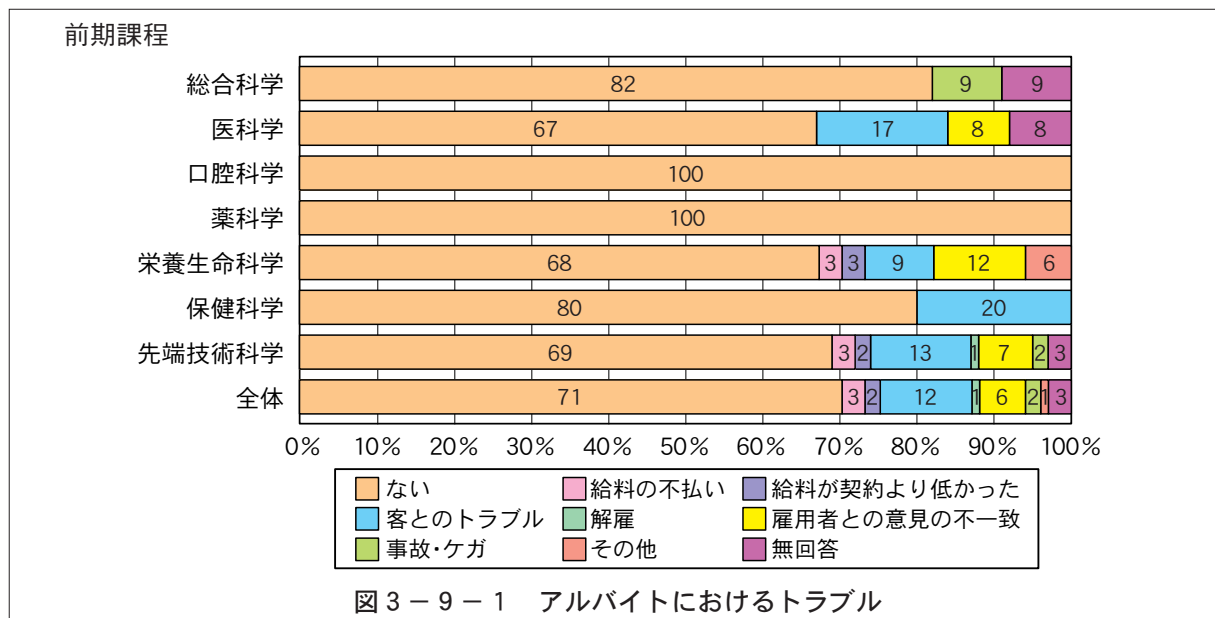
後期課程では、全体の65%はアルバイト収入が10万円未満である。33%は10万円以上の収入を得ていて、前期課程（3%）と比較してアルバイト収入額は増加している。教育部を比較する（少数のため総合科学と保健科学を除く）と、医科学の86%、口腔科学の21%が10万円以上の、とくに医科学の71%は15万円以上のアルバイト収入を得ている。薬科学は50%が7～10万円未満のアルバイト収入を、17%は10万円以上の収入を得ている。栄養生命科学はすべて5万円未満の、先端技術科学はすべて10万円未満の収入である。留学生については、3万円未満、3～7万円未満、7～10万円未満がそれぞれ3分の1を占めている。



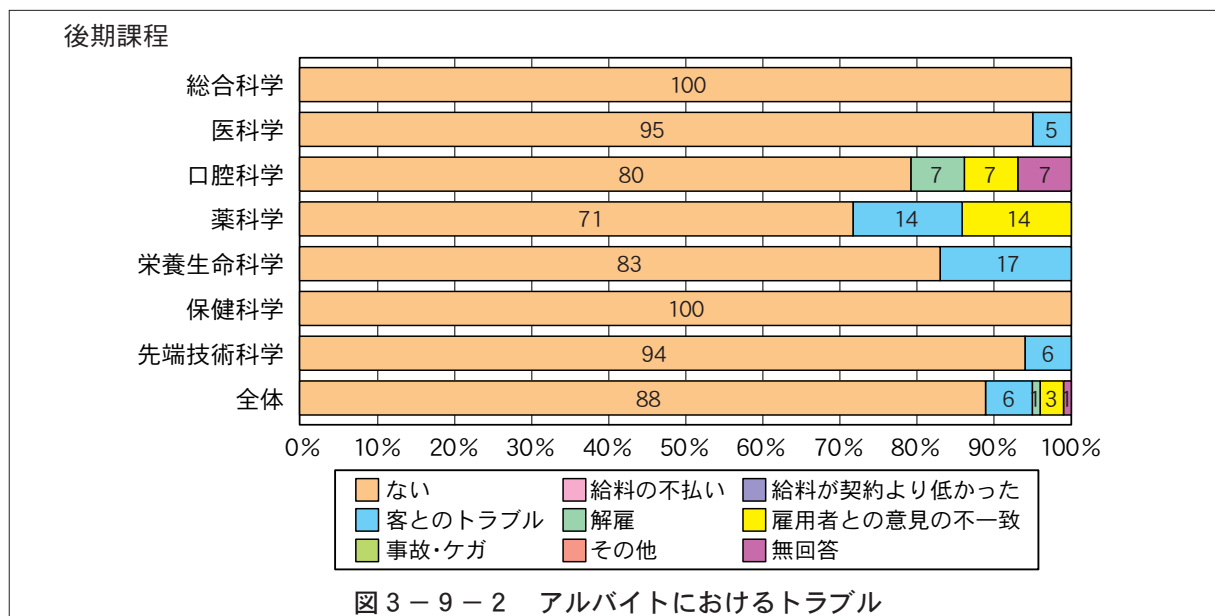
3-9 アルバイトにおけるトラブル (図3-9-1, 図3-9-2)

前期課程では、全体の約7割にはアルバイトにおけるトラブルはみられない。最も多いトラブルは「客とのトラブル」で12%、ついで「雇用者との意見の不一致」（6%）、「給料の不払い」（3%）である。教育部別では、口腔科学と薬科学はすべて、総合科学と保健科学は約8割が、また、医科学、栄養

生命科学，先端技術科学は7割弱がトラブルを経験したことがない。トラブルの内容としては「客とのトラブル」（9～20％）が最も多く，保健科学の20％，医科学の17％が経験している。栄養生命科学，医学科と先端技術科学では「雇用者との意見の不一致」（8～12％）を，総合科学と先端技術科学は「事故・ケガ」（2～9％）を経験している。留学生については，全体の8割にトラブルの経験はないものの，「給料の不払い」，「雇用者との意見の不一致」，「事故・ケガ」，「その他（詳細不明）」をそれぞれ1名（各5％）が経験している。



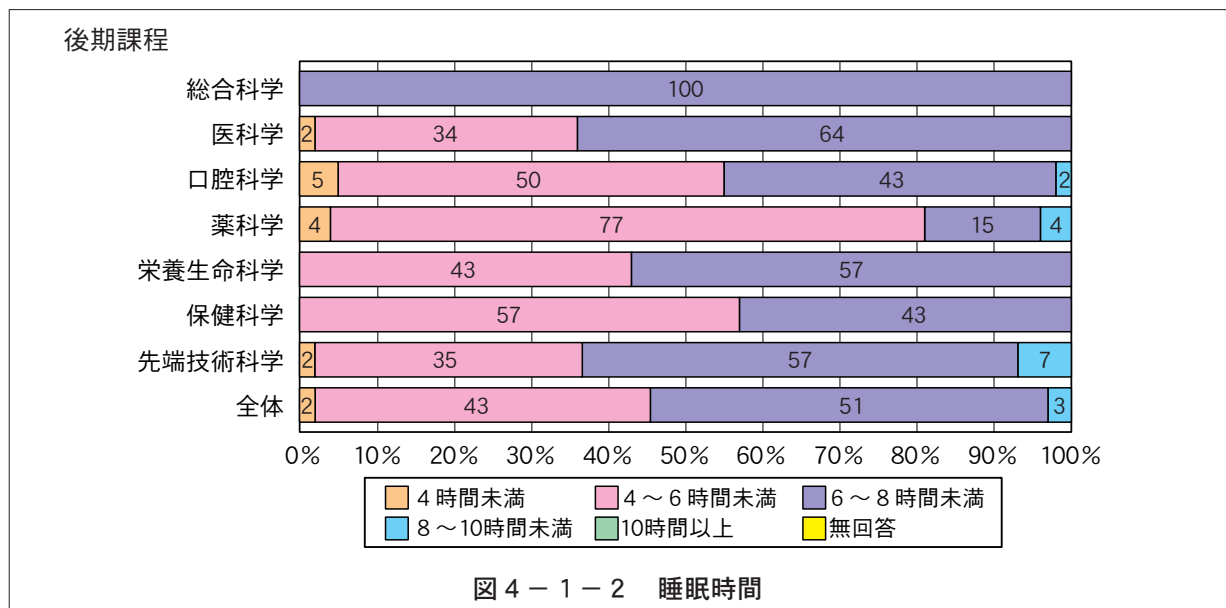
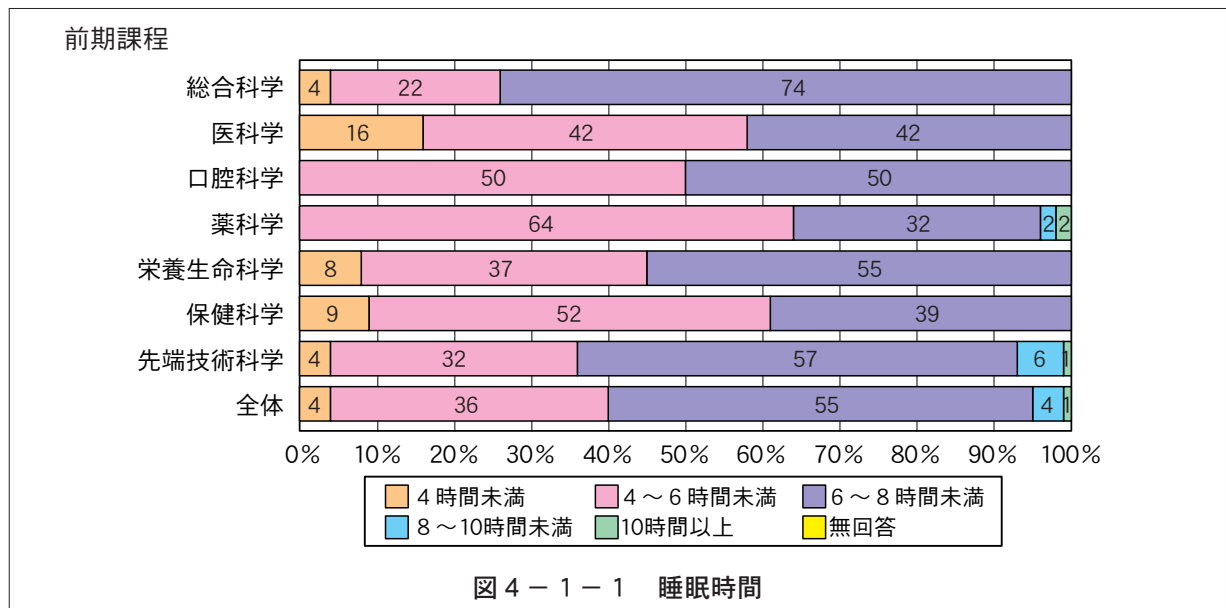
後期課程では，全体の88％はアルバイトにおけるトラブルの経験はない。トラブルの内容としては「客とのトラブル」が6％と最も多く，ついで「雇用者との意見の不一致」（3％），「解雇」（1％）である（無回答を除く）。教育部を比較する（少数のため総合科学と保健科学を除く）と，医科学，口腔科学，栄養生命科学，先端技術科学において約80～95％はトラブルの経験がない。薬科学では28％がトラブルを経験しており，「客とのトラブル」と「雇用者との意見の不一致」が同率（各14％）である。「客とのトラブル」は，栄養生命科学，薬科学，先端技術科学，医科学のそれぞれ17％，14％，6％，5％も経験している。また，口腔科学の1名（7％）は「解雇」を経験している。留学生は9名すべて，アルバイトにおけるトラブルの経験はない。



第4章 健康状態について

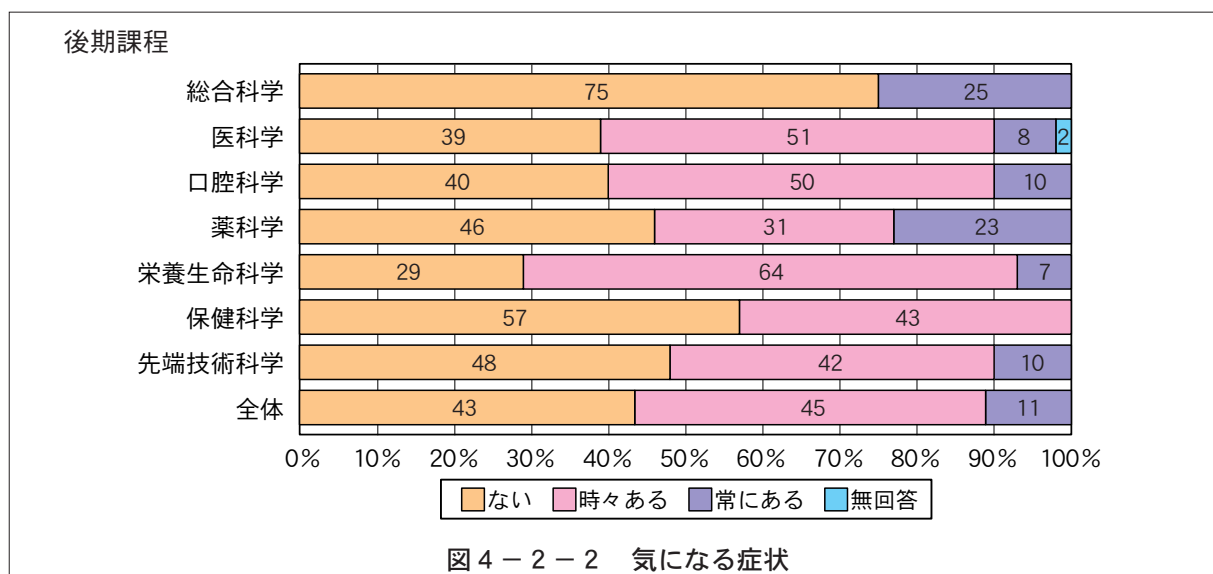
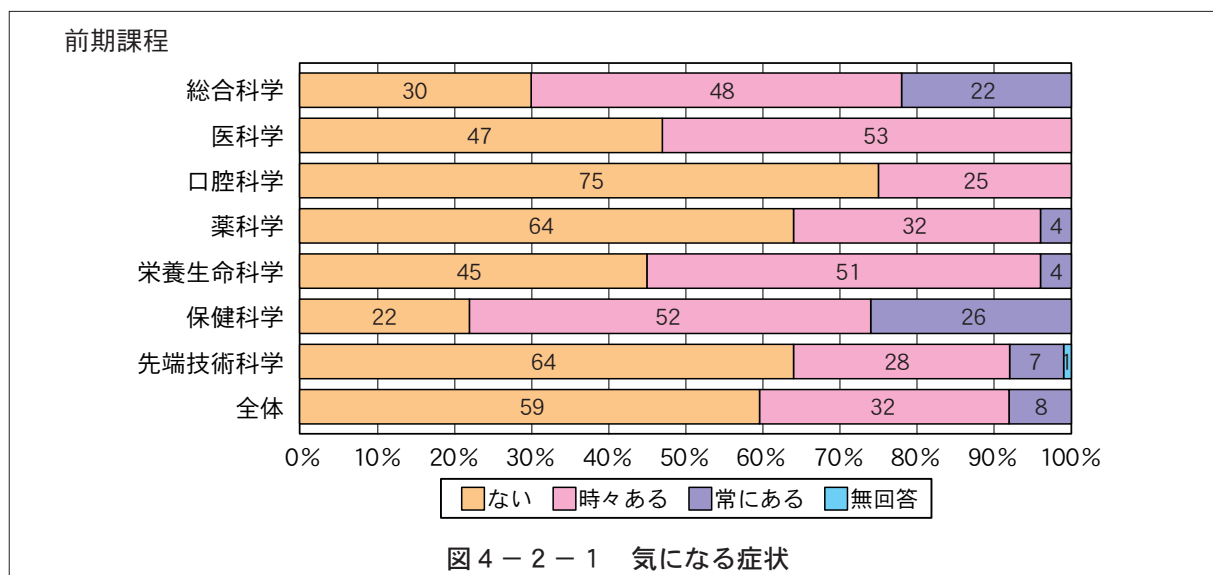
4-1 睡眠時間 (図4-1-1, 図4-1-2)

睡眠時間は全体として前期課程、後期課程で差はほとんどなく、「6～8時間未満」がそれぞれ55%および51%、「4～6時間未満」が36%、43%であった。最も健康的な睡眠時間は7～8時間といわれているため、約半数の学生の睡眠は良好に保たれていると思われる。しかし6時間未満が40%強となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。教育部別では、医科学前期課程で4時間未満が16%、薬科学後期課程で6時間未満が81%と睡眠不足の学生が多く見られる。睡眠不足は心身の疲労を招き、活動性の低下や心身の変調、注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため、健康・安全管理のために、睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。



4-2 気になる症状 (図4-2-1, 図4-2-2)

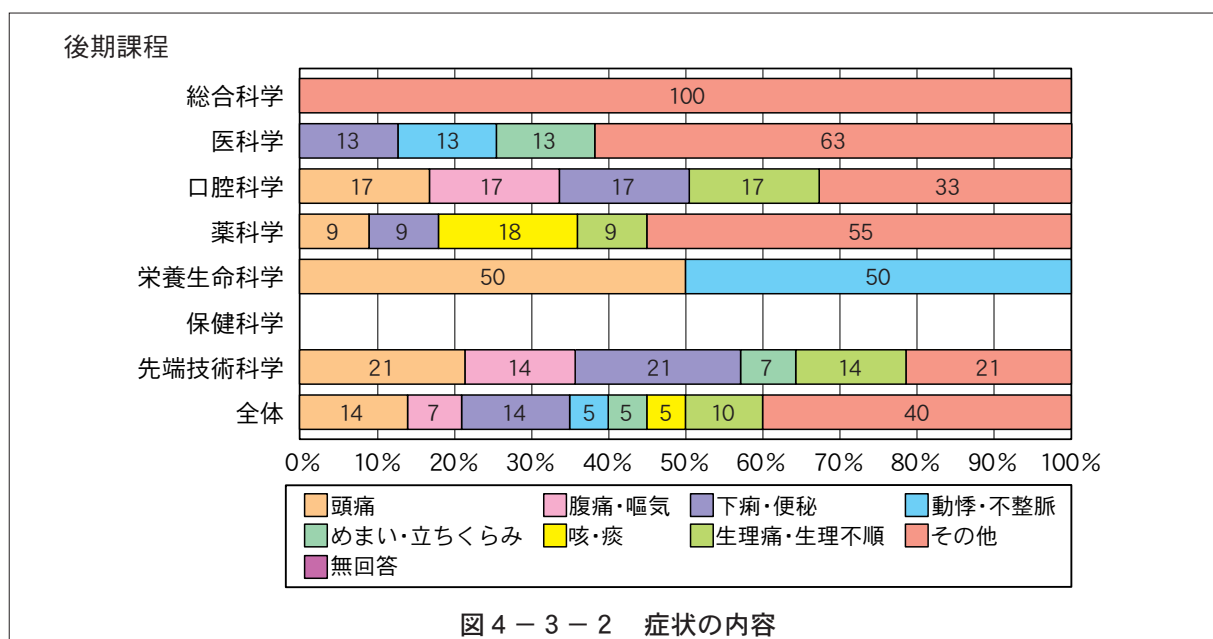
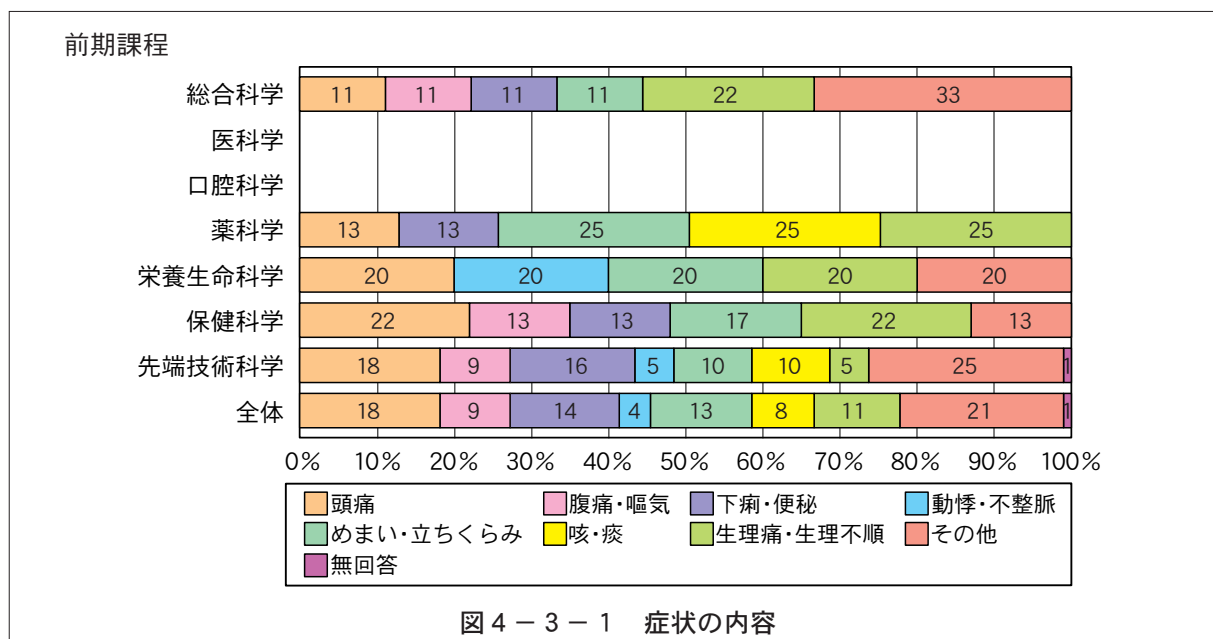
気になる症状が「ある」と答えた学生は、前期課程の40%、後期課程では56%であり、後期課程の方が多くみられるが、第3回までの調査と比較して増加は見られなかった。教育部別に見ると、前期課程の総合科学、保健科学、後期課程の総合科学、薬科学で、気になる症状が「常にある」とした学生が4～5人に1人と多く、保健管理センターなどを活用した健康相談、生活の見直しなどが望まれる。また、男女別では、気になる症状が「ある」と答えた男子は39%、女子は58%と、女子に多いのも第3回までの調査と同様であった。留学生では、前期・後期課程ともに気になる症状が「ある」とした学生はそれぞれ71%、81%に上っており、健康面の問題に対する支援のニーズがあると思われる。



4-3 症状の内容 (図4-3-1, 図4-3-2)

前期・後期課程とも、腹痛・嘔気、下痢・便秘の腹部症状、頭痛が多くみられ、前期課程ではめまい・立ちくらみも多くみられた。男女に別に見ると、男子は「その他」、腹部症状、頭痛の順に多く、女子では生理痛・生理不順および腹部症状が多く、「その他」、頭痛、めまい・立ちくらみも多かった。また、男女ともに共通して、頭痛、腹部症状が多くみられている。食生活・睡眠などの基本的な生活リズムの乱

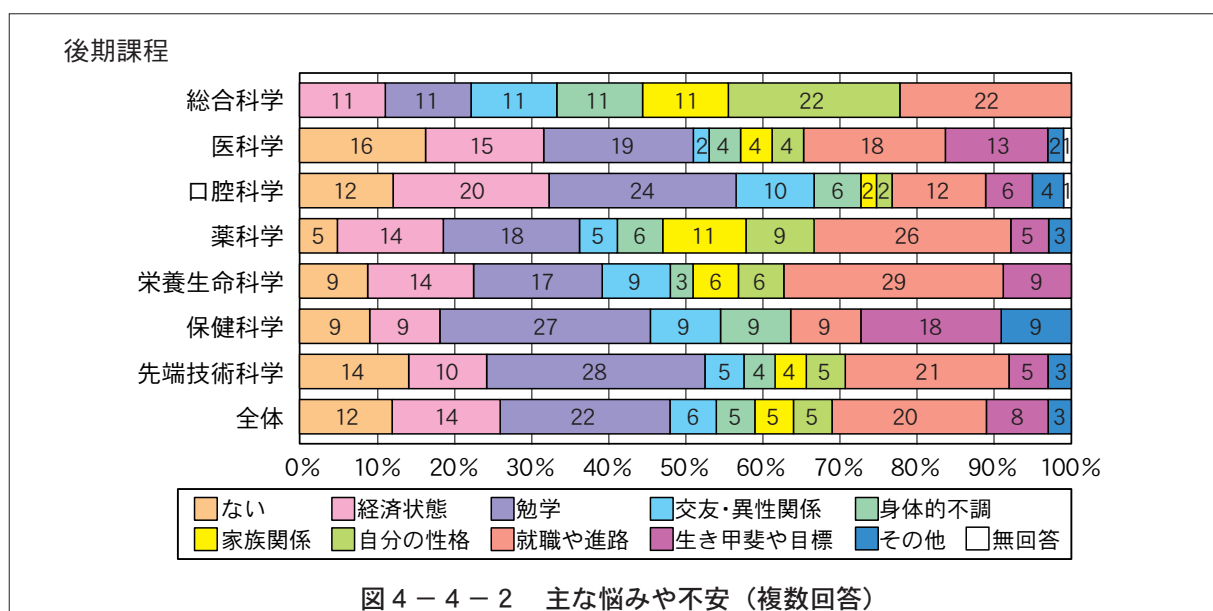
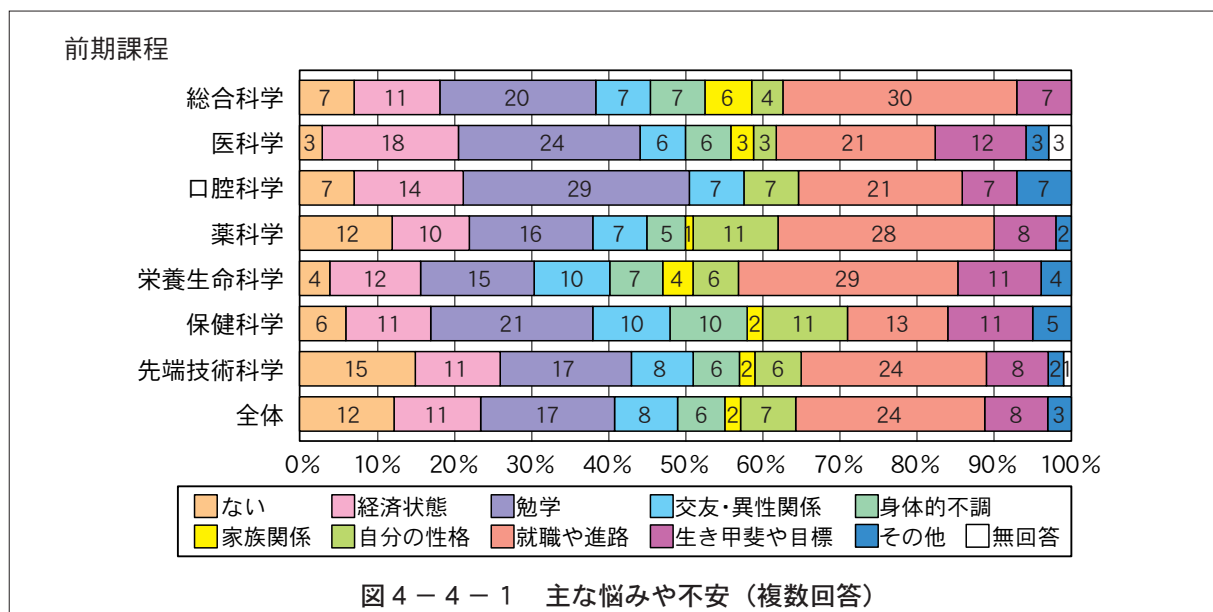
れ、ストレス、運動不足などの要因が考えられる。



4-4 主な悩みと不安 (図 4-4-1, 図 4-4-2)

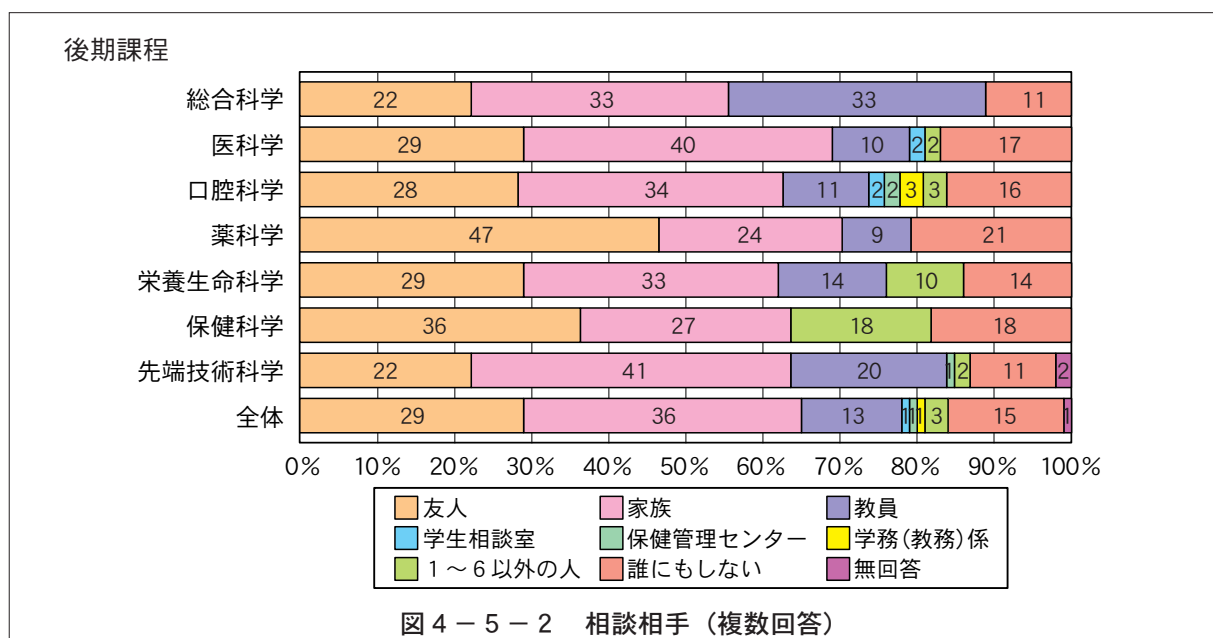
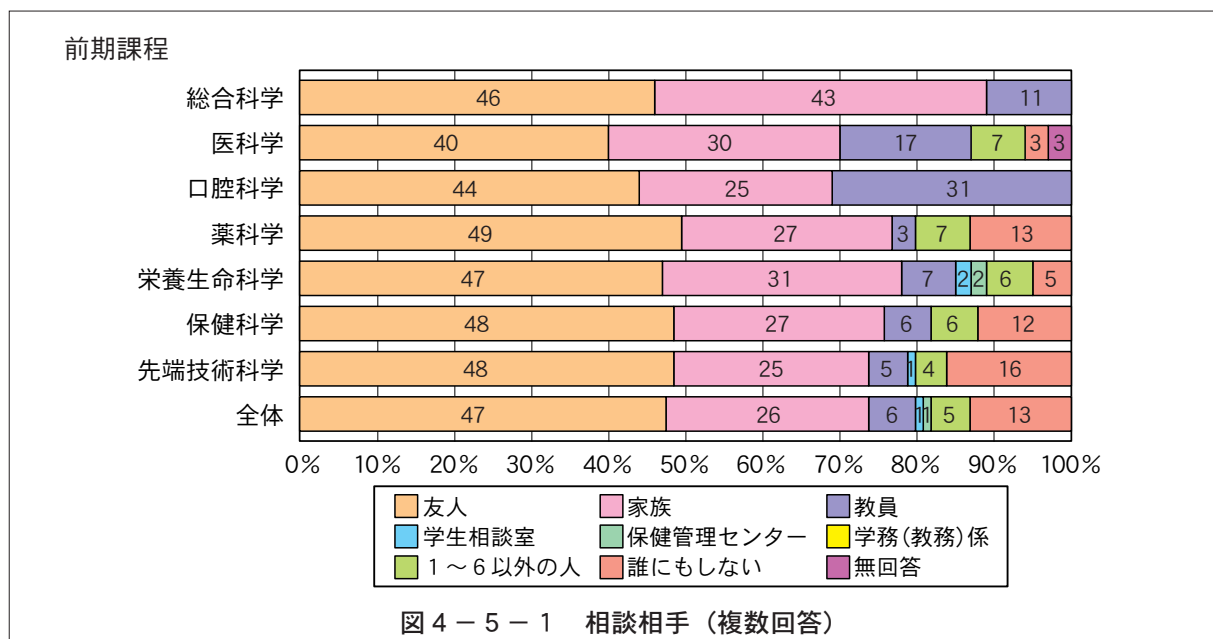
主な悩みや不安は、前期課程では「就職や進路」が最も多く、次いで「勉学」であり、後期課程では「勉学」、「就職や進路」の順に多かった。また、男女別に見ても、男女共に共通してこの2つが上位をしめており、第3回調査と変わらず、学生特有の問題を悩みとしていた。一方、「身体的不調」を悩みとしている学生は前期課程で79名(12%)後期課程で21名(10%)みられている。

留学生では、悩みが「ない」とした学生が少なく、「勉学」「就職や進路」の悩みに加えて、「経済状態」の悩みが多くみられている。



4-5 相談相手 (図 4-5-1, 図 4-5-2)

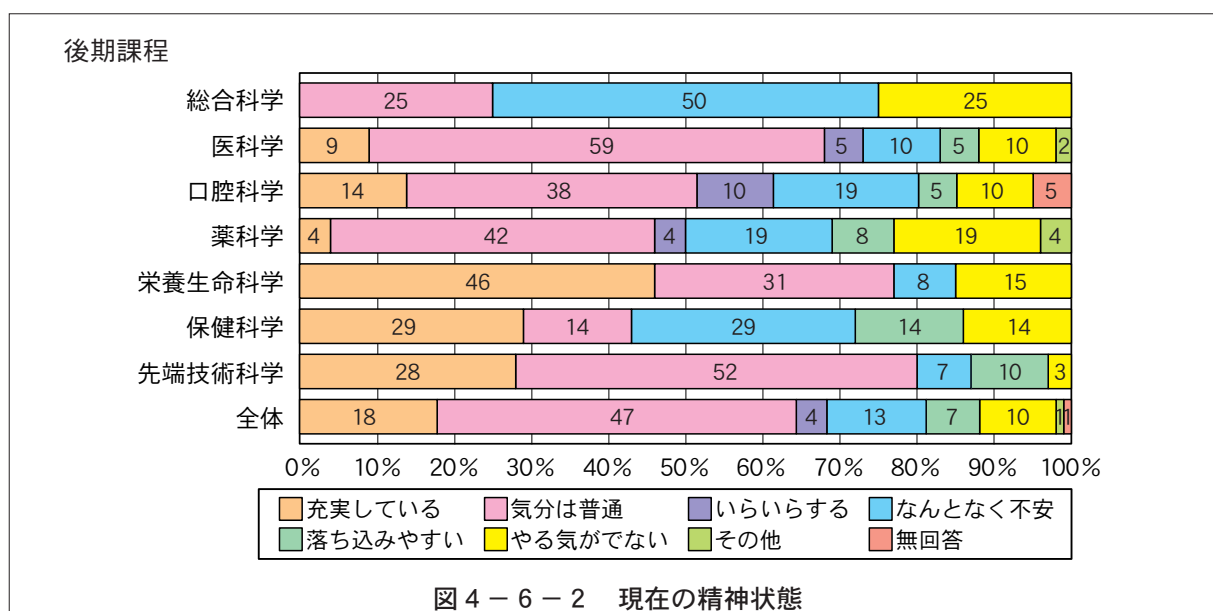
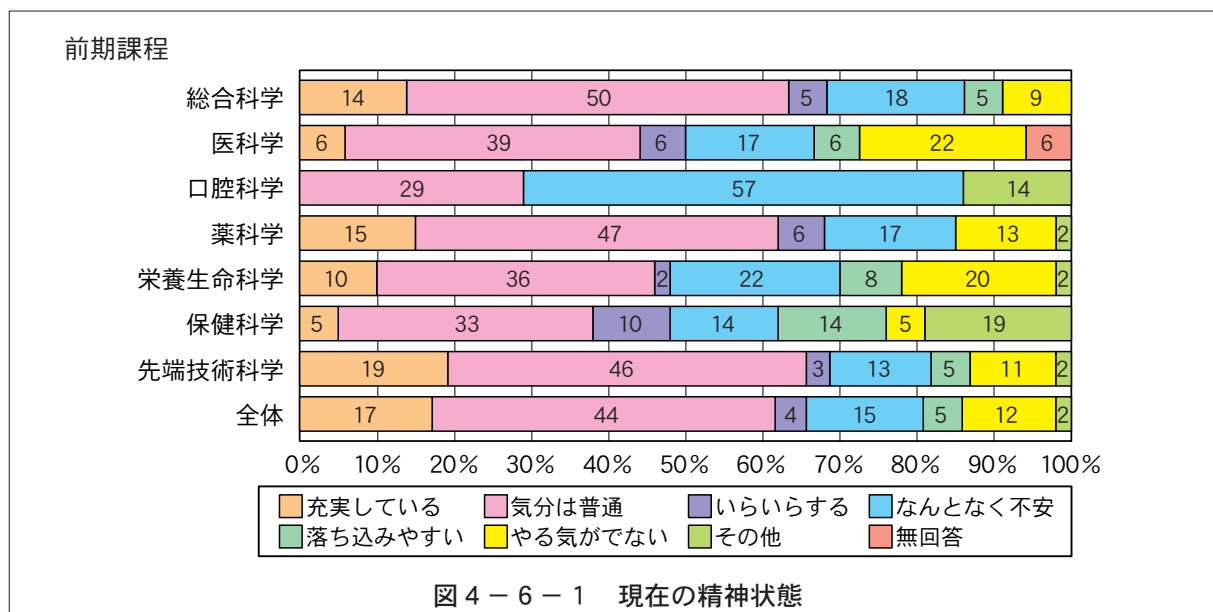
悩み事は、友人や家族に相談する学生が前期・後期課程ともに多く、多くの学生が悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなどの対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが勉学や就職・進路であるものの、後期課程では教員に相談とした学生が40名(19%)いるが、前期課程では56名(9%)と少なかった。また悩みを誰にも相談しないという学生が前期課程で116名(19%)、後期課程で46名(22%)みられた。男女別でみると女子で13%、男子で22%と、誰にも相談しない傾向が男子でより多く見られた。自分で問題を解決しようとする傾向か、あるいは相談するという行動自体に違和感をもっている、信頼して相談できる人間関係を欠いている、などの理由が考えられるが、一人で抱えこんで、ストレス耐性が低くなるのが危惧される。学生相談室や保健管理センターの利用は第3回調査同様、1%程度にとどまっており、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。



4-6 現在の精神状態 (図 4-6-1, 図 4-6-2)

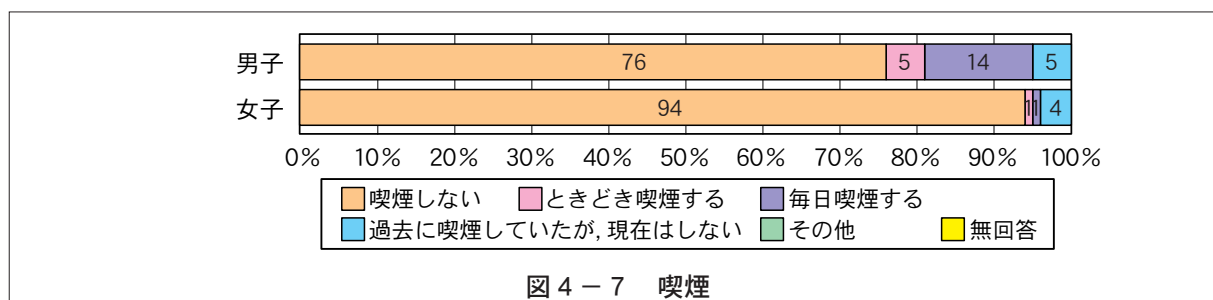
前期・後期課程ともに6割以上の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられる。4割の学生が何らかの精神的症状を持っており教育部によりそれぞれ違いがあるものの、全体の症状別では「何となく不安」が多く、「やる気がでない」も約1割みられ、「落ち込みやすい」「いらいらする」も数%ずつ見られた。落ち込みや意欲を持ってない状態が続くと、研究を中心とした院生生活の大きなストレスとなると思われるため、本人は早めに誰かに相談すること、周囲はいつもと違う様子に気付いて本人の話を聴くこと、などが大切である。

留学生では何らかの症状を持っているのは3割弱で、精神的健康は比較的保たれていると思われる。



4-7 喫煙 (図 4-7)

「喫煙しない」「過去に喫煙していたが、現在はしていない」を合わせた非喫煙者が男子81%、女子98%で喫煙率は男子19%、女子2%となった。第3回調査と比較して、喫煙率が男子で2%、女子で3%低下している。日本の20歳代の喫煙率が男子34%、女子12%（平成22年）であることと比較すると、喫煙率は低く、良い傾向であるといえる。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため、



学生時代に喫煙を習慣づけないことが望ましい。

4-8 飲酒 (図4-8)

「飲酒はしない」および「たまに飲酒する」と答えた学生は男子で19%、57%、女子30%、55%であり、男子の76%、女子の85%において飲酒習慣はないとの結果で、第3回調査と変化はなかった。飲酒習慣のある学生のうち、週3～4日以上飲んでいる学生が4～11%であるが、1回の飲酒量が問題となる。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒だと1合）と言われている。アルコールの過量摂取が長期間継続すると、アルコール関連健康障害などの酒害につながるため、適量飲酒に留意することが必要である。

留学生では飲酒しない学生が多く、飲酒習慣がある学生は2%とわずかであった。

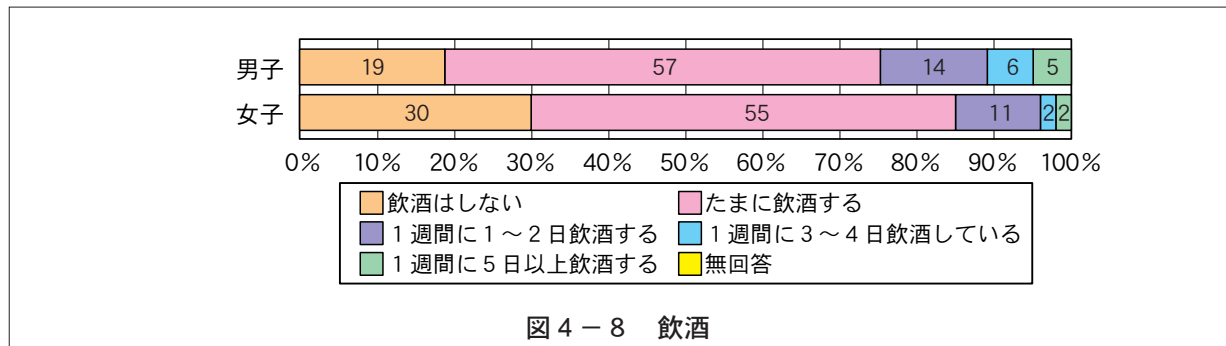


図4-8 飲酒

4-9 保健管理センターの認識 (図4-9-1, 図4-9-2, 図4-9-3)

保健管理センターに「健康診断のために行ったことがある」学生は、前期課程で69%、後期課程で43%と、後期課程で低いが、第3回調査より増加しているのは望ましい傾向である。「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生は前期3%、後期18%であり、後期課程の学生の認識率が低くなっている。常三島地区の前期課程の学生における認識率は100%に近いが、その他の学生への周知が課題である。また、健康診断での利用率をさらに上げていく必要がある。

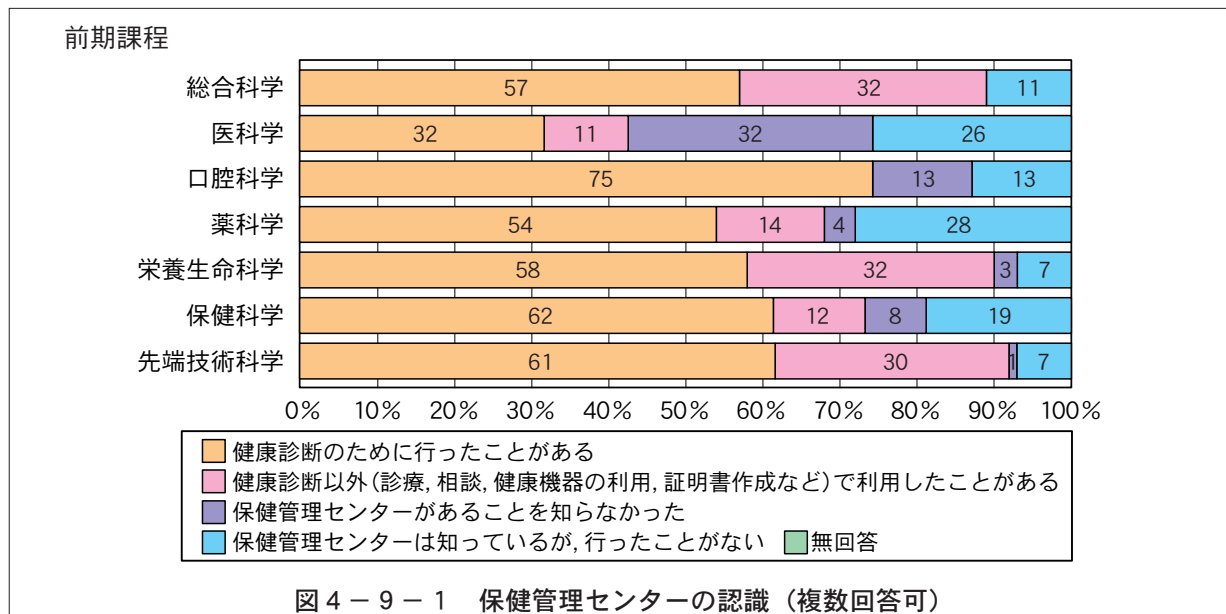


図4-9-1 保健管理センターの認識 (複数回答可)

後期課程

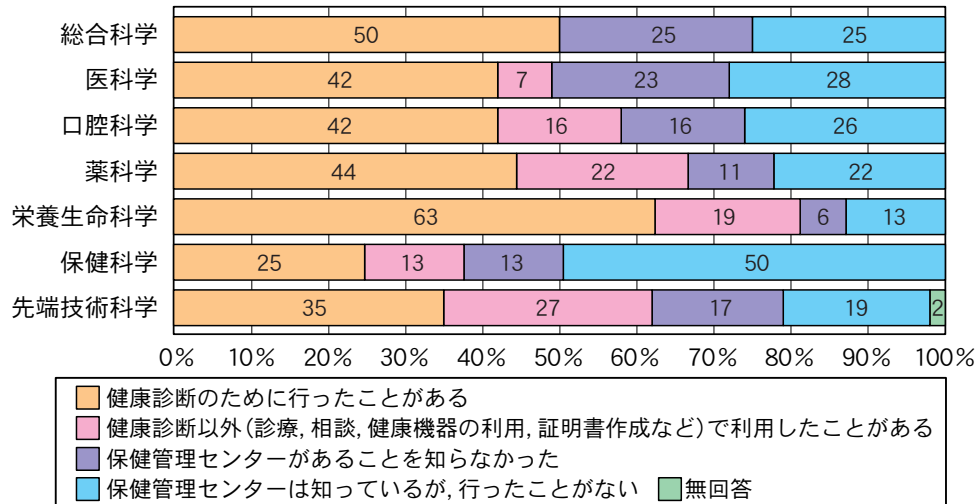


図 4-9-2 保健管理センターの認識 (複数回答可)

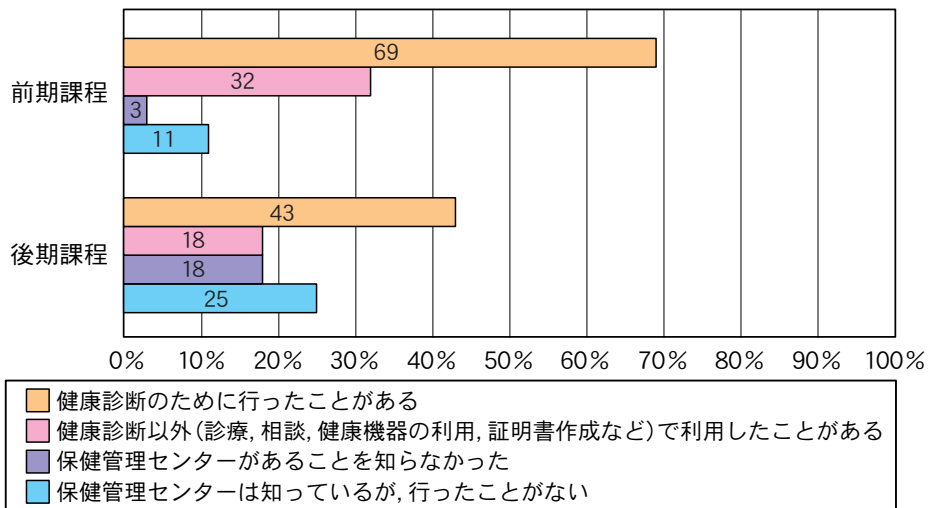
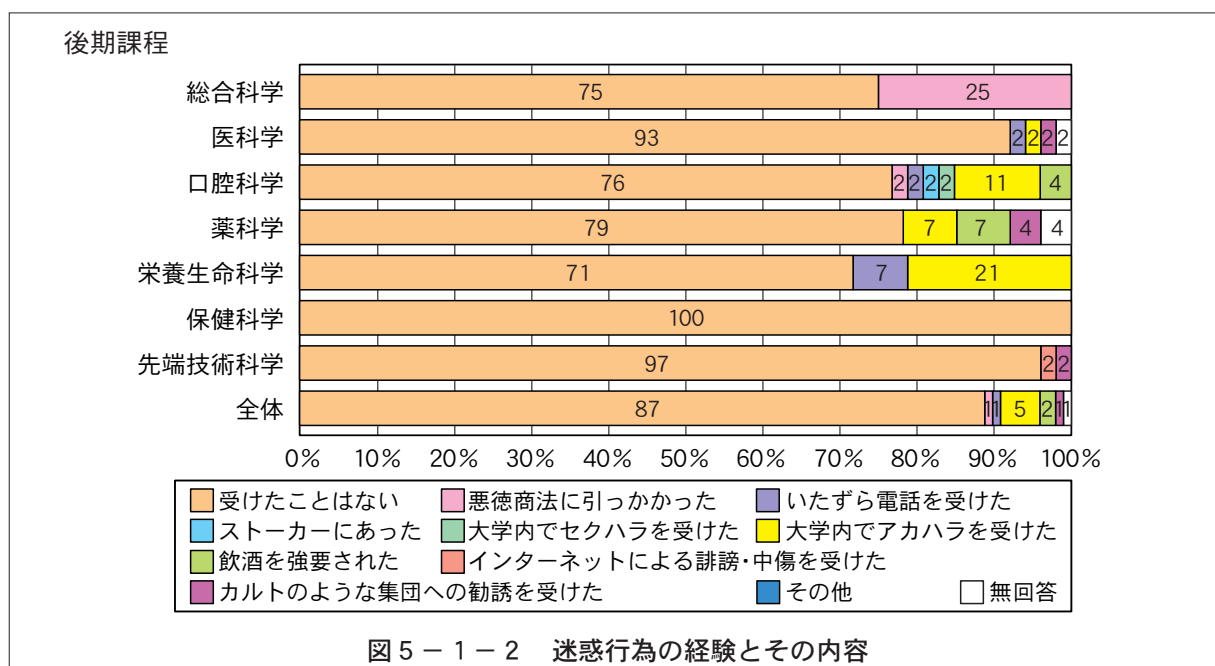
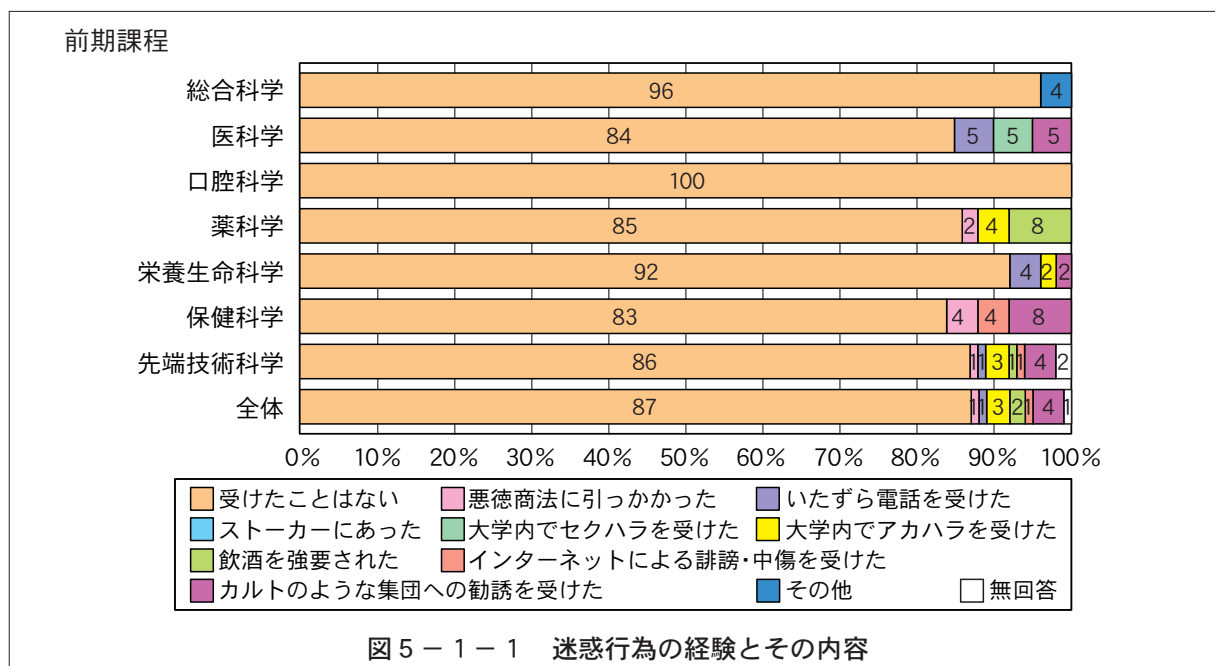


図 4-9-3 保健管理センターの認識 (複数回答可)

第5章 学生生活上の問題点について

5-1 迷惑行為 (図5-1-1~図5-1-6)

図5-1-1は、迷惑行為を受けたことの有無を、図5-1-2は「有」の場合にどのような内容であったかを、課程別にそれぞれ示したものである。迷惑行為を受けたことがない一般学生の比率は前期課程と後期課程で共に87%であった。留学生では、前期課程で92%、後期課程97%が迷惑行為を受けていないと回答した。



[悪徳商法]

引っ掛かった学生は、前期課程で7名（男子5名、女子2名）と後期課程で男子2名であった。

[いたずら電話]

いたずら電話を受けた学生は、前期課程で8名（男子5名、女子3名）、後期課程で3名（男子2名、女子1名）であった。

[ストーカー]

ストーカーにあった学生は後期課程の男子1名のみであり、第3回調査の6名から大幅に減少した。

[セクハラ]

セクハラを受けた学生は、前期課程の2名（男子1名、女子1名）と後期課程の女子1名であり、第3回調査の5名から減少していた。

[アカハラ]

大学内でアカハラを受けた学生は、前期課程で18名（男子17名、女子1名）、後期課程で11名（男子6名、女子5名）であった。うち、15名は先端技術科学であった。後期課程では全体の5%を占め、栄養生命科学と口腔科学で高い割合となった。

[飲酒の強要]

飲酒を強要された学生は、前期課程で10名、後期課程で4名であった。両課程共に女子は1名であった。

[インターネットによる被害]

インターネットによる被害を受けた学生は前期課程の5名（男子4名、女子1名）と後期課程の男子1名であった。

[カルトのような集団への勧誘]

前期課程で23名（男子19名、女子4名）であり、第3回調査の33名より減少した。後期課程で男子3名であった。

第3回調査に比べてストーカーやセクハラ被害を受けた学生数は減少しているが、アカハラに遭った学生数は依然として多い。特定の専攻科で高い割合を示しており、適切な予防や対応策が望まれる。カルトのような集団への勧誘を受けた学生数は低下しており、その予防の啓発運動効果が幾分か表れているのであろう。

図5-1-3と図5-1-4は、迷惑行為のうち、セクハラを受けた場合にどのような人に相談するのかを課程別に示したものである。前期課程では、第3回調査で100%が学務係に相談していると回答したが、今年度は家族と友人を合わせて60%、教員と相談室への相談が各20%になっていた。後期課程の1名は誰にも相談しないと回答した。事例の内容や深刻度に応じて、相談室や部局教員や友人を含む多様な対応や支援体制を整えておくことが肝要と思われる。

図5-1-5と図5-1-6は、迷惑行為のうち、アカハラを受けた場合にどのような人に相談するのかを課程別に示したものである。前期課程全体では、友人と家族への相談が25と13%、教員と学生相談室への相談が各8%を占めた。第3回調査と比べると友人への相談割合が減り、学生相談室への相談割合が増えている。後期課程でも教員と相談室への相談割合は各8%であったが、友人と家族が各31%と前期課程の値より高くなっていた。セクハラを受けた学生の場合と同様、多様な事例に対応できる支援体制を引き続き充実させておく必要がある。

前期課程

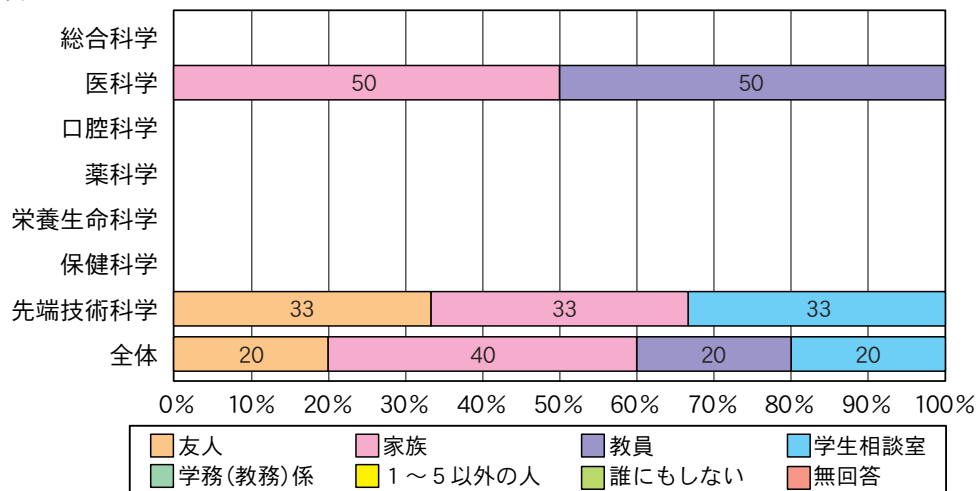


図 5-1-3 セクハラを受けた時の相談者

後期課程

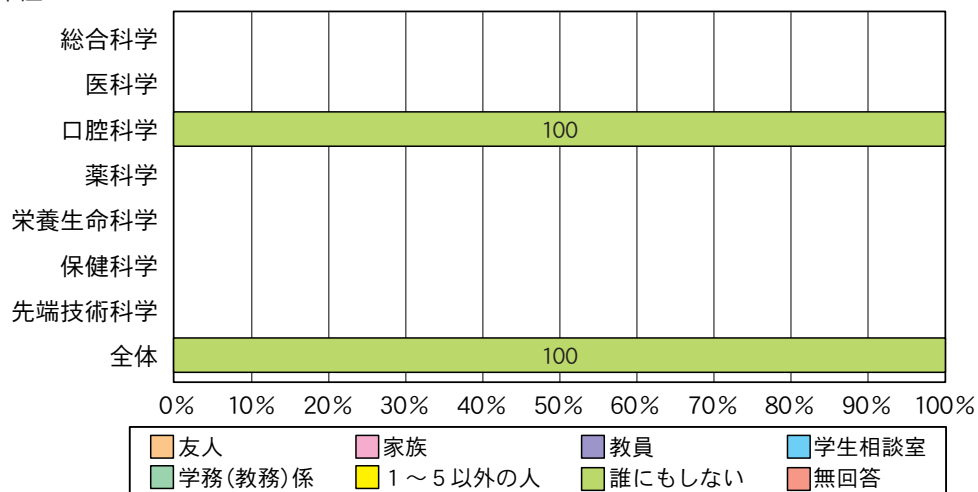


図 5-1-4 セクハラを受けた時の相談者

前期課程

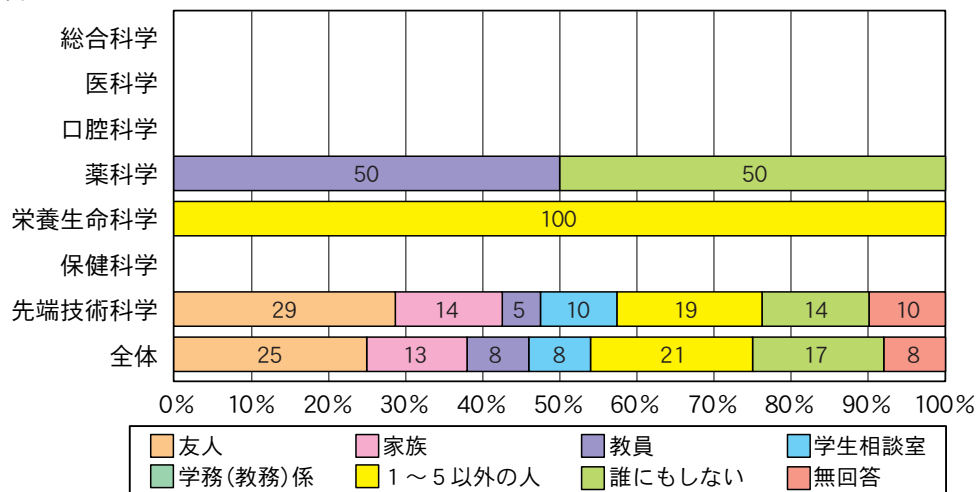
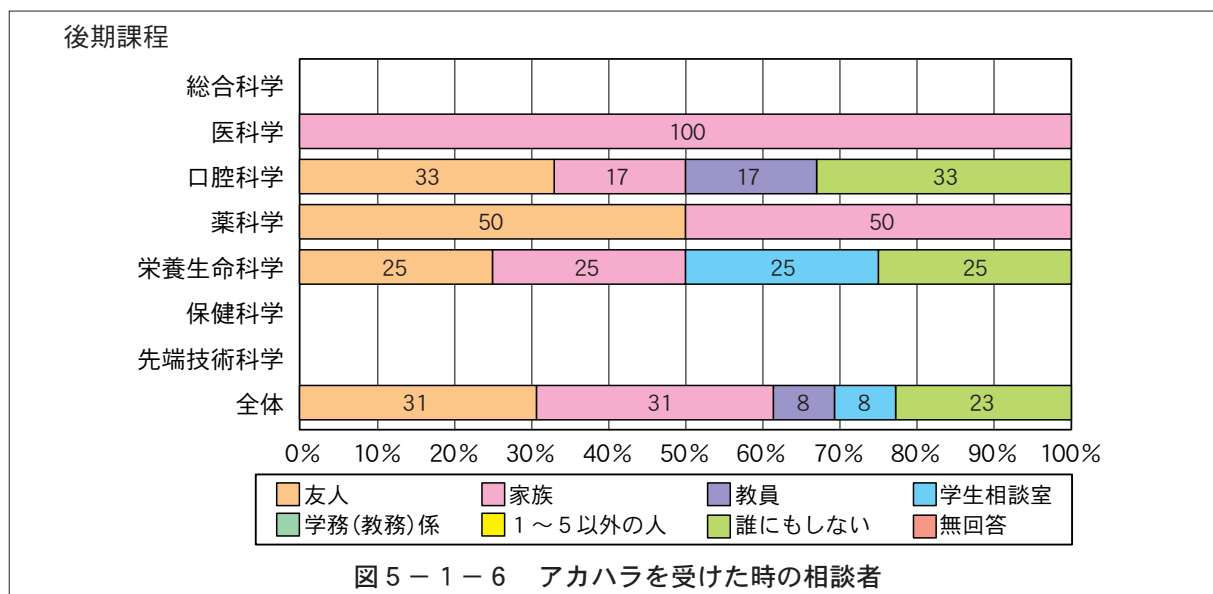


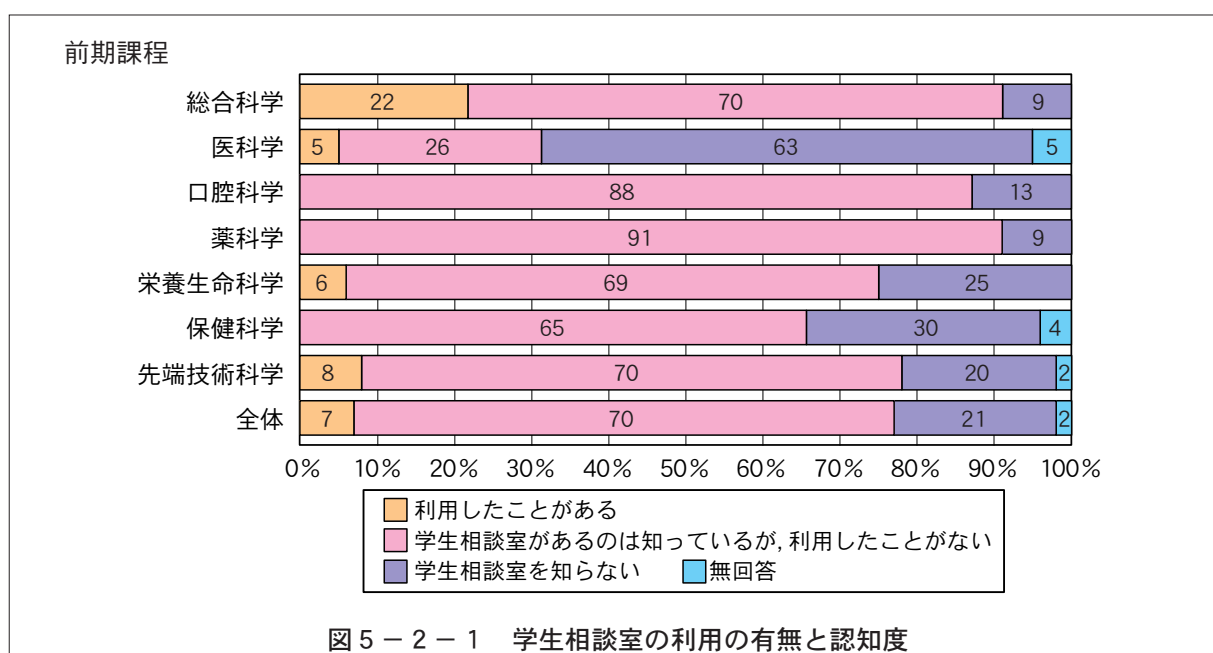
図 5-1-5 アカハラを受けた時の相談者



5-2 学生相談室の利用 (図 5-2-1～図 5-2-4)

図 5-2-1 と図 5-2-2 は、課程別に学生相談室の利用の有無と認知度を示したものである。利用したことがある学生の割合は、前期課程で 7%，後期課程で 9%であった。総合科学では前期課程と後期課程共に 20%を超える値であったが、前期課程では口腔科学、薬科学、保健科学では 0%であった。蔵本キャンパスの大学院生の利用度が低いのは、学生相談室分室が週 1 日の開設であることと関連があるものと思われる。蔵本キャンパスでの学生相談室の業務改善やそれと関連する環境整備を急ぐ必要がある。後期課程では、栄養生命科学で一般学生と留学生共に高い割合であり、その要因について解析を行うことが望ましい。

また、利用はないが学生相談室を知っていると答えた学生と合わせると、認知度は前期課程で 77%，後期課程で 63%であった。認知度は第 2 回および 3 回調査の値とほぼ同じであった。留学生の利用者は前期と後期課程で 18 と 12%であり、認知度では前期課程が 75%と高いが、後期課程では 33%と低い値となった。



後期課程

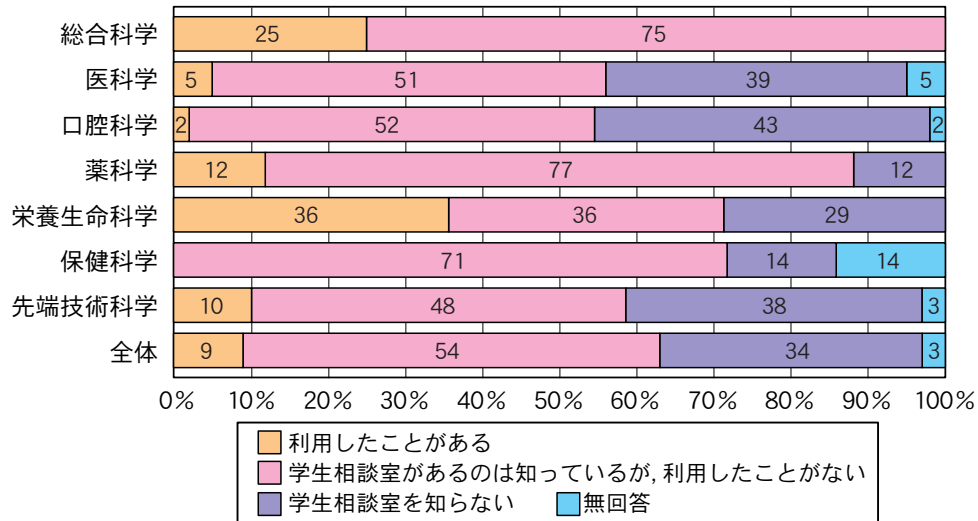


図 5 - 2 - 2 学生相談室の利用の有無と認知度

前期課程

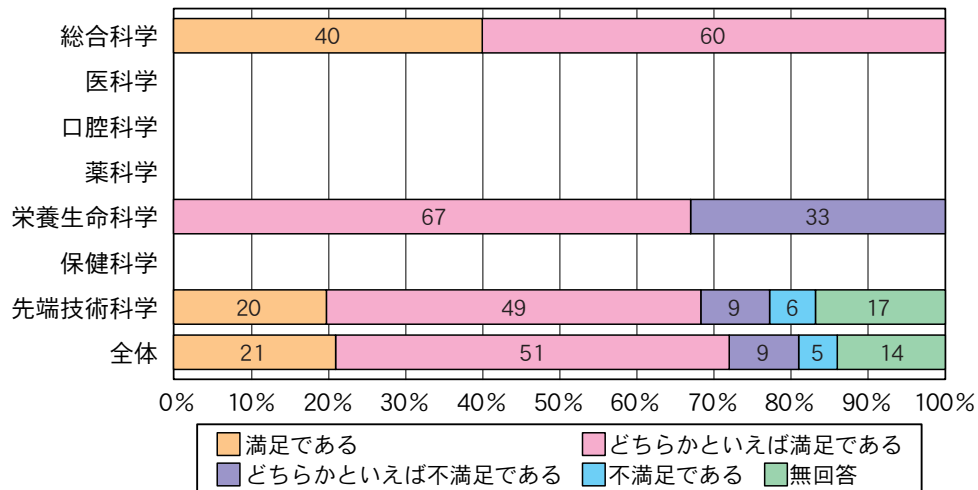


図 5 - 2 - 3 学生相談室の利用後の満足度

後期課程

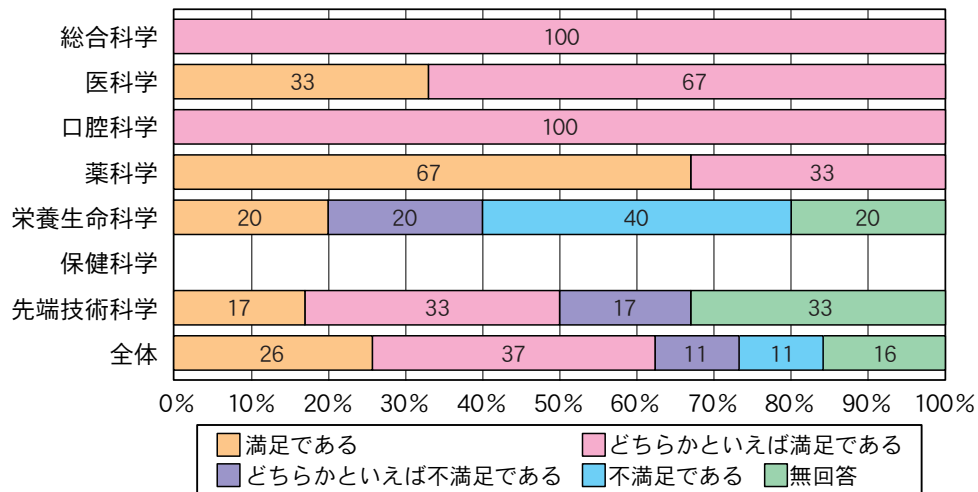


図 5 - 2 - 4 学生相談室の利用後の満足度

図5-2-3と図5-2-4は、学生相談室の利用後の満足度を課程別に示したものである。「満足である」と「どちらかといえば満足である」の回答を合わせると前期課程では72%，後期課程では63%であった。相談者は学生相談室の対応にほぼ満足していると思われるが、第3回調査に比して後期学生の満足度が低下していた。特に、栄養生命科学では満足度が20%と低いのが目立っている。留学生については前期課程では60%，後期課程では72%の満足度であった。

5-3 犯罪被害・交通事故・違法薬物使用 (図5-3-1～図5-3-6)

図5-3-1と図5-3-2は、犯罪被害の有無と、「有」の場合、どのような経験であったかを課程別に示したものである。被害にあった割合は、前期課程で20%，後期課程で10%であった。被害の中では、盗難が最も多く前期課程が17%，後期課程が8%であった。留学生の場合は低く、前期課程が4%，後期課程が5%であった。その他、強盗（男子2名）、傷害（男子7名、女子1名）、痴漢（男子2名、女子5名）の被害があった。第3回調査と比べて、傷害と痴漢の件数が増加していた。

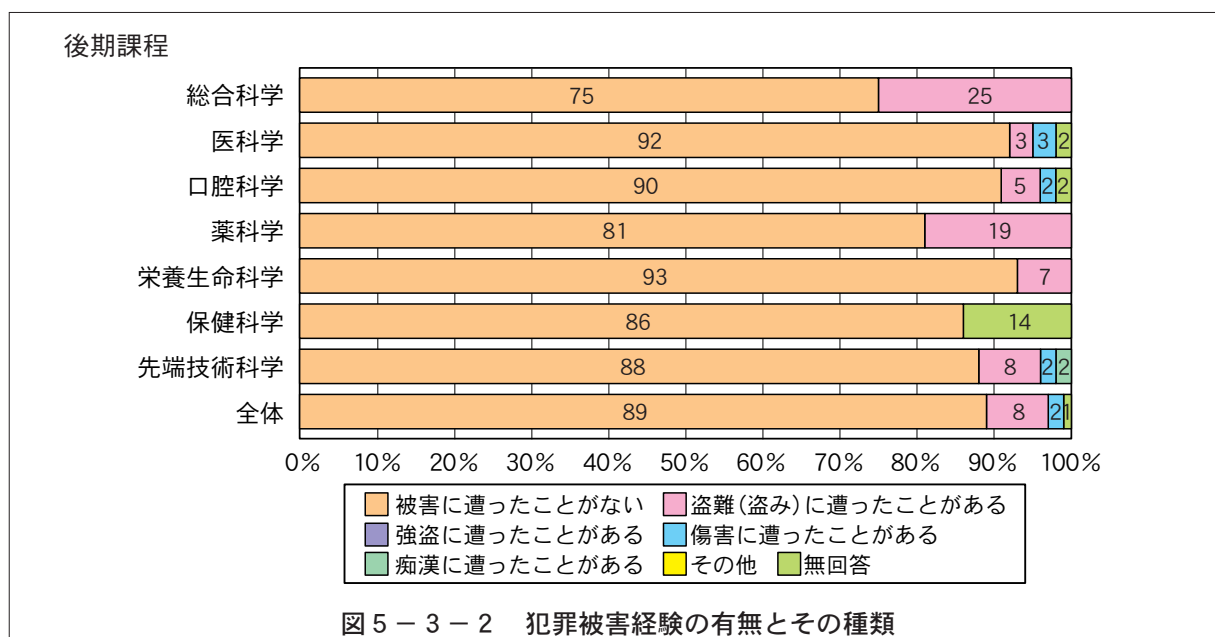
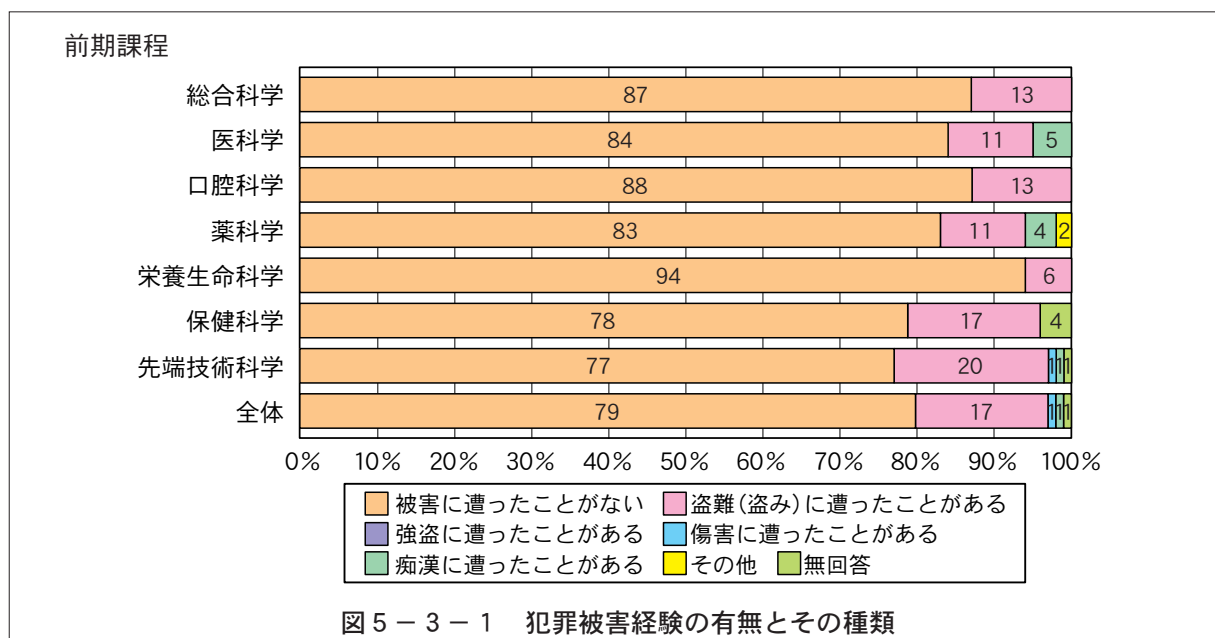


図5-3-3と図5-3-4は、交通事故の有無と加害・被害の別を課程別に示したものである。前期課程では、全体の35%が、後期課程でも全体の36%が交通事故を経験していた。留学生の場合も、前期課程で29%、後期課程で19%であった。第3回調査と比べると、後期課程の留学生では同じ割合であるが、それ以外はいずれも増加していた。内訳では、被害者になった場合が最も多く、次が、被害者と加害者の両方となった場合であった。自転車で通学する学生と車との事故では被害者となるが、自転車同士や自転車と歩行者での事故では被害者のみならず加害者にもなる。交通道德の啓蒙や交通規則の周知徹底と共に大学内や周辺部の交通環境の充実が望まれる。

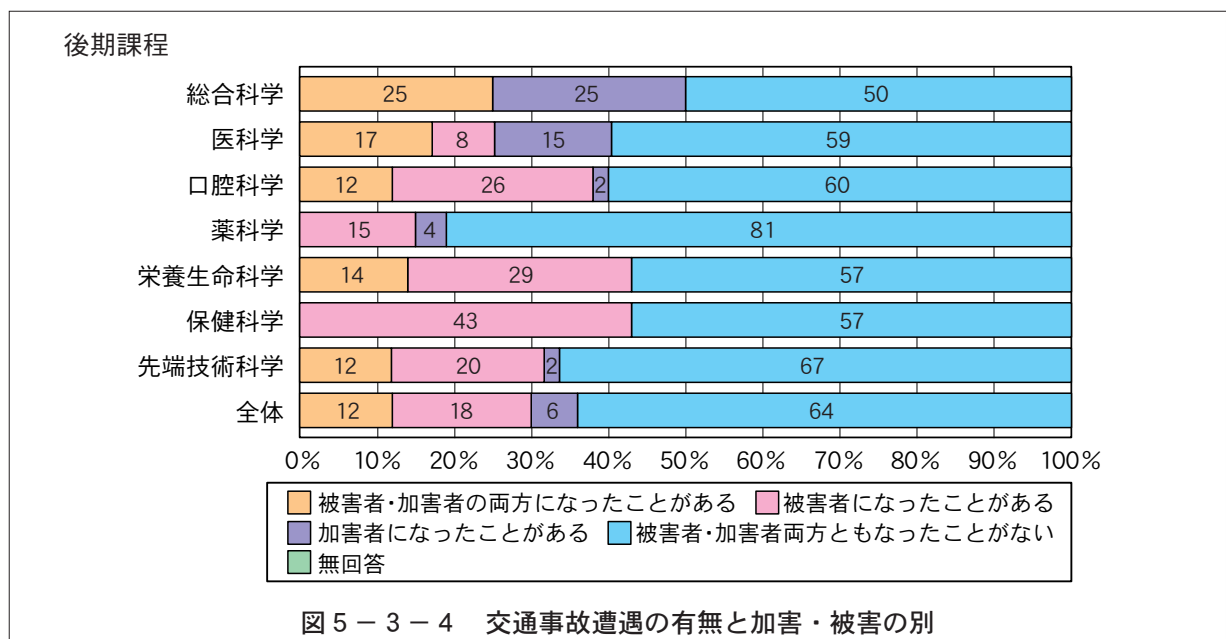
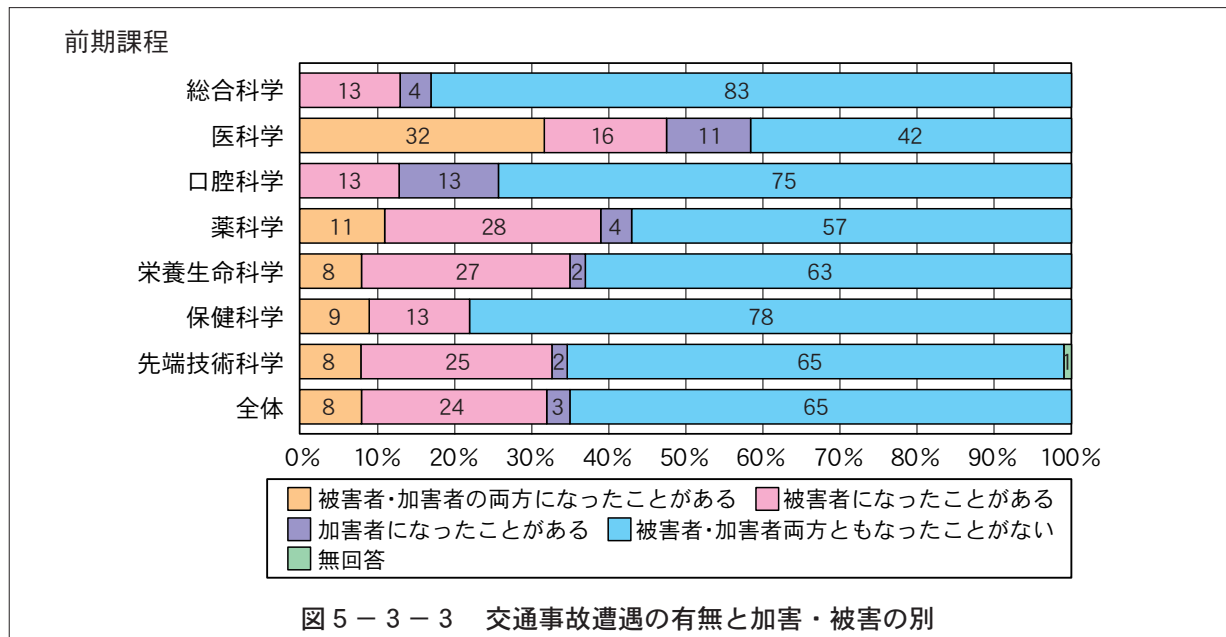
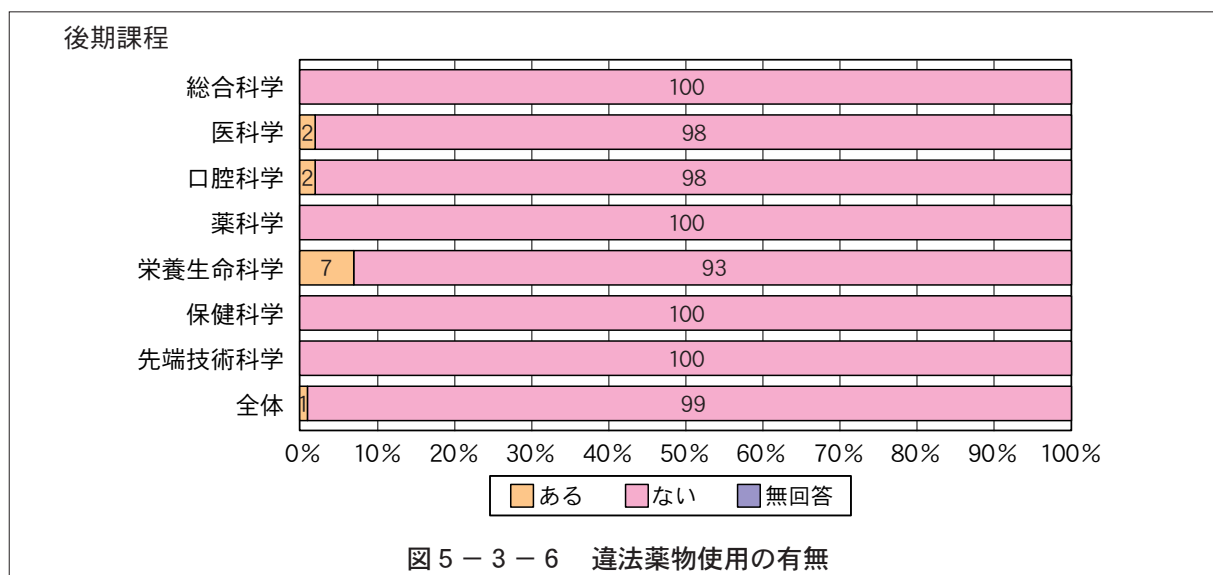
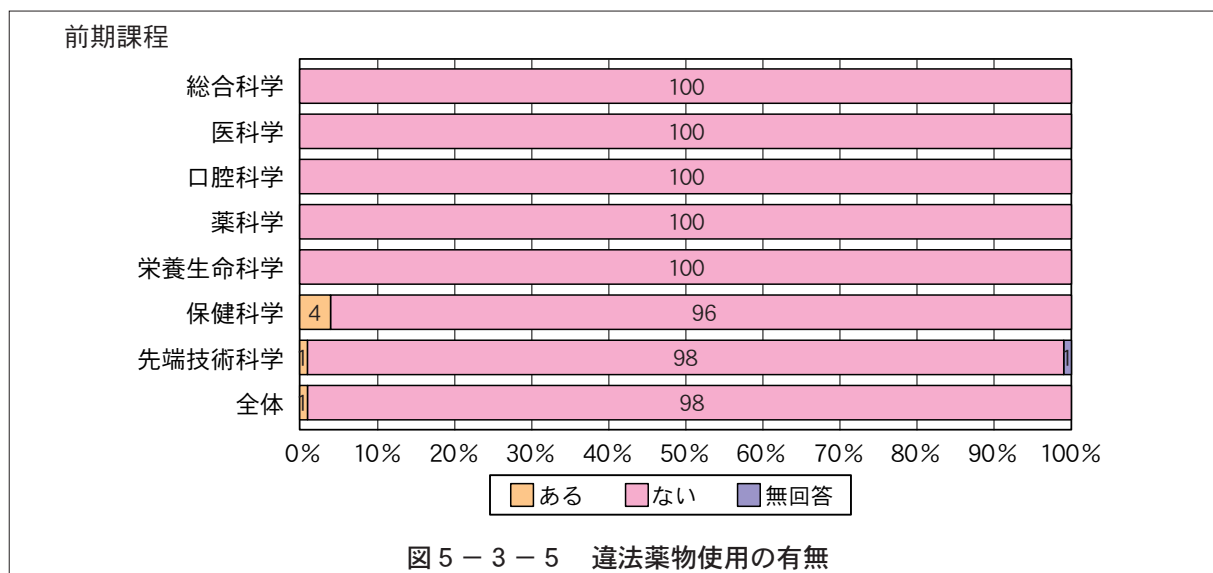


図5-3-5と図5-3-6は、違法薬物使用の有無について課程別に示したものである。前期課程と後期課程の学生の99%は大麻・覚せい剤を使用した経験がないとの回答であった。留学生では、前期課程で、93%、後期課程では、97%の学生が経験なしと答えている。後期課程では、栄養生命科学と医学専攻の留学生各1名と口腔科学の一般学生1名が、前期課程では、先端技術科学の一般学生4名と留学生2名が経験ありとそれぞれ回答している。医療に関する専門知識を積んでいる後期課程の学生の中にも違法薬物の経験者がいるとの結果は驚きである。学生による違法薬物使用の撤廃に向け、啓蒙活動



を強化する必要がある。先端技術科学で経験者が多かった要因についても早急な解析が必要である。

5 - 4 大学事務室の対応 (図 5 - 4 - 1, 図 5 - 4 - 2)

図 5 - 4 - 1 と図 5 - 4 - 2 は、大学事務室による対応の満足度を課程別に示したものである。前期課程の 83% と後期課程の 89% が「満足している」と「おおむね満足している」と回答している。留学生も前期課程で 92%、後期課程で 96% と高い満足度であった。一般学生も留学生も後期課程の値が第 3 回調査の値より高くなっていった。また、教育部別にみると、前期課程の不満足度は、医科学 34%、薬科学 23%、先端技術科学 18%、総合科学 13% に対し、口腔科学 0%、栄養生命科学 8%、保健科学 9% と低い値であった。栄養生命科学と保健科学は、第 3 回調査の値に比べると不満足度は大幅に低下しており、対応改善が奏功していると思われる。その他の教育部においても引き続き、学生の満足度を上げるような対応を実施できるよう努力していくことが望ましい。

前期課程

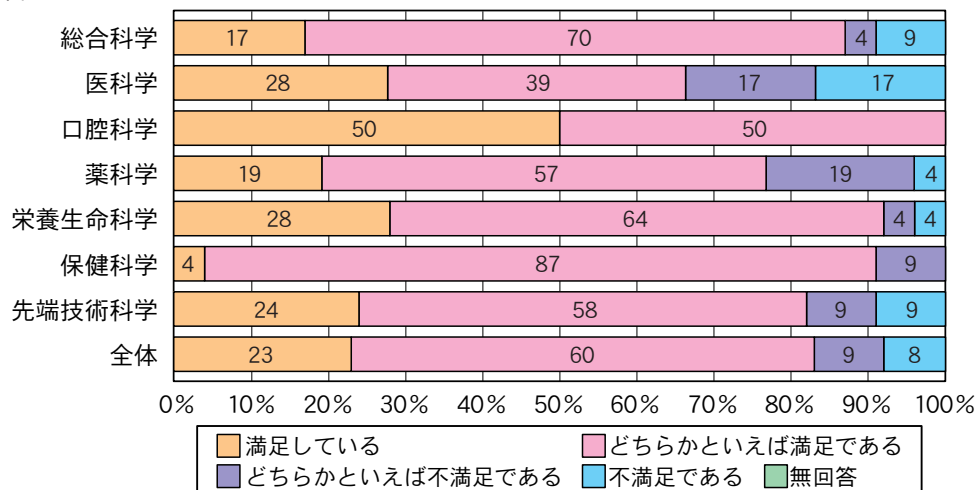


図 5 - 4 - 1 大学事務室の対応への満足度

後期課程

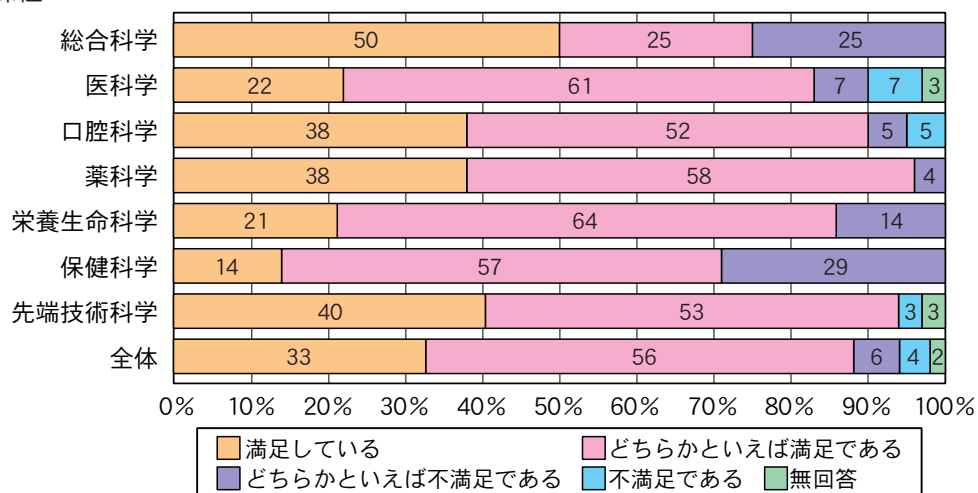
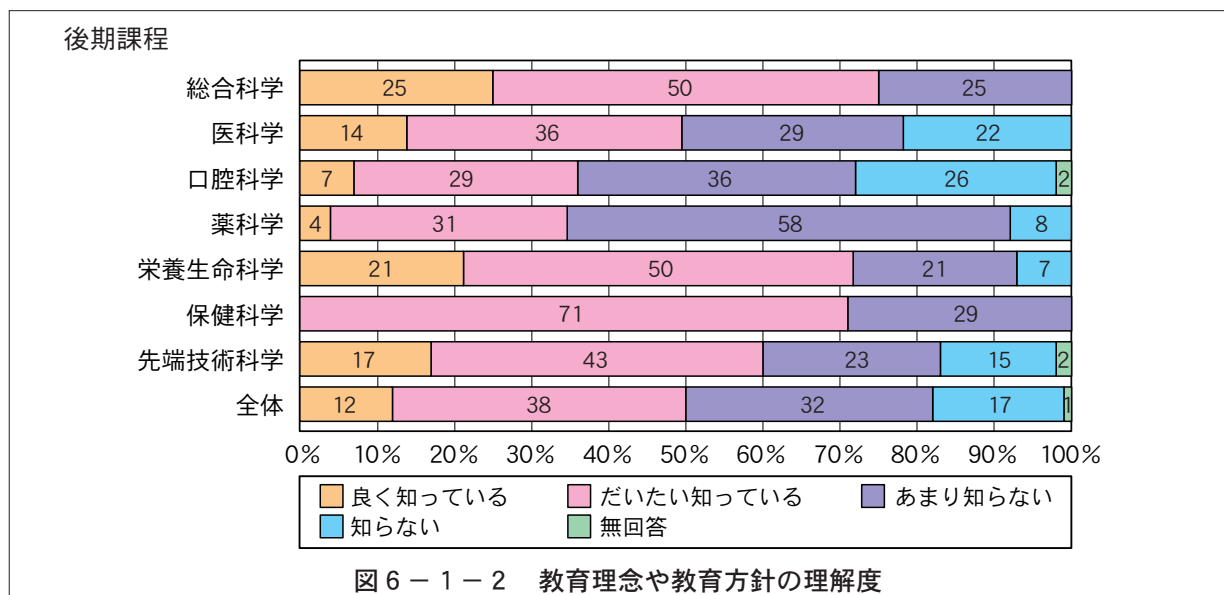
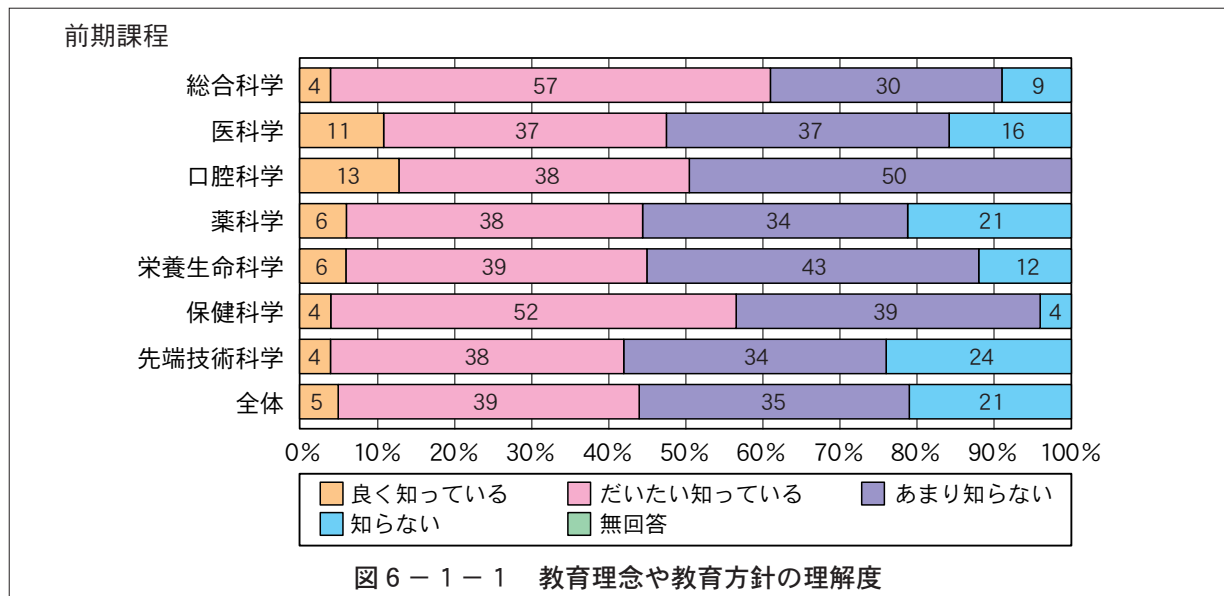


図 5 - 4 - 2 大学事務室の対応への満足度

第6章 修学状況について

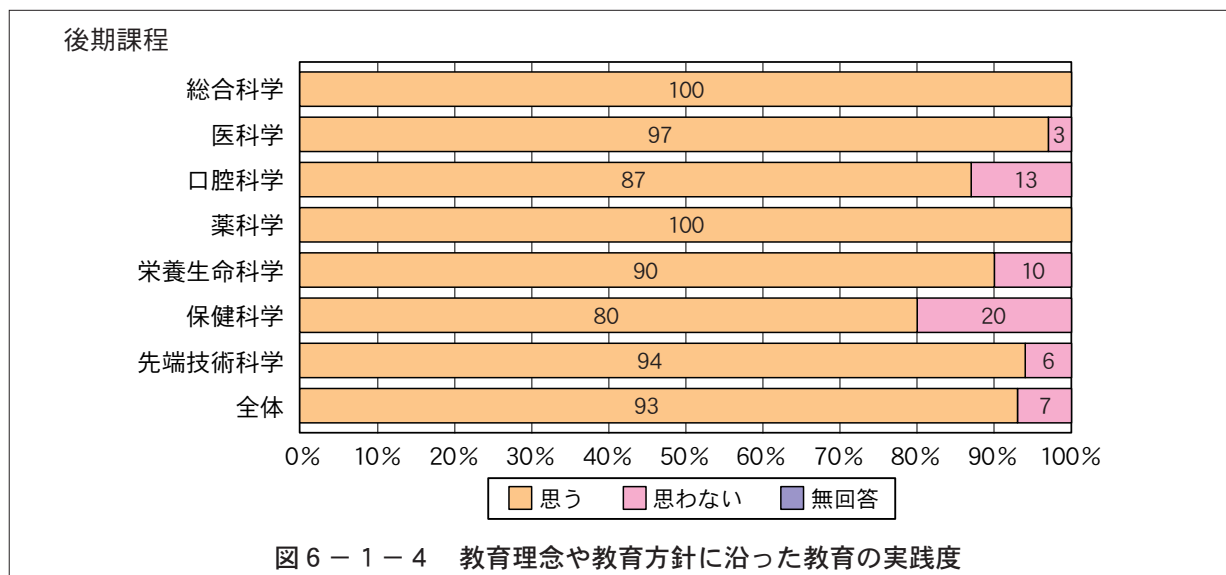
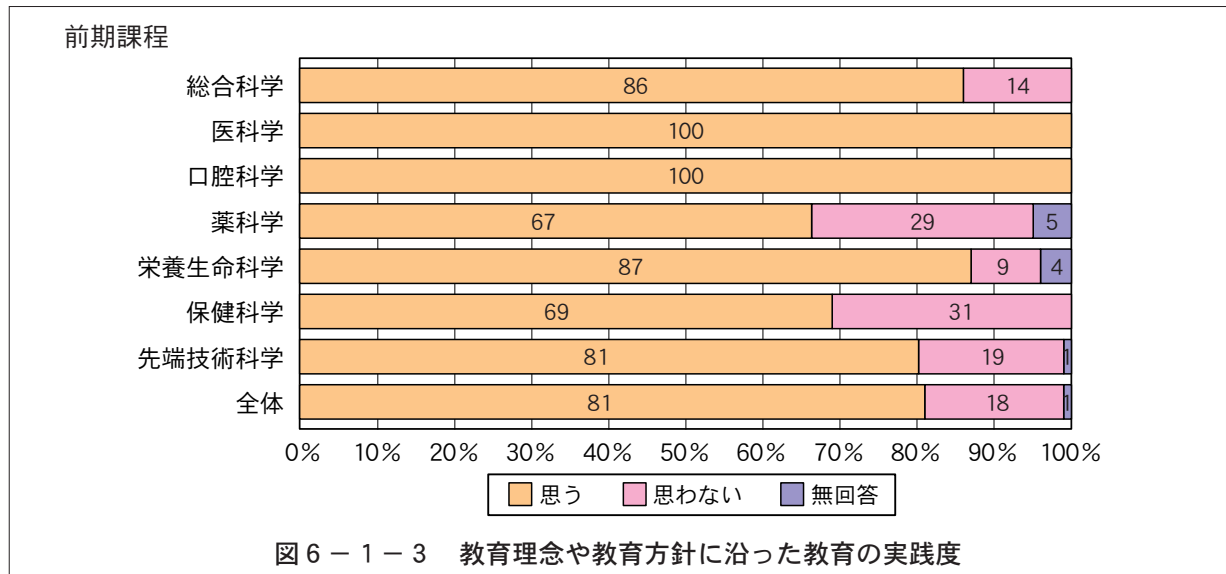
6-1 教育理念・方針と教育に対する満足度 (図6-1-1～図6-1-10)

前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は4割強（良く知っている：5%，だいたい知っている：39%）であり、他の回答（あまり知らない：35%，知らない：21%）も含め第3回調査とほぼ同様の結果であった（図6-1-1）。教育部別に見ると、総合科学（良く知っている：4%，だいたい知っている：57%）と保健科学（良く知っている：4%，だいたい知っている：52%）での認知度が比較的高い。一方、医科学での認知度は第3回調査（良く知っている：0%，だいたい知っている：60%）に比べて若干低くなっている。また、後期課程では、全体として5割程度の学生（良く知っている：12%，だいたい知っている：38%）に知られており、32%があまり知らない、17%が知らないと回答している（図6-1-2）。留学生については、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、前期課程で61%，後期課程62%であった。



教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると

思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では81%、後期課程では93%が「思う」と答えている。逆に、「思わない」と答えたのは前期課程では18%、後期課程では7%であった〔図6-1-3（前期課程）と図6-1-4（後期課程）〕。留学生については、「思う」と回答した割合が、前期課程で82%、後期課程97%であった。



教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は27%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（59%）と合わせて86%であった（図6-1-5）。一方、「どちらかといえば不満足である」は8%、「不満足である」は4%となっている。教育部別に見ると、総合科学での満足度（満足している：22%、どちらかといえば満足している：70%）が第3回調査の結果（満足している：16%、どちらかといえば満足している：52%）と比較して大きく向上した。医科学での満足度（満足している：26%、どちらかといえば満足している：47%）は第3回調査（満足している：30%、どちらかといえば満足している：60%）に比べて若干低くなっている。後期課程では全体で87%がほぼ満足しており（満足している：27%、どちらかといえば満足している：60%）、「どちらかといえば不満足である」が8%、「不満足である」が3%であった（図6-1-6）。教育部別に見ると、「満足している」と回答した割合は保健科学が高く、43%であった。また、総合科学では「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が100%となっている。留学生については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で90%、後期課程98%であった。

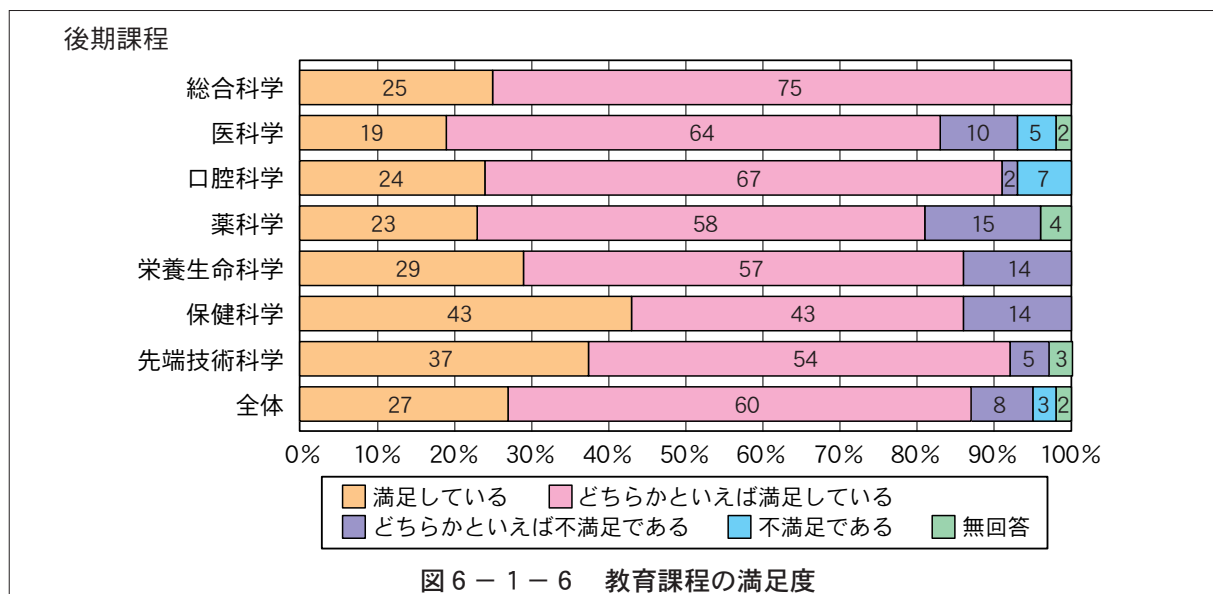
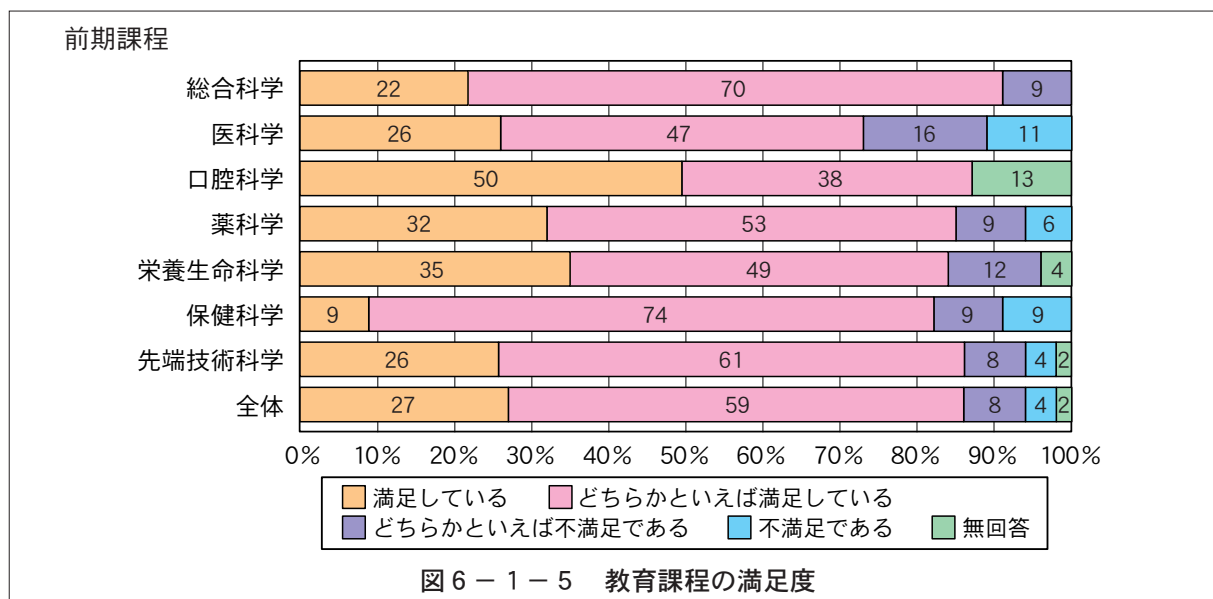


図6-1-7, 図6-1-8より, 大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合は前期課程(充分に行われている:33%, ある程度行われている:59%), 後期課程(充分に行われている:47%, ある程度行われている:50%)ともに90%以上と高くなっている。「あまり行われていない」は, 前期課程6%, 後期課程3%であり, 「全く行われていない」は, 前期課程1%, 後期課程0%であった。教育部別に見ると, 前期課程では総合科学と口腔科学の評価が高く, 「充分に行われている」が57%(総合科学)と63%(口腔科学), 「ある程度行われている」が43%(総合科学)と38%(口腔科学)となっている。後期課程では, 総合科学の評価が他教育部と異なり, 「ある程度行われている」という回答が100%であった。留学生については, 「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が, 前期課程で100%, 後期課程98%であった。

また, 図6-1-9, 図6-1-10より, 授業の内容や進め方に対して「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は, 前期課程で89%(満足している:26%, どちらかといえば満足している:63%), 後期課程で94%(満足している:28%, どちらかといえば満足している:66%)であった。「どちらかといえば不満足である」は, 前期課程8%, 後期課程5%, 「不満足である」は, 前期課程3%, 後期課程1%であり, 教育部別に見ると, 前期課程の医科学と薬科学,

前期課程

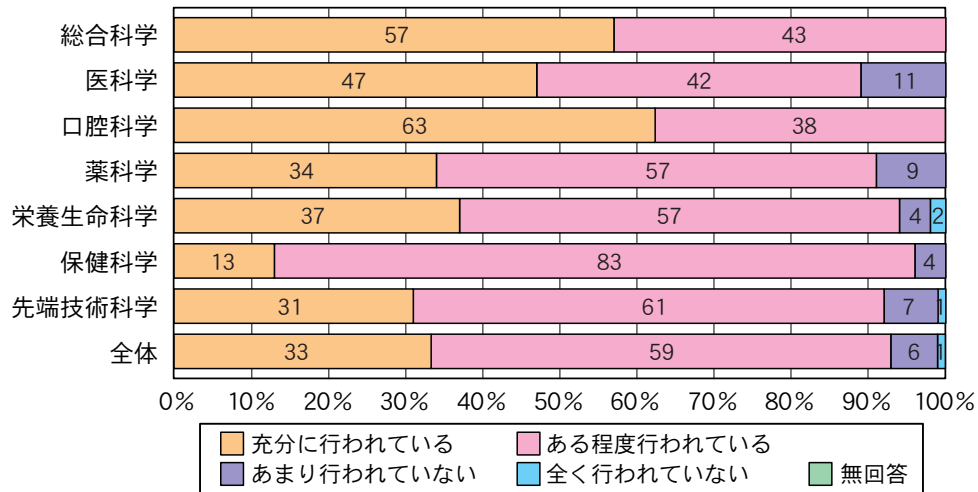


図 6 - 1 - 7 大学院に相応しい教育の実践度

後期課程

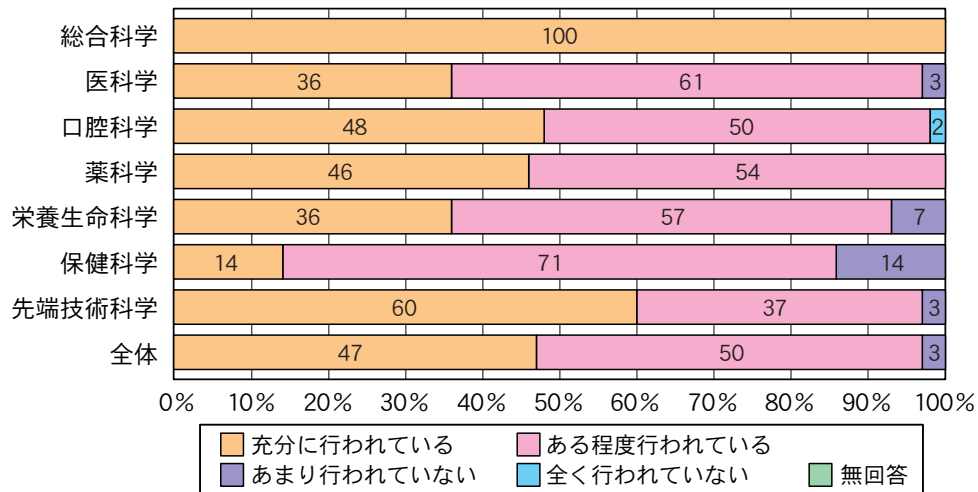


図 6 - 1 - 8 大学院に相応しい教育の実践度

前期課程

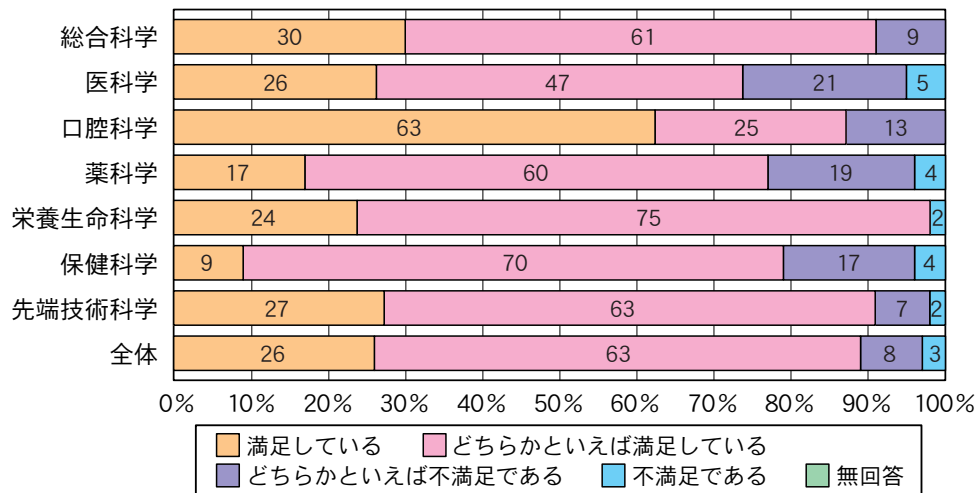
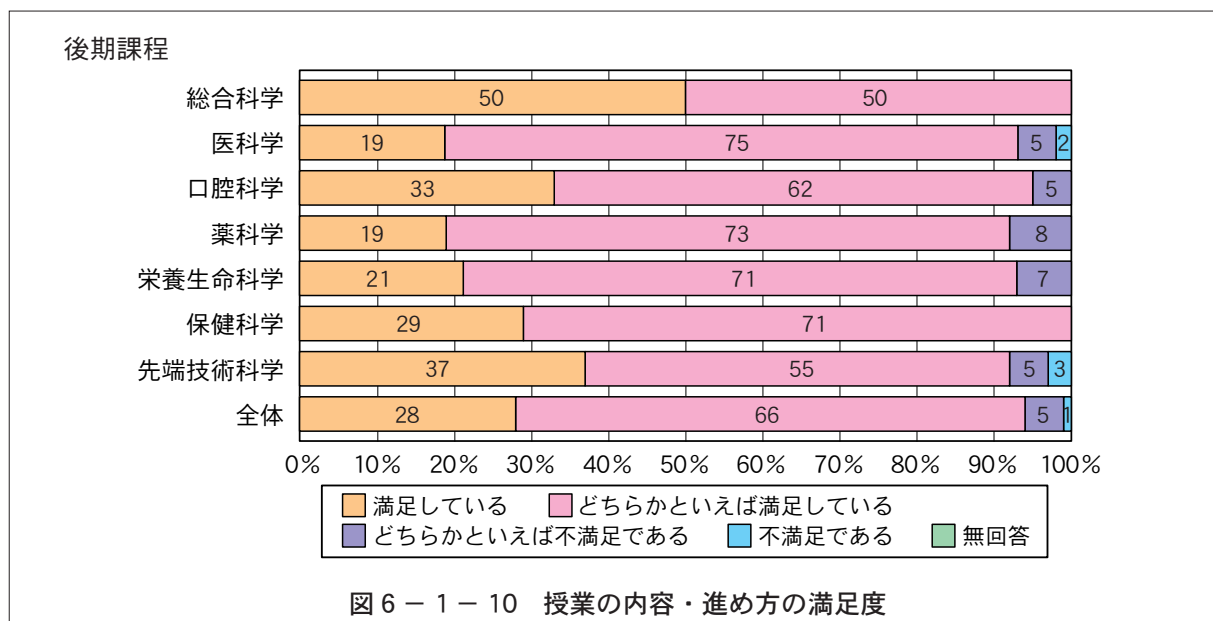


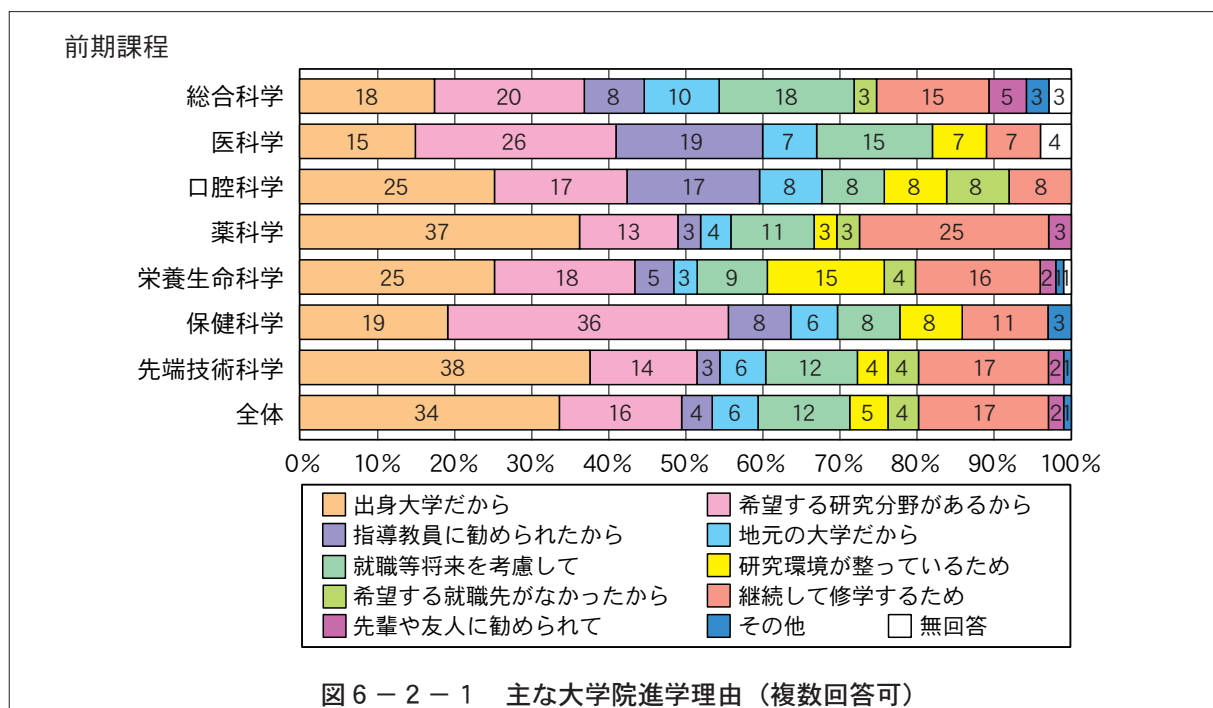
図 6 - 1 - 9 授業の内容・進め方の満足度

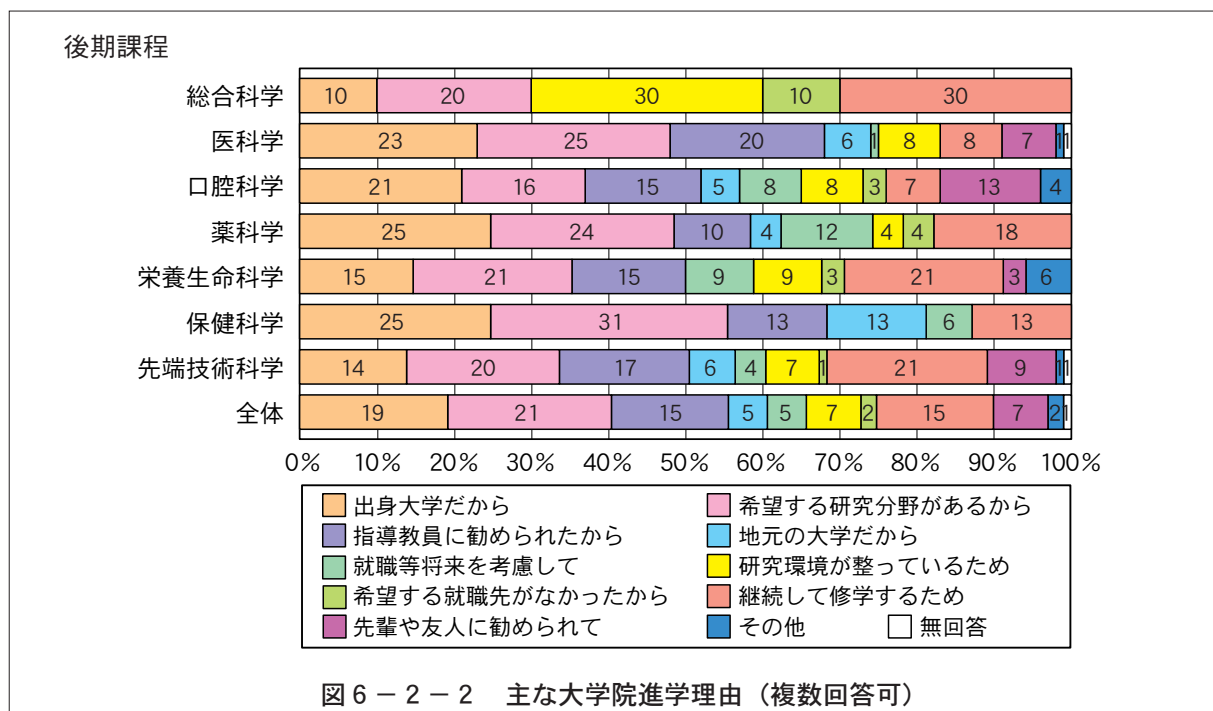


保健科学での満足度が他教育部と比較して若干低くなっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程93%であった。

6-2 本学を選んだ理由と目的 (図6-2-1~図6-2-8)

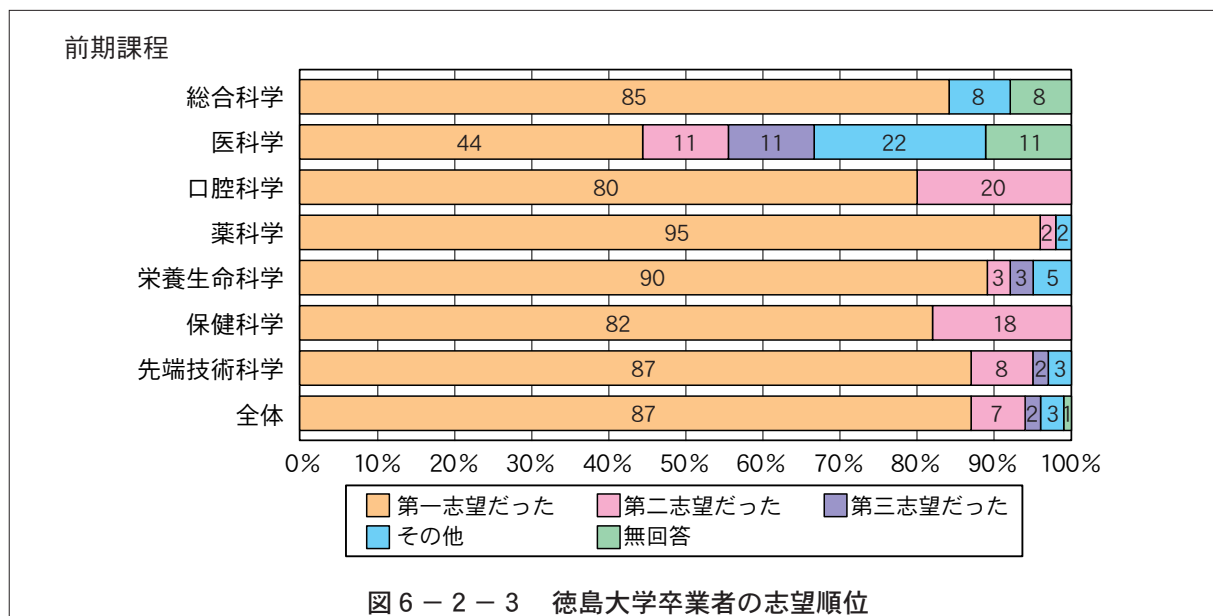
前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が34%、「継続して修学するため」が17%、「希望する研究分野があるから」が16%、「就職等将来を考慮して」が12%となっており、第3回調査とほぼ同様の結果であった(図6-2-1)。教育部別に見ると、薬科学と先端技術科学では、「出身大学だから」という理由が40%程度で最も多い。また、総合科学や医科学、保健科学では、「希望する研究分野があるから」という理由が最も多く、特に保健科学では36%を占めている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く(21%)、次いで、「出身大学だから」が19%となっている

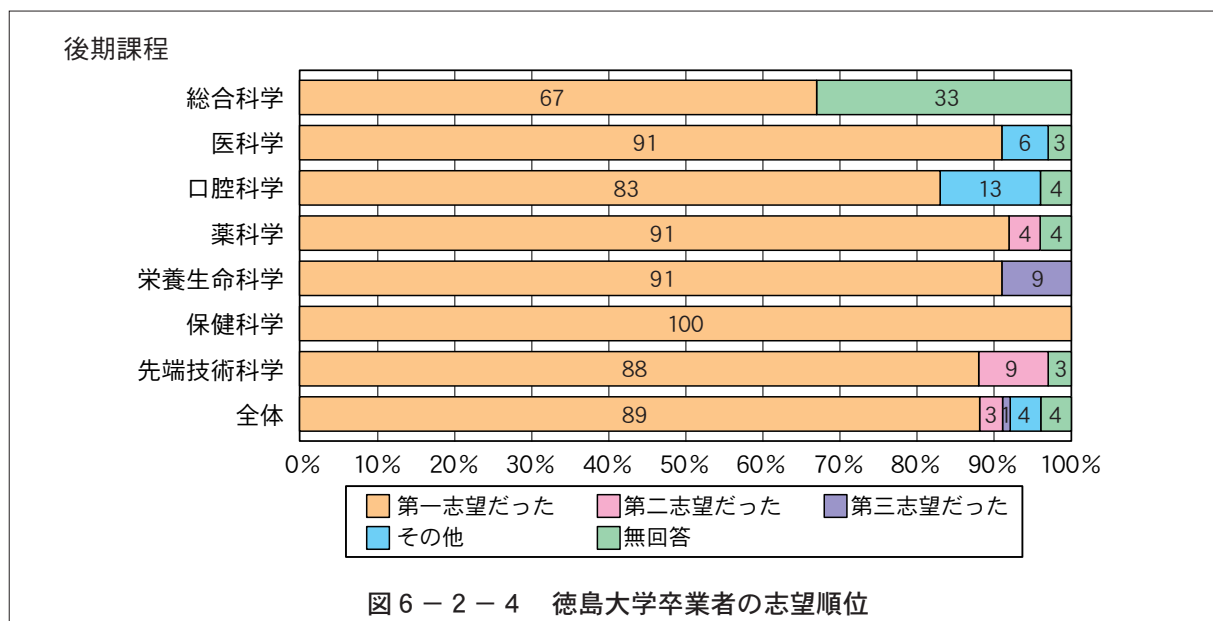




（図 6 - 2 - 2）。また、「指導教員に勧められたから」という回答（15%）は前期課程の学生の回答割合（4%）を大きく上回っている。留学生については、両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合（前期課程：28%，後期課程：21%）が最も多かった。前期課程で次に多かった回答は「継続して修学するため」と「先輩や友人に勧められて」であり、いずれも23%となっている。後期課程では「継続して修学するため」も21%で最も多く、次いで「指導教員に勧められたから」が20%、「先輩や友人に勧められて」が17%であった。

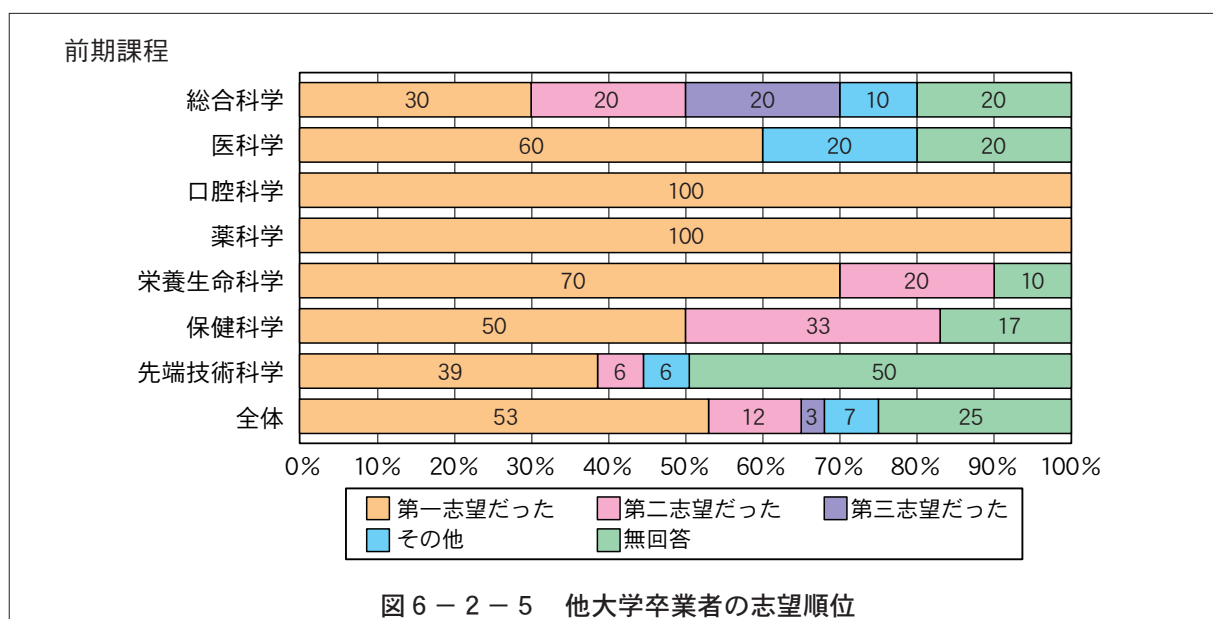
また、徳島大学卒業生について、「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は、全体で87%となっており、「第二志望だった」は7%、「第三志望だった」は2%であった（図 6 - 2 - 3）。教育部別に見ると、医科学で「第一志望だった」と回答した学生の割合は44%であり、他教育部と比較して低くなっている。一方、徳島大学を卒業して後期課程に在籍する学生の89%が「第一志望だった」と回答しており、「第二志望だった」は3%、「第三志望だった」は1%であった（図 6 - 2 - 4）。教育部別に見ると、保健科学の「第一志望だった」とした回答の割合は100%であった。





他大学を卒業した学生については、前期課程に進学した学生の53%が「第一志望だった」と回答しており、「第二志望だった」は12%、「第三志望だった」は3%となっている（図6-2-5）。教育部別に見ると、口腔科学と薬科学の「第一志望だった」とした回答の割合は100%であった。他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については、「第一志望だった」が42%、「第二志望だった」が6%、「第三志望だった」が1%となっている（図6-2-6）。教育部別に見ると、薬科学の「第一志望だった」とした回答の割合は100%であった。

大学院での勉学で目指すものとして、前期課程では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」を目指す学生（40%）が最も多く、次いで、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が36%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が21%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が3%となっている（図6-2-7）。教育部別に見ると、保健科学では73%が「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指しているのに対し、薬科学では、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人（36%）」と「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者（38%）」の割合がほぼ同じであった。後期課程の学生全体では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生（43%）が最も多く、次いで「創造性豊かな優れた研究・開



後期課程

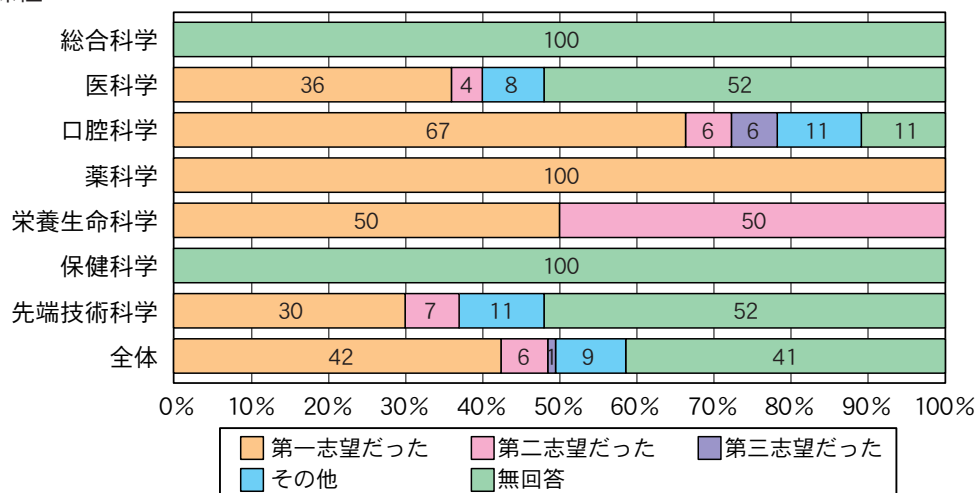


図 6 - 2 - 6 他大学卒業者の志望順位

発能力を持つ研究者」が26%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が18%となっている(図6-2-8)。「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」を目指す学生の割合は前期課程の3%を大きく上回っており、教育部別に見ると、保健科学(50%)では他教育部と比較して特に高くなっている。留学生については、前期課程では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」と回答した学生の割合(52%)が最も高く、後期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」と回答した学生の割合(45%)が最も高かった。

前期課程

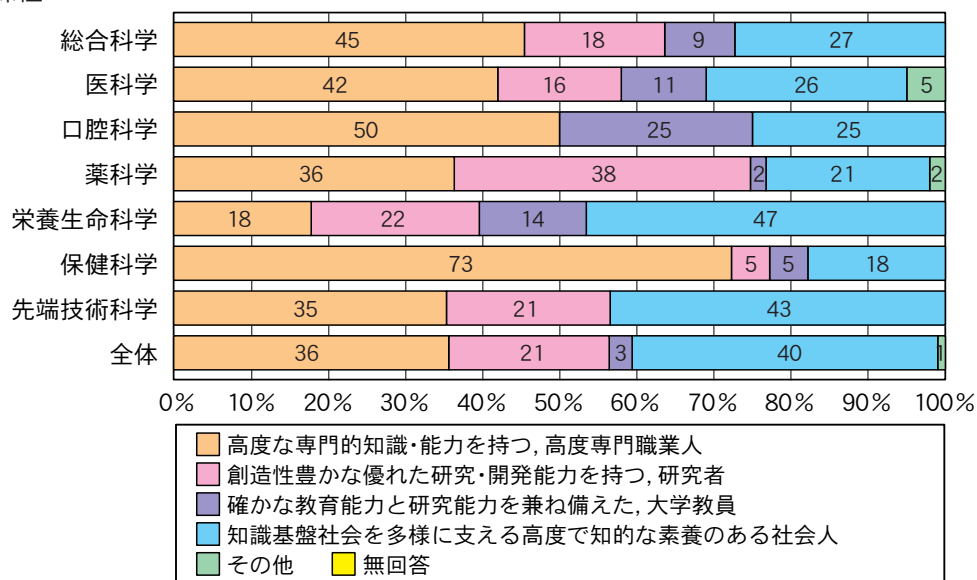
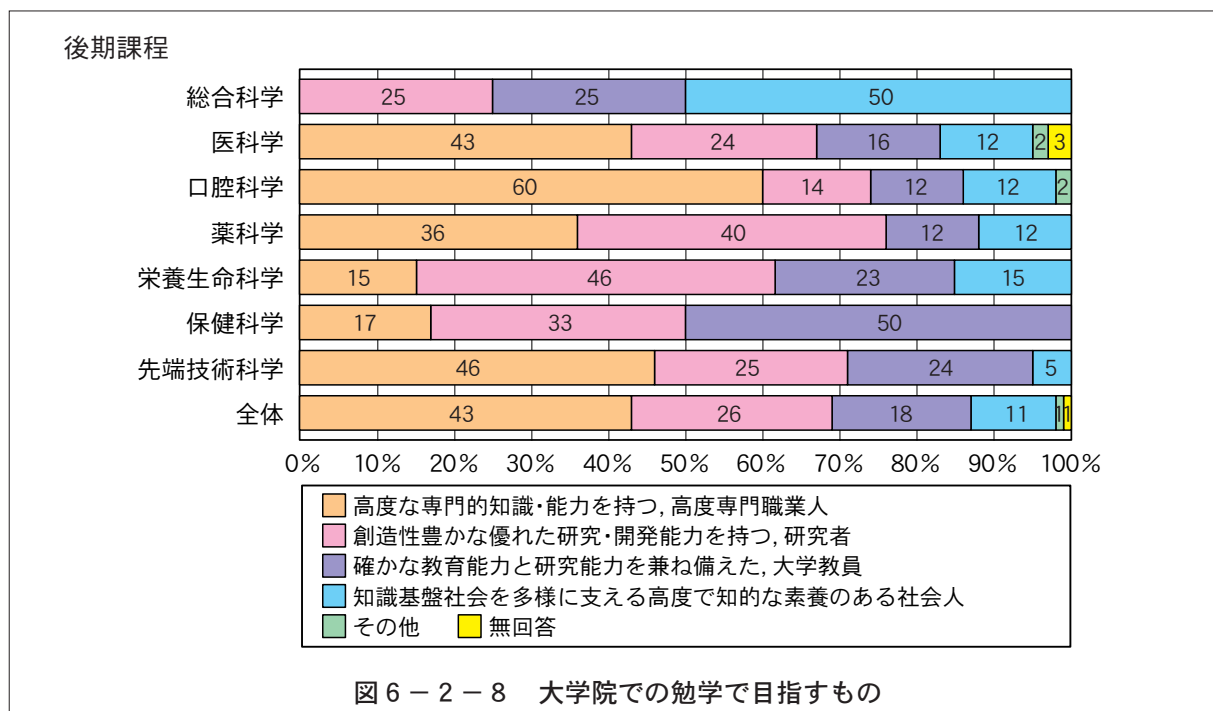
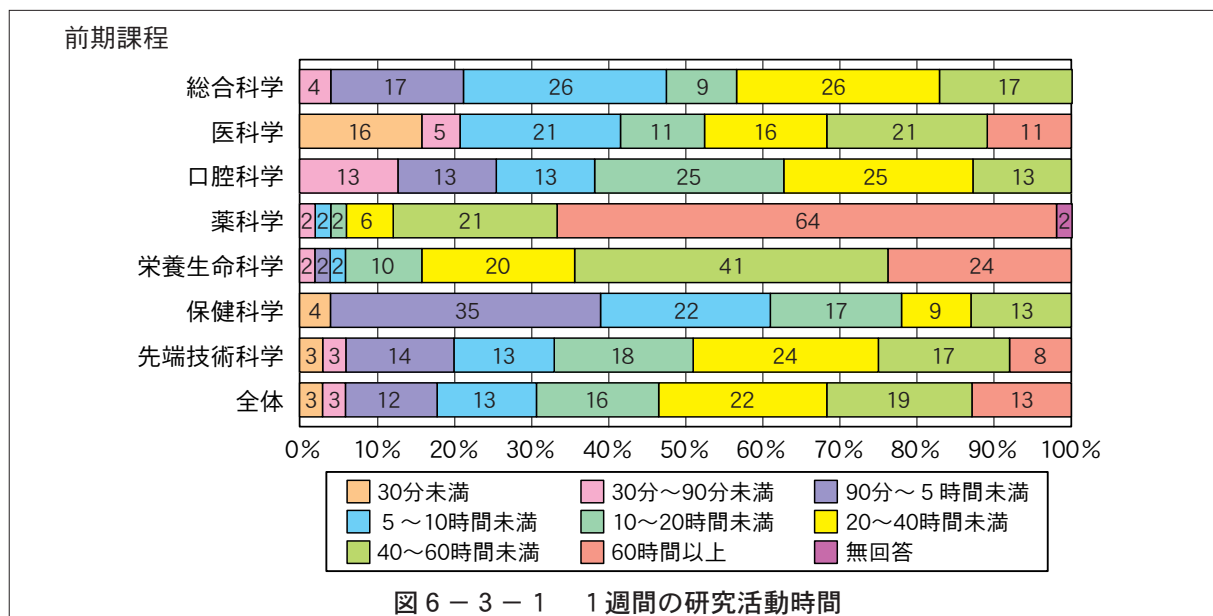


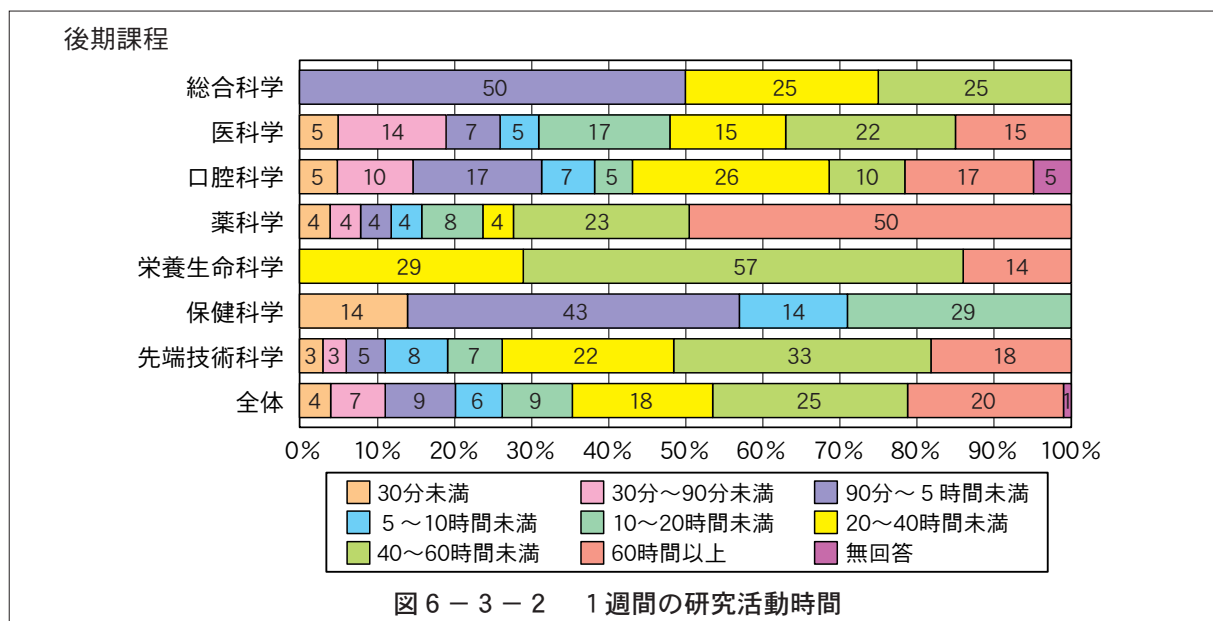
図 6 - 2 - 7 大学院での勉学で目指すもの



6-3 研究活動と研究指導 (図 6-3-1~図 6-3-12)

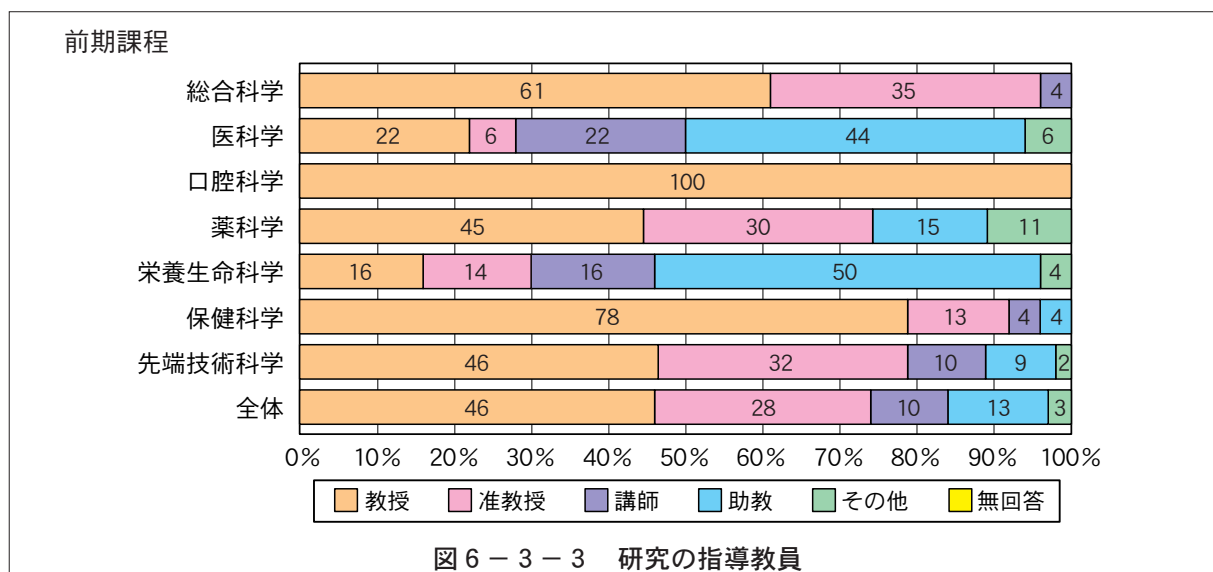
前期課程の学生全体での授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「20～40時間未満」との回答(22%)が最も多く、次いで「40～60時間未満」が19%、「10～20時間未満」が16%、「60時間以上」と「5～10時間未満」が13%、「90分～5時間未満」が12%、「30～90分未満」と「30分未満」が3%の順になっている(図6-3-1)。すなわち、半数以上の学生が週20時間以上の研究活動を行っているとは回答した。教育部別に見ると、第3回調査の結果と同様に、週20時間以上研究活動を行っている割合は、薬科学(91%)と栄養生命科学(85%)で高く、保健科学(22%)で低くなっている。一方、後期課程の学生が授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「40～60時間未満」との回答(25%)が最も多く、次いで「60時間以上」が20%、「20～40時間未満」が18%、「10～20時間未満」と「90分～5時間未満」が9%、「30～90分未満」が7%、「5～10時間未満」が6%、

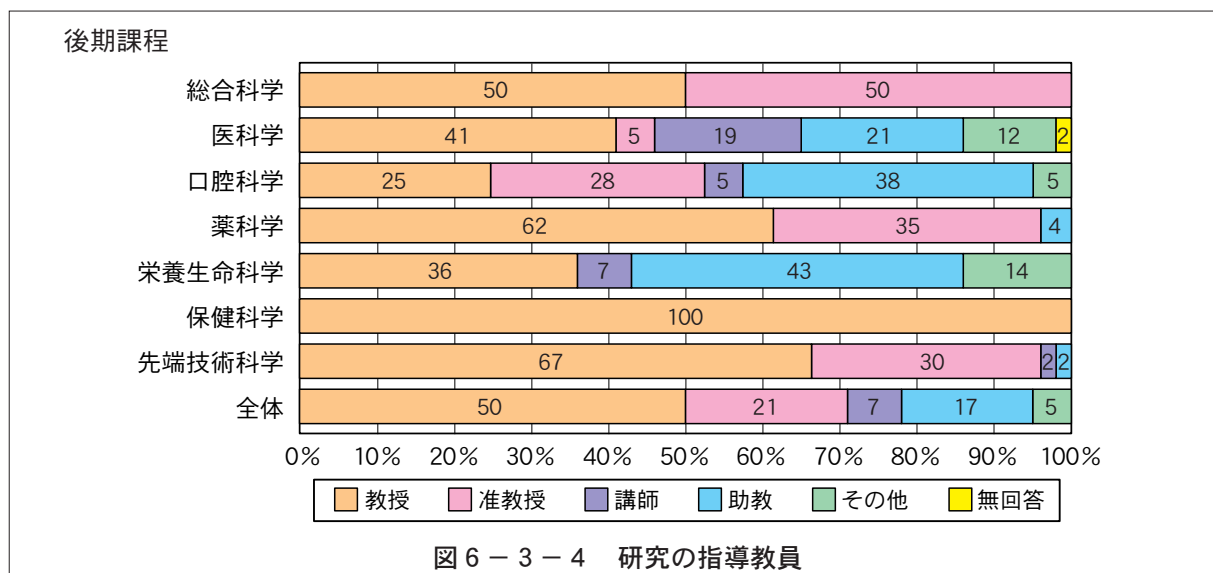




「30分未満」が4%と続いている。すなわち、63%の学生が週20時間以上研究活動を行っており、特に、週20時間以上研究活動を行っている割合が、栄養生命科学（100%）と薬科学（77%）、先端技術科学（73%）で高くなっている。一方、保健科学では週20時間以上研究活動を行っている割合が0%であった。留学生については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では39%、後期課程では85%であり、前期課程では第3回調査の結果（62%）よりも低くなった。

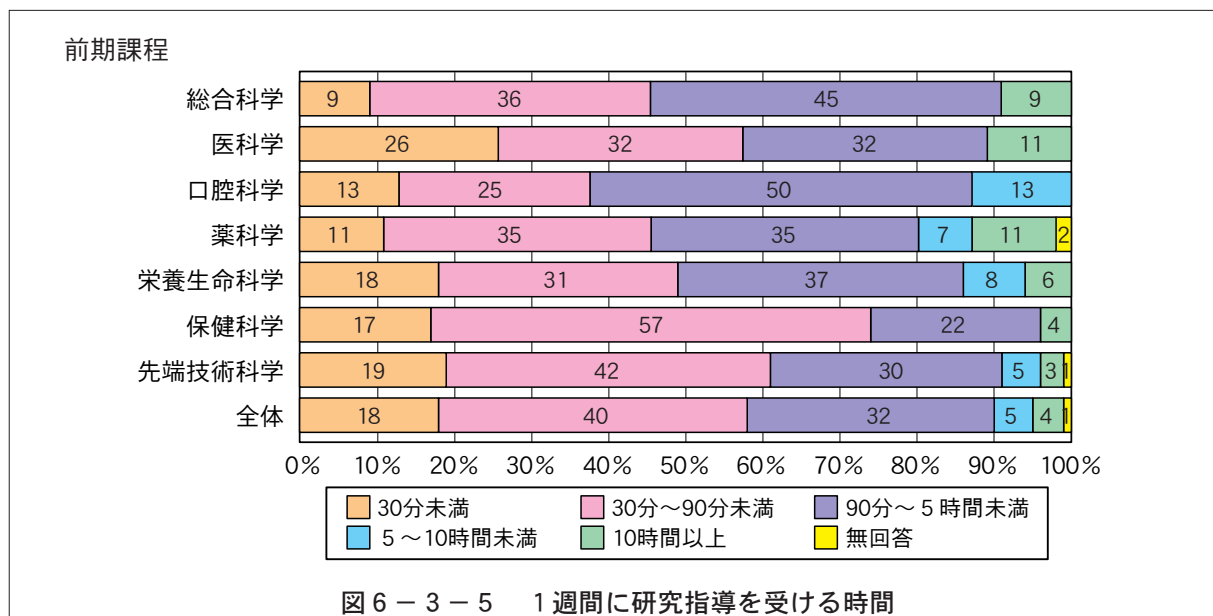
前期課程の学生の研究を直接指導している教員は、「教授」が46%、「准教授」が28%、「講師」が10%、「助教」が13%、「その他」が3%であった（図6-3-3）。教育部別では、口腔科学と保健科学で「教授」と回答した割合（口腔科学：100%、保健科学：78%）が高かった。逆に、医科学と栄養生命科学では「助教」と回答した割合（医科学：44%、栄養生命科学：50%）が高くなっている。後期課程の学生の研究を直接指導しているのは、「教授」が50%、「准教授」が21%、「講師」が7%、「助教」が17%、「その他」が5%であった（図6-3-4）。教育部別に見ると、保健科学では「教授」が全ての学生を直接指導しているのに対し、口腔科学では、「教授」と回答した割合（25%）が他教育部と比較して低かった。栄養生命科学では、前期課程と同様に「助教」と回答した割合（43%）が高かった。留学生については、両課程ともに「教授」と回答した学生の割合が最も多く、前期課程では68%、後期課程では54%であった。





前期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が40%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が32%、「30分未満」が18%、「5～10時間未満」が5%、「10時間以上」が4%であった(図6-3-5)。研究指導時間が90分未満の割合は全体で58%であるが、保健科学(74%)では他教育部に比べて多く、口腔科学(38%)では他教育部に比べて少なくなっている。後期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が36%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が32%、「30分未満」が20%、「5～10時間未満」が9%、「10時間以上」が2%であった(図6-3-6)。研究指導時間が90分未満の割合は、全体で56%であるが、薬科学(69%)と保健科学(71%)では多く、総合科学(25%)では少なくなっている。留学生については、前期課程では「30～90分未満」と回答した学生の割合(39%)が最も多く、後期課程では「90分～5時間未満」と回答した学生の割合(39%)が最も多かった。

図6-3-7より、研究指導の内容や進め方についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が46%で最も多く、以下、「満足している」が41%、「どちらかといえば不満足である」が8%、「不満足である」が4%であった。教育部別に見ると、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、口腔科学(100%)と総合科学(96%)、薬科学(91%)、栄養生命科学(90%)で90%を上回っている。図6-3-8より、研究指導の内容や



後期課程

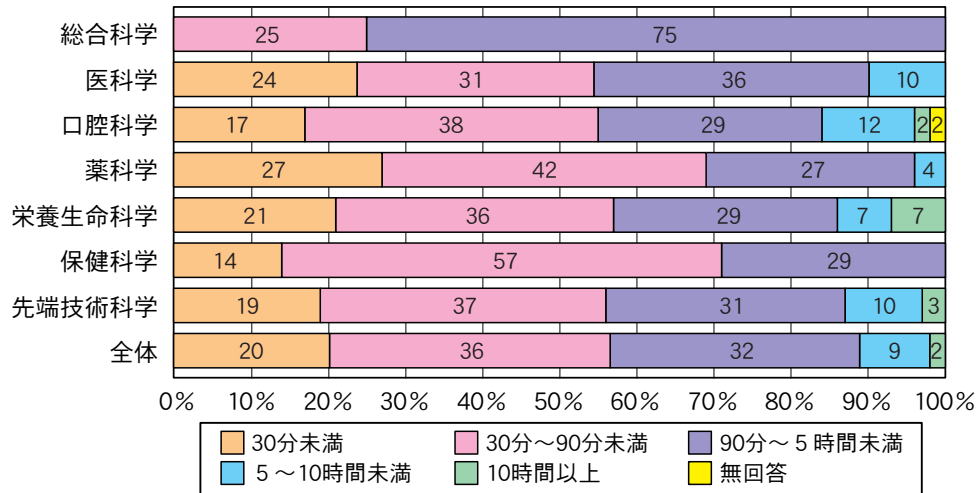


図 6 - 3 - 6 1週間に研究指導を受ける時間

前期課程

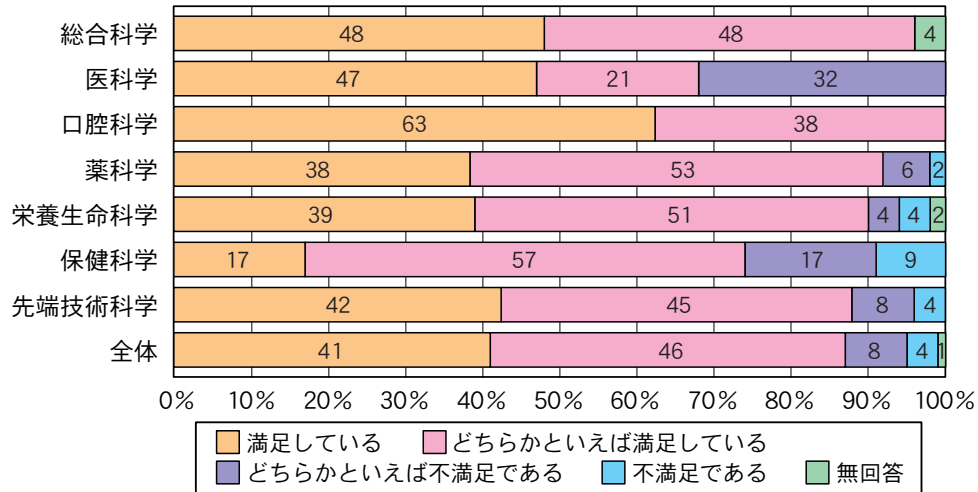


図 6 - 3 - 7 研究指導についての満足度

後期課程

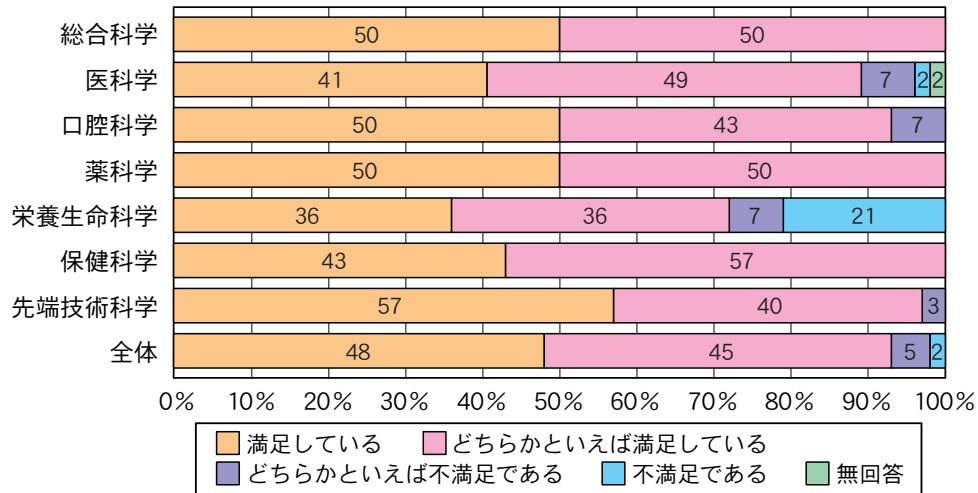
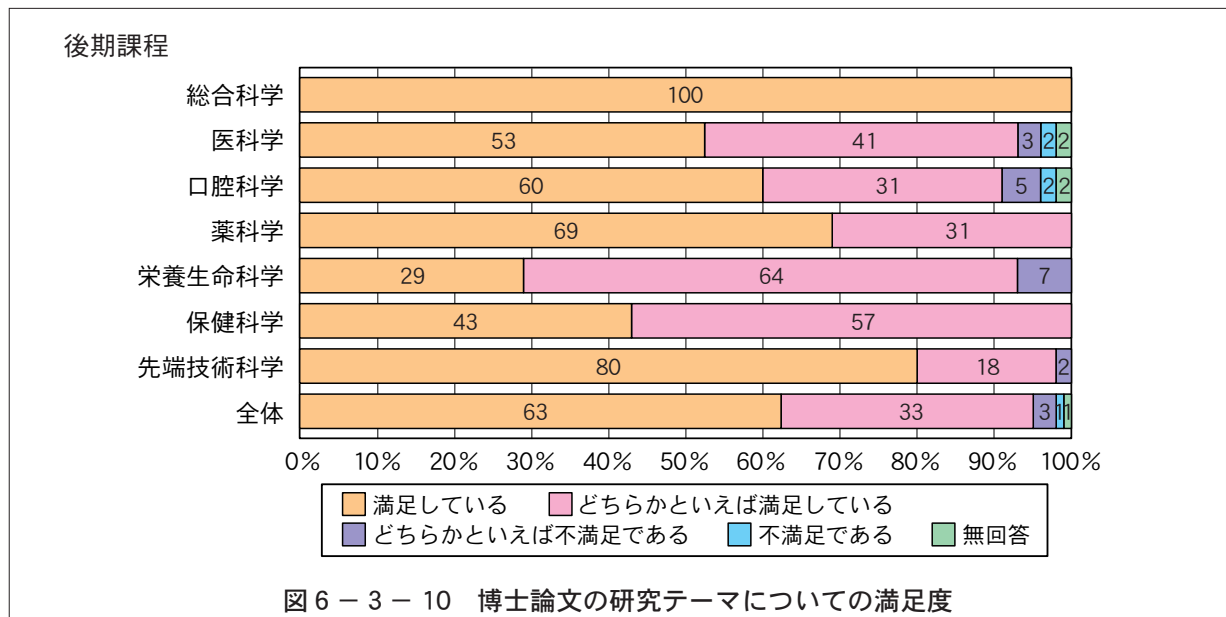
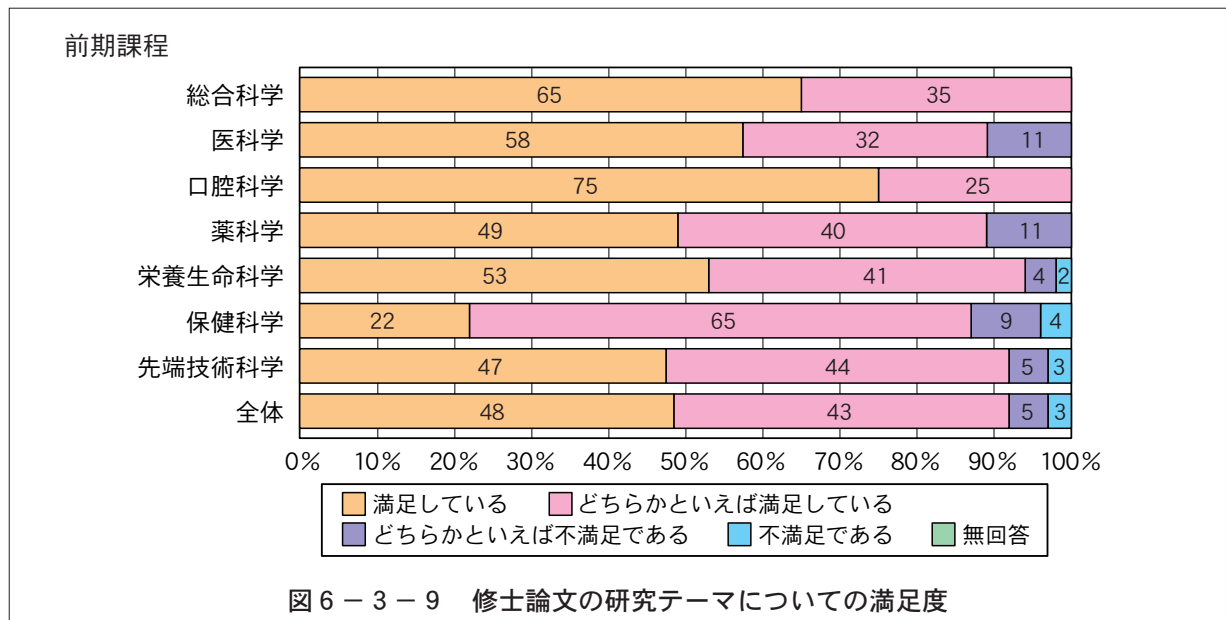


図 6 - 3 - 8 研究指導についての満足度

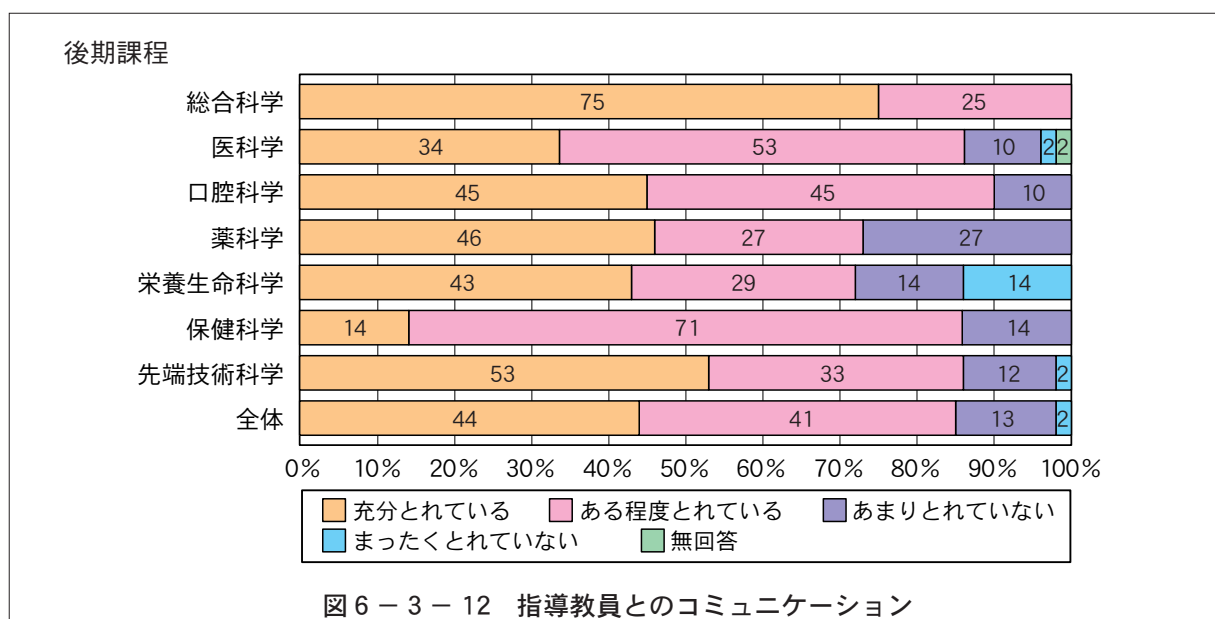
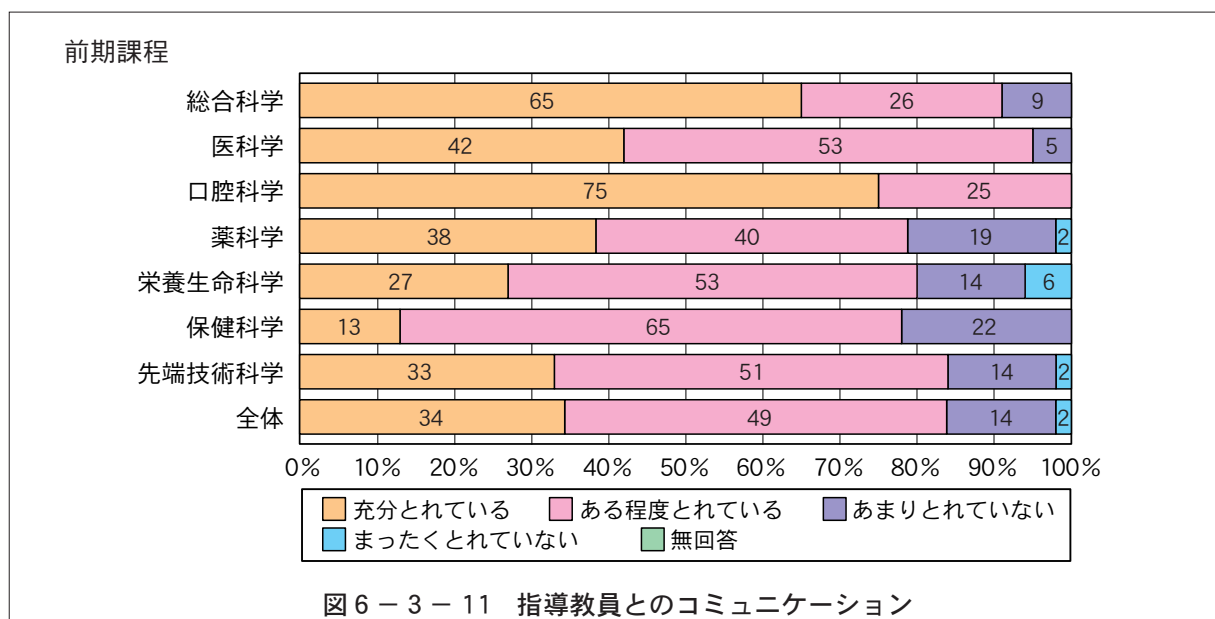
進め方についての設問に対する後期課程の学生の回答は、「満足している」が48%で最も多く、以下、「どちらかといえば満足している」が45%、「どちらかといえば不満足である」が5%、「不満足である」が2%であった。総合科学と薬科学、保健科学では「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が100%となっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で100%、後期課程92%であった。

修士論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」が最も多く（48%）、以下、「どちらかといえば満足している」が43%、「どちらかといえば不満足である」が5%、「不満足である」が3%となっている（図6-3-9）。教育部別では、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、総合科学と口腔科学では100%であった。博士論文の研究テーマに関する全体の満足度は、「満足している」が最も多く（63%）、以下、「どちらかといえば満足している」が33%、「どちらかといえば不満足である」が3%、「不満足である」が1%となっている（図6-3-10）。すなわち、全ての教育部で90%以上の満足度が得られており、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、総合科学と薬科学、保健科学では100%であった。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、両課



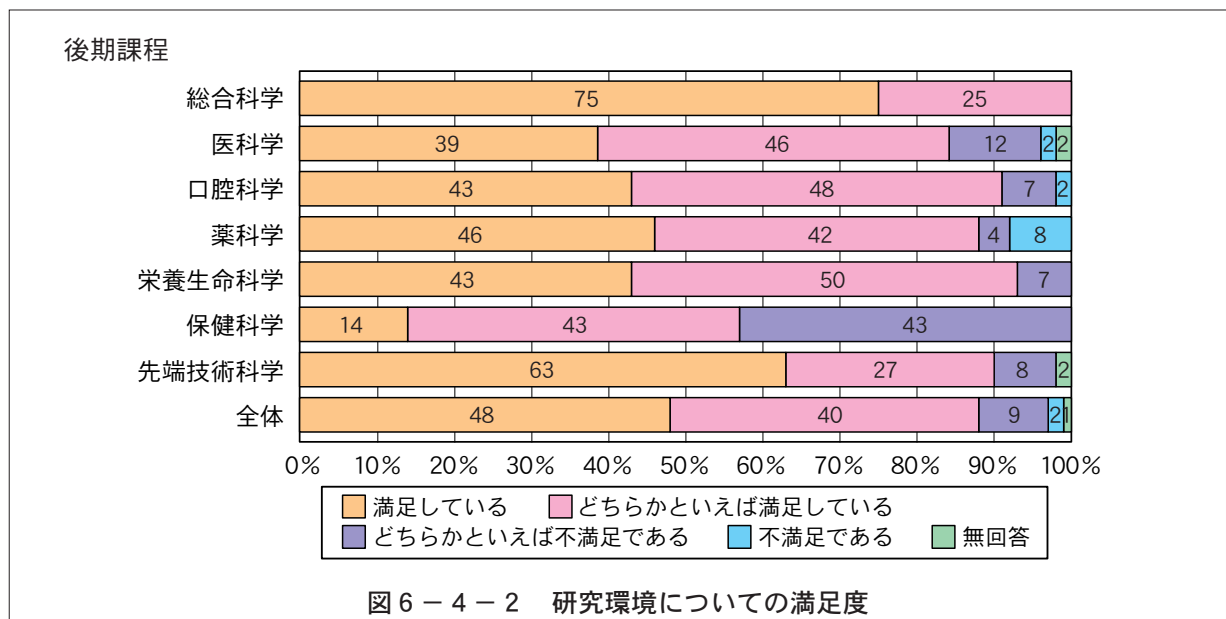
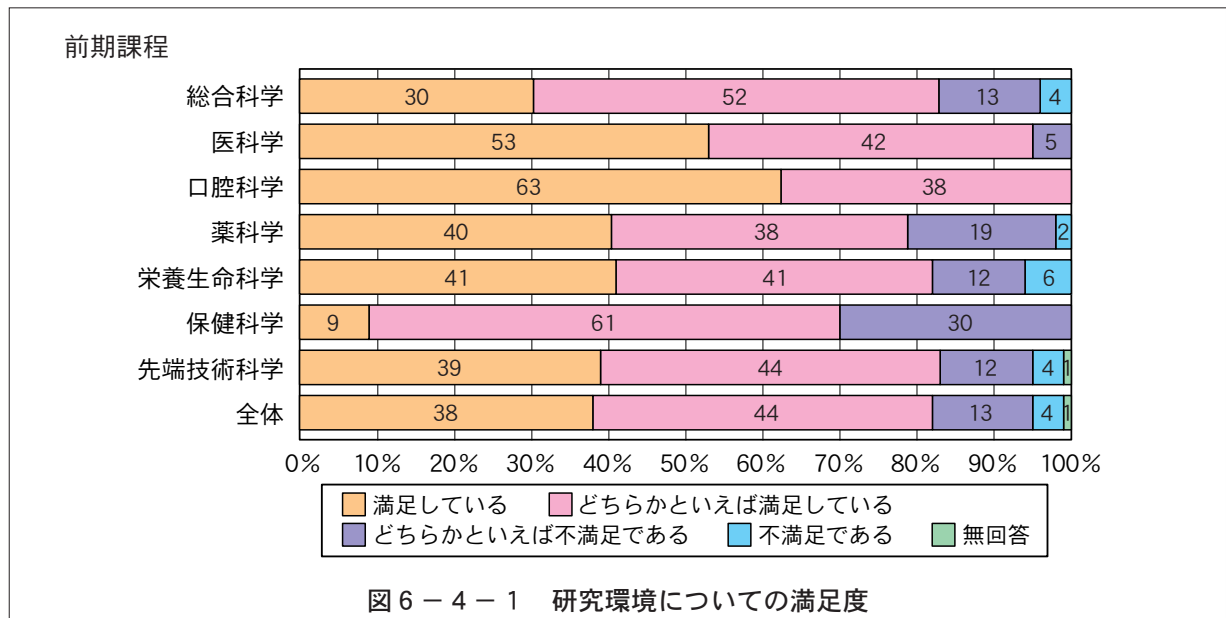
程とも100%であった。

指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」との回答が最も多く（49%）、以下、「充分とれている」が34%、「あまりとれていない」が14%、「まったくとれていない」が2%であった（図6-3-11）。教育部別に見ると、コミュニケーションが「充分とれている」という回答の割合は、総合科学（65%）と口腔科学（75%）で高く、保健科学（13%）で低くなっている。同じ設問に対して、後期課程では44%の学生が「充分とれている」と回答しており、以下、「ある程度とれている」が41%、「あまりとれていない」が13%、「まったくとれていない」が2%であった（図6-3-12）。教育部別に見ると、総合科学では「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせた割合が100%であったのに対し、薬科学（73%）と栄養生命科学（72%）では若干低くなっている。留学生については、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程93%であった。



6-4 研究環境と所属大学院に対する満足度 (図6-4-1～図6-4-6)

図6-4-1より、研究環境についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が44%で最も多く、以下、「満足している」が38%、「どちらかといえば不満足である」が13%、「不満足である」が4%であった。教育部別に見ると、口腔科学の満足度が高く、「満足している」が63%、「どちらかといえば満足している」が38%となっている。保健科学（満足している：9%、どちらかといえば満足している：61%）では、他教育部より研究環境に関する満足度が低くなっている。図6-4-2より、後期課程学生全体では、「満足している」との回答が最も多く（48%）、以下、「どちらかといえば満足している」が40%、「どちらかといえば不満足である」が9%、「不満足である」が2%であった。教育部別に見ると、総合科学では「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が100%であったのに対し、保健科学では57%となっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程90%であった。



研究環境に満足していない前期課程学生にその理由を尋ねた設問への回答は、「施設・設備」が47%で最も多く、以下、「研究費用」が31%、「研究時間」が15%であった（図6-4-3）。研究環境に対する満足度が比較的低かった保健科学では、その理由として「研究時間」とする回答が44%程度を占めている。図6-4-4より、研究環境に満足していない後期課程学生にその理由を尋ねた設問への回答は、「施設・設備」が42%、「研究費用」が33%、「研究時間」が18%の順となっており、前期課程とほぼ同様の分布を示している。

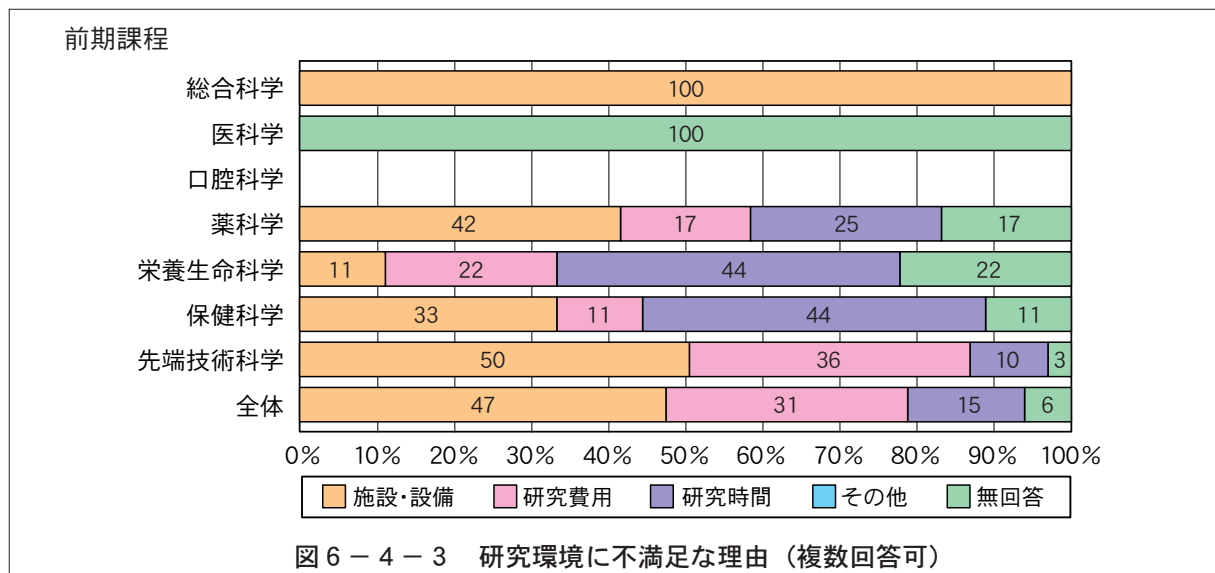


図6-4-3 研究環境に不満足な理由 (複数回答可)

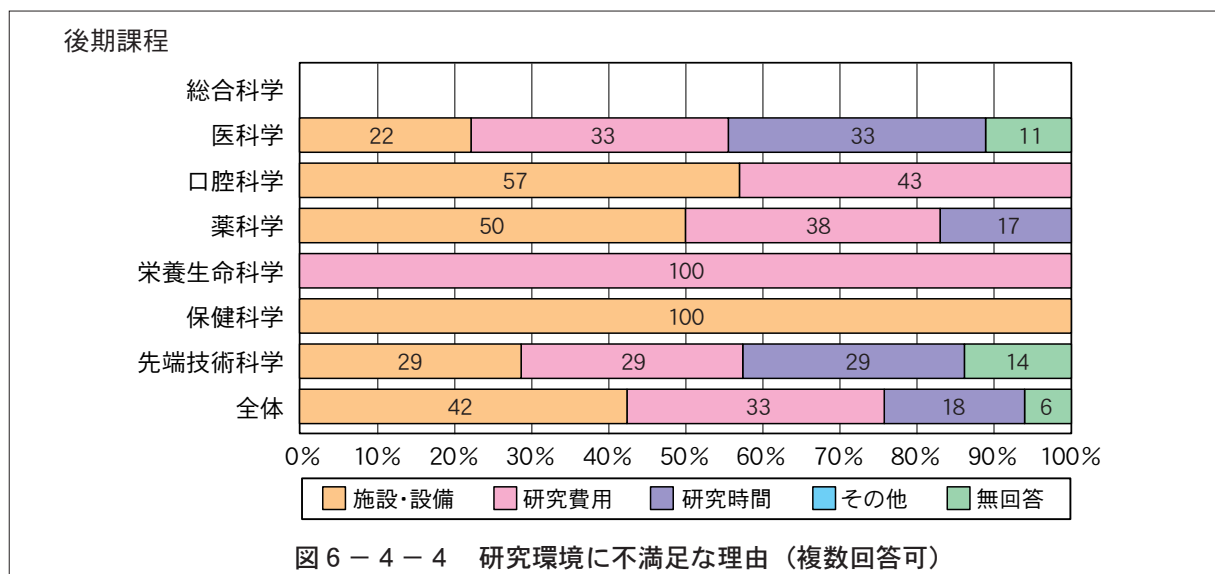
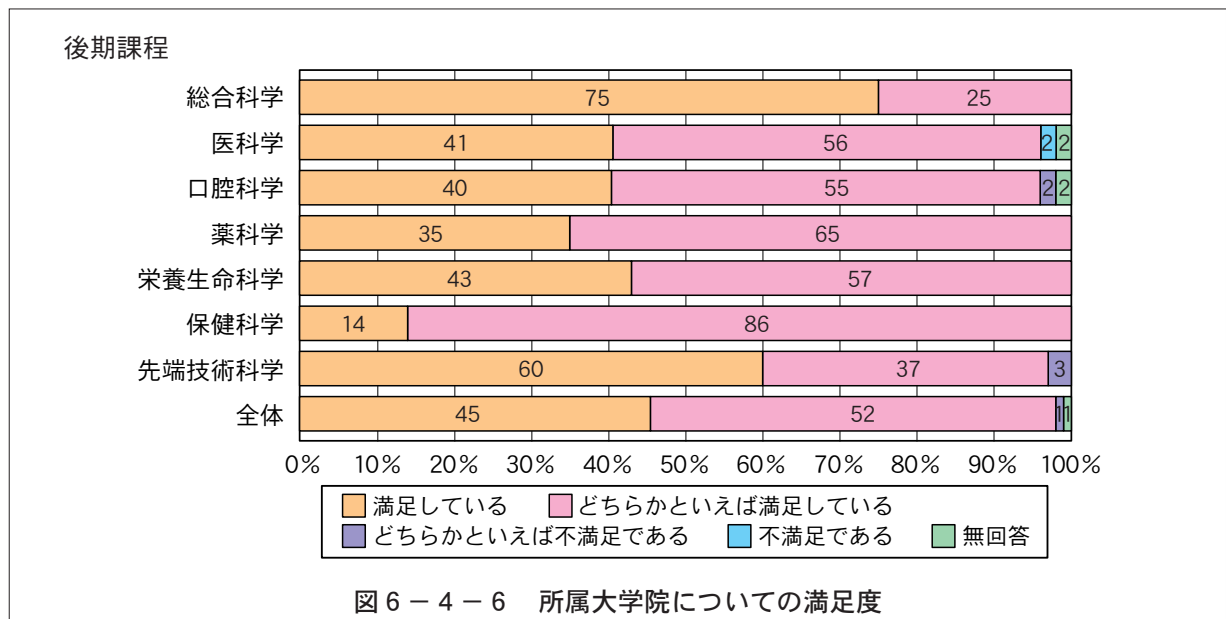
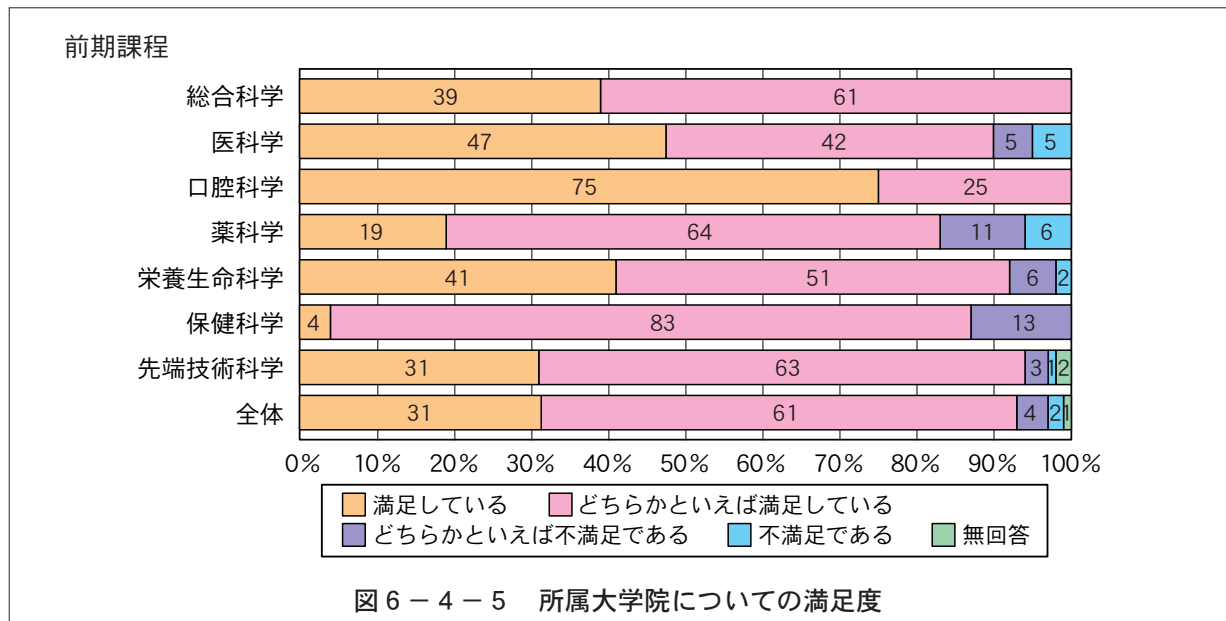


図6-4-4 研究環境に不満足な理由 (複数回答可)

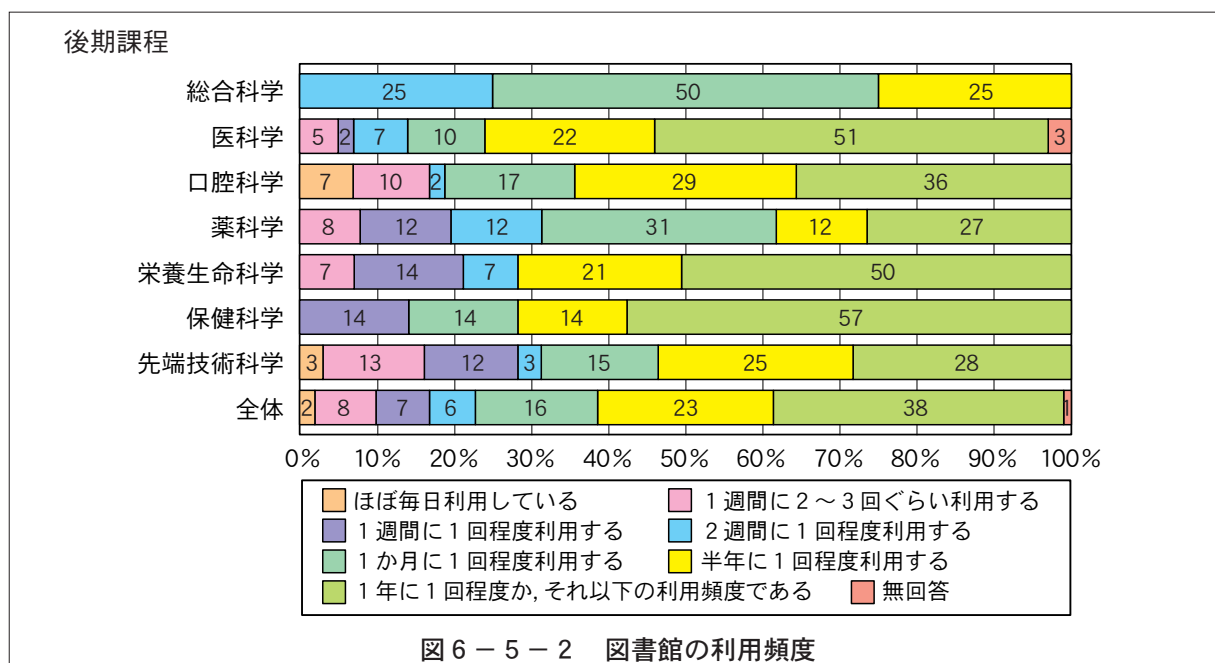
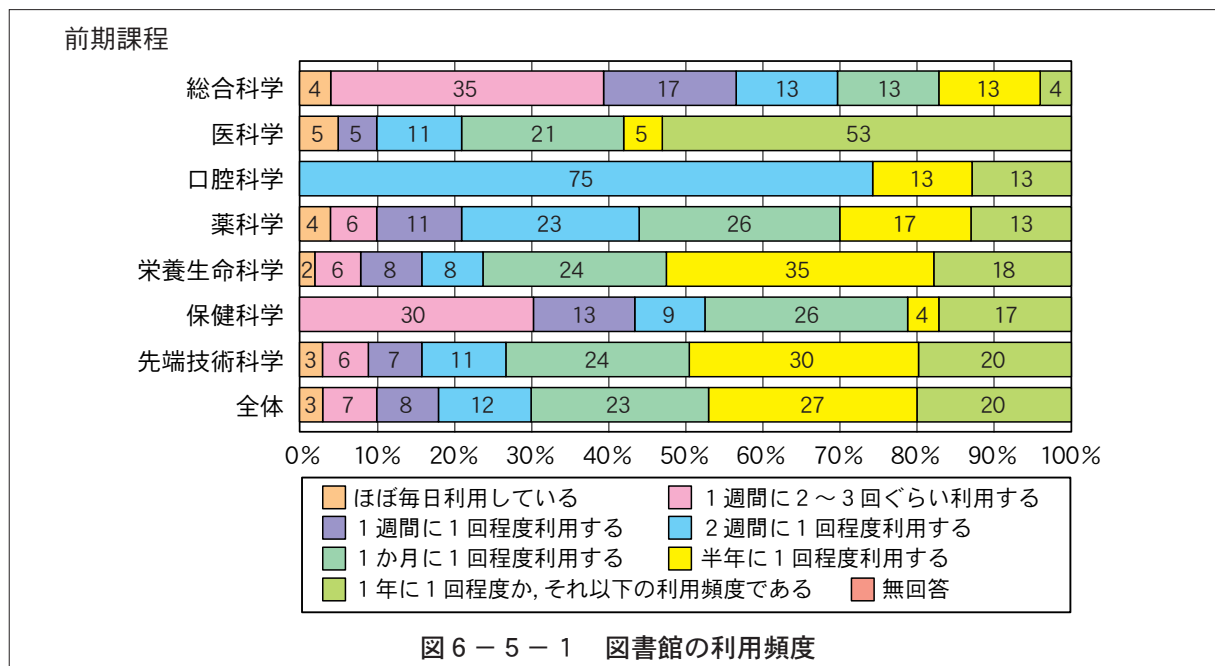
図6-4-5より、所属大学院の満足度についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が61%で最も高く、以下、「満足している」が31%、「どちらかといえば不満足である」が4%、「不満足である」が2%となっている。教育部別に見ると、総合科学と口腔科学の満足度が高く、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた割合は100%であった。薬科学（満足している：19%、どちらかといえば満足している：64%）と保健科学（満足している：4%、どちらかといえば満足している：83%）での満足度は、他教育部と比較して若干低くなっている。図6-4-6より、所属大学院の満足度についての設問に対する後期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が最も高く（52%）、以下、「満足している」が45%、「どちらかといえば不満足である」が1%となっており、前期課程とほぼ同様な分布を示した。「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた割合は、総合科学と薬科学、栄

養生命科学, 保健科学で100%となっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で100%、後期課程98%であった。

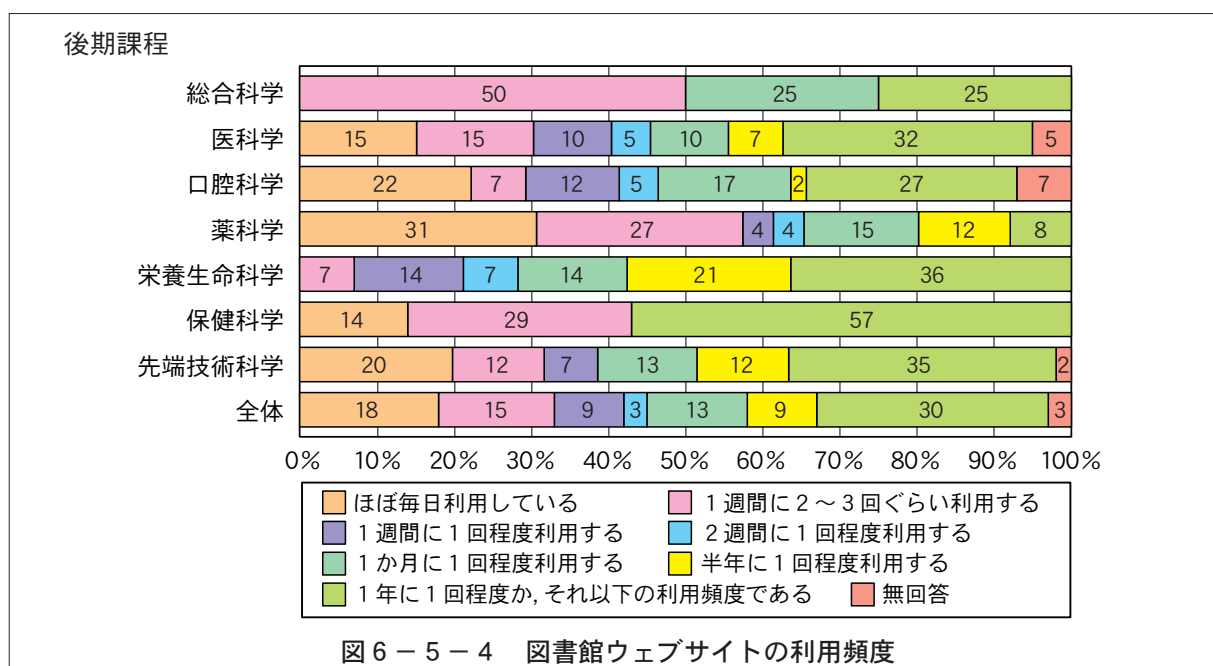
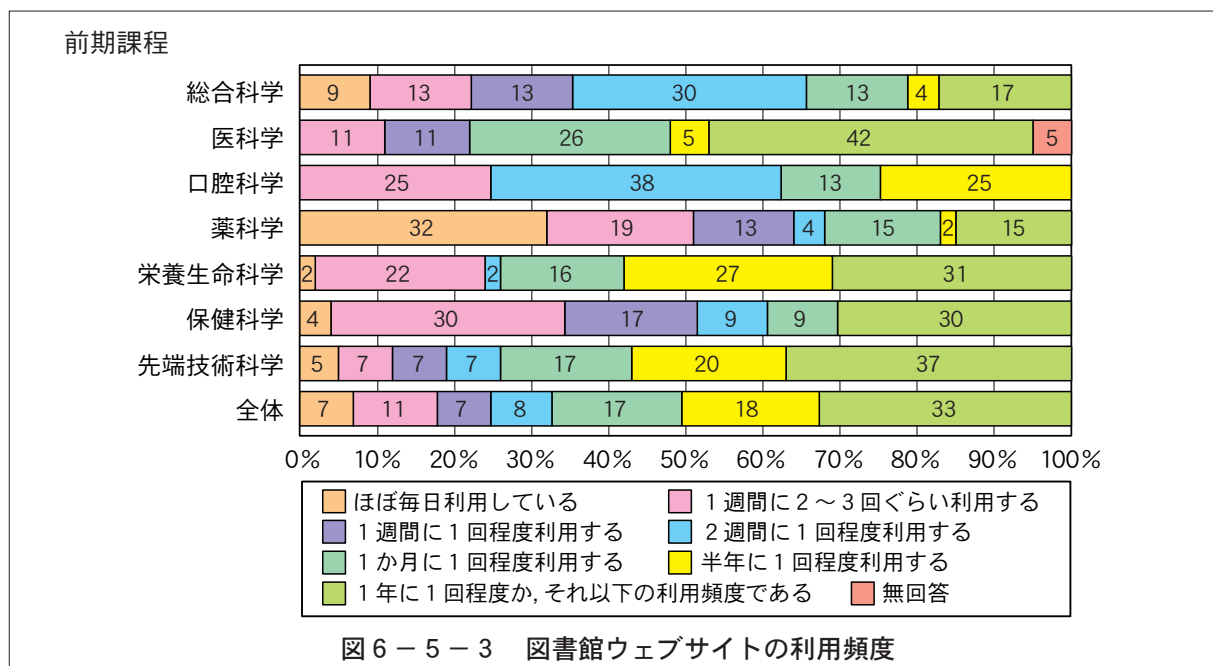


6-5 図書館の利用状況 (図6-5-1~6-5-6)

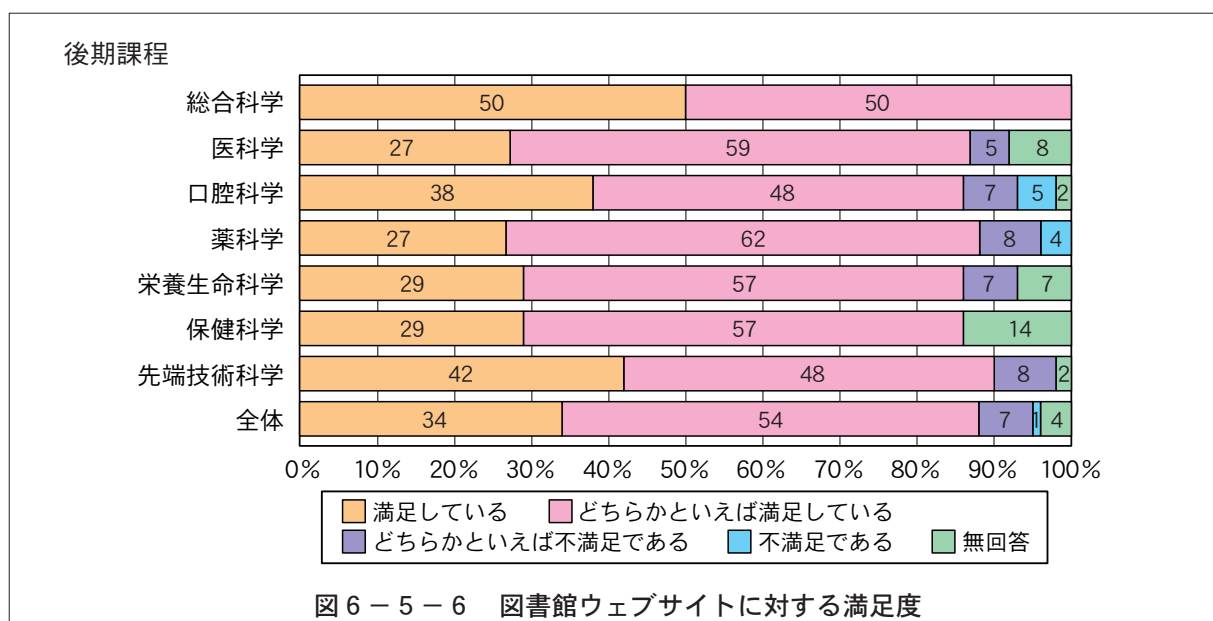
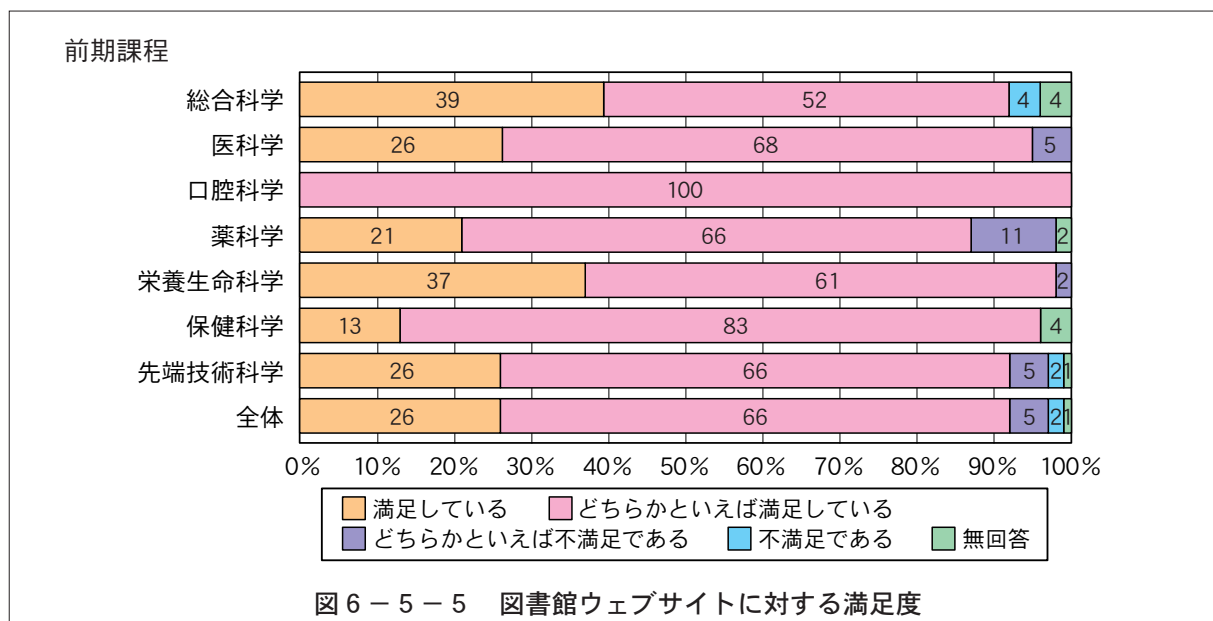
図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で18%、後期課程で17%であり、一昨年の第3回調査結果に比べると前期課程で2%多くなっている。利用頻度が週2-3回以上利用する学生の割合が高い学部は前期は総合科学、保健科学、後期は口腔科学、先端技術科学である。一方、前期では医科学、後期では医科学、栄養生命科学、保健科学の学生は1年に1回以下とほとんど利用しない学生の割合が半分以上を占めている。(図6-5-1、図6-5-2)。



図書館ウェブサイトによる文献検索の利用についての質問では1週間に1回以上利用する学生が、前期課程で25%、後期課程で42%であり、ウェブサイトによる文献検索の利用は研究活動を行う上で重要となっていることが理解できる(図6-5-3、図6-5-4)。



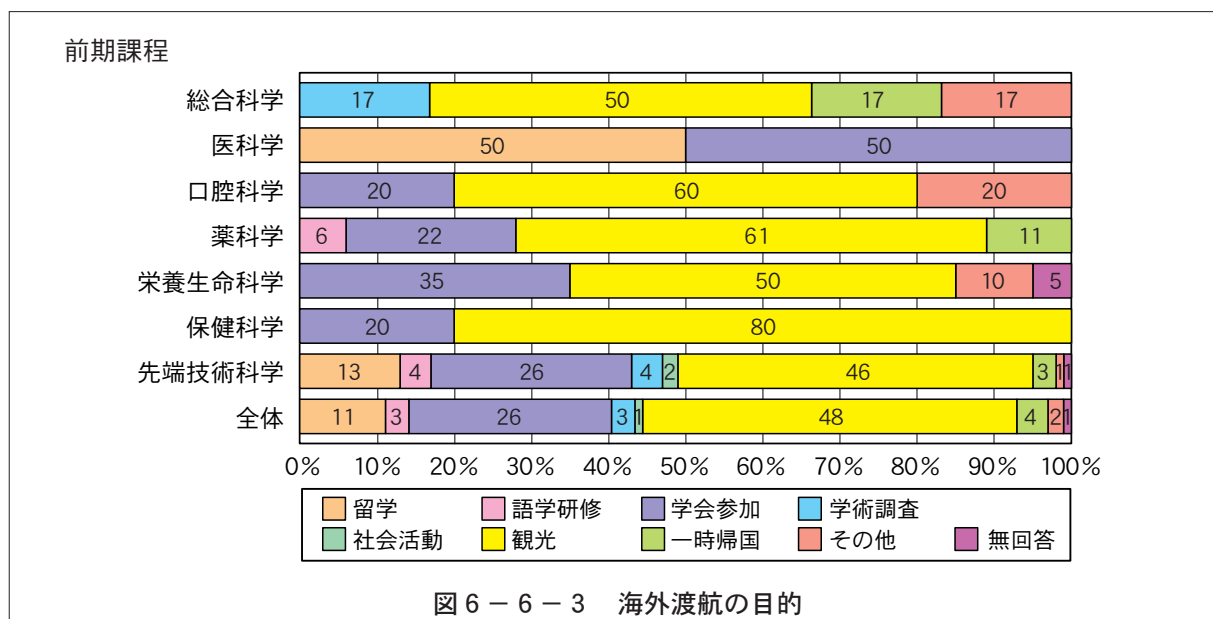
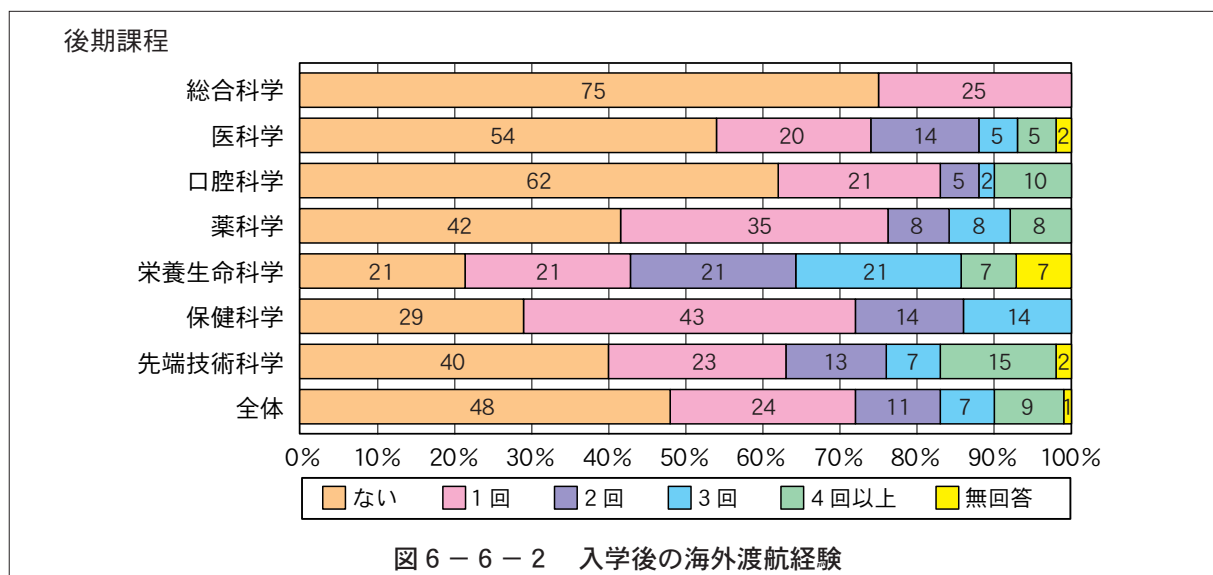
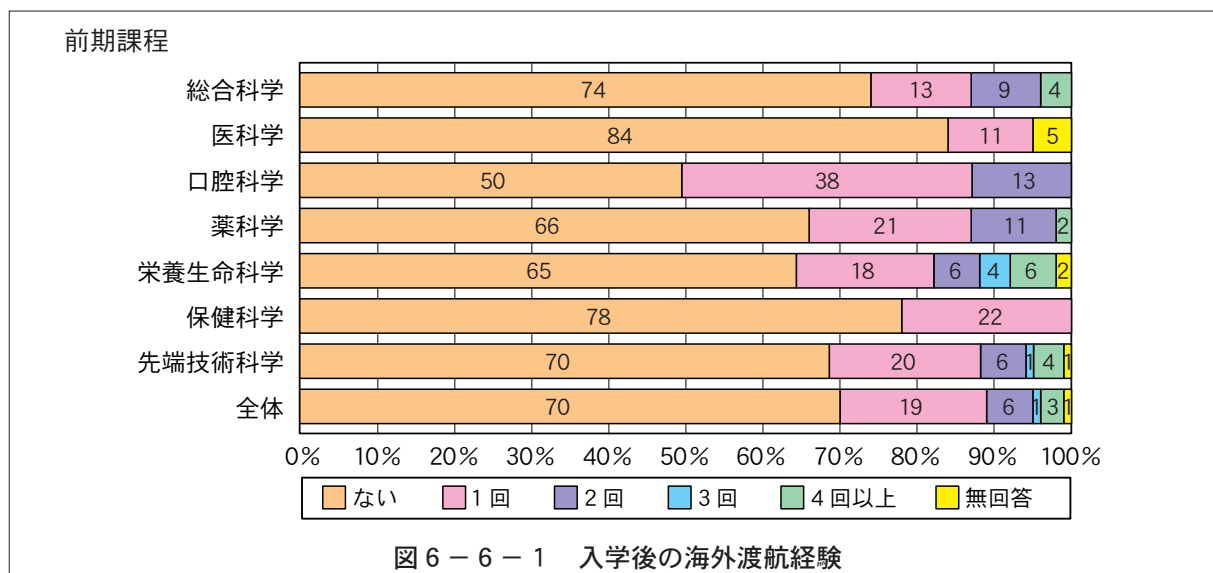
また、図書館ウェブサイトに対する満足度も前期課程で92%、後期課程で88%の学生がある程度満足しており、図書館が提供するサービスとして学生からの評価も高い（図6-5-5、図6-5-6）。インターネットを利用した文献検索は大学院生の日々の研究活動に必要な不可欠のものとしてすでに定着しており、学生の自立的な研究活動を支援するためにも、インターネットで閲覧可能な学術雑誌の維持や、閲覧できるデータベースの年限の拡張、とさらなる拡充を含めた図書館ウェブサイトの継続的な整備が望まれる。また、学生が快適にウェブサイト検索を行えるためのハード面、ソフト面での充実も必要であろう。なお、留学生を対象としたアンケート調査結果でもウェブサイトによる文献検索の利用頻度や図書館ウェブサイトに対する満足度についても日本人学生とほぼ同様の回答が得られており、日本人学生と留学生の図書館利用に関する利用状況や整備ニーズに大きな差異はないと考えられる。



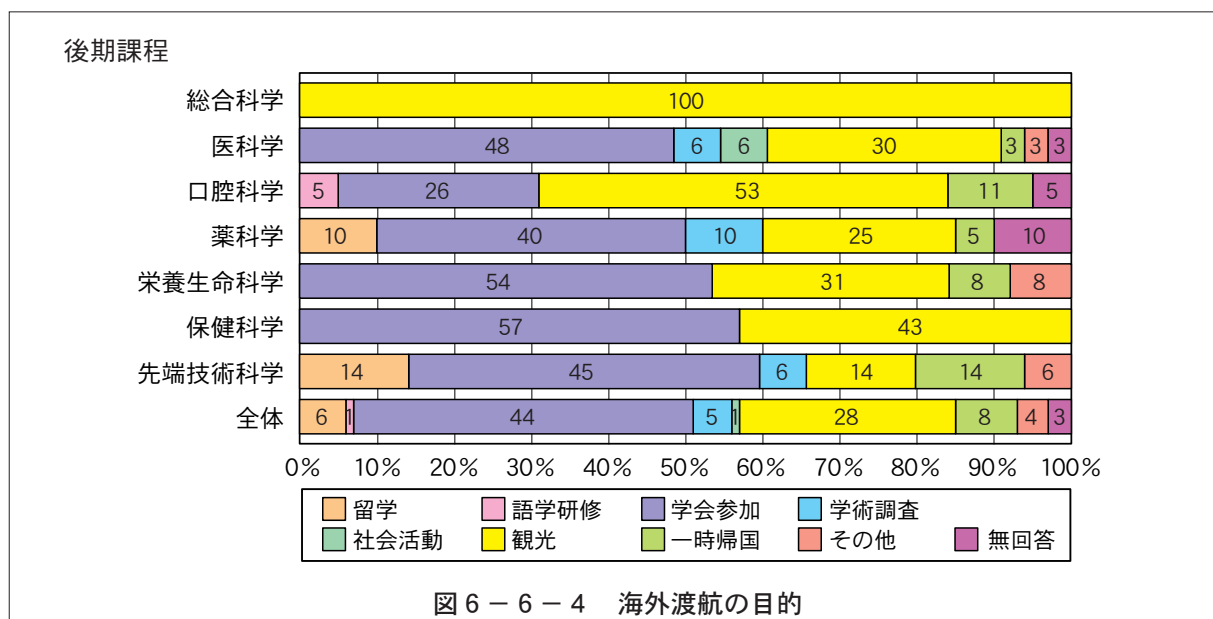
6-6 海外渡航の経験と英会話 (図 6-6-1~6-6-10)

入学後の海外渡航経験については、前期課程全体で70%の学生が「ない」と答えている。さらに、海外渡航経験のある学生でも1回の学生が19%である(図6-6-1)。第3回調査(平成22年度)の数値がそれぞれ77%, 15%であり、少しずつ渡航歴が増加している。一方、後期課程の学生では「ない」と答えた学生は全体で48%となっており、半数の学生が1回以上、海外渡航経験を有することがわかる(図6-6-2)。また、薬科学、栄養生命科学、保健科学、先端技術科学と渡航歴のない学生の割合が半分以下であり、国際交流が進んできていることがわかる。

海外渡航の目的についての回答では前期課程では観光目的48%、次いで学会参加が26%である。これに対して、後期課程学生では全体の44%が学会活動、28%が観光、6%が留学と回答している(図6-6-3, 図6-6-4)。国際学会での発表など海外の学会参加を大学院の早い時期に経験することは研究意欲を高めるだけでなく、国際的に活動できる人材を育成する上で重要である。その意味で第3回調査時に減少した前期課程学生の学会参加を目的とした海外渡航の割合が減少したままになっているこ



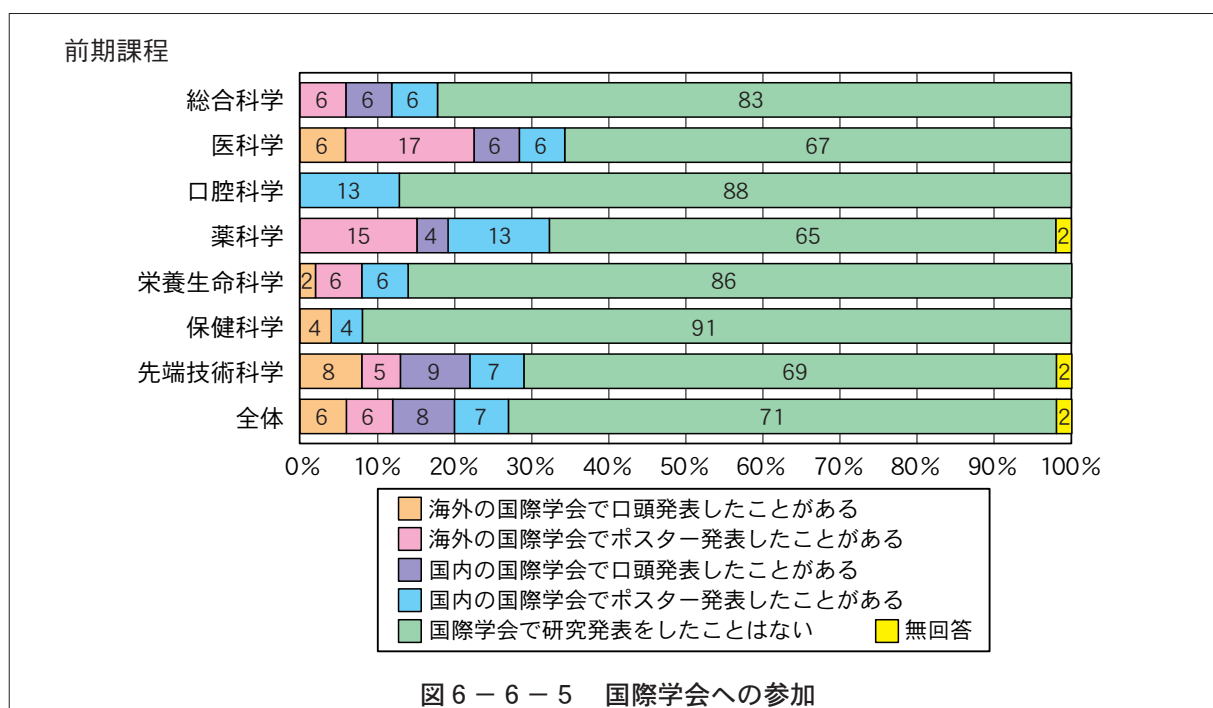
とはその原因についてきちんと検討する必要がある。経済変化など社会的要因も影響していると考えられるが、特に前期課程学生が学会参加を目的とした海外渡航を支援するシステムを検討する必要がある。



国内外での国際会議での発表経験を問うた質問では前期課程では全体の71%、後期課程でも全体の48%が「国際学会で研究発表をしたことがない」と答えている(図6-6-5, 図6-6-6)。国際的に通用する有能な人材を育成するため、特に後期課程の学生においては国際学会での発表を義務化するなど教育カリキュラムからの環境整備も必要であろう。

英会話能力に関する質問では前期課程では全体でも74%の学生が「できない」か「あまりできない」と答えている(図6-6-7)。後期課程でも全体で52%の学生が「できない」か「あまりできない」(図6-6-8)であり、本学の日本人学生が英会話を苦手としていることが窺い知れる。

一方、英会話についての学習状況は前期・後期課程学生とも「何もしていない」という学生がそれぞれ43%、35%であり、多数の学生は語学修得に努力をしていないことがわかる(図6-6-9, 図6-6-10)。語学の学習内容としては前期課程ではTOEICやTOEFLの受験が中心であり、実際に外国人と触れ合わないで学習するケースがほとんどである。一方、後期課程では外国人とのコミュニケーション、ラジオ・テレビの英会話番組、外国のラジオ・テレビの視聴、英会話学校の通学など多様



後期課程

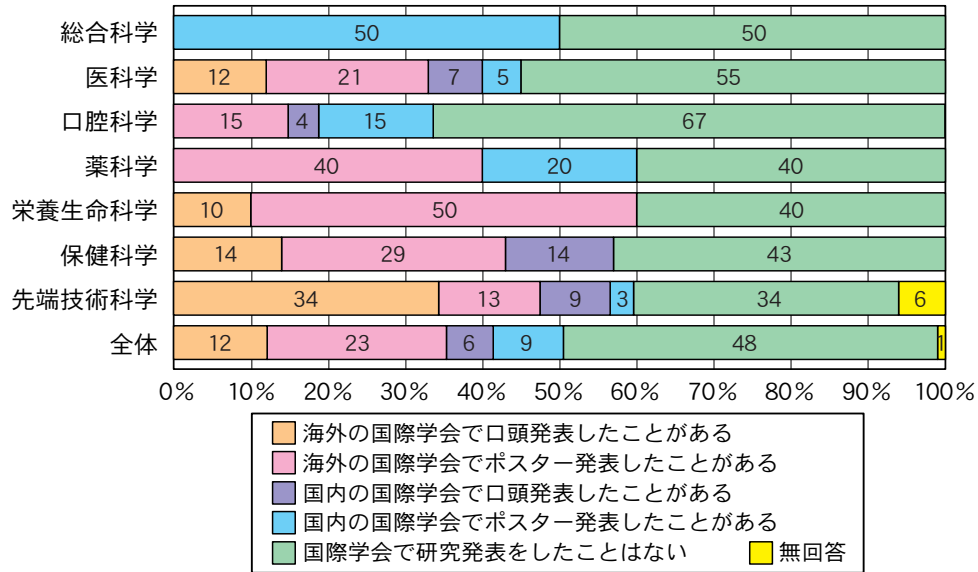


図 6 - 6 - 6 国際学会への参加

前期課程

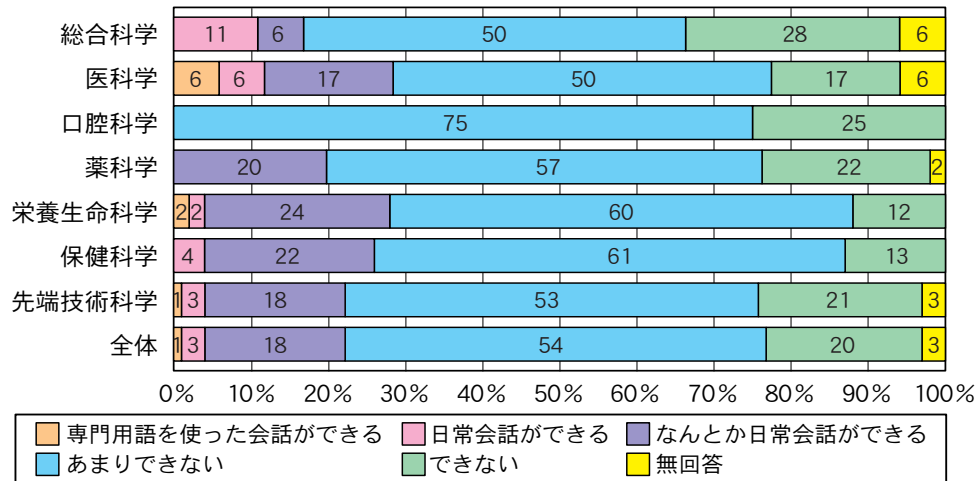


図 6 - 6 - 7 英会話（日本人のみ）

後期課程

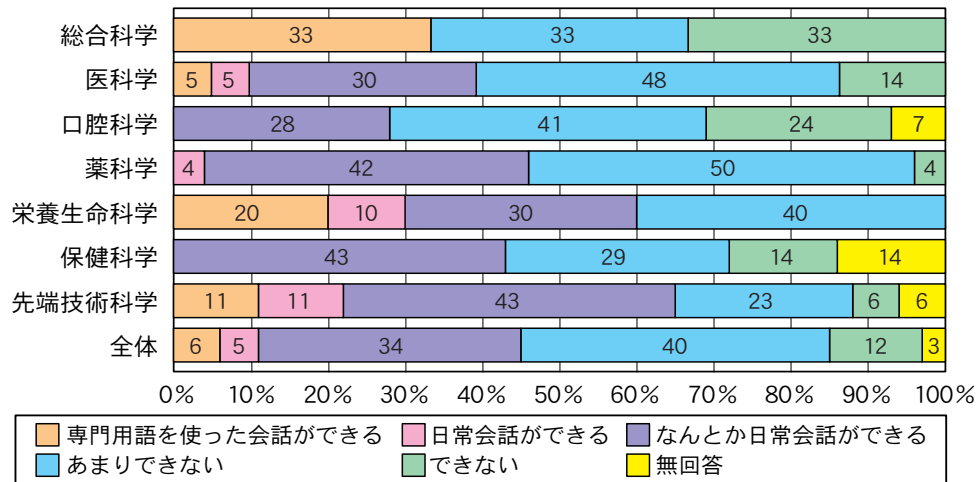
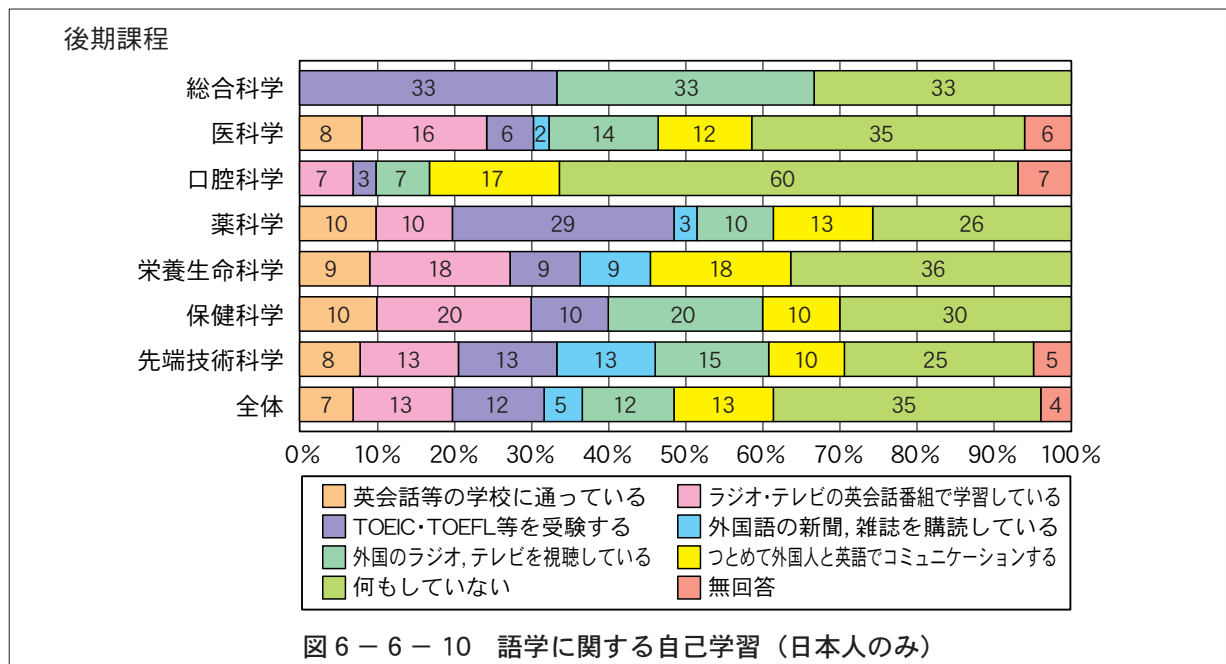
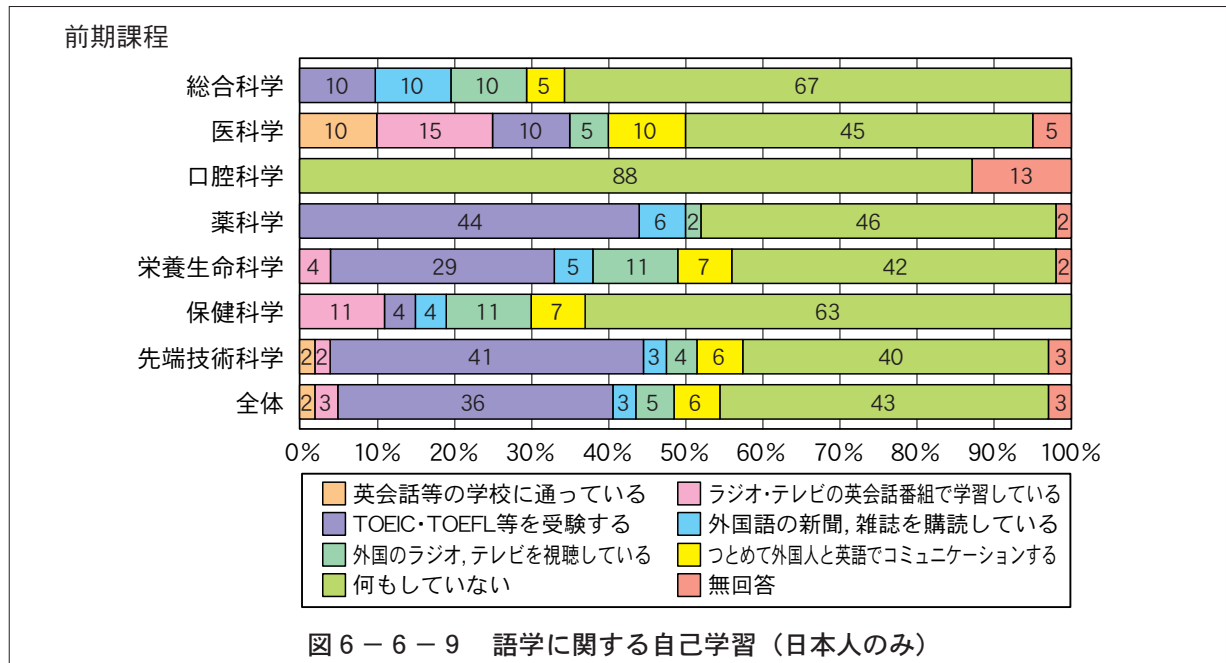


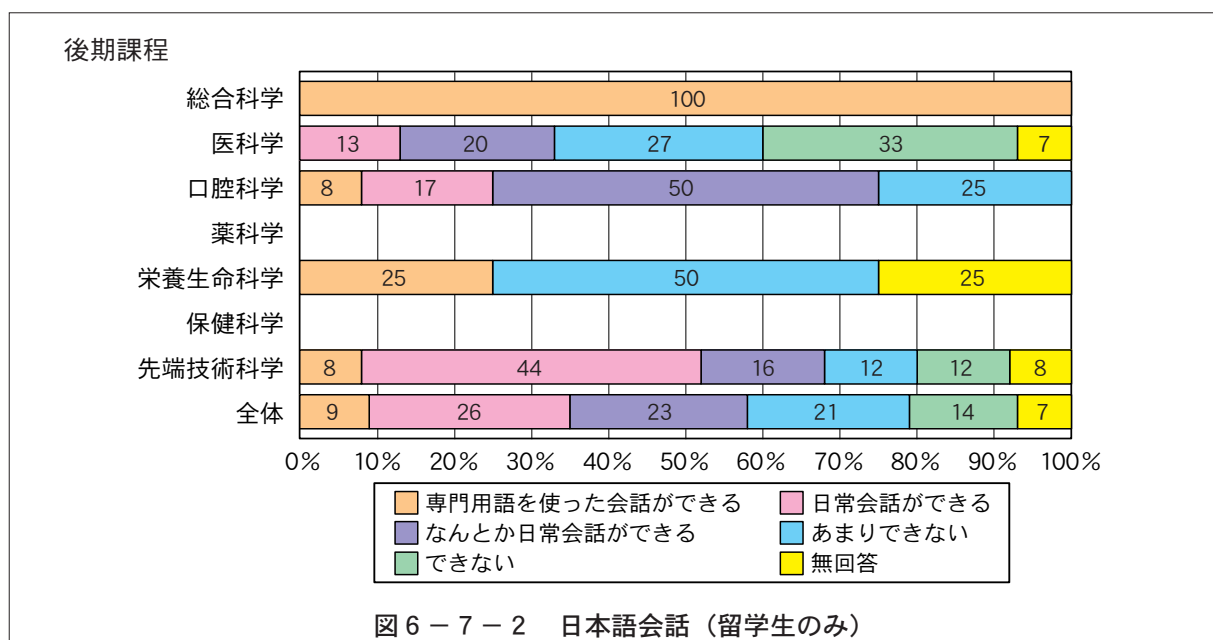
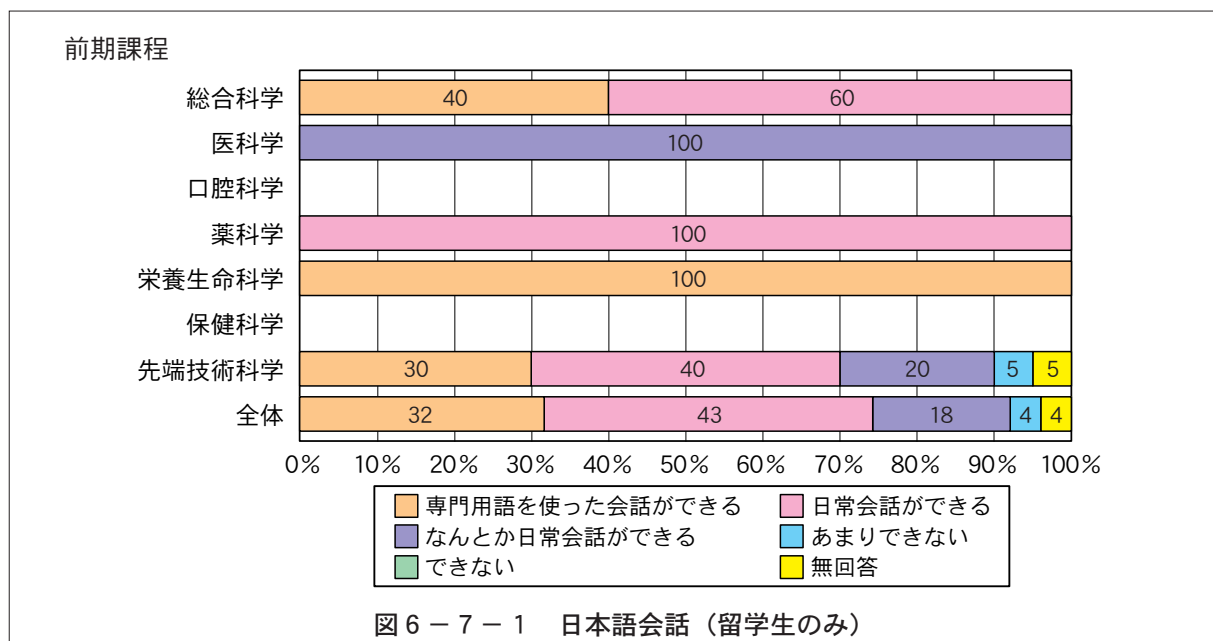
図 6 - 6 - 8 英会話（日本人のみ）

な方法で学習を行っていることがわかる。語学の学習努力を行っていない学生を減らすためには、国際学会への参加を義務化するなどの、きっかけづくりを含め、英語による教育カリキュラムの整備、大学院生が個人的に語学学習しやすくするための経済的援助、学内の留学生との交流など多面的な対策を検討する必要がある。



6-7 日本語会話 (図 6-7-1~6-7-6)

前期課程では93%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対して、後期課程では58%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている（図6-7-1, 図6-7-2）。なお、前期課程の回答者は28名で、その内20名は先端技術科学であり、各教育部別のデータの分析は不可能である。今後の国際化の発展に伴って、留学生自身の日本語習得にたよることなく、事務手続き等、英語によって学生のサポートを可能とする体制の整備が必須である。



前期課程では78%，後期課程では86%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前受講したことがある」、「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる（図6-7-3，図6-7-4）。

また、日本語コースの満足度については前期課程で100%，後期課程で100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる（図6-7-5，図6-7-6）。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

前期課程

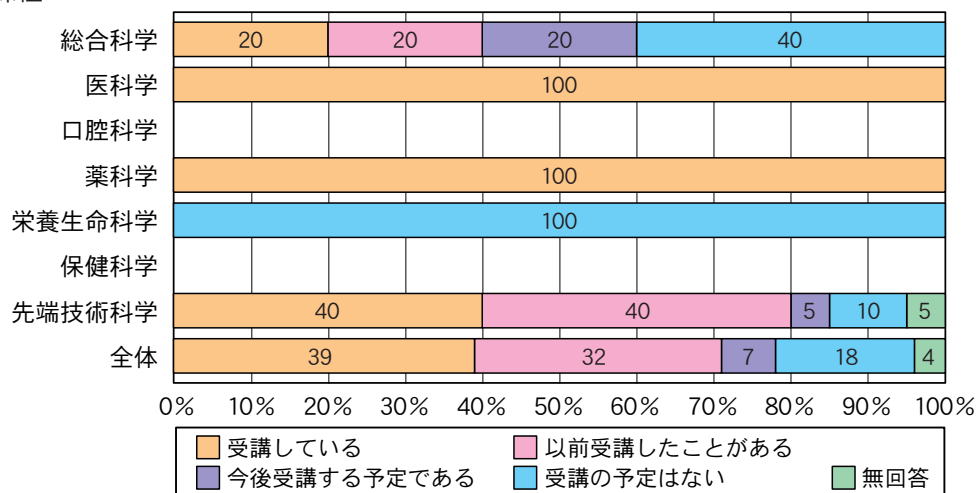


図 6 - 7 - 3 日本語コースの受講（留学生のみ）

後期課程

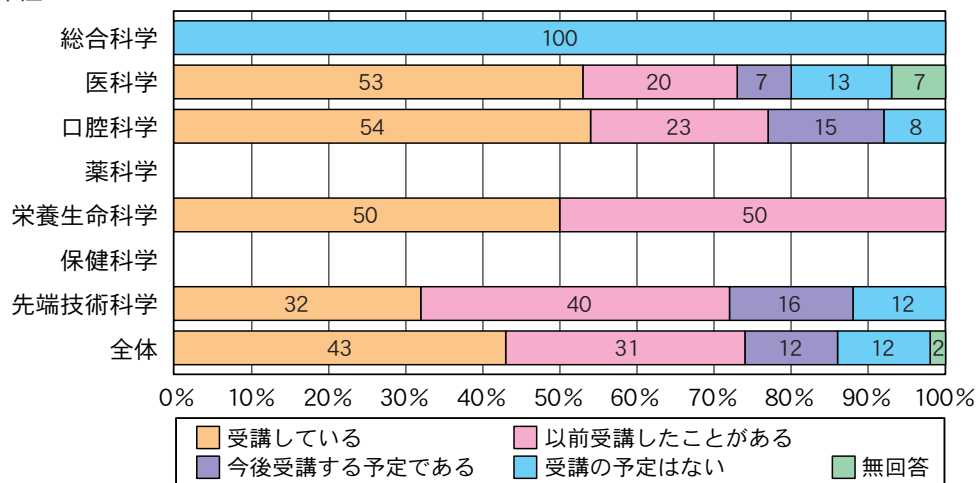


図 6 - 7 - 4 日本語コースの受講（留学生のみ）

前期課程

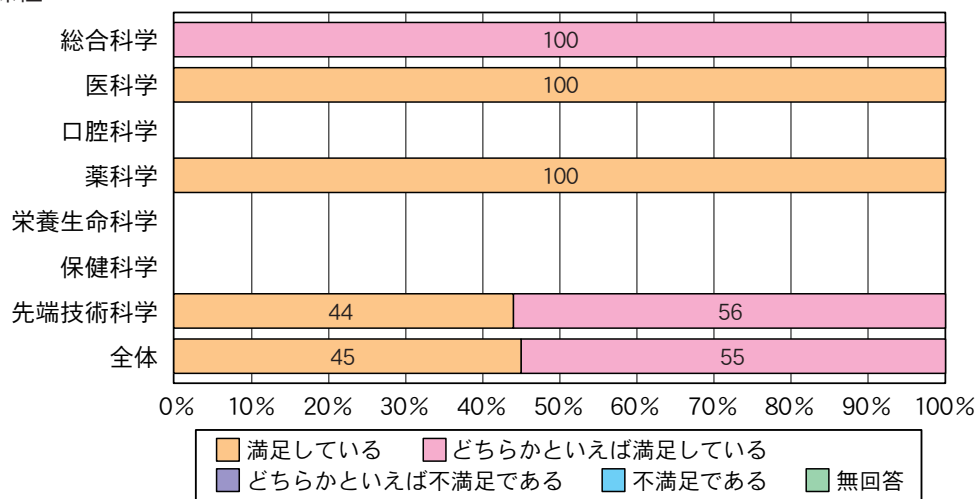
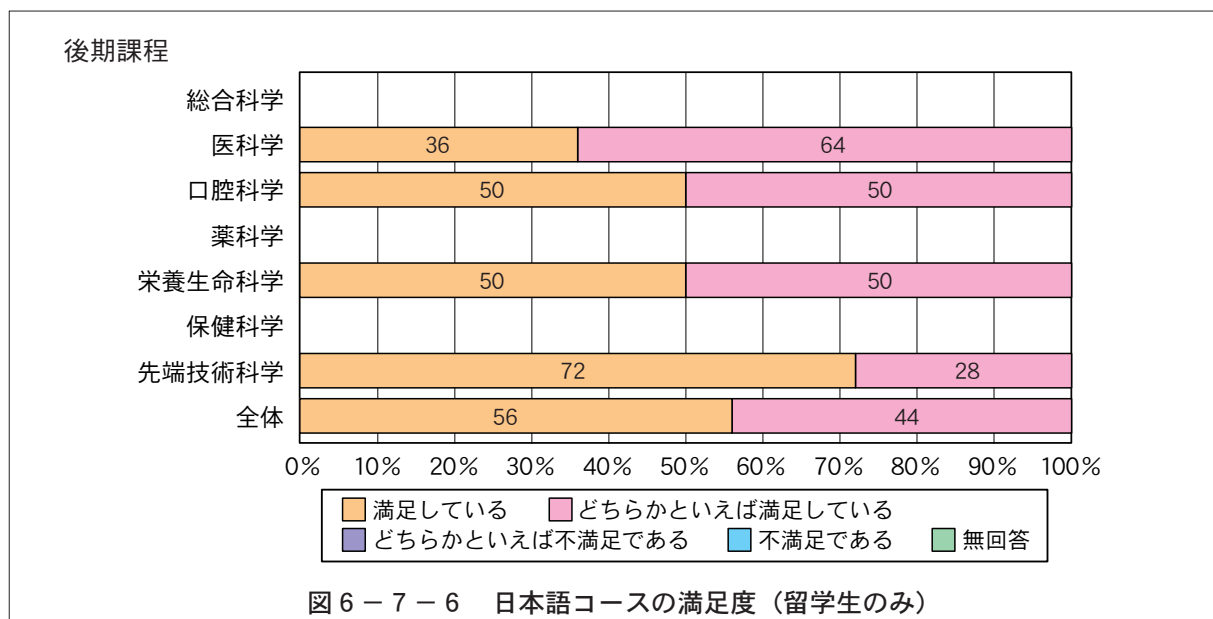


図 6 - 7 - 5 日本語コースの満足度（留学生のみ）

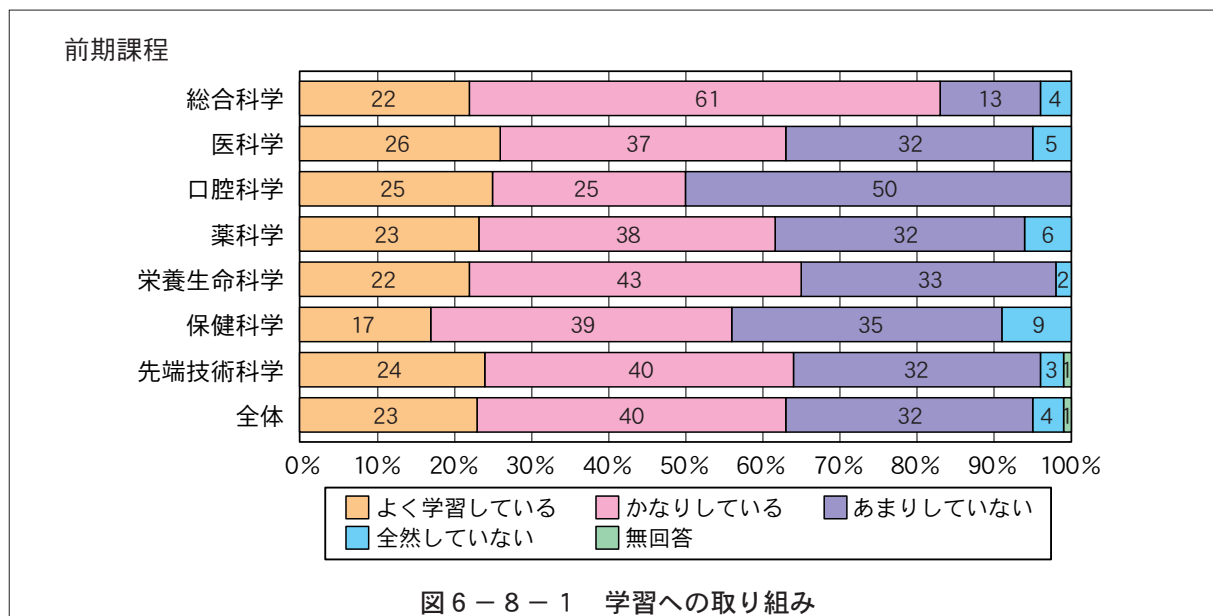


6-8 学習への取組みと本学の教育への期待 (図6-8-1~6-8-8)

大学院での学習への取組み状況についての質問に対して、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生は前期課程全体で63%，後期課程全体68%である(図6-8-1, 図6-8-2)。これは第3回調査の61%および69%に比べるとほぼ同じであり、学習量が増加していない。教育部別では前期課程の総合科学が80%を超える学生がよく学習していると答えているのに対して、前期課程の口腔科学、保健科学、後期課程の総合科学では40%を超える学生が「あまりしていない」、「全然していない」と回答しており、学習意欲がやや低いことが窺われる。

一方、留学生は、前期課程全体で85%，後期課程全体で91%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っており、一般学生の学習意欲を高めるための取組みが急務と言える(図6-8-3, 図6-8-4)。

「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」として、6種類の選択肢を選んでもらった設問では前期課程、後期課程ともほぼ均等に意見が分かれた。これは第3回調査でも同じ結果が得られて



後期課程

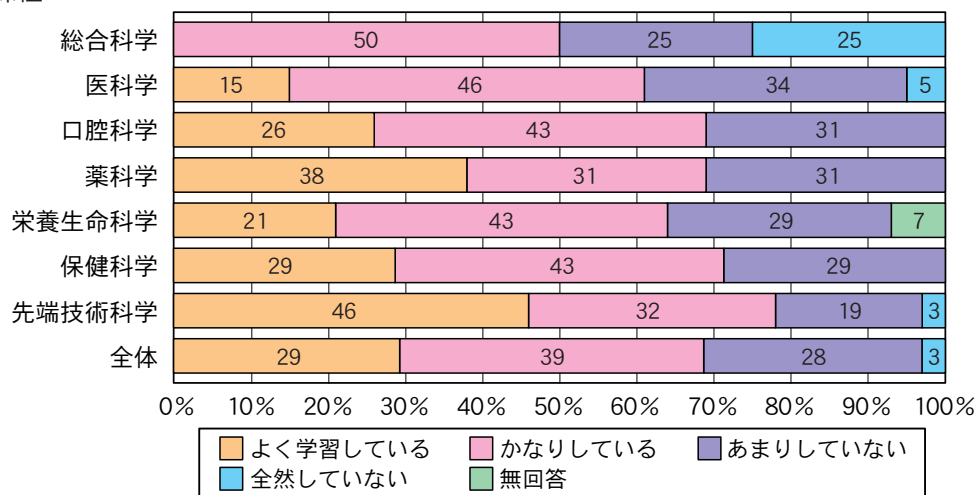


図 6 - 8 - 2 学習への取り組み

前期課程

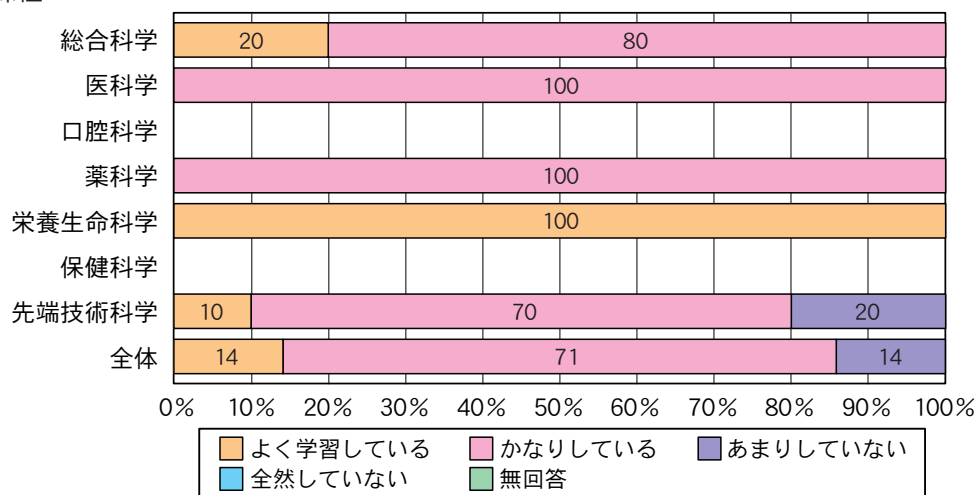


図 6 - 8 - 3 学習への取り組み (留学生のみ)

後期課程

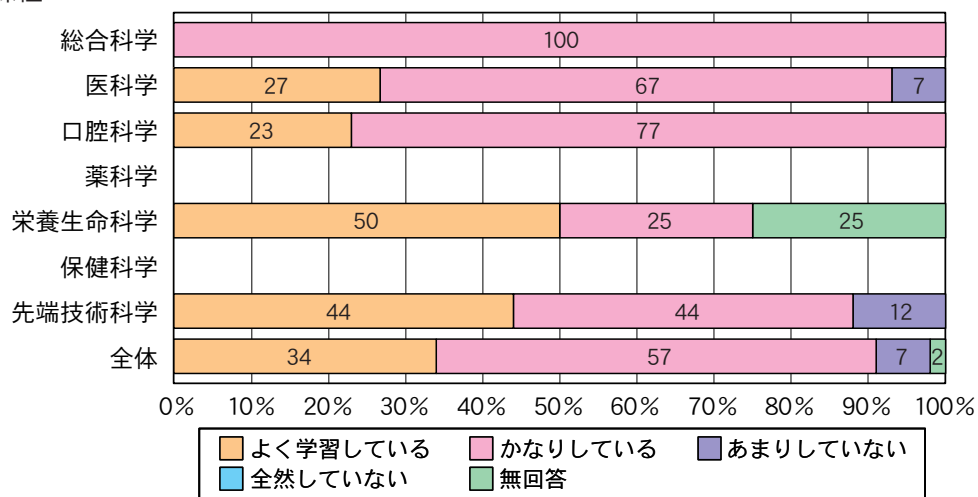
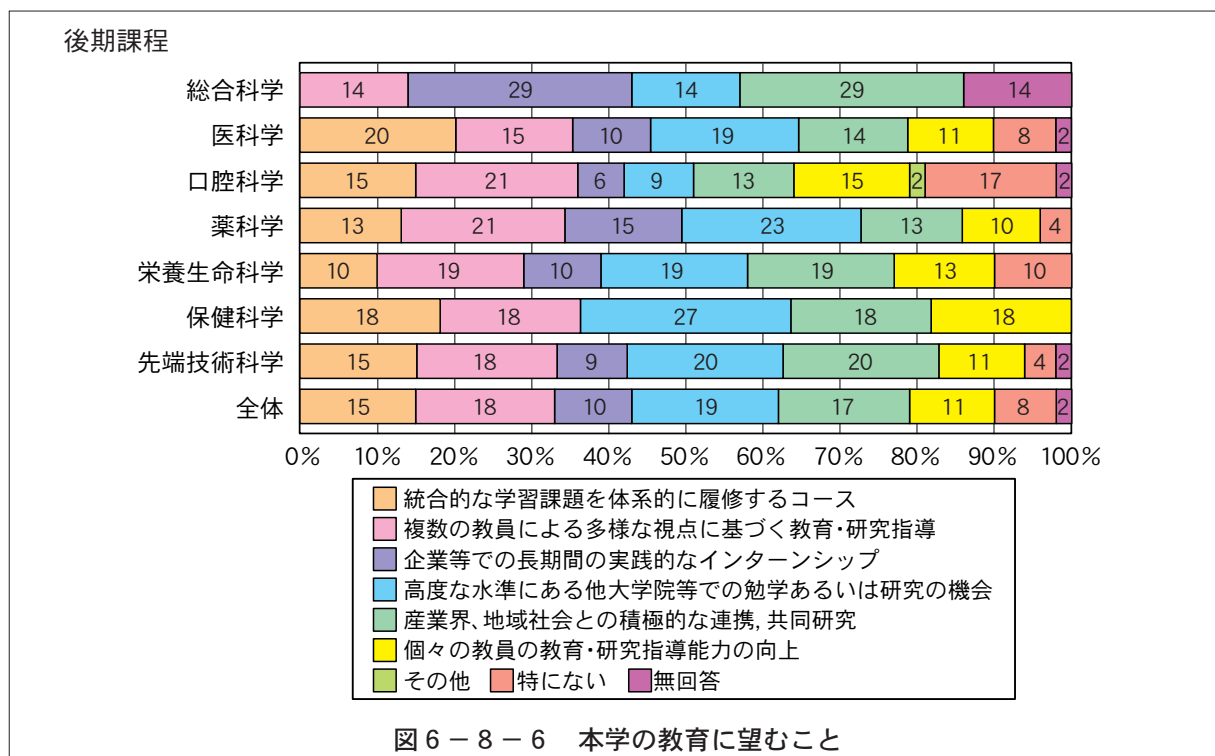
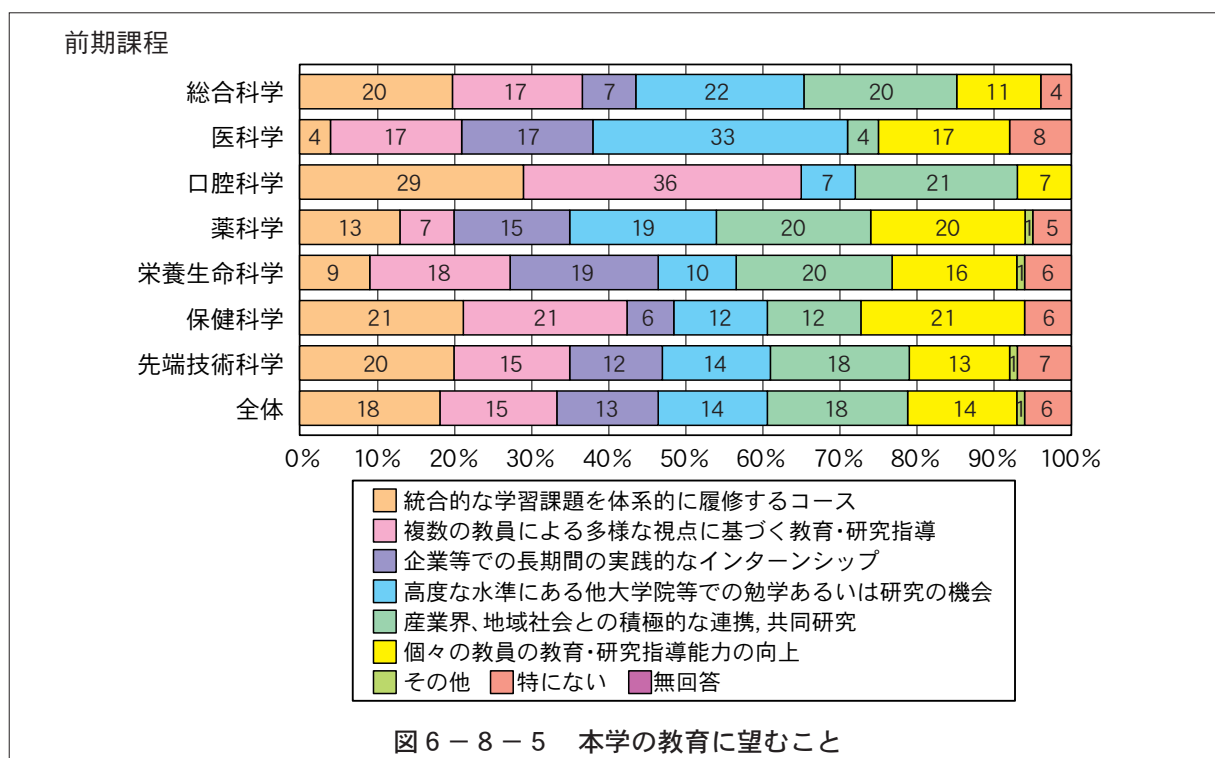


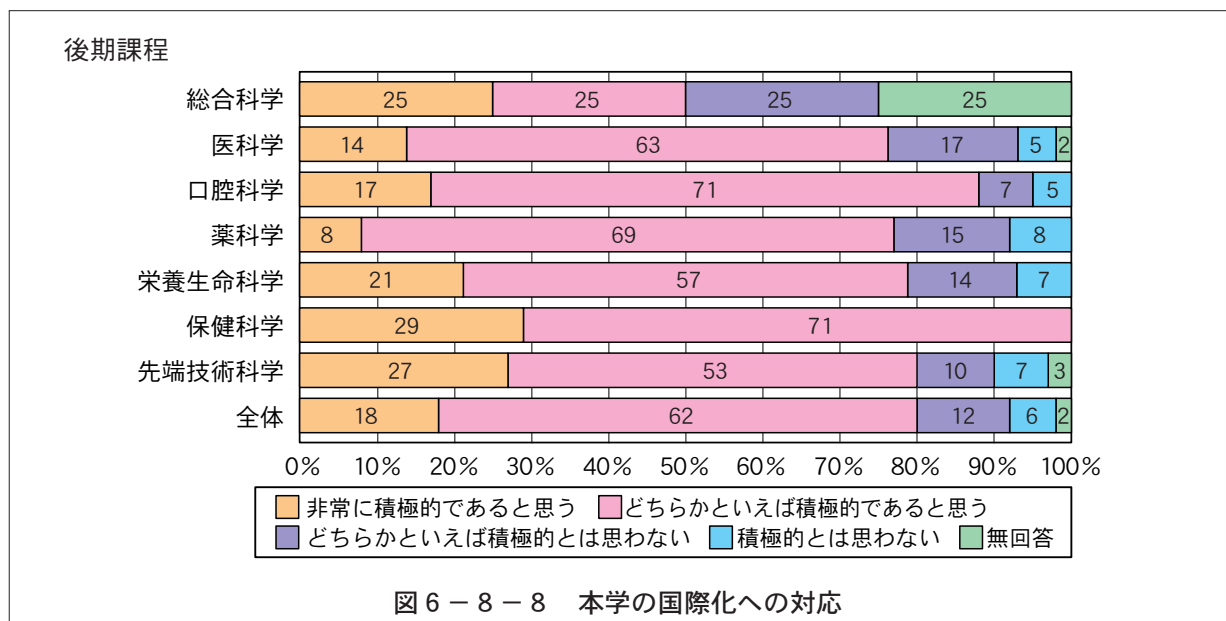
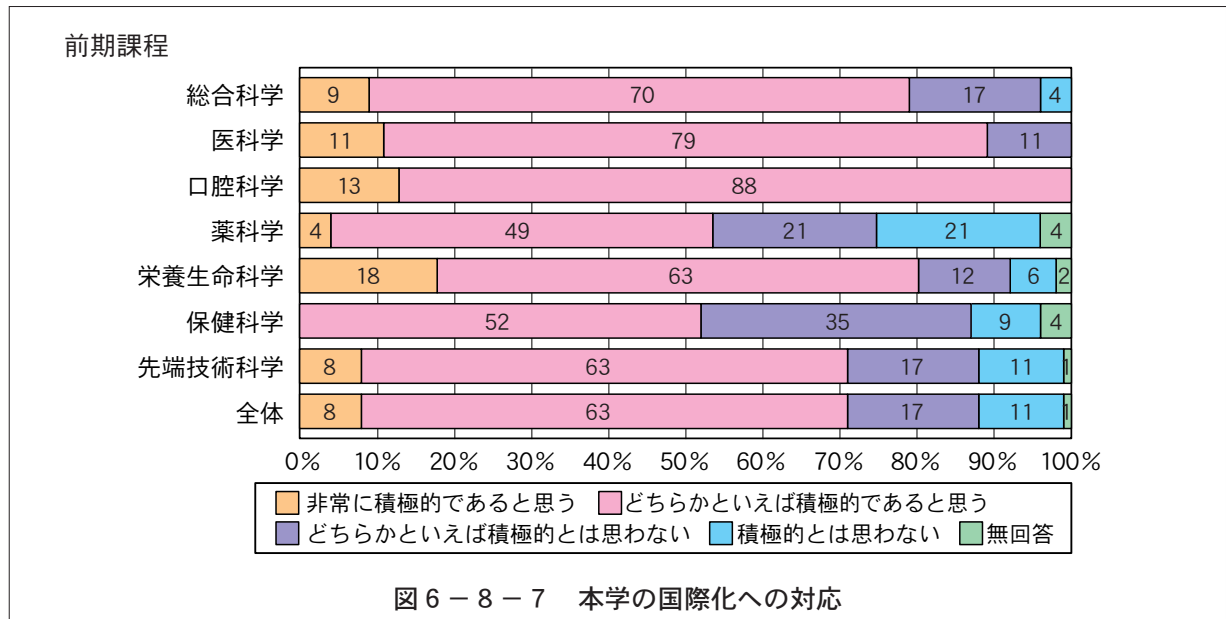
図 6 - 8 - 4 学習への取り組み (留学生のみ)

おり、選択肢の内容から学生ごとにニーズが異なると考えられ、学生毎のきめ細かい対応を図る必要があると考えられる（図6-8-5、図6-8-6）



本学の国際化への対応については、前期課程の71%、後期課程の80%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と回答しており、本学の国際化を進めるための取組みについてある程度大学院生は評価している（図6-8-7、図6-8-8）。また、留学生に注目した場合には前期課程の86%、後期課程の97%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えている。こうした結果は第3回調査とほぼ同じであり、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられる。一方、学生側は英会話習得に向けての学習努力や国際

学会における発表経験など、大学側に比べて十分な対応がなされているとは言い難い。さらに、各教育部において、教育カリキュラムの組織的展開を強化し、国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。大学院生の大学の国際化への対応の評価が直接大学生自身の努力や学会経験につながるよう、さらなる改善が必要である。



第7章 進路選択・就職について

7-1 後期課程への進学意思 (図7-1-1, 図7-1-2)

前期課程学生の後期課程への進学意思が高いのは医科学で、質問項目74で「進学したい」の回答は32%、「経済的支援があれば進学したい」は28%に達した。次いで、「進学したい」との回答は口腔科学で25%、薬科学で19%、栄養生命科学で14%であった。総合科学については「経済的支援があれば進学したい」の比率が高く、「進学したい」との回答と合わせて26%が進学希望であった。このように、医科学・総合科学では経済的な問題が解決されれば進学を考える前期課程の院生もいることから、こうしたポテンシャルな院生に対して経済的支援を行うことで、博士後期課程進学者が増えることも期待できる。

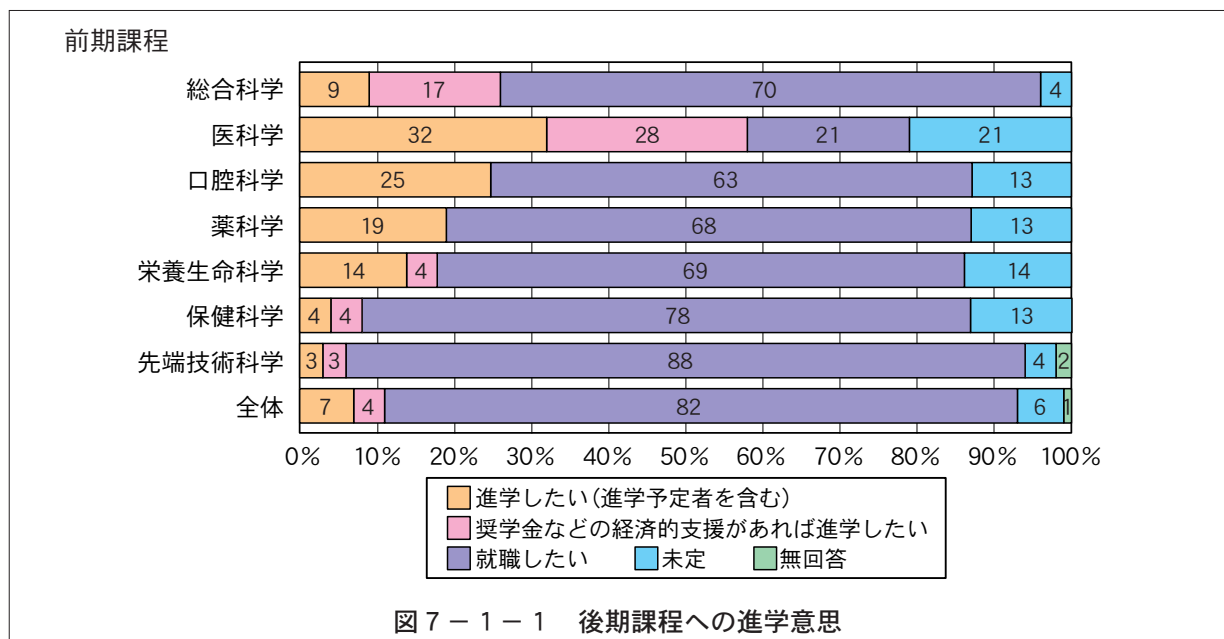


図7-1-1 後期課程への進学意思

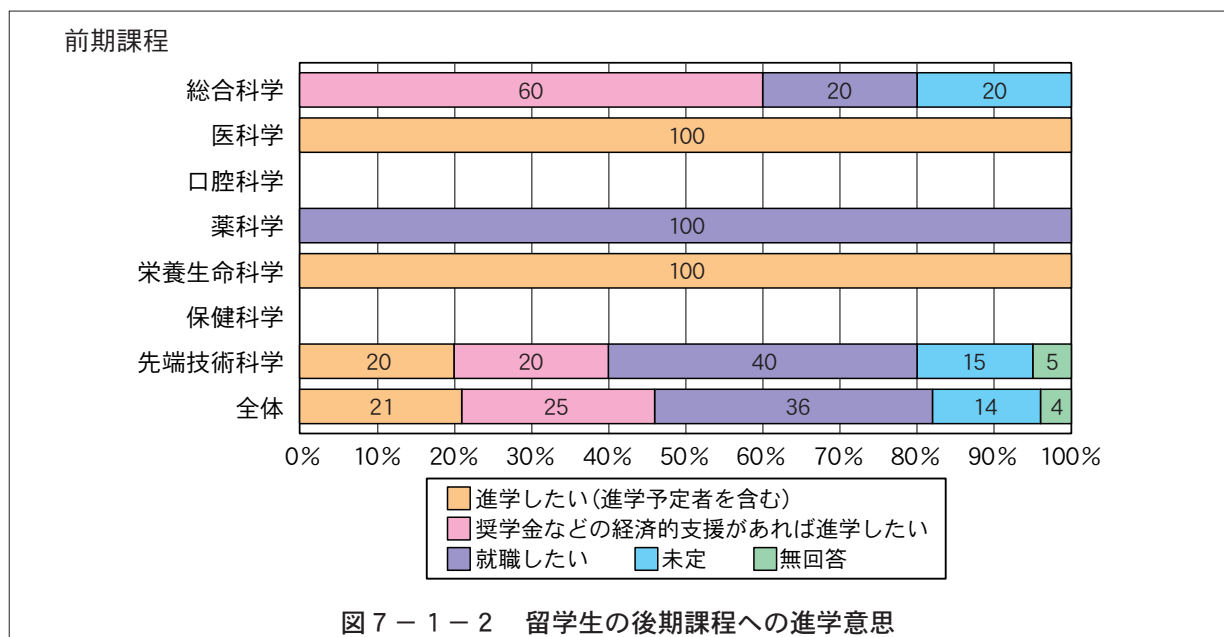


図7-1-2 留学生の後期課程への進学意思

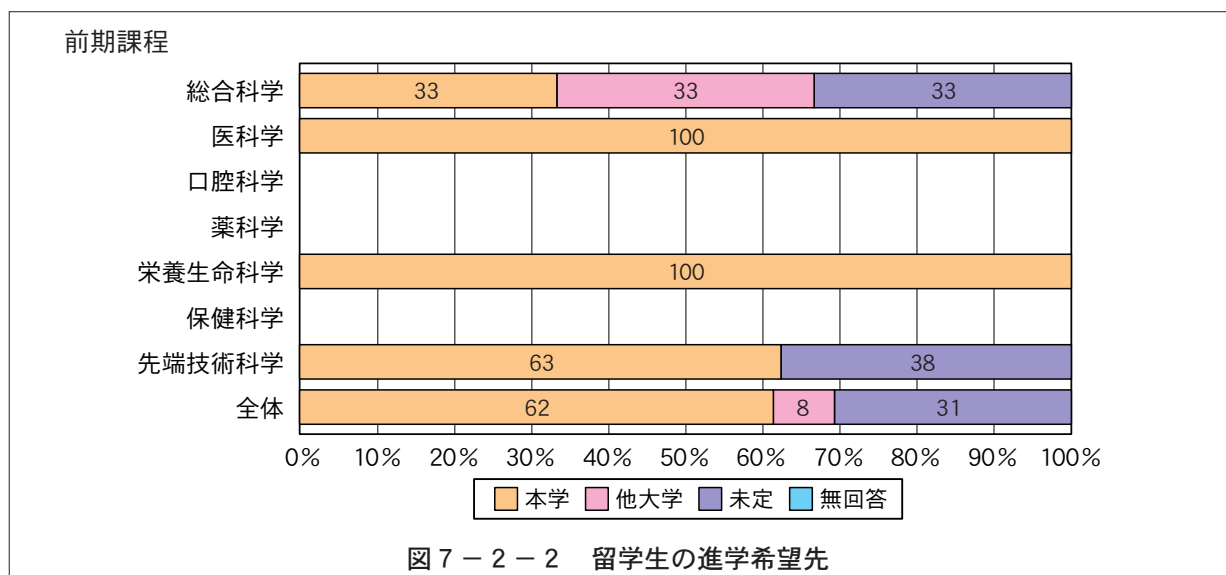
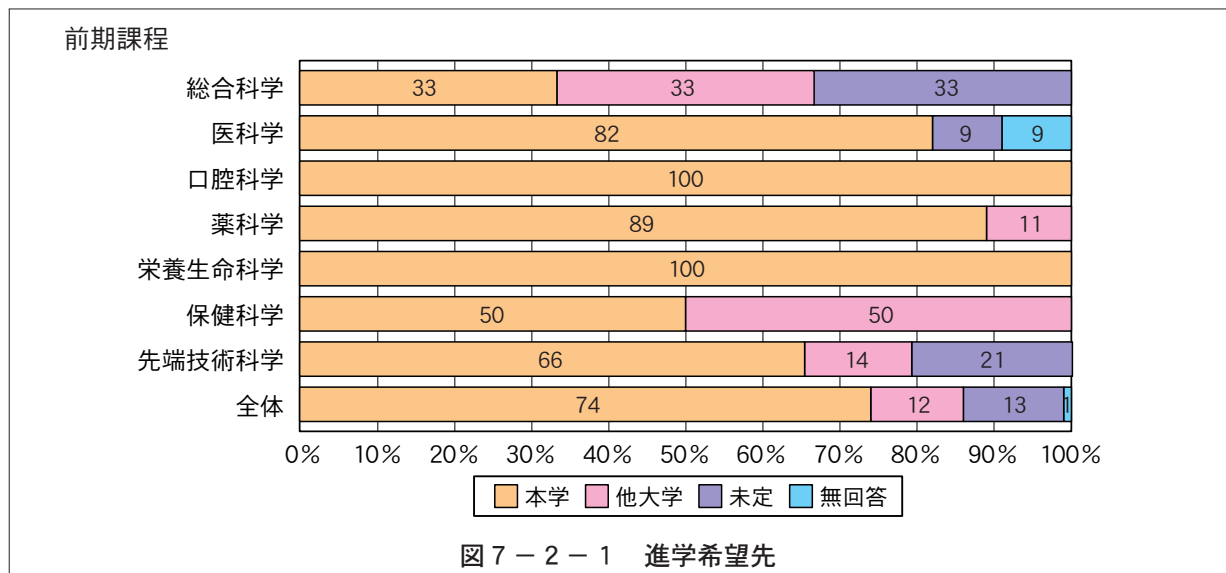
逆に先端技術科学の88%をはじめ、医科学を除く他の教育部はいずれも60～80%が回答3「就職し

たい」と選択しており、全体でも82%が回答3と答えている。今回の回答3は「就職したい」という選択肢で、これを第3回調査における「進学しない」という選択肢と比較すると、医学科を除いて全体的に就職指向が強まっている。項目7-3で後述するが、先端技術科学の前期課程院生の過半は企業等の技術職や研究職を目指していることから、就職希望者が圧倒的に多い。

なお留学生の回答数は、総合科学5名、医科学・栄養生命科学・薬科学が各1名、先端技術科学20名で、回答1・2と回答した者が13名、回答3が10名、回答4・5が5名と、相対的に進学意欲を持つ学生が多い。

7-2 進学希望先 (図7-2-1, 図7-2-2)

前項目で進学意思を示した学生の進学希望先大学院調査である。全体で74%が本学の後期課程に進学することを希望している。回答数は少ないものの、口腔科学2名、栄養生命9名の全員、薬科学は9名中8名、医科学は11名中9名、先端科学も29名中19名が本学の後期課程を希望している。他方、保健科学では2名中1名が他大学、総合科学では6名中2名が他大学、同じく2名が未定と回答している。とくに医療系の大学院生については本学志望者が多く、継続した研究環境を望んでいるものと思われる。



留学生については総数が13名と少なく、留学生がいない教育部もあるため判断が難しいが、うち8名が本学の後期課程を希望していることから（他大学1名、未定4名）、継続した研究環境を望んでいるものと思われる。

7-3 就職希望職種 (図7-3-1~図7-3-4)

図7-3-1は、項目7-1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生の就職希望職種である。「進学しない」が88%であった先端技術科学では技術職56%（第3回調査59%）、企業等の研究職17%（第3回調査19%）、薬科学でも企業等の研究職50%（第3回調査31%）、技術職26%（第3回調査14%）と企業への就職目的に前期課程の修了を目指していることが窺われる。保健科学では64%が専門職（医師等）と回答しているが、第3回調査で同回答が24%を占めた薬科学では今回は13%に減少している。その他の教育部では希望職種が広く分散する傾向にあるが、総合科学・栄養生命科学・口腔科学では公務員希望者もそれぞれ23%、17%、17%を占め、医科学では8名中2名が大学・官公庁の教育・研究職を希望している。

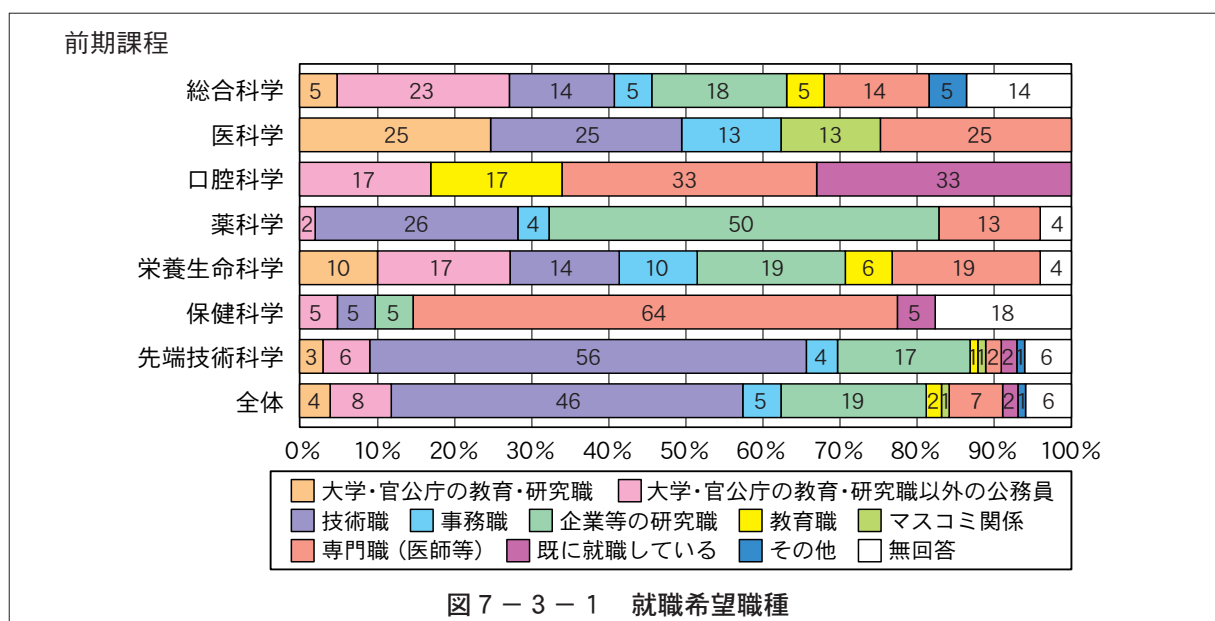


図7-3-1 就職希望職種

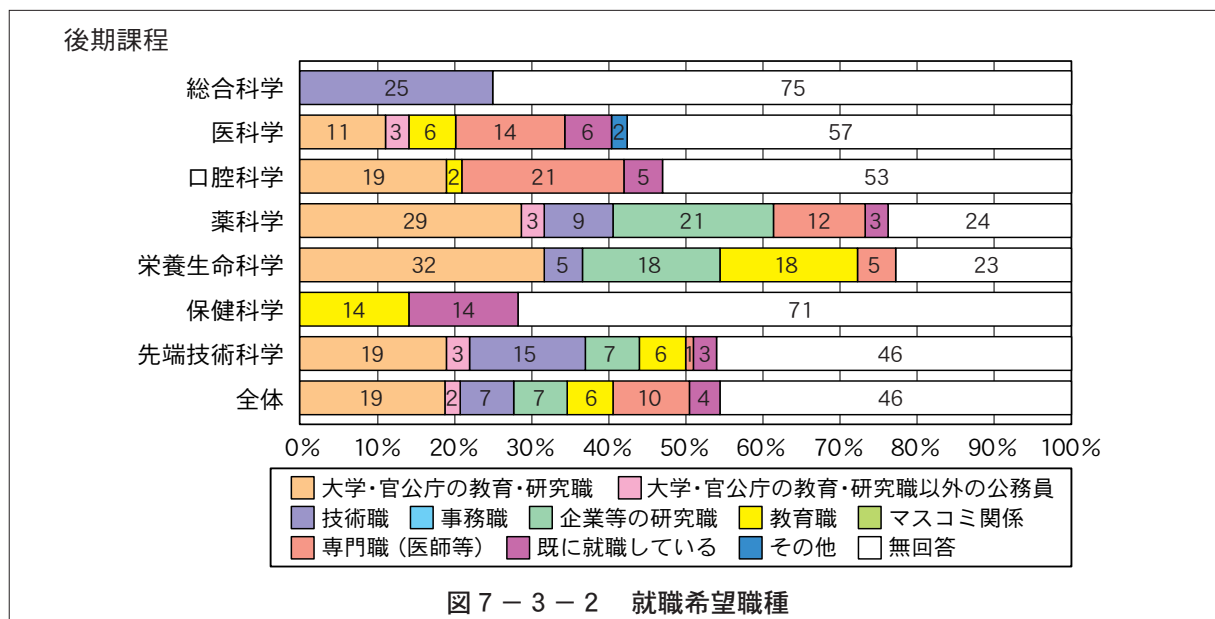
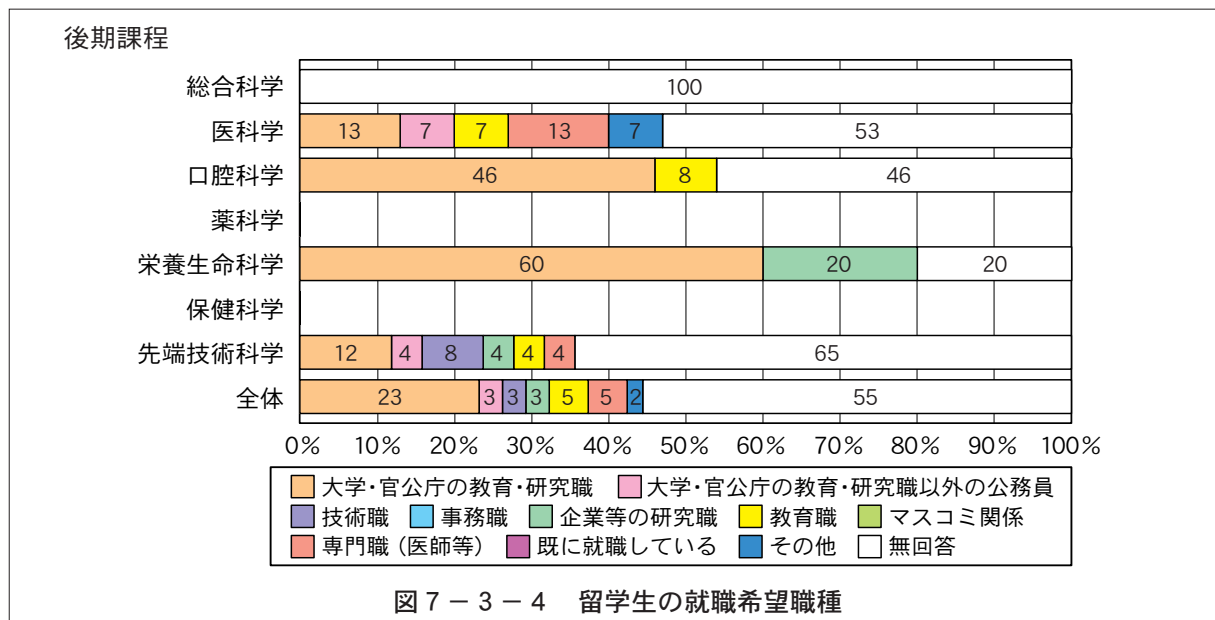
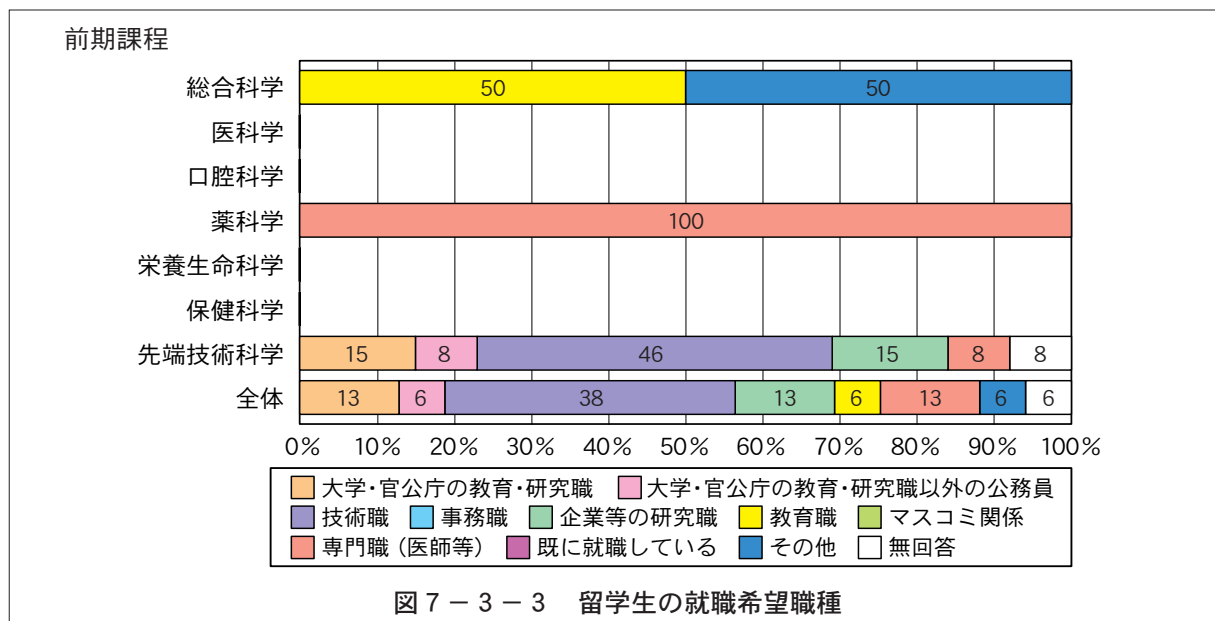


図7-3-2 就職希望職種

図7-3-2は後期課程の院生に就職希望職種を尋ねたものである。全回答者数245名中113名(46%)が無回答であった。全体では、大学・官公庁の教育・研究職を希望しているものが比較的多いが、専門職(医師等)、技術職、企業等の研究職、教育職に分散している。

留学生に関しては、博士前期の回答者は15名(総合科学2名、薬科学1名、先端技術科学12名)であり、後期課程の回答者は27名(医科学7名、口腔科学7名、栄養生命科学4名、先端技術科学9名)である。前期課程では技術職が38%と多く、大学・官公庁の教育・研究職や企業等の研究職、専門職(医師等)が13%で続く。後期課程では無回答が55%を占めるが、23%が大学・官公庁の教育・研究職を志望している。



7-4 進路選択の要件 (図7-4-1~図7-4-4)

図7-4-1は前期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたもので3個以内の回答結果である。教育部全体では就職先の将来性・安定性27%，収入23%，能力を発揮できること18%の3点が主要要件になっており，これに勤務地，社会的評価が次いでいる。全体として，就職先の将来性・安定性が大きな要件となっている。

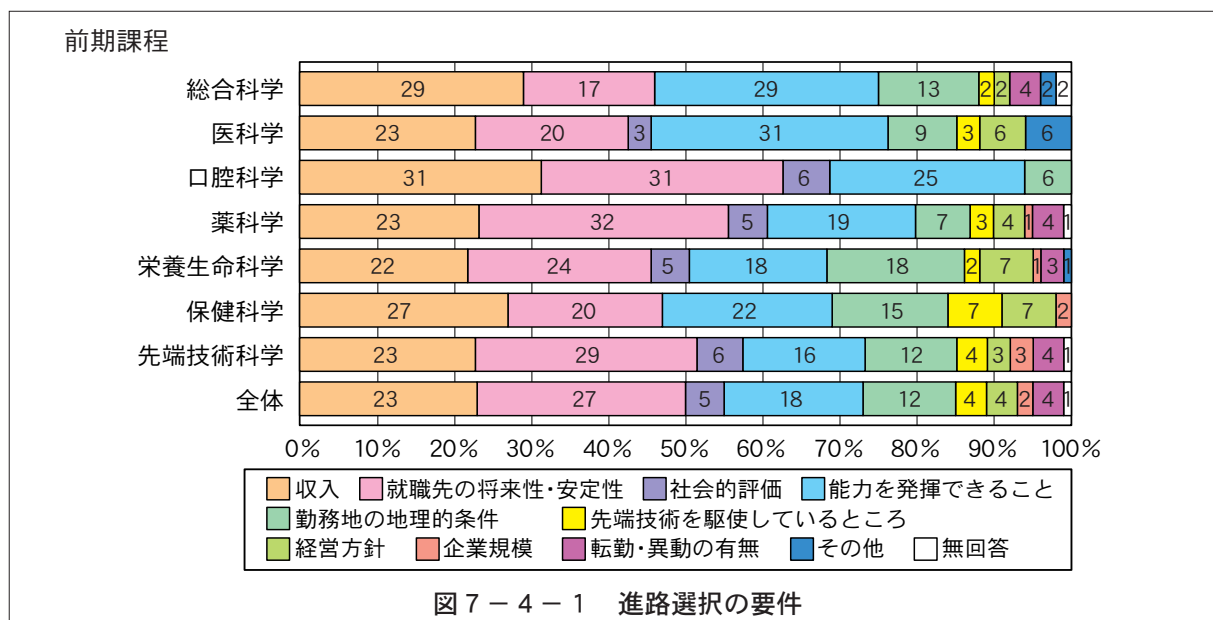
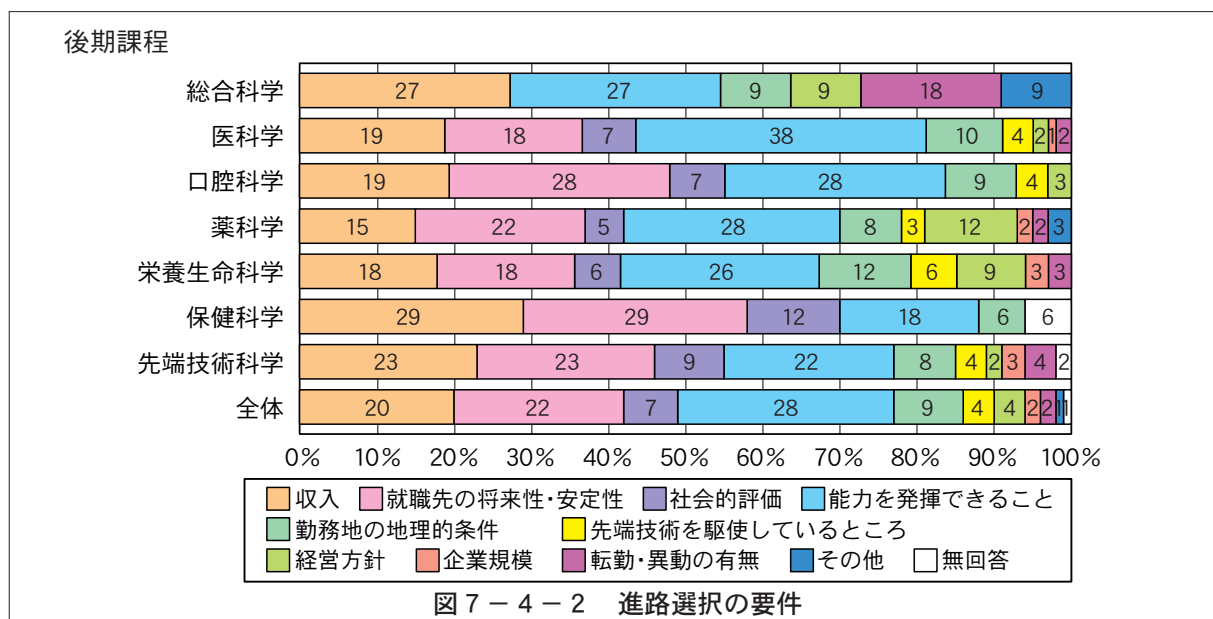
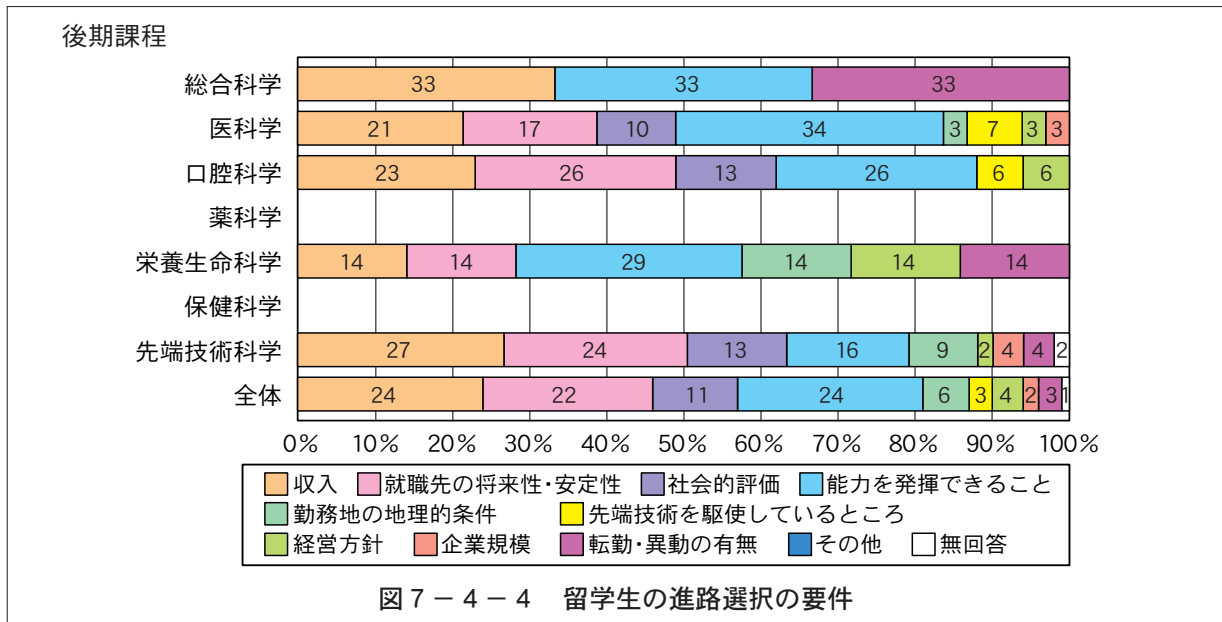
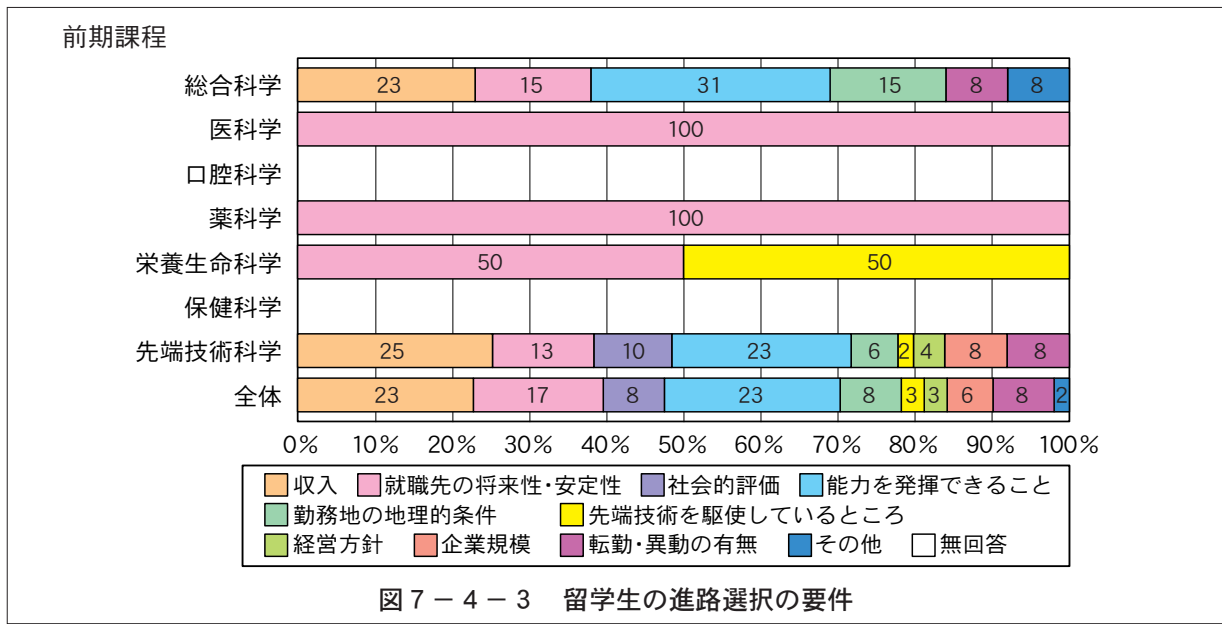


図7-4-2は後期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたものである(3個以内で回答)。前期課程と同じく能力を発揮できること28%，就職先の将来性・安定性22%，収入20%の3点が主要要件になっているものの，能力を発揮できることという，より高度な専門職に対する要望が高いといえる。総合科学では，就職先の将来性・安定性についての回答はなく，転勤・異動の有無と回答した者が2名を数えた。これは，総合科学の後期課程在学者が11名と少なく，その多くが社会人であるためと考えられる。



全体として，前期課程では就職先の将来性・安定性や収入が，後期課程ではとくに能力を発揮できることが主要点であった。留学生においても同様で，収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できる

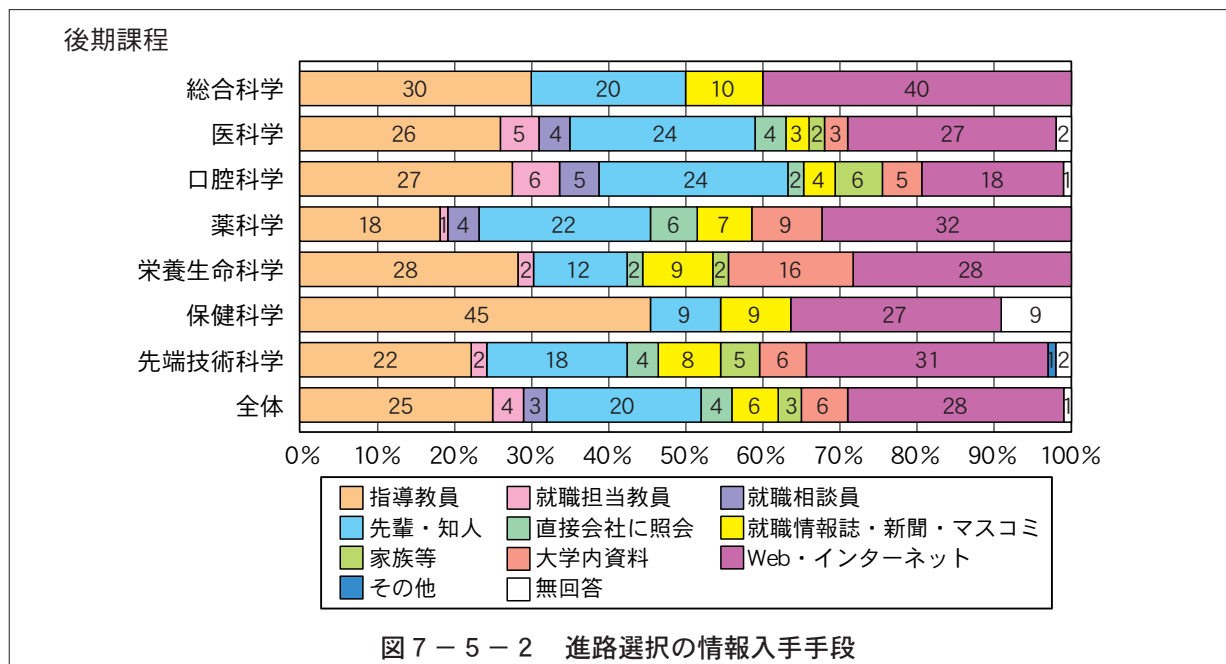
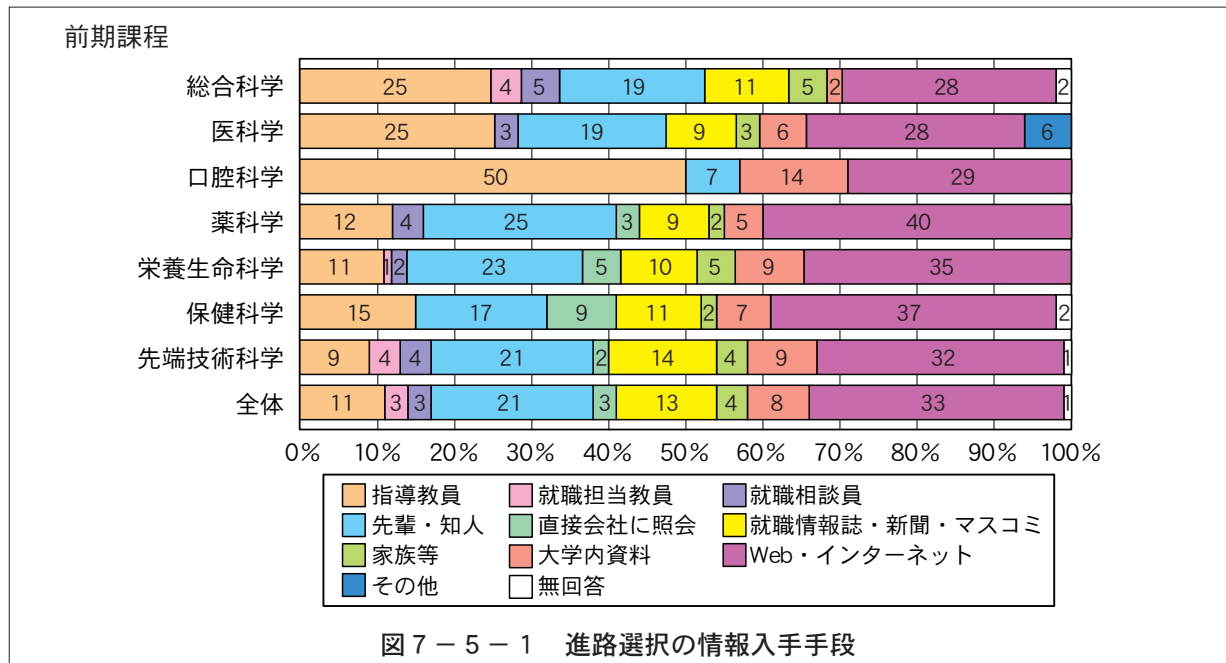
こと、の3点が主要件である。

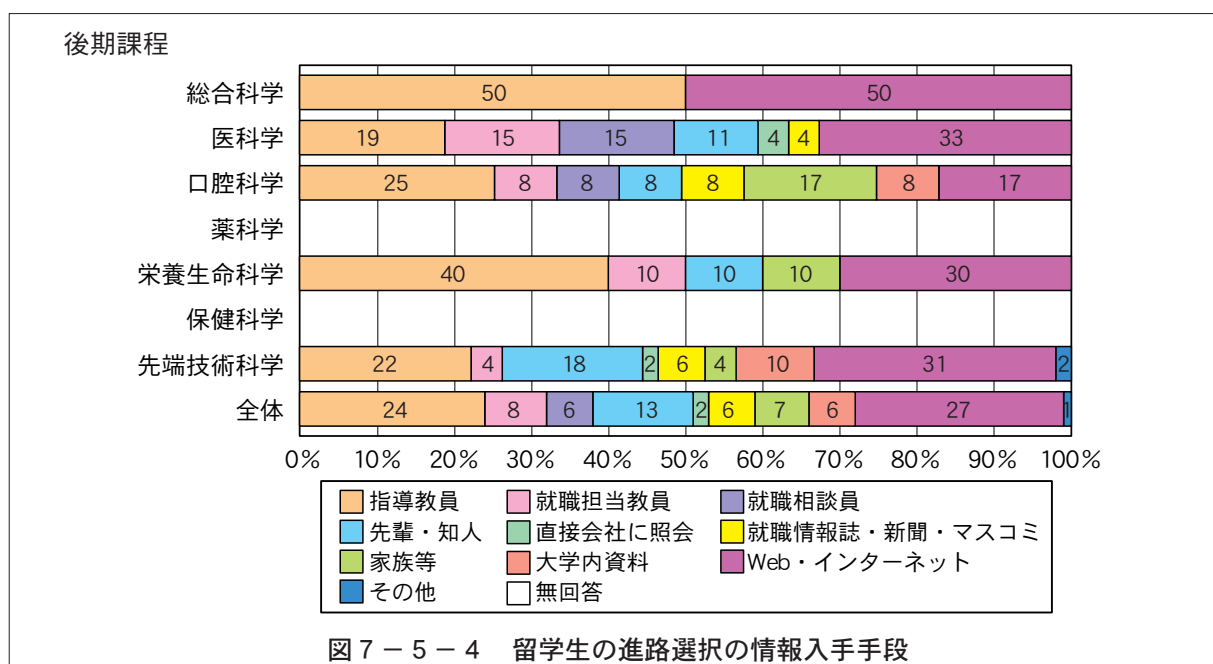
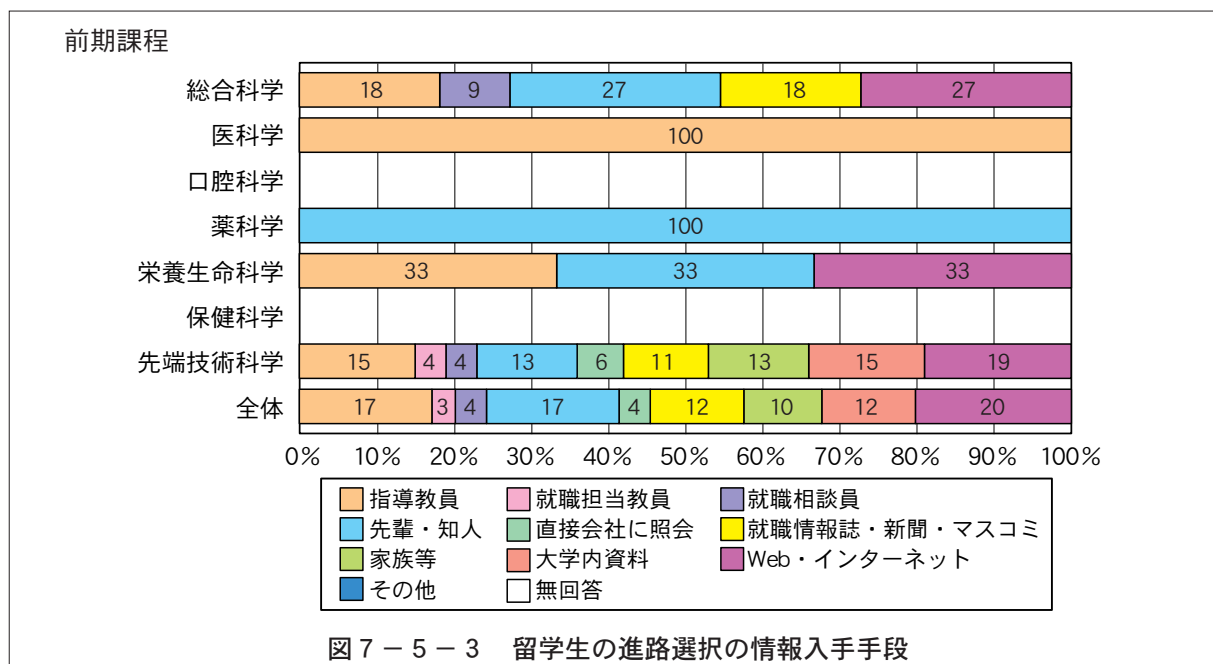


7-5 進路選択の情報入手手段 (図7-5-1~図7-5-4)

進路情報の入手手段で目立つのは Web・インターネットである。前期課程 33%、後期課程 28%ともに高比率を占めている。前期課程についてみれば、就職情報誌・新聞・マスコミを加えると、半数近い院生がオープンな情報源を活用している様子がうかがえるとともに、21%は先輩・知人からの情報も利用している。Web・インターネットでは、就職情報のほかに他大学院の進学情報の入手が容易であることも比率の上昇に寄与しているかもしれない。

大学院修了者の場合、専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。アンケート結果からも、後期課程者は前期課程者に比べ指導教員からの情報入手の割合が25%と2倍以上高い。ただし、この調査は複数回答であり、Web・インターネット、指導教員、就職担当教員並びに先輩・知人等も含めて、総合的に情報入手していると思われる。留学生においても全体としては同様の傾向が見られた。





7-6 就職支援センターの利用状況 (図 7-6-1~図 7-6-4)

本学大学院生は、58%が就職支援センターを「利用したことがない」と回答している(図 7-6-1, 7-6-2)。第3回調査結果と同様に低い利用率であり、前期課程全体では第3回調査と比較して、利用者(現在も利用している, 以前に利用したことがある)は41%と6%減であった。低い利用率の原因として、就職支援センターが主には一般企業情報を扱っているためと考えられる。

本学大学院の学生は専門性の高い資格を持ち、専門職(医師等)や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高い。この傾向は蔵本地区の医療系教育部では顕著であるものの、栄養生命科学では第3回調査に比して7%の利用増がみられた。総合科学及び先端技術科学の院生は、就職支援センターの提供する就職ガイダンスや企業説明会にかなり参加(工学部学生に匹敵する人数が参加)しており、就職支援センターを直接利用した

前期課程

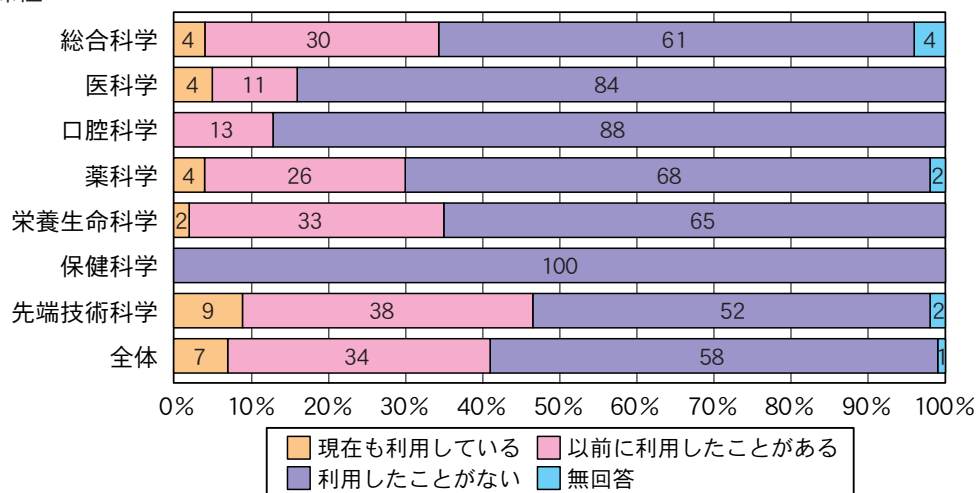


図 7 - 6 - 1 就職支援センターの利用状況

後期課程

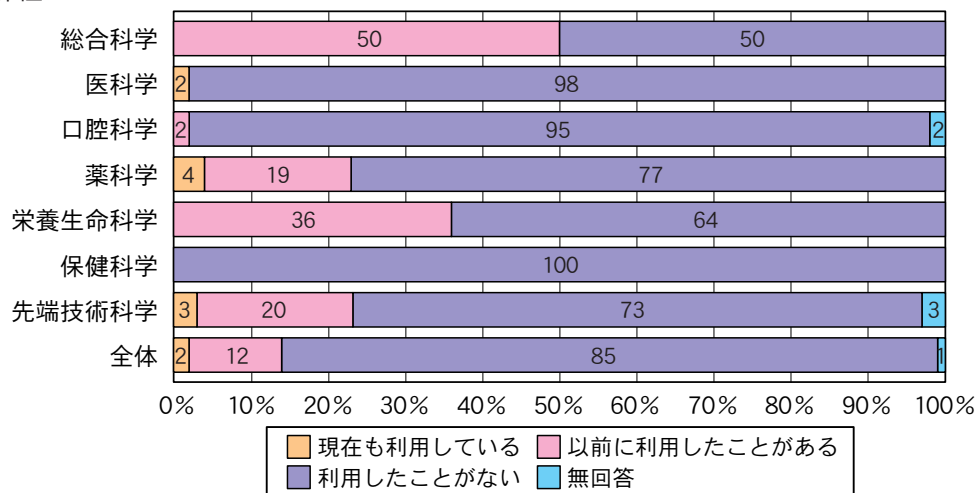


図 7 - 6 - 2 就職支援センターの利用状況

前期課程

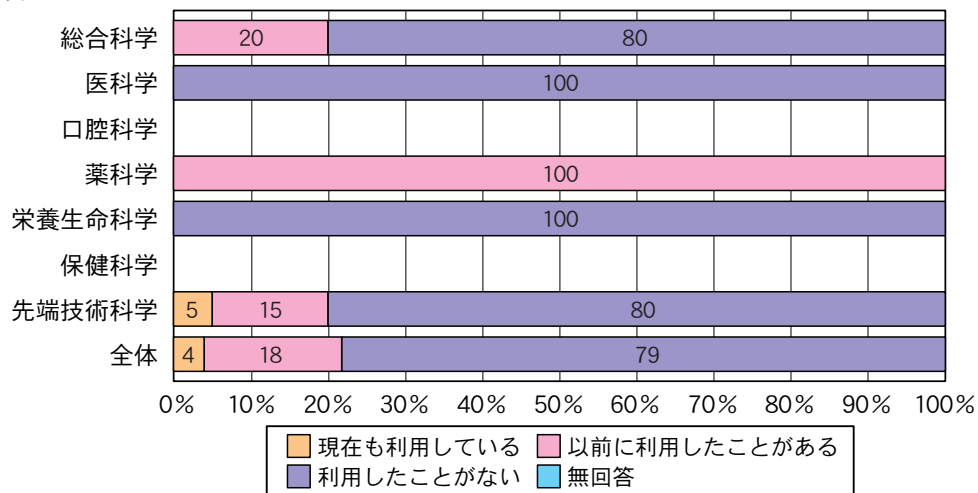
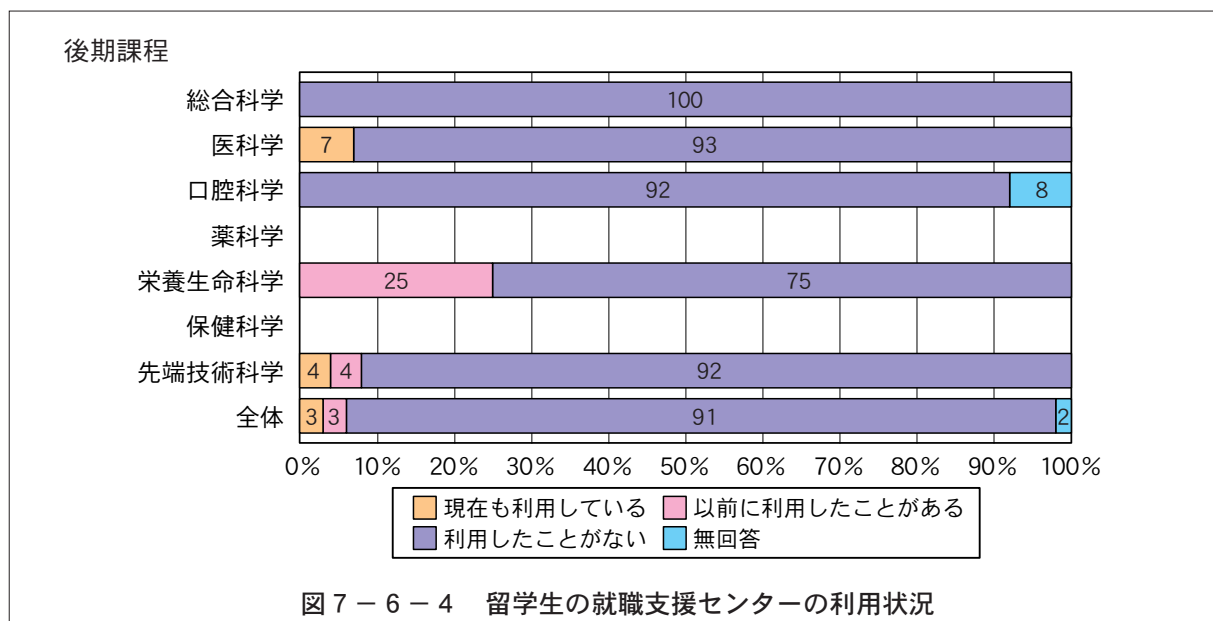


図 7 - 6 - 3 留学生の就職支援センターの利用状況



という意識はなくとも、センター主催のガイダンス等を通じたセンターの実質的な利用率はかなり高いと思われる。なお、2010年度以降、蔵本地区では就職相談室の開室日を2日に増やし、合同企業説明会を開催するなどしている。

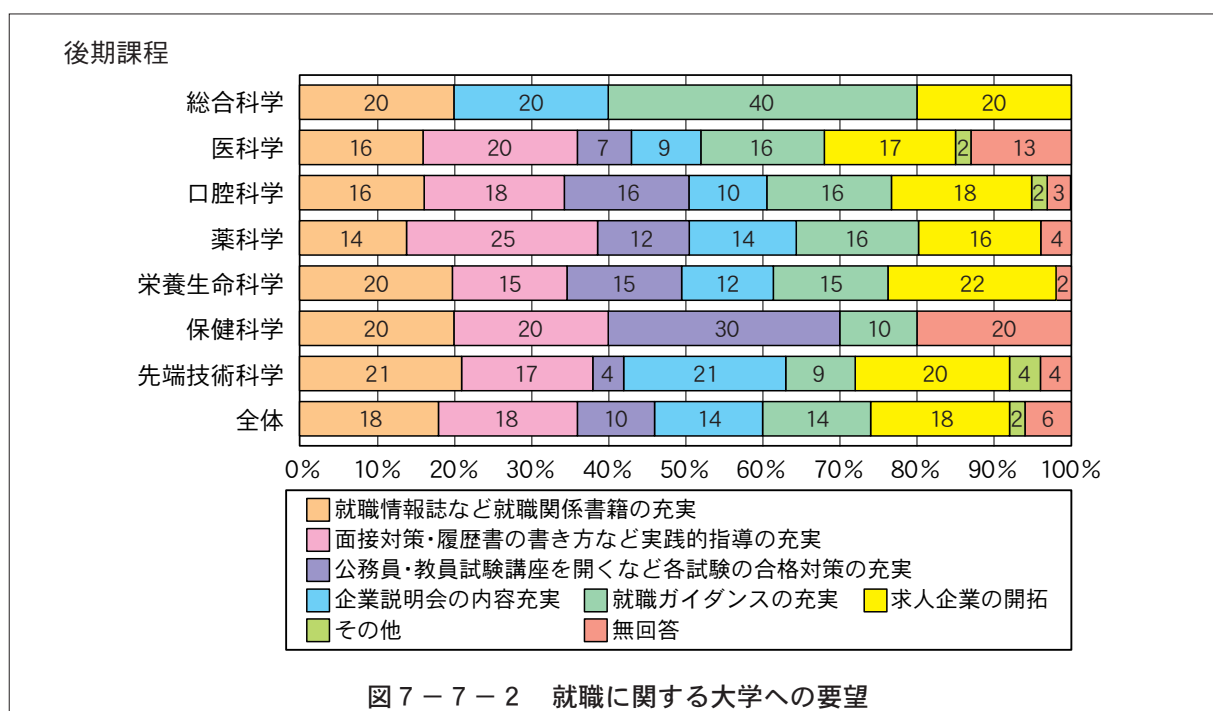
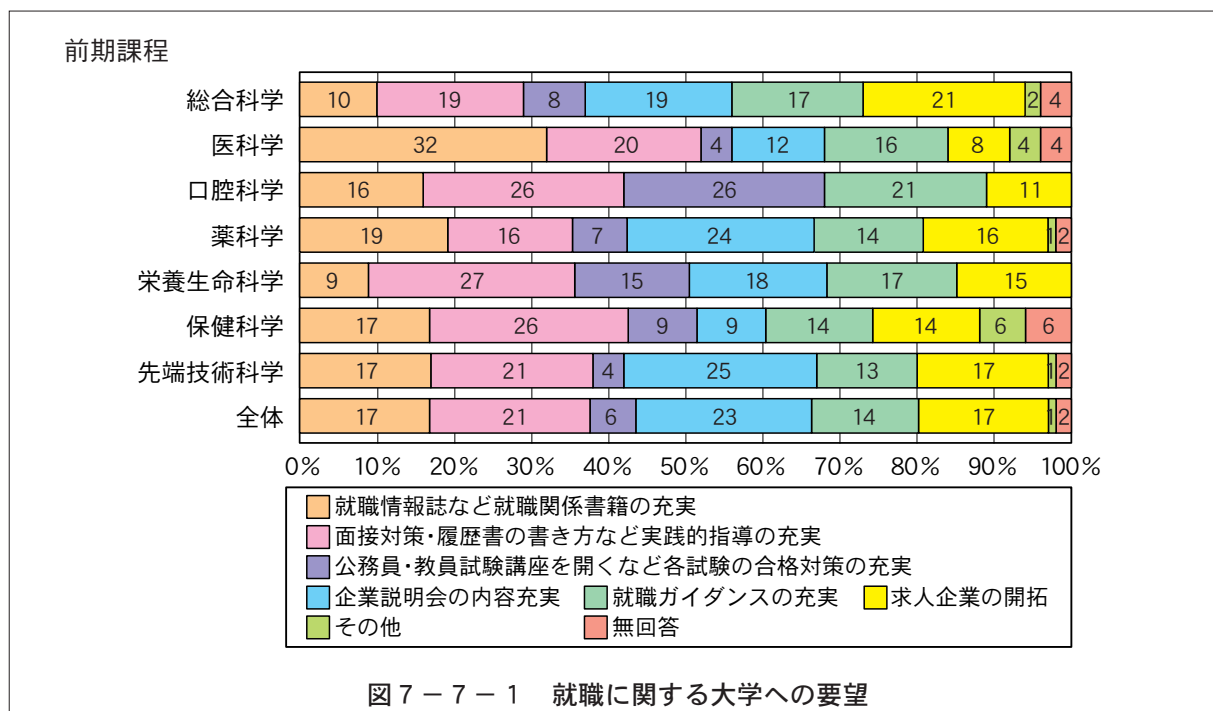
前期課程の留学生については、「現在も利用している」「以前に利用したことがある」とする回答は、第3回調査の12%から22%に増えていてセンターの利用率は上がっているが、前期課程・後期課程ともに無回答が79%・91%を占める。一般企業の求人情報などを扱っている就職支援センターの性格もあるが、各部局における院生の学修ガイダンス等において就職支援センターがほとんど周知されていないこともあり、こうした結果になっているものと思われる。

7-7 就職に関する大学への要望 (図 7-7-1~図 7-7-4)

本質問・要望(複数回答)については延べ1,510件を数え、全体として、すべての回答項目について要望が寄せられている。ただし、前項目7-6の結果では、就職支援センターの利用状況が低いにもかかわらず、これほど多くの要望件数が寄せられている点で、大学院生に対しての就職支援センターならびにそのサービス内容についての周知が不可欠といえる。就職支援センターの観点からすれば、今回の回答項目の多くはいずれも就職支援センターが取り組んでいるサービスであり、学生・院生の参加を呼びかけているものでもある。

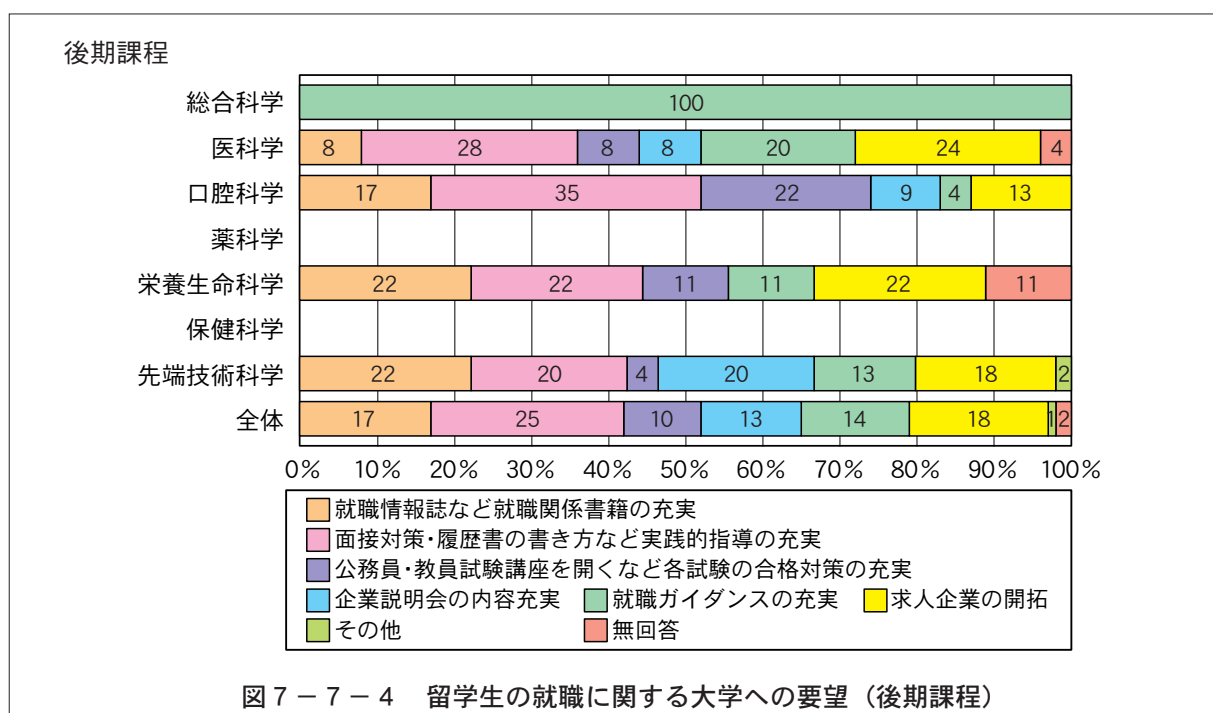
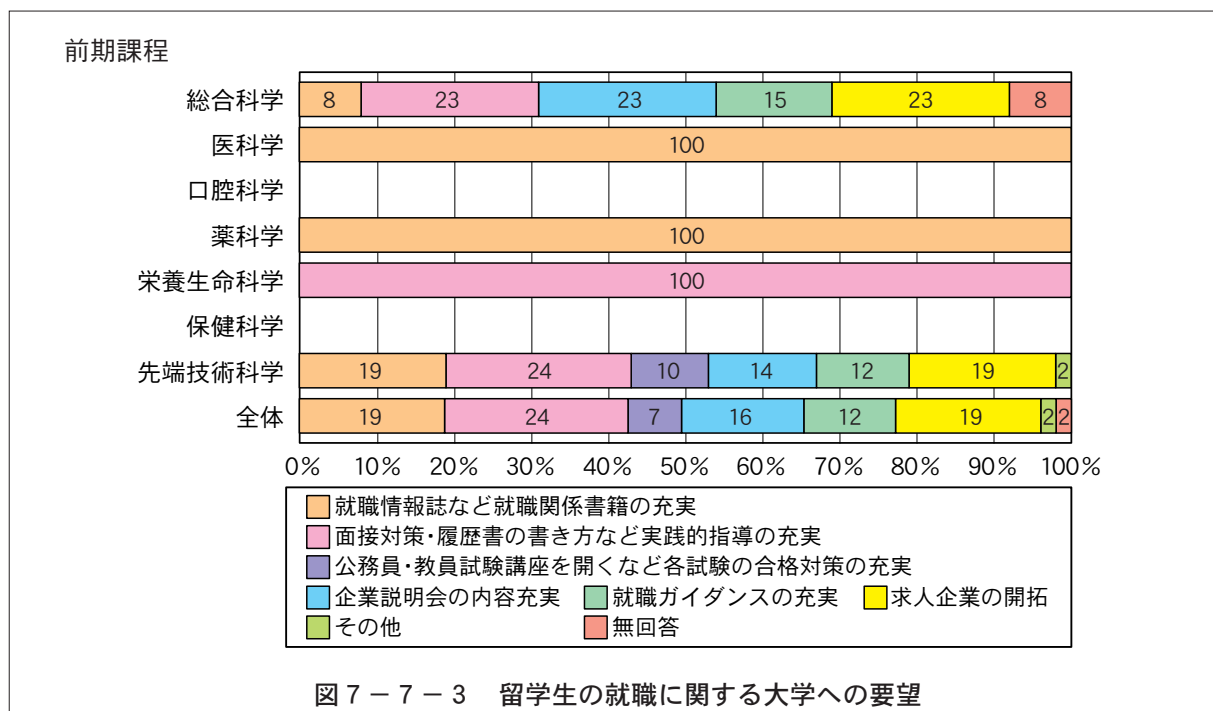
回答1(就職関係書籍)については、部数は少ないが多種類を就職支援センターに備えている。回答2(面接対策・履歴書の書き方)は就職支援センターの主業務の一つで、専門の相談員を配置した就職相談や就職ガイダンスで繰り返し提供している。蔵本地区でも毎週2日開室し、就職相談員を配置している。熱心に参加する学生が増加している一方、まったく無関心な学生も多く、各部局において院生を対象としたこの種の学生サービスの周知が求められる。回答3(試験対策)については、それぞれの部局での対応が求められる。なお、徳島大学生協の協力により、本学では公務員講座を開講しており、受講学生の合格率は高い。回答4(企業説明会)・5(就職ガイダンス)についても年間を通じて充実した内容のガイダンスを提供しているものの、参加学生が固定化されてきている傾向もある。回答6は各教育部でも、また就職支援センターでも努力し成果をあげてきているものと思われる。

以上により、大学の就職支援活動が学生に十分に周知・認知されていないことが、今回の調査結果で明らかになったともいえる。学生のみならず、教職員に対しても、就職支援センターの業務内容をより



広く周知することが必要である。

留学生については、回答数が少ないために部局によっては要望内容に偏りがみられるものの、総じて前期課程・後期課程ともにすべての回答項目についての要望が寄せられていて、同じ傾向にあるといえる。



以上をまとめると、前期課程から後期課程への進学意志については、医科学で58%と高く、総合科学・口腔科学・薬科学・栄養生命科学では「経済的支援があれば」との前提を含めて20%前後の院生が進学を希望している。これに対して、先端技術科学および保健科学では「就職したい」とする院生が80%前後にも及ぶ。「就職したい」と答えた先端技術科学・保健科学の院生は、希望職種を技術職や企業等の研究職、あるいは専門職（医師等）と回答しており、就職を前提として前期課程に進学してきたものと思われる。また留学生の院生は、相対的に博士後期課程への高い進学意欲を示している。進学希望者の多くは、本学の博士後期課程を希望していることから、同じ指導教員や研究環境のもとでの研究継続を望んでいるケースが多いとみられる。

就職希望職種は、全体として65%の院生が技術職や企業等の研究職を希望している。先端技術科学や

薬科学で、この傾向が特に強くみられた。また、保健科学では64%が専門職（医師等）と回答している。その他の教育部の前期課程の院生については希望職種が広く分散する傾向にあり、総合科学・栄養生命科学では公務員希望者も少なくない。後期課程の院生については無回答が多いものの、大学・官公庁の教育・研究職を希望しているものが相対的に多い。この傾向は留学生の場合も同様であった。進路選択で重視するものについては、どの教育部においても収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることの3点が主要点と回答しているが、前期課程では就職先の将来性・安定性、後期課程では能力を発揮できることが、最大の要件となっている。留学生の場合も同様の傾向がみられた。

就職情報の入手法で目立つのはWeb・インターネットである。前期課程、後期課程ともに高比率を占めている。ただし、後期課程では指導教員の占める割合も高くなっている。この調査は複数回答であるため、指導教員や就職担当教員ならびに先輩・知人等も含めて、大学院生は様々なルート・ツールを通じて情報入手していると思われる。

就職支援センターについては、全体として非常に低い利用率であった。後期課程の院生や専門性の高い教育部・専攻の院生は、就職先の業種が高度な専門職となるケースが多い。しかしながら、就職支援センターの業務は、主として学部学生向けの就職ガイダンス・求人情報サービスを中心に行っているため、大学院生の利用が極端に少ないと思われる。この点で、就職支援センターによる大学院生向けの支援活動も必要となるのかもしれない。

しかしながら、就職支援項目に対する大学への要望に関する質問では、すでに就職支援センターが実施している支援項目を要望する学生が多く、大学院生による就職支援センター利用率の低さを踏まえると、大学が提供している就職支援内容を十分に知らない大学院生が多いと考えられる。例えば、求人のご案内や情報を学内・学外問わず見られるようにしてほしいという要望があるが、携帯電話で就職支援センターから求人情報を受け取るシステムがあるにもかかわらず、知られていない。こうしたことから、就職支援センターの業務内容について大学院生への周知が必要である。とくに、大学院生については他大学からの進学者や留学生も多く、そうした学生に対しての周知が不足しているものと思われる。こうした点は、各教育部においても、入学時のガイダンスなどで就職支援センターやその支援内容についてのさらなる周知が求められよう。

第8章 教育部の現状と課題

8-1 総合科学教育部

総合科学教育部では前期課程に在籍する学生98名中23名(回収率24%)、後期課程に在籍する学生20名中4名(回収率20%)の回答を得た。そのうち留学生は、前期課程21名中5名(24%)、後期課程2名中1名(50%)であった。本教育部の回収率は今回の調査における全教育部の中で最も低いものであった。在籍者の4分の1未満の回答から全体の傾向をはかることになり、調査結果の信頼性に問題を残すものである。調査結果を参考にするときには、この点を考慮に入れる必要がある。また、総合科学教育部の回収率を高めるために、指導教員の協力を得るなど何らかの対策を講じる必要がある。なお、博士後期課程は回答数が少ないため個別の分析対象から外すことにした。

「本調査の対象者」について。第3回調査と比較すると、徳島県出身者の割合は35%から17%、徳島大学出身者の割合は74%から52%とかなり減少している。第3回調査では留学生からの回答を得られなかったが、今回の調査では全回答者の22%が留学生であり、この影響は大きいと思う。しかし、実際の前期課程留学生の割合も教育部全体の21%とほぼ同数である。

「家族・住居・通学」について。家庭の年収は第3回調査と比べ250万円未満が10ポイント増えている。これも、留学生の回答が多かったことに起因する。実際に、全教育部の留学生の81%が250万円未満にあたる。しかし、この影響があるにもかかわらず、500万円未満は45%から35%に減少し、750万円～1,000万円未満が13%から22%に増加している。質問74の後期課程への進学意志で、経済的支援があれば進学したいが17%を占めていることからわかるように、教育部進学に経済的な理由が大きくかかわってきている状況がみられる。

「収入・支出」について。授業料支出を除く1か月の平均支出は5万円未満が56%、10万円未満は87%(第3回調査は81%)になる。自宅から通う学生は22%であったので、多くの学生が住居費も含めて10万円未満で生活している。住居費は質問10にあり、第3回調査と比べると、3万円～4万円未満が9ポイント、5万円～6万円未満が19ポイントそれぞれ増え、間の4万円から5万円未満が23ポイント減少した。親等からの援助額は全くない30%を含め、65%が5万円未満、78%が7万円未満である。親等からの援助を除いた収入3万円未満は74%と非常に多いが、アルバイトをしている学生が48%おり、奨学金受給者39%を含め、多くの学生が自分自身で生活費を負担しながら通学している状況がうかがえる。

「健康状態」について。睡眠時間は74%の学生が6～8時間を確保しているが、気になる症状のある学生は「時々」と「常に」を合わせて70%とかなり高い数値である。すべての学生が保健管理センターを知っているが、検診以外での利用は32%で、気になる症状があるときなどに気軽に利用するように呼びかける必要がある。悩みや不安は多岐にわたっているが、すべての学生が友人、家族、教員のいずれかを相談相手と考えており、一人で抱え込むことは少ないようである。「現在の精神状態」については64%が「充実している」「普通」を選んでいるが、「なんとなく不安」などの精神状態を訴えているものも4割近くいる。健康状態以外に「就職や進路」「勉強」に悩みや不安を感じているとするものが多い。これらの傾向は第3回調査よりやや改善が見られるが、それほど大きく変化してはいない。

「学生生活上の問題点」について。迷惑行為は「受けたことはない」とする回答が96%で問題は少ないようである。残る4%は「その他」であって、第3回調査では9%あった「カルトへの勧誘」や、3%あった「アカハラ」や「セクハラ」は見られなかった。学生相談室の周知度は、「利用したことがある」も含め91%と高い。利用者も22%と高く、他の教育部に比べよく利用されている。盗難等の犯罪被害の経験があるものは13%である。交通事故については被害者になった経験者が13%、加害者が4%、双

方の経験者が0%と、比較的低い値である。より良い値になるように、今後も交通事故への注意喚起を行う必要がある。

「修学状況」について、「教育理念や教育方針」の認知度「知っている」とするものは第3回調査から10ポイント下がったものの61%と、全学的には高い値である。「教育理念や教育方針に沿った教育の実践度」、「教育課程の満足度」、「教育の実践度」、「授業の内容・進め方の満足度」はいずれも第3回調査と比較するとかなり良い値になっている。これは、第3回調査の対象学生は教育部ができたばかりの学生で、学生と教員の双方が新しいカリキュラム体制に慣れていなかったことに起因すると考える。

「本学を選んだ理由と目的」に関する質問では、「出身大学だから」、「希望する研究分野があるから」、「就職等将来を考慮して」、「継続して就学するため」が20%弱で並んでいた。第3回調査と比較すると、「出身大学だから」が6ポイント増え、「希望する研究分野があるから」が5ポイント減少している。さらに「大学院での勉学で目指すもの」については、「高度な専門的知識・能力」が第3回調査の58%から45%に減少している。これらのことから、「大学院で学ぶこと＝専門性を高める」という意識が低下していると考えられる。これは、第3回調査で寄せられた学生の意見「普通の授業ならまだしも余計な負担とを感じるものもあった」「専門以外の科目（必修）が多すぎて、本当に大学院なのかとを感じる」などから見られるように、学生にとって現在の教育課程が広く浅く学んでいるように感じられるからである。この状況が先輩から後輩に伝えられ、現状へと繋がっているのかもしれない。

「研究活動と研究指導」について。「授業以外の研究活動に費やす1週間平均時間」については、10時間未満が47%、20時間以上が43%と二分されている。「1週間に研究指導を受ける時間」に大きな変化はないが、30分未満が減少し、30～90分がその分増えている。「研究指導についての満足度」や「修士論文の研究テーマについての満足度」などの問いでは満足度は高い上に、第3回調査と比べて「満足している」の値が上がっている。「指導教員とのコミュニケーション」については、91%がとれていると回答しており概ね良好に保たれているが、「あまり」が9%いる。研究環境については、第3回調査に比べて値は増加しているが、不満を訴えている学生が17%おり、不満理由はすべて「施設・設備」についてである。教育部全体への満足度は、すべての学生が「満足」または「どちらかといえば満足」と答えている。

「図書館の利用状況」は、第3回調査時からかなり増えており、全学と比べても利用率は高い。

「海外渡航経験」については、今回は留学生の回答もあり、第3回調査と比較することはできない。「英会話」の能力については、「あまりできない」が50%、「できない」が28%と自信のない学生が大多数を占めている。能力を高めようと努力するものもいるが、67%は「何もしていない」と答えている。留学生の日本語能力は、すべての学生が「日常会話ができる」以上である。

学習への取り組みは、第3回調査で「していない」と答えた学生が45%いたが、今回は17%に減少し、多くの学生がかなりしていると感じている。

「進路選択・就職」について。後期課程への進学意思を持つものの割合は「経済的支援があれば」を含めて26%と高めであるが、半数が留学生である。また、その中で本教育部を希望する割合は33%である。就職希望者の23%が教育職・研究職以外の公務員を希望している。これは、第3回調査から9ポイント増えている。一方、専門職希望者は14%で、これは16ポイント減少している。他に大きな変化はない。就職支援センターの利用状況は61%が利用したことがなく、多くの学生は指導教員やインターネットなどから情報を収集している。

以上、総合科学教育部の学生の生活状況に関する調査の概要を述べた。以下の5点を挙げて、本章のまとめとする。

1. 本調査の実効性を高めるためには、回答率を上げる必要性があり、実施方法の検討が今後の大きな課題である。また、本教育部は理系と文系の学生が混在しているという他の教育部にはない特徴を

持っている。文理混在したままのデータで学生の実態を正確に把握することは難しく、この点も改善の余地がある。

2. 第3回調査でも書かれていたが、学生の経済状態は悪化していると想像される。かなり厳しい経済状況の中で研究を行っている。第3回調査からの繰り返しになるが、大学独自の奨学金制度を博士前期課程にも充実するような方策を期待したい。
3. 学生生活は全体的に安定しているように見えるが、健康状態に不安を持つ学生が多い。保健管理センターや学生相談室をもっと気軽に使用するように指導できたらと思う。
4. 国際化が求められるようになってきているが、学生の意識は低いように感じられる。カルチャーラウンジなどの事業が進められているが、これらの利用を促す方策が必要である。
5. 総合科学教育部への期待の一つである専門的知識の向上が薄れてきているように感じる。教育部の理念「幅広い知識と深い専門性を兼ね備える」では専門性も重要視しているが、現在の教育カリキュラムに対して学生は不十分であると感じているようである。総合と専門の関連性が認識できる教育内容の充実が求められる。

8-2 医科学教育部（医学研究科）

医科学教育部の前期課程では、在籍している学生が20名で、うち19名から回答が得られ、回答率は95.0%であった。留学生は2名が在籍し、うち1名から回答が得られた。後期課程に在籍している学生は206名で、59名から回答が得られ、回答率は28.6%であった。留学生は27名が在籍し、うち15名から回答が得られ、回答率は55.6%であった。後期課程の回答率は全学平均と比較して低く、紙ベースでの回収だけでなくWeb上で回答できるようにするなどもっと簡単に回答しやすくする工夫が必要と思われる。

「本調査の対象者」について、前期課程では徳島県出身者の割合が増加し58%であった。後期課程も同じく徳島県出身者が一番多く41%であり、次いで日本以外が19%、四国（徳島県以外）が14%の順であった。本学出身者の割合は、前期課程、後期課程とも47%で全学生に占める割合は最も高かった。

社会人学生の割合は、前期課程が58%、後期課程が61%で全学の中でも高い方であり、国家試験資格取得後の進学者が多いものと思われる。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」においては、前期課程では、アパート・マンションが58%、自宅・家族と同居が42%となっていた。後期課程では、アパート・マンションが47%で一番多く、次いで自宅・家族と同居が44%となっていた。この2つで91%になっている。

「住居費用」については、前期課程では、3万～4万円未満と6～7万円未満が同率で27%と最も多く、次いで4～5万円未満が18%であった。後期課程では、3万円未満と5万～6万円未満が同率で20%、次いで6～7万円未満が17%となっている。前期課程、後期課程ともに全学と比較して高額となっている。

「配偶者・子供の有無」では、前期課程で「配偶者・子供ともなし」が63%と最も多く、「配偶者・子供ともあり」が26%である。後期課程では、「配偶者と子供ともあり」が46%、「配偶者・子供ともなし」が42%、「配偶者あり・子供なし」が12%となっている。前期課程、後期課程とも配偶者ありの割合は全学と比較して高い。

「通学」に関しては、前期課程では、自動車通学が47%と一番多く、次いで自転車37%、徒歩11%、バイク5%の順となっている。後期課程では、自転車通学が49%と一番多く、次いで自動車44%、徒歩7%となっている。前期課程では、自動車通学の割合が口腔科学とともに全学の中で高かった。

通学時間については、15分未満の割合が前期課程で47%、後期課程が53%であり、全体に占める割

合が最も高かった。

収入に関して、前期課程では、親等からの援助を除く平均収入額で一番多いのは「30万円以上」28%、次いで3万円未満で22%であり、個人差が大きい。社会人大学院生が多いため、全体の51%が10万円以上の収入を得ている。後期課程では、全体の54%が30万円以上の収入である。収入額に個人差が大きく、10%は7万円未満の収入であるのに対し、64%は20万円以上の収入を得ている。

前期課程では、47%が親等からの援助が「全くない」と回答している。後期課程では、親等からの援助を全く受けていない割合が85%と前期課程と比較して高く、収入面での独立傾向がうかがえる。さらに、前期課程で21%を占めていた援助額10万円以上の大学院生の割合は4%に減少している。

「奨学金」に関しては、前期課程では、68%が奨学金を受給中であるかまたは希望しており、一方で32%が将来的にも奨学金の受給を希望していない。後期課程では、現在奨学金を受けている、または将来的に奨学金を希望する者は49%であり、一方、49%は将来的にも奨学金の受給を希望していない。

「アルバイトについて」は、「している」と回答した者の割合は、前期課程で58%、後期課程で36%であった。15万円以上の収入を得ている者の割合が前期課程で18%、後期課程で71%であり、全学の中で高かった。前期課程では、50%は生活費や学費のためのアルバイトであり、生活費捻出のためにアルバイトを行っている者が多いが、社会体験のためのアルバイトと回答した割合も17%見られた。後期課程では、80%が生活費や学費のためのアルバイトであり、前期課程と比較して多かった。

「アルバイトでのトラブル」に関しては、前期課程では67%が「ない」と回答した。あると答えた者では、「客とのトラブル」、「雇用者との意見の不一致」などが挙げられていた。後期課程では、95%はアルバイトでのトラブルの経験はなく、トラブルの内容としては「客とのトラブル」との回答があった。

「健康状態について」の設問の睡眠時間については、前期課程では「4～6時間未満」および「6～8時間未満」がそれぞれ42%、次いで「4時間未満」16%の順であった。後期課程では「6～8時間未満」64%、「4～6時間未満」34%、「4時間未満」2%であった。最も健康的な睡眠時間は7～8時間といわれているため、半数の学生の睡眠は良好に保たれていると思われる。しかし6時間未満が前期課程で58%、後期課程で36%となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。睡眠不足は社会人学生にとっては仕事にも影響を与えることになり、健康安全管理のために、睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。

「気になる症状」が「ある」と答えた学生は、前期課程で53%、後期課程では59%であった。前回調査と比較して大きな変化は見られなかった。症状の内容は、前期課程では回答がなく、後期課程では下痢・便秘、動悸・不整脈、めまい・立ちくらみが挙げられていた。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「勉強」24%、「就職や進路」21%、「経済状態」18%の順で多かった。後期課程でも同様に、「勉強」19%、「就職や進路」18%、「経済状態」15%の順で多かった。

「悩み事は誰に相談するか」では、前期課程、後期課程ともに約7割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。教員に相談する者は前期課程17%、後期課程10%であった。悩みを誰にも相談しないという学生が前期課程、後期課程でそれぞれ3%、17%存在した。

「精神的な健康状態」では、前期課程の45%、後期課程は68%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答していた。一方、前期課程の51%、後期課程の30%は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では、前期課程、後期課程ともに「やる気がでない」、「何となく不安」が多かった。

保健管理センターに対する認識では、「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生が前期課程で32%、後期課程で23%であり、前回の調査同様、学生の認識率が低かった。また、利用率も低い傾向があった。蔵本地区には蔵本分室を設置しているが、今後も蔵本地区での周知や利便性の

向上を図っていく必要があるが、社会人が多く利用しづらいか、職場の施設を利用していることも考えられる。

「学生生活上の問題点」に関する設問では、「迷惑行為を受けたことがない」と回答した学生は、前期課程で84%、後期課程で93%であった。迷惑行為の内容は、「いたずら電話を受けた」、「セクハラを受けた」、「カルトのような集団への勧誘を受けた」、「アカハラを受けた」などであった。

「学生相談室」は、前期課程で63%、後期課程で39%の学生が知らなかった。相談室利用後の満足度については、前期課程では回答がなかった。後期課程では、利用したことがある学生は「満足である」と「どちらかといえば満足である」をあわせて100%であったので、利用したことのない学生にも、学生相談室を気軽に利用できるように周知に務める必要がある。

「大学事務室の対応への満足度」をみると、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は、前期課程で67%、後期課程で83%であった。

「教育理念・方針と教育に対する理解度」については、前期課程で、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は「よく知っている」または「だいたい知っている」と回答した者は48%であり、残りの53%が「あまり知らない」または「知らない」と回答している。後期課程では、「良く知っている」と「だいたい知っている」を合わせて50%、「あまり知らない」と「知らない」と合わせて51%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では100%、後期課程では97%が「思う」と答えている。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は26%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（47%）と合わせて73%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」または「不満足である」は27%となっている。後期課程では「満足している」19%、「どちらかといえば満足している」64%、「どちらかといえば不満足である」10%、「不満足である」5%となっており、満足度は前期課程よりやや高かった。

大学院に相応しい教育の実践度については、前期課程では47%が「充分に行われている」、42%が「ある程度行われている」と回答した。一方、「あまり行われていない」との回答が11%見られた。後期課程では、36%が「充分に行われている」、61%が「ある程度行われている」と回答した。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」26%、「どちらかといえば満足している」47%をあわせて73%であった。一方、21%の学生が「どちらかといえば不満足である」と回答した。後期課程では、「満足している」19%、「どちらかといえば満足している」75%とあわせて94%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「希望する研究分野があるから」が26%、次いで「指導教員に勧められたから」が19%となっている。後期課程の学生では、「希望する研究分野があるから」が25%、「出身大学だから」が23%、「指導教員に勧められたから」が20%で多かった。

「大学院で勉学することにより目指すもの」では、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が42%で最も高く、次いで「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が26%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が16%の順であった。後期課程では、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が43%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が24%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が16%であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程では「5～10時間未満」と「40～60時間未満」が同率で21%、次いで「30分未満」と「20～40時間未満」が同率で16%になっている。後期課程の平均時間は、「40～60時間未満」が22%で最も多く、次いで「10～20時間未満」17%、

「20～40時間未満」と「60時間以上」が同率で15%の順となっている。前期課程、後期課程ともに週平均の研究時間は個人差が大きいといえる。

指導教員について、前期課程では、44%は助教から指導を受けていた。教授および講師が同率で22%であった。後期課程は教授の割合が増加し、41%と最も高かった。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程は「30～90分未満」および「90分～5時間未満」がそれぞれ32%と最も多く、次いで「30分未満」が26%の順となっている。後期課程もほぼ同様の傾向で、1週間の平均時間は「90分～5時間未満」が36%と最も多く、「30～90分未満」が31%、「30分未満」が24%となっている。

「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は、「満足している」が最も多く47%、「どちらかといえば不満足である」が32%、「どちらかといえば満足している」21%の順となっている。後期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」との回答が最も多く49%、以下、「満足している」41%、「どちらかといえば不満足である」が7%となっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、前期課程より高かった。

「修士論文の研究テーマに関する満足度」では、90%が「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答している。「博士論文の研究テーマに関する満足度」では、94%が「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答している。

「指導教員とのコミュニケーション」に関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が53%で最も多く、以下「充分とれている」が42%、「あまりとれていない」が5%となっている。同じ設問に対して、後期課程では「ある程度とれている」が53%、「充分とれている」が34%であったが、「あまりとれていない」が10%見られた。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、研究環境に「満足している」が53%、「どちらかといえば満足している」42%、「どちらかといえば不満足である」が5%となっている。後期課程では、研究環境に「どちらかといえば満足している」46%、「満足している」39%で、前期課程に比較して満足度がやや低くなっている。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問に関しては、後期課程学生では、「研究費用」33%、「研究時間」が33%、「施設・設備」22%となっている。

「所属大学院に対する満足度」の設問においては、前期課程学生では、「満足している」が47%、「どちらかといえば満足している」が42%であった。後期課程学生は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が56%で最も高く、以下、「満足している」が41%、「不満足である」が2%となっていた。

図書館ウェブサイトに対する利用頻度について、前期課程では、「1年に1回程度かそれ以下である」が最も多く42%であった。後期課程では、「1年に1回程度かそれ以下である」が32%、「ほぼ毎日利用している」および「1週間に2～3回」がそれぞれ15%であった。前期課程、後期課程ともに個人によりばらつきが大きい。図書館ウェブサイトに対する満足度は、前期課程で「どちらかといえば満足している」68%、「満足している」26%であった。後期課程でもほぼ同様で、「どちらかといえば満足している」59%、「満足している」27%となっていた。

「国際学会への参加」について、前期課程では、国際会議での発表経験は一度もない者が67%であった。後期課程では「国際学会で発表したことがない」者は前期課程より少ないが、55%を占めていた。

「語学についての学習状況」において、前期課程、後期課程で「何もしていない」と回答した学生がそれぞれ45%、35%であった。語学修得の努力をしている学生では、前期課程、後期課程とも「ラジオ・テレビの英会話番組で学習している」と答えた者が最も多かった。

「現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか」との問いに対し、前期課程の63%、後期

課程の61%が「よく学習している」または「かなりしている」と回答している。

「本学の教育に望むこと」に関しては、前期課程では「高度な水準にある他大学院などでの勉学あるいは研究の機会」が33%で最も多く、一方、後期課程では、「総合的な学習課題を体系的に履修するコース」が20%、「高度な水準にある他大学院などでの勉学あるいは研究の機会」が19%で多かった。

「本学の国際化への対応」について、前期課程の90%、後期課程の77%の学生が「非常に積極的であると思う」または「どちらかといえば積極的であると思う」と回答している。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは32%である。全学では7%であり、一番高い割合である。また、「奨学金などの経済的支援があれば進学したい」と回答した者も26%あった。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「大学、官公庁の教育・研究職」、「技術職」、「専門職」が同率で25%である。後期課程の就職希望職種は「専門職（医師等）」14%、「大学、官公庁の教育・研究職」11%であった。無回答が半数以上であることから、まだ決めかねている人も多いのかもしれない。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「能力を發揮できること」が31%、「収入」が23%、「就職先の将来性・安定性」が20%で、これらの3項目が主要件になっていた。後期課程では、「能力を發揮できること」38%、「収入」19%「就職先の将来性・安定性」18%で、前期課程と同様の傾向が見られた。

「進路選択の情報の入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」28%、「指導教員」25%、「先輩・知人」19%の順であった。後期課程でも同様に、一番多いのは「Web・インターネット」の27%、次いで「指導教員」26%、「先輩・知人」24%であった。

「就職支援センターの利用状況」については、前期課程で利用経験者は16%にとどまり、84%は利用していなかった。後期課程でも98%は利用経験がなかった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いため就職支援センターを利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、アンケート回収率を上げることが一番の課題であり、他の課題は前回の調査と変わりが無いが

1. 健康面や精神面支援の充実
 2. 国際学会への参加の促進
- 等が挙げられた。

8-3 口腔科学教育部

口腔科学教育部は口腔科学専攻（博士課程）に加えて、平成23年度に口腔保健学専攻（修士課程）を設置した。そのため、今回はじめて調査対象に修士課程の大学院生も加わった。具体的には、本調査は口腔保健学専攻（以後、前期課程）の大学院生10人中8人（1年生3人、2年生5人）（回収率80%）および口腔科学専攻（以後、後期課程）の大学院生70人中42人（回収率60%）から回答を得た。前期課程には留学生はおらず、後期課程のうち留学生は16人、そのうち回答が得られたのは13人（回収率81.3%）であった。教育部ごとの回収率は前期課程で24%から95%、後期課程で20%から63%であり、口腔科学の回収率は比較的高かった。また、男女別の回収率に大きな差はなかった。

第1章の「本調査の対象者について」は、前期課程学生の75%が徳島県出身であり、7教育部中で最も高い割合であった。63%が徳島大学卒業者であり、38%が社会人大学院生で、留学生はいなかった。一方、後期課程学生の27%は徳島県出身、22%は日本以外であり、55%は徳島大学卒業者、17%が外国の大学、10%が外国の大学院の修了者であった。また、17%が社会人大学院生、31%が留学生であり、

この傾向は栄養生命科学や総合科学、先端技術科学と類似していた。

第2章の「家族・住居・通学について」から、前期課程学生の家庭の年間所得にはばらつきがあり、後期課程学生の半数弱は250万円未満であり、この割合が最も多かった。一方、1,500万円以上の家庭も後期課程の17%にあり、7教育部中最も多かった。住居区分は、前期課程の約6割の学生が自宅で家族と同居し、後期課程の約6割はアパート・マンションで家族と別居している。住居費はまちまちで、後期課程の4分の3の学生は6万円未満のアパートなどに居住している一方、家賃10万円以上も7%いた。配偶者や子供の有無は、前期課程の6割強と後期課程の約7割が未婚であった。通学は、前期課程学生の4割弱が15分未満の徒歩・自転車通学である一方、4分の1の学生は1時間以上かけて自動車通学している。また、後期課程の4分の3の学生は徒歩・自転車通学である。

第3章の「収入・支出について」の結果から、前期課程学生の平均像は月に5万円未満の収入があり、5万円未満の親などからの援助を受け、7万円未満支出している。一方、後期課程学生の平均像は15万円未満の収入があり、親などからの援助を6割の学生が受けておらず、支出額は15万円未満である。奨学金受給は、4分の3の前期課程学生が希望しないのに対して、8割の後期課程学生は希望し、6割強は実際に受給している。また、前期課程学生の半数は月平均5～10時間未満のアルバイトをし、3～5万円未満の収入を得ている。後期課程学生は3分の1だけがアルバイトをし、うち約7割は15時間未満従事し、10万円未満の収入を得ている。おもなアルバイトの目的は、前期課程学生は日常の娯楽・嗜好品等購入や社会体験のためである一方、後期課程学生は生活費や学会費、学会参加のためである。そして、後期課程学生の一部が「解雇」や「雇用者との意見の不一致」などのトラブルを経験している。

第4章の「健康状態について」は、睡眠時間は後期課程の5%が4時間未満であったが、それ以外は4～8時間未満であり、全体と同様の傾向を示した。前期課程の4分の1と後期課程の6割に時々あるいは常に気になる症状があり、その内容は頭痛、腹痛・嘔気、下痢・便秘、生理痛・生理不順であった。また、前期課程学生の主な悩みや不安は、勉強(29%)、就職や進路(21%)、経済状態(14%)の順に、そして、相談相手は友人(44%)、教員(31%)、家族(25%)の順に高かった。他の教育部に比べると教員の割合が非常に高いのが特徴的で、このことから前期課程の学生と教員の関係は近く、良好であることが伺える。一方、後期課程学生の主な悩みや不安は勉強(24%)、経済状態(20%)、就職や進路(12%)であり、主な相談相手は家族(34%)や友人(28%)であるが、誰にも相談しない者も多かった(16%)。他の教育部と比較すると、学生相談室や保健管理センター、学務(教務)係、それ以外の人との回答があったのが特徴的である。現在の精神状態は、前期課程学生の半数以上(57%)が「なんとなく不安」と感じ、その割合は7教育部の中で最も高かった。この理由として、口腔保健学専攻は23年度に開設したばかりでまだ修了者がいないため、参考になるモデルケースが存在せず、勉強、就職や進路に不安を覚えていると考えられる。一方、後期課程の約半数には問題ないが、「なんとなく不安(19%)」、「いらいらする(10%)」、「やる気が出ない(10%)」者もいた。前期課程学生の4分の3と後期課程の6割弱は、健康診断やそれ以外で保健管理センターを利用したことがあった。

第5章の「学生生活上の問題点について」は、前期課程の全学生と後期課程学生の4分の3は迷惑行為を受けたことがなかった。受けた迷惑行為は大学内でのアカハラが最も多く(11%)、この割合は栄養生命科学の21%に次いで高かった。アカハラを受けた場合、3分の1が友人(33%)や家族(17%)、教員(17%)に相談したが、誰にも相談しない者も多かった(33%)。さらに、飲酒の強要(4%)やセクハラ(2%)もあった。しかし、セクハラを受けても誰にも相談していなかった。このような状況は大きな問題であり、早急な対応が必要である。学生相談室の利用は後期課程学生の2%のみであり、その対応には満足していた。一方、相談室を知らない者も前期課程の13%と後期課程の43%にいた。利用率が低い原因を明らかにして改善し、学生への相談支援体制を充実させるべきと考える。

犯罪被害経験は前期課程学生の13%と後期課程の7%にあり、その内容は盗難や傷害であった。前期

課程の4分の1と後期課程の4割は交通事故の経験があり、被害者の場合が多かった。さらに、後期課程学生の中には違法薬物の使用経験ありと回答した者もおり(2%)、この結果に驚愕させられた。違法薬物使用禁止啓発活動の早急な取組みが必要と考える。また、大学事務室の対応には前期課程全学生および後期課程の9割がおおむね満足している。

第6章「修学状況について」は、前期課程学生の半数と後期課程の3分の1強は所属教育部の教育理念や教育方針を理解しており、そのほとんどはその理念や方針に沿った教育が実践されていると思われ、教育課程にも満足している。さらに、両課程のほとんどの学生が大学院に相応しい教育が実践されていると思われ、授業の内容・進め方にもおおむね満足している。また、主な大学院の進学理由は、両課程ともに「出身大学だから」が最も多く(25%, 21%)、「希望する研究分野があるから」、「指導教員に勧められたから」も多かった。徳島大学卒業者については両課程の約8割の学生が所属する大学院を第一志望とし、他大学卒業者については前期課程の全員と後期課程の約7割が第一志望であった。前期課程の大学院生の半数と後期課程の6割は勉学で高度専門職業人を目指している。

研究活動と研究指導については、前期課程は1週間の研究活動時間は10～40時間未満の割合が半数を占め、すべて教授から研究指導を受け、指導時間は90分～5時間未満の割合が多かった(50%)。一方、後期課程は研究時間が20～40時間未満の割合が最も多く(26%)、60時間以上の者も17%いた。そして、助教から週に30～90分未満の研究指導を受ける傾向があった。なお、教授による研究指導の割合は25%と7教育部中最も少なかった。研究指導や研究テーマに対する満足は前期課程学生のすべてと後期課程のほとんどから得られ、指導教員とのコミュニケーションもおおむねとれていた。研究環境に対してもおおむね満足が得られていたが、施設・設備や研究費用の点で後期課程学生の9%は不満足であった。所属大学院に対してもおおむね満足が得られていた。

前期課程学生は図書館を「2週間に1回程度」利用しており、これは他の教育部に比べて利用頻度が少ない。ウェブサイトによる文献検索も「1週間に2～3回ぐらい」や「2週間に1回程度」利用し、それに対して全員が満足している。一方、後期課程学生の図書館利用は「ほぼ毎日利用」や「1週間に2～3回ぐらい」の割合が他の教育部に比べて多いが、ウェブサイトによる文献検索は「1年に1回程度かそれ以下」と「ほぼ毎日利用」の割合が高くて二極化している。ウェブサイトによる文献検索に対する満足もおおむね得られているが、12%は不満足である。図書館蔵本分館は今年度初めに改修され、また、文献検索システムなども充実しているので、大学院生にはぜひ利用頻度を増やしてもらいたい。

入学後の海外渡航の経験は前期課程の半数と後期課程の4割弱にあったが、その多くは観光を目的としたものだった。前期課程の9割弱と後期課程の7割弱は国際学会での発表経験がなく、英会話能力については後期課程学生の3割弱が「日常会話ができる程度」であり、ほかはほとんどできないと回答した(無回答を除く)。しかし、語学に関する自己学習として前期課程学生と後期課程の6割は何もしていなかった。一方、留学生の4分の3は「日本語会話ができる」と回答し、そのほとんどは日本語コースの受講経験や予定があり、受講者全員が日本語コースに満足していた。

前期課程の半数、後期課程の7割と留学生全員は大学院に相応しい学習に積極的に取り組んでいた。将来のために本学教育に望むことは、両課程ともに「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」と「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が多かった。また、前期課程の全員と後期課程のほとんどが本学の国際化への対応は積極的であると回答した。国際化への積極的対応を継続するためにも、大学院生は英会話能力を向上させ、国際学会での発表など経験を積むことが肝要である。

第7章「進路選択・就職について」は、前期課程学生の多くは就職を希望し(63%)、進学希望の割合は4分の1で、本学への進学を希望していた。前期課程学生は専門職や公務員、教育職への就職を希望し、後期課程は専門職や大学などの教育・研究職の、留学生は大学などの教育・研究職や教育職の希望が多かった。進路選択の要件として、後期課程学生は能力発揮の場をあげる割合が多く、前期学生や

留学生はそれに加えて収入や就職先の将来性・安定性もあげている。進路選択の情報入手手段としては、前期課程では指導教員の割合が多く（50%）、7 教育部中最も多かった。後期課程は指導教員や先輩・知人の割合が多かった。留学生も指導教員や家族等、Web・インターネットの割合が多かった。就職支援センターは、留学生を含む両課程のほとんどの大学院生が利用したことがなかったが、就職に関する大学への要望としては「面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実」、「公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実」、「就職ガイダンスの充実」、「求人企業の開拓」が多かった。第3回調査までの調査対象は後期課程のみであったため就職に対する関心が薄かったが、今回の調査には前期課程が加わり、就職希望が多いにも関わらず、就職支援センターの利用はほとんどないことが分かった。今後、就職支援センターを利用しやすくするための具体策を講じる必要がある。

以上を総括すると、以下の課題が挙げられる。

1. 研究指導体制下のアカハラやセクハラが生じないように、FD活動などを通じて予防策を講じる。また、生じた場合の相談支援体制として、相談室の利用やメンター制度の充実を図る。
2. 国際的能力を有する人材の育成および本学国際化の継続的推進のため、英語・英会話能力向上プログラムや国際学会プレゼンテーション技術向上プログラムなどの教育カリキュラムの多様化を図る。
3. 就職希望の大学院生のために、現状の就職支援センターの問題点を再考して対処し、さらに利便性を高める。

3-4 薬科学教育部

薬学部では、薬剤師養成のための専門教育を目的とする6年制の「薬学科」と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする4年制の「創製薬科学科」が平成18年4月に設置された。それに伴い、薬科学教育部では創薬科学専攻と薬学専攻の2専攻を設置し、学部2学科教育の特徴を大学院まで継続した学部・大学院一貫教育により、新しい薬の探索から医療現場での薬の処方に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成をめざしている。現在は新課程と旧課程の学生が在籍しているため、今回のアンケート調査対象者は創薬科学専攻博士前期課程60名（新課程1年次26名、新課程2年次34名、うち留学生2名）、同専攻博士後期課程22名（新課程1年次10名、旧課程2年次4名、旧課程3年次8名、うち留学生1名）、医療生命薬学専攻博士後期課程14名（旧課程2年次8名、旧課程3年次6名）、薬学専攻博士課程5名の合計101名となり、回答者は創薬科学専攻前期課程47名、同専攻博士後期課程14名、医療生命薬学専攻博士後期課程7名、薬学専攻博士課程5名であった。前期課程全体でのアンケート回収率は78.3%（第3回調査:87.3%）、後期課程全体でのアンケート回収率は63.4%（第3回調査:71.1%）で、第3回調査を若干下回った。回答者の出身地については、前期課程で40%（徳島県:19%）、後期課程で31%（徳島県:23%）が四国4県の出身者であった。また、全回答者の中で留学生の占める割合は前期課程で2%、後期課程で0%、社会人大学生の占める割合は前期課程で0%、後期課程で23%となっている。

第2章「家族・住居、通学」について、家庭の年間所得を見ると、前期課程では「1,000万円以上」が12%であり、第3回調査を2ポイント、第2回調査を12ポイント下回った。住居費については、前期課程では「3万円～4万円未満」が43%で最も多く、次いで「4万円～5万円未満」が35%であるのに対し、後期課程で最も多いのは「4万円～5万円未満」(42%)で、次が「3万円～4万円未満」(29%)という結果であった。通学方法としては「自転車」いう回答が両課程とも最も多く（前期課程:70%、後期課程:69%）、通学時間としては「15分未満」が両課程ともに85%であった。この2年間、学部学生も含めて幸いにも通学途中での重大な交通事故は発生していないが、交通安全についての意識喚起等は継続して実施する必要がある。

第3章「収入・支出」について、親等からの援助額は前期課程で11%、後期課程で73%の学生が「全くない」と答えており、前期課程で45%、後期課程で77%の学生が奨学金を「現在受給中であるが、更に希望する」と答えている。アルバイトをしている前期課程の学生は15%であり、第3回調査を46ポイント、第2回調査を62ポイント下回った。これは、前期課程（新課程）の学生が薬剤師免許を所持できなくなったことに起因すると考えられる。後期課程では創薬科学専攻後期課程に新旧両課程の学生が所属しており、医療生命薬学専攻博士後期課程と薬学専攻博士課程の学生を加え、全体で23%の学生がアルバイトをしていると回答した。これは第3回調査を14ポイント下回る結果である。アルバイト従事時間数（前期課程10時間未満：72%、後期課程10時間未満：66%）とアルバイト収入（前期課程5万円以上：43%、後期課程5万円以上：84%）についても、薬剤師免許を所持しているかどうかの影響が窺われ、第3回調査のアルバイト従事時間数（前期課程10時間未満：71%、後期課程10時間未満：30%）ならびにアルバイト収入（前期課程5万円以上：54%、後期課程5万円以上：70%）とは異なる傾向を示した。なお、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した前期課程の学生は67%であり、第3回調査を28ポイント上回った。後期課程では40%の学生が「生活費や学費のため」と回答しており「学会参加のため」を合わせると60%になる。本アンケート結果からは学生を取り巻く経済状況の厳しさが窺われ、前期課程であるか後期課程であるかにかかわらず、大学院生への経済的支援は今後とも大学全体として取り組むべき重要課題の一つである。

第4章「健康状態」について、前期課程で「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えた学生は36%であり、第3回調査より5ポイント、第2回調査より20ポイント減少した。症状の内容としては「めまい・立ちくらみ」と「咳・痰」、「生理痛・生理不順」が多く、いずれも25%であった。後期課程では54%の学生が「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えているが、症状の内容は「その他」が55%であり、詳細は不明である。なお、後期課程の学生については、研究室で過ごす時間がかなりの割合を占めることから、生活リズムの乱れや運動不足等についてきめ細かい指導の必要性が感じられる。また、精神状態について、「充実している」あるいは「気分は普通」と答えたのは前期課程が62%、後期課程が46%であり、第3回調査の調査結果を前期課程では4ポイント、後期課程では6ポイント上回った。悩みごとの相談相手を問う設問では、「友人」との答えが最も多く、前期課程で49%、後期課程で47%となっている。一方、「誰にも相談しない」という回答も前期課程で13%、後期課程で21%だったことから、学生相談室ならびに保健管理センターの存在やサービス内容を周知徹底し、精神面を含めた健康の維持管理を目的としたこれら施設の有効利用を多くの学生へ継続して呼びかける必要がある。

第5章「学生生活上の問題点」について、前期課程で14%、後期課程で18%の学生が何らかの迷惑行為を受けたと答えている。内訳を見ると、両課程とも「飲酒を強要された」との回答（前期課程：8%、後期課程7%）が最も多く、後期課程では「大学内でアカハラを受けた」との回答も「飲酒を強要された」と同じ7%であった。充実した学生生活のためには、学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また、前期課程で9%、後期課程で12%の学生が「学生相談室を知らない」と答えていることから、学生相談室との緊密な連携のもとに、今後も、薬科学教育部としての啓蒙・啓発活動を継続的に進めなければならない。

第6章「修学状況」について、前期課程では44%が教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と答えており、全体での認知度（44%）と同じであった。一方、後期課程で「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と答えたのは35%であり、全体での認知度（50%）を15ポイント下回った。教育課程に対する満足度は、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生が前期課程で85%、後期課程で81%であり、授業の内容・進め方の満足度に対する設問では前期課程で77%、後期課程で92%が「満足している」あるいは「どちらかといえば

満足している」と答えている。教員には学生の満足度が100%となるよう不断の努力が求められる。また、授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、前期課程で91%、後期課程で77%の学生が20時間以上とする選択肢（「20～40時間未満」、「40～60時間未満」、「60時間以上」）を選んでおり、全体での回答（前期課程：54%、後期課程：63%）を大きく上回っている。内訳を見ると、「60時間以上」との回答が前期課程で64%、後期課程で50%を占めており、他の教育部に比べると研究活動時間は格段に長いことが窺われる。研究を直接指導している教員についての設問では、前期課程で45%、後期課程で62%が「教授」と答えており、第3回調査（前期課程：46%、後期課程：63%）とほぼ同様の結果であった。研究指導の内容や進め方については、前期課程で91%、後期課程で100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、両課程とも全体での満足度（前期課程：87%、後期課程：93%）を上回っている。研究テーマへの満足度については、後期課程では100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えたのに対し、前期課程では11%が「どちらかといえば不満足である」と回答した。薬科学教育部に全体として満足していますかとの設問については、前期課程で83%、後期課程で100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。研究環境について「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生は、前期課程で78%と第3回調査を3ポイント下回ったのに対し、後期課程では88%と第3回調査を3ポイント上回る結果であった。研究環境に不満足な理由としては「施設・設備」が前期課程で42%、後期課程で50%を占めており、研究環境についての点検および改善に一層の努力を払う必要がある。図書館については、前期課程で32%、後期課程で31%の学生がウェブサイトによる文献検索を「ほぼ毎日利用している」と答えており、他の教育部と比べて利用頻度が高くなっている。また、図書館ウェブサイトに対して、前期課程で87%、後期課程で89%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、満足度は高い。なお、ウェブ上で閲覧可能な雑誌の質ならびに量の維持や拡充、利用価値の高い検索ツールの導入などは、大学全体として取り組むべき最も重要な課題の一つであり、情報関連技術の進歩に対して遅滞なく迅速に対応することが望まれる。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は、前期課程で34%、後期課程で59%あり、その目的として、前期課程では「観光」(61%)が最も多かったのに対し、後期課程では「学会参加」(40%)が最も多くなっている。国際学会での発表経験については、前期課程で32%、後期課程で60%の学生が何らかの発表経験があると答えている。また、語学力を高めるために何をしていますかとの日本人学生への設問に対して「何もしていない」と答えた学生は、前期課程で46%、後期課程で26%であり、第3回調査（前期課程：52%、後期課程：30%）および第2回調査（前期課程：56%、後期課程40%）から漸次減少傾向にあり、語学の必要性に対する学生の意識は向上していることが窺われる。薬科学教育部では平成22年度に設置された改組された前期課程において、薬学英語特論を必修科目として開設しているが、教育内容の点検等も含め、語学力強化への積極的な取り組みが望まれる。なお、本学の国際化への対応についての設問に対して、前期課程で53%、後期課程で77%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した。これは、第3回調査（前期課程：54%、後期課程：82%）を若干下回る結果であり、国際化への取り組みをさらに加速させる必要がある。

第7章「進路選択・就職」について、前期課程学生の後期課程への進学希望者は19%であり第3回調査(12%)を上回った。進学を希望していない学生の希望職種としては「企業等の研究職」が50%で最も多く、次いで「技術職」の26%となっている。「企業等の研究職」という回答が第3回調査(31%)および第2回調査(38%)と比べて大きく増えた理由としては、薬剤師免許の有無が一因として考えられる。後期課程学生の就職希望職種としては「大学・官公庁の教育・研究職」(29%)が最も多く、次いで「企業等の研究職」が21%であった。進路選択の情報入手手段としては両課程とも「Web・イン

ターネット」との回答（前期課程：40%，後期課程：32%）が最も多く、情報源として中心的役割を果たしていることが窺われる。一方、本学の就職支援センターを利用したことがありますかとの設問に対しては、前期課程で68%，後期課程で77%の学生が「利用したことがない」と答えている。本年度は薬科学教育部独自の組織的な就職支援に加え、就職支援センターとも連携した蔵本地区での就職支援の強化を図っているところであるが、次年度以降も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援体制の構築を目指してより一層努力する必要がある。

最後に、本調査より明らかとなった薬科学教育部の現状と課題を総括する。今後は、課題の克服に向けて鋭意努力しなければならない。

1. 昨今の社会情勢もふまえ、大学院生を対象とした経済的支援体制の充実が喫緊の重要課題である。特に創薬科学専攻前期課程の学生は薬剤師免許を持たないことから、アルバイト等の状況も激変した。したがって経済的理由が後期課程への進学を妨げることがないように、充実した支援体制の構築が望まれる。
2. 蔵本地区での、保健管理センターならびに学生相談室による学生支援体制は、現状において必ずしも十分とはいえない。研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康を保持増進するため、薬科学教育部とも十分に連携した支援体制の一層の強化が望まれる。
3. 蔵本地区において、就職支援センターによる学生支援体制は、現状において必ずしも十分とはいえない。今後は薬剤師として就職する学生はもとより、薬剤師免許を持たない学生への就職支援も充実させる必要があることから、薬科学教育部とも十分に連携した支援体制の一層の強化が望まれる。
4. 学生のニーズという視点からの新しい教育システムの構築をめざし、他教育部とも連携した国際化への一層の取組強化が望まれる。
5. 飲酒の強要やアカハラといった学生生活上の問題が一掃されるよう、教員ならびに学生の意識向上へ向け一層の取組強化が望まれる。

8-5 栄養生命科学教育部

栄養生命科学教育部において、前期課程在籍者は65人で、回答率は78.5%であった。留学生は1名で1名から回答を得ている。後期課程在籍者は34人で回答率は41.2%，留学生は7名で4名から回答を得ている。前期課程では、全学の平均より回答率がやや高かった。

「本調査の対象者」について、前期課程では、徳島県出身者の割合が37%で最も多かった。後期課程では徳島県出身者が29%，次いで徳島以外の四国および日本以外が同率で21%であった。出身大学別に見ると、前期課程では、徳島大学出身者が76%と多かった。後期課程では、徳島大学以外の国内の大学が50%で最も多かった。「社会人か留学生か」については、後期課程では、社会人は全学で最も少なく14%で、留学生は29%であった。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では、前期課程では、全体でアパート・マンションが73%，次いで自宅（家族と同居）が25%となっていた。この2つで98%となっている。後期課程では、アパート・マンションが79%で一番多く、次いで自宅（家族と同居）が21%となっており、この2つで100%になっていた。

「住居費」に関しては、前期課程では、4～5万円未満が45%で一番多く、次いで3～4万円未満が32%となっている。後期課程では、3万円未満が45%で一番多く、次いで3～4万円未満、4～5万円未満、5万～6万円未満が同率でそれぞれ18%となっている。

「配偶者・子供の有無」については、前期課程では100%が「配偶者・子供ともなし」となっている。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が86%，「配偶者あり・子供なし」および「配偶者・子供とも

あり」が7%となっている。

「通学方法」では、前期課程では自転車通学が73%と一番多く、次いで自動車16%となっている。後期課程では、自転車通学が71%と一番多く、次いで自動車14%、徒歩7%、バイク7%となっている。

「通学時間」に関しては、前期課程では、15分未満が75%、後期課程では、15分未満が64%、15分～30分未満が21%であった。

「収入・支出」については、前期課程では、41%が親等からの援助を除く平均収入額は3万円未満、31%が3万円～5万円未満である。92%の学生が10万円未満の収入となっている。後期課程では、収入額10～15万円未満の割合が36%と最も高く、42%が収入10万円未満である。

「親等からの援助」に関しては、前期課程では、約20%が親等からの援助が全くなく、88%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では、前期課程と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が高く、収入面での独立傾向がうかがえる。71%が親等からの援助がゼロであり、親等からの援助額が5万円未満である大学院生が92%を占めている。さらに、前期課程の12%を占めていた援助額10万円以上の大学院生の割合は0%であった。

「奨学金の希望」においては、前期課程では、33%が奨学金を受給しているが更に希望しており、将来的な受給希望を含めると41%であった。後期課程では、奨学金を希望する割合が93%と全学で最も高い。

「アルバイト」については、前期課程では、61%の大学院生がアルバイトを行っている。後期課程では、43%がアルバイトをしていると答え、前期課程と比較して割合が低い。アルバイトの目的は、生活費や学費のためが前期課程では36%であるのに対し、後期課程では83%と高い。「アルバイトに関するトラブル」については、前期課程では、全体の3分の2にトラブルは見られない。最も多いトラブルは「雇用者との意見の不一致」、次いで「客とのトラブル」であった。後期課程では、全体の83%はアルバイトでのトラブルの経験はなかった。最も多いトラブルは「客とのトラブル」であった。

「健康状態について」に関する設問の「睡眠時間」においては、前期課程では「6～8時間未満」が55%、「4～6時間未満」が37%であった。前期課程の学生は6時間未満が45%となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。後期課程では、「6～8時間未満」が57%、「4～6時間未満」が43%であり、前期課程と同様に睡眠不足の傾向が見られた。

「気になる症状」において、「ある」と答えた学生は、前期課程は55%であったが、後期課程では71%であった。症状は、前期課程は頭痛、動悸・不整脈、めまい・立ちくらみ、生理痛・生理不順、後期課程は頭痛、動悸・不整脈であった。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「就職や進路」が29%、「勉強」が15%の順であった。後期課程も同様に、「就職や進路」が29%、「勉強」17%の順であった。悩み事は、前期課程の約8割、後期課程の約6割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが「就職・進路や勉強」であるため、「教員」が相談相手となりやすいとも考えられるが、前回調査同様、後期課程の学生は教員に相談する者が14%、前期課程では7%と少なかった。また「悩みを誰にも相談しない」という学生が、前期課程、後期課程それぞれ5%、14%であった。相談相手としての「学生相談室や保健管理センターの利用」は少なく、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。

「現在の精神状態」として、前期課程では46%の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、54%は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」、「やる気がでない」が多かった。後期課程では、77%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し、前期課程より高かった。

前期課程、後期課程とも、「保健管理センターに健康診断のため行ったことがある」と回答した学生は約6割と多かったが、「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生が前期課程で3%、後期課程で6%見られた。

「学生生活上の問題点」の設問では、前期課程では、「いたずら電話を受けた」のが2名で、「アカハラを受けた」が1名、「カルトのような集団への勧誘を受けた」が1名であった。後期課程では、「いたずら電話を受けた」が1名、「アカハラを受けた」が3名であった。

「学生相談室」は、前期課程で25%、後期課程で29%の学生が「知らない」と回答している。「利用したことがある」と回答した前期課程の学生は「どちらかといえば満足である」が67%であったのに対し、後期課程では、「不満足である」が40%、「どちらかといえば不満足である」が20%であった。

「大学事務室の対応への満足度」に関して、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は前期課程で92%、後期課程で85%であった。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は、所属する教育部の教育理念や教育方針について、「知っている」、「だいたい知っている」と答えた人の割合は、前期課程で45%、後期課程で71%であり、後期課程で高かった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では87%、後期課程では90%が「思う」と答えている。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は35%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（49%）と合わせて84%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」は12%となっている。後期課程では全体で86%がほぼ満足しており（「満足している」29%、「どちらかといえば満足している」57%）、「どちらかといえば不満足である」は14%となっている。

大学院に相応しいレベルの授業については、前期課程では「充分に行われている」が37%、または「ある程度行われている」が57%となっている。後期課程もほぼ同様で、「充分に行われている」が36%、「ある程度行われている」が57%となっていた。「あまり行われていない」、「全く行われていない」の合計は、前期課程6%、後期課程7%であった。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」24%、「どちらかといえば満足している」75%で、あわせて98%であった。後期課程では、「満足している」21%、「どちらかといえば満足している」71%とあわせて92%であった。「どちらかといえば不満足である」は7%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が25%、「希望する研究分野があるから」が18%、「継続して就学するため」が16%となっている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」および「継続して修学するため」が同率で21%、「出身大学だから」および「指導教員に勧められたから」が同率で15%となっている。

「大学院での勉学で目指すもの」では、前期課程では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」47%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」22%、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」18%の順であった。後期課程では、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が46%で最も高かった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程では「40～60時間未満」41%、60時間以上」24%、「20～40時間未満」20%の順になっている。後期課程では、「40～60時間未満」57%、「20～40時間未満」29%、「60時間以上」14%であり、前期課程より長くなっていた。

研究指導としては、前期課程において、大学の中で教授から指導を受ける学生の割合が一番少なかった。助教が50%で最も多くなっていた。後期課程でも助教が43%で最も多かったが、教授の割合が36%と前期課程に比べて高くなっていた。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程では「90分～5時間未満」

が37%と最も多く、「30～90分未満」が31%、「30分未満」が18%の順となっている。後期課程では、「30～90分未満」が36%と最も多く、「90分～5時間未満」が29%、「30分未満」が21%となっている。

「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」が最も多く51%、「満足している」の39%と合わせると、90%であった。後期課程の回答は、「満足している」と「どちらかといえば満足している」が36%ずつであり、以下、「不満足である」が21%、「どちらかといえば不満足である」が7%となっており、前期課程に比較して不満足と答えた人の割合が高かった。

論文のテーマについての満足度では、前期課程、後期課程とも、「満足している」、「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が90%を超えていた。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が53%、「充分とれている」が(27%)、「あまりとれていない」が14%となっている。同じ設問に対して、後期課程では「充分とれている」が43%で、「ある程度とれている」が29%、以下、「あまり取れていない」、「まったく取れていない」がそれぞれ14%であった。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、「研究環境に満足している」「どちらかといえば満足している」がそれぞれ41%、「どちらかといえば不満足である」が12%となっている。後期課程では、研究環境に「満足している」43%、「どちらかといえば満足している」50%で、前期課程に比較して満足度がやや高くなっている。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では、前期課程では「研究時間」が44%、「研究費用」22%、「施設・設備」11%であった。後期課程においては「研究費用」が100%であった。

「所属教育部に対する満足度」の設問では、前期課程学生は、「どちらかといえば満足している」が51%、「満足している」が41%であった。後期課程学生は、「どちらかといえば満足している」が57%、「満足している」が43%となっていた。

「図書館ウェブサイトに対する利用頻度」は、前期課程で「1年に1回程度かそれ以下」の31%が最も多く、次に「半年に1回程度」が27%であった。後期課程では、「1年に1回程度かそれ以下である」が最も多く36%、「半年に1回程度」が21%である。図書館ウェブサイトに対する満足度は、前期課程で「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計で98%、後期課程では86%と高くなっていた。

「国際学会での研究発表」に関して、「あり」の割合が前期課程では14%、後期課程では60%で、後期課程で高くなっていた。

「語学についての学習状況」は前期課程では「TOEIC、TOEFLの受験が中心」が29%であった。後期課程学生は「ラジオ・テレビの英会話番組」と「外国人とのコミュニケーション」が同率で18%であった。前期課程、後期課程とも約6割の学生は語学修得に努力していた。

「現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか」との問いに対し、前期課程の65%、後期課程の64%の学生が「よく学習している」または「かなりしている」と回答した。

「本学の国際化への対応」に関し、前期課程の81%、後期課程の78%の学生が「非常に積極的であると思う」または「どちらかといえば積極的であると思う」と回答していた。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは14%で、「奨学金等の援助があれば進学したい」とあわせて18%である。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「企業等の研究職」と「専門職(医師など)」が19%、次いで[大学、官公庁の教育・研究職以外の公務員]17%であった。後期課程の就職希望職種は「大学、官公庁の教育・研究職」32%で「企業等の研究職」と「教育職」が18%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が一番高く24%で、「収入」が22%、「能力を発揮できること」と「勤務地の地理的条件」が18%で、これらの4項目が主要件になっていた。後期課程では、「能力を発揮できること」26%、「収入」と「就職先の将来性・安定性」がそれぞれ18%であった。

「進路選択の情報の入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」35%、「先輩・知人」23%、「指導教員」11%の順であった。後期課程では、一番多いのは「指導教員」と「Web・インターネット」が同率で28%であった。

「就職支援センターの利用状況」については、前期課程は過去の利用も含めて就職支援センターの利用は35%にとどまり65%は利用していなかった。後期課程も64%の人で利用がなかった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いために就職支援センターを利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、明らかになった問題点と課題は、前回の調査とほとんど変わりがないが

1. 健康面や精神面支援の充実
 2. 前期課程における国際学会への参加の促進
 3. 就職支援の充実
- 等が挙げられた。

3-6 保健科学教育部

保健科学教育部では、前期課程在籍者は53人で、回答者は23人、回答率は43.4%であった。後期課程在籍者は22人で、回答者は7人、回答率は31.8%であった。留学生は前期課程1名で、回答は得られていない。後期課程は全員が社会人であり、年収等答えにくい部分があったかも知れない。また調査は、指導教員経由で回答を依頼したため返却しづらく、紙ベースでの回収だけではなく、Web上で回答できるようにするなど、もっと回答しやすくする工夫が必要と思われる。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地は、前期課程では徳島県出身者が13%で、前回調査より徳島県出身者の割合が減少している。後期課程では、徳島県が4人で、その他が3人である。回答者の出身地大学（大学院）は、前期課程では「徳島大学」が74%で、前回調査とは大きく変化していない。社会人が占める割合は、前期課程17%、後期課程100%であり、後期課程では全学の中で社会人学生の割合が最も高い。

第2章「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では、前期課程では、全体でアパート・マンション（家族と別居）が74%、次いで自宅（家族と同居）が22%で、この2つで96%を占めた。後期課程では、アパート・マンションが4名で、家族と同居が3名であった。

婚姻状況では、前期課程では配偶者なし・子供なしが96%であった。後期課程では、配偶者あり・子供ありが5人（71%）で、全教育部の中で割合は最も多かった。これは、全員が社会人であるためと考えられる。

「通学方法」に関しては、前期課程では、自転車通学が78%と一番多く、次いで自動車、バス・JRがそれぞれ9%であった。後期課程では、自動車5人（71%）で、他教育部に比較して自動車通学が多く、社会人学生が多くいることと関連している。

通学時間に関しては、前期課程では、15分未満が74%、30分～1時間未満が13%、15分～30分未満が9%となっている。後期課程では、通学時間15分～30分未満が4人で最も多かった。

第3章「収入・支出について」では、前期課程では78%の学生が10万円未満の収入であるが、17%は10万円以上の収入があり、中でも4%は25～30万円未満の収入を得ている。後期課程では、86%

の大学院生に20万円以上の収入があり、うち29%は30万円以上の収入を得ている。一方、前期課程では39%で親等からの援助がなく、あっても親等からの援助が10万円未満の者が88%を占めている。後期課程の大学院生すべてが援助ゼロとなっている。これは、全員が社会人学生であるためと思われる。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く）」に関して、1か月10万円未満に支出を抑えている大学院生の割合は83%と他の教育部と比較しやや低い。後期課程では、5人は10万円以上の支出額である。これも全員社会人学生であるためと考えられる。実際は配偶者や子供との同居の影響もあり、個人の支出金額はわかりにくいと思われる。

「奨学金」に関しては、前期課程では、「現在奨学金を受けている」43%と「将来的に奨学金を希望する」9%をあわせても全体の約半数であり、残りの半数は奨学金を希望していない。後期課程では、現在奨学金を受けている者が2人、将来的に奨学金を希望する者が2人であり、残りの3人は将来的にも奨学金の受給を希望していない。

「現在アルバイトをしているか」では、前期課程では、アルバイトをしている割合は43%で、57%はアルバイトをしていなかった。後期課程では、アルバイトをしている者は1人のみであった。アルバイトの収入額は、前期課程では3万円未満が一番多く40%占めているが、15万円以上も20%であり、その他の教育部よりもやや高額である。「アルバイトのトラブル」で、「トラブル経験なし」と回答した者の割合は前期課程で80%であり、残りの20%は「客とのトラブル」と回答していた。後期課程では、トラブル経験なしが100%であった。他の教育部と比較して、「トラブル経験なし」の割合がやや高かった。

第4章「健康状態について」では、「睡眠時間」は前期課程で「4～6時間未満」が52%、「6～8時間未満」が39%であった。後期課程では「4～6時間未満」が4人、「6～8時間未満」が3人であった。前期課程、後期課程ともに睡眠不足の学生が多いと考えられる。

気になる症状については、前期課程では「時々ある」が52%、「常にある」が26%、「ない」が22%であり、後期課程では、「ない」が4人で、「時々ある」は3人であった。

主な悩みと不安については、前期課程では「勉強」が21%で最も多かった。後期課程でも、「勉強」が3人で最も多かった。

悩み事の相談相手は、前期課程では、友人が48%、家族が27%であった。後期課程では、友人4人、家族3人であった。

現在の精神状態は、前期課程で「気分は普通」が33%、「なんとなく不安」および「落ち込みやすい」がそれぞれ14%であった。後期課程では、「充実している」2人、「なんとなく不安」2人であった。

「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生は、前期課程で8%であった。74%の学生は、健康診断その他の目的で利用したことがあると回答した。後期課程では、利用したことがある学生の割合は7人中3人であり、全学の中でやや低い傾向が見られた。

第5章「学生生活上の問題点」で、迷惑行為を受けたことがあるかでは、前期課程では83%が受けたことはなく、後期課程では、受けたことがある者は皆無であった。迷惑行為の内容は、「カルトのような集団への勧誘を受けた」2人、「悪徳商法に引っかかった」、「インターネットによる誹謗・中傷」が各1名ずつであった。

「学生相談室の利用」については、「利用したことがある」学生は前期課程では皆無であり、他の教育部に比べて低かった。後期課程では「学生相談室を知らない」は14%であり、他の教育部に比べてやや高かった。

「大学事務室の対応満足度」は、「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は、前期課程で91%、後期課程で71%であった。

第6章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では、前期課程において、教育理念や教育方針を知っている割合は、「良く知っている」および「だいたい知っている」の合計は56%

であり、「あまり知らない」が39%、「知らない」が4%であった。後期課程では、「だいたい知っている」が71%であった。教育理念や教育方針に沿った教育の実践度では、「思う」は前期課程で69%、後期課程で80%であった。

前期課程では、教育課程の満足度において、「どちらかといえば満足している」が74%、「満足している」および「どちらかといえば不満足である」がそれぞれ9%であった。後期課程は、「満足している」、「どちらかといえば満足している」がそれぞれ3人であった。

大学院に相応しい教育の実践度では、前期課程において、「ある程度行われている」が83%、「行われている」が13%であった。後期課程では、「ある程度行われている」が5人であった。

「授業の内容や進め方」については、前期課程では79%が、後期課程では全員が「満足している」または「ある程度満足している」と回答した。

「本学を選んだ理由と目的」では、前期課程では「希望する研究分野があるから」が36%、「出身大学だから」が19%であった。後期課程では、「希望する研究分野があるから」が31%、「出身大学だから」が25%が多かった。

「大学院での勉学により目指すもの」については、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が73%、次いで「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が18%であった。後期課程では「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」3人、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」2人、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す人が1人であった。保健科学は、看護学、医用検査学、医用情報科学の3領域から成っている。修了後は、各領域で医療人として活躍することが多いため、前期課程では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」の回答頻度が高いと思われる。

「授業以外の研究活動に費やす時間」については、前期課程では研究活動に費やす1週間の平均時間は、「90分～5時間未満」が35%、「5～10時間未満」が22%、「10～20時間未満」が17%、「40～60時間未満」が13%と、30分から60時間以上まで大学院生による差が大きい。週20時間以上研究活動を行っている割合が22%と他教育部より低くなっている。後期課程では、「90分～5時間未満」が3人で最も多かった。

「研究を直接指導している教員」は、前期課程で「教授」が78%と他の教育部よりも多くなっている。後期課程では、「教授」が100%直接指導しており、これも他の教育部よりも多くなっている。

前期課程の学生が「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」は、「30～90分未満」が57%と最も多く、以下「90分～5時間未満」が22%、「30分未満」が17%となっている。後期課程では、「30～90分未満」4人、「90分～5時間未満」が2人、「30分未満」が1人であった。研究指導時間は、アンケートを取った時期とも大いに関係している。修士論文に早めに取りかかっているところは多くの指導を受けていると推測するが、データ収集中である者は、それほど指導を受けていないと推測される。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」の設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が57%、「満足している」および「どちらかといえば不満足である」がそれぞれ17%であった。後期課程では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が100%となっている。

「修士論文の研究テーマに関する満足度」は、「どちらかといえば満足している」が最も多く65%、以下「満足している」が22%、「どちらかといえば不満足である」が9%となっている。「博士論文の研究テーマに関する満足度」は、「どちらかといえば満足している」が4人、「満足している」が3人となっている。

「指導教員とのコミュニケーション」に関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」

が最も多く65%，以下「あまりとれていない」が22%，「充分とれている」が13%となっている。後期課程では、「ある程度とれている」が5人で最も多かった。

「研究環境」について、前期課程では、研究環境に「どちらかといえば満足している」が61%，「満足している」が9%，で、他教育部より研究環境に関する満足度が若干低くなっている。研究環境に満足していない前期課程学生にその理由を尋ねた設問では、その理由として「研究時間」44%，次いで「施設・設備」が33%，「研究費用」11%であった。後期課程では、「どちらかというとな満足である」との回答が3人あり、理由は全員が「施設・設備」であった。

「所属大学院についての満足度」については、前期課程学生は、83%が「どちらかといえば満足している」と回答しており、以下「どちらかといえば不満足である」が13%，「満足している」が4%であった。後期課程学生は、「どちらかといえば満足している」6人、「満足している」1人であった。前期、後期とも「満足している」の割合が他教育部より低い傾向がある。

「図書館の利用頻度」についての設問に関して、図書館を「1週間に1回以上利用する」学生は前期課程で43%である。後期課程では、「1週間に1回以上利用する」割合は14%であり、他教育部に比較して低い傾向がある。

図書館ウェブサイトに対する利用頻度は、前期課程で「1週間に2～3回程度」が最も多く30%であった。後期課程では、「1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である」が57%で最も多く、他教育部に比較して利用の頻度が低かった。

図書館ウェブサイトに対する満足度は、前期課程で「どちらかといえば満足している」が83%，次いで「満足している」が13%であった。後期課程では、「どちらかといえば満足している」が4人、「満足している」が2人であった。

「国際学会への参加」について、国内外での国際会議での発表経験を尋ねた質問では、前期課程では91%が「国際学会で研究発表をしたことがない」と回答している。一方、後期課程では、57%が国内外での国際会議で発表をしたことがあると回答した。

「語学に関する自己学習」については、前期課程では「何もしていない」が63%であったが、後期課程では70%の者が何らかの語学学習を行っていた。

「学習への取り組み」では、前期課程では「よく学習している」と「かなりしている」で合計56%であった。後期課程では「かなりしている」が3人、「よく学習している」および「あまりしていない」がそれぞれ2人であった。

「本学の国際化への対応」に関し、前期課程の学生の52%は「どちらかといえば積極的であると思う」と回答したが、35%は「どちらかといえば積極的とは思わない」と回答している。後期課程では、全員が「非常に積極的であると思う」、または「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した。

第7章「進路選択・就職について」では、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは8%のみである。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「専門職」が64%であり、最も多かった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「収入」が27%，「能力を発揮できること」が22%，「就職先の将来性・安定性」が20%であり、これらの3項目が主要件になっていた。後期課程では、「収入」および「就職先の将来性・安定性」がそれぞれ29%，「能力を発揮できること」18%であった。

「進路選択の情報の入手手段」で前期課程では、「Web・インターネット」が37%，「先輩・知人」17%，「指導教員」15%であった。後期課程では、一番多いのは「指導教員」で45%，次いで「Web・インターネット」27%であった。後期課程は前期課程に比べ指導教員からの情報入手の割合が高かった。

「就職支援センターの利用状況」については、前期課程および後期課程の全員が「就職支援センターを

利用したことがない」と回答している。大学院生は専門性の高い資格を持ち、特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いために就職支援センターを利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、今後の課題として、前回の調査とあまり変わらないが

1. アンケートの回収率を上げること
2. 研究時間の確保
3. 教育研究の設備の充実
4. 学生相談室、保健管理センター、まだ就職していない大学院生に対しては就職支援センターの活用等が挙げられる。

8-7 先端技術科学教育部（工学研究科）

先端技術科学と工学研究科における学生数は、前期課程が704人、後期課程が153人であり、今回の調査における学生の回答割合は、前期課程が65.1%、後期課程が39.2%である。

第1章「本調査の対象者について」より、前期課程の出身地は、徳島県36%、近畿31%、徳島以外の四国12%、中国13%と徳島県と近隣府県の占める割合が極めて高くなっている。後期課程では徳島37%、近畿15%、徳島以外の四国3%となっている。また、本学出身者の割合は、前期課程で94%と高い割合となっているが、後期課程では、本学出身者が53%で、20%が国内他大学・大学院、25%が外国の大学・大学院出身となっている。社会人と留学生の割合は、前期課程でそれぞれ4%、4%と極めて少数である傾向は変わらないが、後期課程では、それぞれ、22%、42%となっている。

第2章「家族・住居・通学」より、住居は、家族と別居したアパート・マンションが、前期課程で70%、後期課程で27%、自宅が前期課程で28%、後期課程で44%となっている。後期課程においては、配偶者がある家庭が32%になっており、これが後期課程における自宅の割合を引き上げている要因になっていると推定される。さらに後期課程では国際交流会館が24%をしめ、国際交流会館が留学生の住居として大きな役割を果たしている。通学方法は、自転車前期課程61%、後期課程51%と最も多く、前期課程では、次いで徒歩、バイク、自動車の順である。後期課程では、自転車の次は自動車、バス・JR、徒歩、バイクの順となっている。15分未満の通学時間の割合は、前期課程で74%、後期課程では32%である。後期課程において相対的に通学時間が長くなり、2時間以上の割合も5%となっている。社会人在籍者の場合は、勤務先が県内とは限らず、通学距離が長くなっていると推定される。

第3章「収入・支出について」より、平均収入月額、前期課程では、3万円未満が53%と最も多く、収入額の増加とともに割合が減少する傾向があるが、後期課程では、3万円未満から30万円以上まで、収入額に偏りが見られず広く分布しており、これも第3回調査とほぼ同じである。また、親等からの援助について前期課程でみると、全くないと3万円未満の援助が20%と22%で第3回調査（共に22%）とほぼ同じである。後期課程では、65%の学生が全く援助を受けていないと回答している。奨学金については、「受給中であるが、更に希望する」割合が、前期課程で46%、後期課程で55%と高くなっている。また、「現在受給していないが希望する」ものの割合は前期課程で9%とほぼ変化がないが、後期課程で13%から22%に増加している。両課程において、奨学金をより充実させる必要があるが、後期課程で始まった徳島大学ゆめ奨学金制度をさらに充実させる必要がある。

アルバイトは、前期課程で50%、後期課程で28%の学生が従事している。第3回調査時には、前期課程で49%、後期課程で29%であり、あまり変わらない。アルバイト従事時間数は10時間未満の学生は前期課程で43%、後期課程で77%である。また、アルバイトの目的も生活費や学費のためが最も多く、前期課程では37%で第3回調査とほぼ同じ、後期課程では71%となっており、前期課程よりもより手厚

いサポートが必要である。また、アルバイトにおいて、前期課程の28%、後期課程の6%の学生はトラブルに遭遇している。特に前期課程の2%の学生が事故・ケガを経験しており、内容などの把握が必要である。

第4章「健康状態について」より、気になる症状が、「時々ある」と「常にある」の割合が前期課程で35%、後期課程で52%になっており、特に後期学生の割合が高い。主な悩みや不安については、前期課程においては就職や進路、後期課程では勉学が最も多くなっているものの多岐にわたっており、個々人の悩みに応じた多様な対応が必要とされている。相談相手としては、友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし、誰にも相談しないものも前期課程16%、後期課程11%存在しており、自己解決できる場合には問題ないと思われるが、学生相談室や教員等に早期に容易に相談できることを周知する必要がある。

現在の精神状態については、普通または充実していると回答した割合が、前期課程で65%、後期課程で80%であり、残りの32%と20%の学生が、なんとなく不安、やる気が出ない、いらいらする、落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えている。第3回調査より少し減少しているものの引き続き対策が必要であると考えられる。保健管理センターがあることを知らなかった、知っているが行ったことが無いと回答した学生は、前期課程8%、後期課程36%となっており、学生への周知も必要である。

第5章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為は前期課程で86%、後期課程で97%が迷惑行為を受けていないと回答しており、第3回調査とほぼ同じような結果となっている。第3回調査からカルト集団からの勧誘が項目に加わっているが、問題となっている迷惑行為の中では前期課程で4%、後期課程で2%の学生が被害を受けたと挙げており、引き続き注意喚起を促す必要がある。また、アカハラも前後期課程合わせて全学で29名中、先端科学技術部で15名が被害を受けており、被害実態の詳細な調査や対策等を早急に行う必要がある。

犯罪被害については、前期課程では第3回調査とほぼ同じく22%が何らかの被害を受けており、後期課程でも12%が被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く、「現金・貴重品の常時携行」、「自転車の施錠」等盗難予防の周知徹底に努める必要がある。交通事故については、前期課程で35%、後期課程で34%が被害者・加害者のいずれかに関わっており、交通安全に関する教育と周知徹底をする必要がある。また、違法薬物使用については前期課程において一般学生4名、留学生2名が経験ありと答えており、啓発活動の強化が望まれる。

大学事務室の対応は、どちらかといえば不満足と不満足を合わせた割合が前期課程では18%、後期課程では3%となっている。概ね満足しているものの、満足していない点の把握と対応の検討に更に努める必要がある。

第6章「修学状況について」より、教育部の教育理念や教育方針は、前期課程でだいたい知っているものを含めて42%、後期課程では60%の割合でしか知られておらず、周知方法の検討に努める必要がある。教育課程、教育レベル、授業の内容や進め方に対しては後期課程の満足度がやや高い傾向が見られるが、両課程において、80%以上の満足度が得られており、一定の評価が得られていると考えられる。

本学への進学理由は、前期課程では第3回調査と類似しており、「出身大学（38%）」が最も多く、「継続して修学（17%）」、「希望する研究分野（14%）」、「就職等将来を考慮（12%）」と続いている。後期課程では、「継続して修学（21%）」が最も多く、「希望する研究分野（20%）」、「指導教員の勧め（17%）」、「出身大学（14%）」となっており、継続性や研究分野の割合が高い。また、本学出身者は、本学の大学院を第1志望とする割合は第3回調査とほぼ同じで前期課程で87%、後期課程で88%と高い。一方、他大学卒業生では、前期課程で39%、後期課程で30%が第1志望となっている。

研究活動の1週間平均時間として、20時間以上と回答した割合は前期課程では49%、後期課程では73%である。一方、1週間の研究活動が週90分以下の学生が前期課程で6%に達しており、研究活動

が生活の中心になっておかしくない大学院生がどうしてこのような状態になっているのか、健康面・心の状態も含めて十分に調査する必要がある。さらに、後期課程でも6%に達しているが、これは社会人博士の回答が影響しているものと考えられる。また、直接的に研究指導を受けている教員の比率は、前後期ともに、第3回調査と類似した傾向となっている。後期課程では、67%が教授、30%が准教授、講師が2%で、前期課程（教授46%）より、教授が指導する学生の割合が多い。研究指導を受ける時間は、前期課程では第3回調査とほとんど変化していない。週30分未満の割合が19%、30～90分未満が42%、90分～5時間未満は30%、それ以上は8%である。後期課程でも、30分未満の割合が19%、30～90分未満が42%、90分～5時間未満は31%、それ以上は13%と第3回調査と全体的な傾向はほぼ変わらない。研究指導、研究論文のテーマ及び指導教員とのコミュニケーション、研究環境、大学院に対する満足度は、前期課程、後期課程、留学生ともに比較的高い満足度となっている。しかし、指導教員とのコミュニケーションがとれていない学生が前期課程で16%、後期課程で14%が存在しており、指導時間の確保やコミュニケーションが難しい環境になっている要因を解析し、改善に取り組む必要がある。研究環境の満足度は、前期課程で83%、後期課程で90%と比較的高くなっているが、満足していない学生からは施設・設備、研究費を理由としてあげる学生が多く、これらの学生の研究環境の充実も今後の課題である。

海外渡航経験は、1回以上経験した学生が、前期課程では31%、後期課程では、58%となっている。渡航目的は、前期課程では観光が最も多く、46%となっているものの、留学、語学研修、学会参加、学術調査、社会調査をあわせて49%、後期課程では65%となっている。目的が観光と研究とに二分化されており、特に研究に関する国際交流を積極的に勧める必要がある。国際会議での発表は、前期課程で29%、後期課程で59%が経験しているが、第3回調査よりそれぞれ5%、16%増加している。学会参加への資金援助、特に前期課程の学生への援助をより充実し、早くからより多くの学生が参加できるように支援する体制の充実が引き続き必要である。

英会話については、前期課程において、何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は22%で、後期課程は65%である。TOEIC、TOEFL等の受験等語学力の向上に努めている割合は前期課程で58%、後期課程で72%であり、努力しているにも関わらず、コミュニケーション力の向上につながっておらず、単に学習するだけでなく、より実践的なコミュニケーションの機会を増やす必要があると考えられる。学生自身の学習への取り組みについては、かなり学習しているものの割合が前期課程で64%、後期課程で78%である。あまり学習していないという認識の学生に対しては、学習への取り組みを促す仕組みが必要であると考えられる。

第7章「進路・就職について」より、前期課程の学生は6%ほどしか後期課程に進学を考慮しておらず、この割合を伸ばす必要がある。また、就職希望職種としては、前期課程で技術職、企業等の研究職が前回とほぼ同様の56%、17%となっている。後期課程では、46%が無回答を選択しており、大多数は将来について確固たるキャリアが描けていないためであると考えられる。進路選択で重要視しているのは、両課程とも就職先の将来性・安定性、収入、能力を発揮できることを挙げている。進路の情報入手先は、Web・インターネットが前期課程で32%、後期課程で31%と最も多くなっている。前期課程では先輩・知人（21%）や就職情報誌マスコミ等（14%）より、指導教員（9%）や就職担当教員（4%）の割合は、低くなっている。一方、後期課程では、指導教員も22%と先輩・知人（18%）と同程度重要となっている。就職支援センターは前期課程は52%が、後期課程では73%が利用したことがないと回答している。一方、就職支援に対する要望が多く、模擬面接や就職ガイダンス等の利用を促進するための取組がさらに必要であろう。

最後に、その他の要望等として、教育部名やコース名が分かりにくく、研究分野を理解してもらえない、学会出張の旅費支援を充実してほしいなどの意見があった。

本調査から明らかにされた問題点と課題を列挙すると以下のとおりである。

1. 教育部の教育理念や教育方針の周知徹底
2. 学生の学習意欲を高めるための大学院教育カリキュラムの充実
3. 研究環境のさらなる充実
4. 奨学金制度や学会出張費用の支援などの経済的支援制度の充実
5. 国際化を図るための語学教育システムの充実
6. 学生の多様な悩みやハラスメントに対応するためのシステムの充実とその周知徹底
7. 交通安全教育の実施と交通安全に関する周知徹底
8. 違法薬物使用に関する啓発活動
9. 特に前期課程学生への国際交流援助制度の充実

(特記) 留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院在籍の留学生の割合は前期課程で6%、後期課程で21%である。留学生とする回答者数は前期課程後期課程あわせて86名である。本学大学院在籍の留学生は178名であり、留学生の回答率は48%であった。回収割合では、前期課程でやや少なく、後期課程でやや多くなっている。

留学生の住宅区分では約8割がアパート・マンションおよび国際交流会館であった。住宅費用は3万円未満が50%、3～4万円未満が30%であった。3万円未満の割合は第2回調査、第3回調査と比較してやや上昇した。また、通学方法は87%が自転車通学で一番多く、徒歩2%、バイク3%であった。通学時間は、15分未満が59%と一番多く、次いで15分～30分未満21%、30分～1時間未満20%となっている。家庭の年収については、250万未満の割合が81%であり、70%が親等からの援助はなく、援助があるものの額は5万円未満である。また、前期課程留学生の89%は月平均支出額10万未満で生活していて、とくに総合科学の留学生の40%は支出額を3万円未満に抑えている。留学生の経済状況がよいとはいえない。奨学金については、ほぼ全員（1名を除き）が奨学金を受けたいと回答している。アルバイトに関しては、前期課程では71%がアルバイトをしているが、後期課程は16%のみであった。第2回調査、第3回調査と比較して前期課程は上昇し、後期課程は減少している。後期課程では研究に従事する時間が増えることと「ゆめ奨学金」の充実に関係していると思われる。また、アルバイトの収入に関しては、前期課程はすべて7万円未満で、後期課程は3万円未満、3～7万円未満、7～10万円未満がそれぞれ約3分の1を占めている。

留学生の健康状況については、前期・後期課程ともに気になる身体症状が「ある」とした学生は71%、81%である。第2回調査、第3回調査と同じく高率であることは健康面の問題や不安に対する支援のニーズがあると思われる。また、主な悩みは、「勉学」「就職や進路」「経済状態」の悩みが多くなっている。悩み事をほとんどの学生が友人、家族、教員などの誰かに相談していることが分かる。学生相談室を知っている留学生は前期課程が75%と高いが、後期課程が33%と低い値となり、利用者は前期と後期課程で18%と12%である。大学院生への周知が、学生相談室の緊急の課題であり、国際センターと連携しながら対応していく必要があると思われる。

所属する教育部の教育理念や教育方針について、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、第2回調査、第3回調査とほぼ同じく前期課程で61%、後期課程62%であった。教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で90%、後期課程98%であった。大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で100%、後期課程98%であった。本学を選んだ理由

と目的については、両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合（前期課程：28%，後期課程：21%）が最も多かった。前期課程で次に多かった回答は「継続して修学するため」と「先輩や友人に勧められて」であり、いずれも23%となっている。後期課程では「継続して修学するため」も21%で最も多く、次いで「指導教員に勧められたから」が20%、「先輩や友人に勧められて」が17%であった。指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間については、前期課程では「30～90分未満」と回答した学生の割合が39%で最も多く、後期課程では「90分～5時間未満」が39%で最も多くなっている。研究指導の内容や進め方については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で100%、後期課程92%であった。論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、両課程でも100%であった。指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程93%であった。研究環境に「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程90%であった。所属教育部に対して、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で100%、後期課程98%であった。

日本語会話に関しては、前期課程では93%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対して、後期課程では58%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている。前期課程では71%、後期課程では74%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前受講したことがある」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる。また、日本語コースの満足度については両課程とも100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

大学院での学習への取組み状況についての質問に対して、留学生は前期課程で85%、後期課程で91%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っている。

本学の国際化への対応については、前期課程の86%、後期課程の97%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており、第3回調査とほぼ同じである。こうした結果は、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられるが、さらなる改善が必要である。

進学選択に関して、前期課程の留学生は相対的に博士後期課程への高い進学意欲を示しており、進学希望者の多くは、本学の博士後期課程を希望しているから、同じ指導教員や研究環境のもとでの研究継続を望んでいるケースが多いとみられる。進路情報の入手手段については、留学生は日本人学生と同様、目立つのはWeb・インターネットである。留学生は、教育・研究職志望が高く、収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることが進路選択の主要件である。また、就職支援センターの利用状況については、利用率がまだ低いと思われる。

本調査より明らかにされた問題点と今後の課題は以下の通りである。

1. 留学生の経済状況は恵まれたとはいえ、今後留学生に対する住宅、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA、RA制度の活用などを含めたさらなる経済支援が必要であると思われる。
2. 日本人学生の国際化意識および異文化体験、英語能力の向上、留学生の日本文化体験、日本語能力の向上などのために、日本人学生と留学生との交流の場を整備する必要があると思われる。
3. 就職支援センターと国際センターが連携しながら、留学生の就職支援を強化する必要がある。

第9章 総括と提言

本学の大学院生は、平成24年5月1日時点で合計1,699名（博士前期院生は1,054名、博士後期課程645名）である。今回（第4回）の大学院生生活実態調査は平成22年以来、2年振りに行われたものである。調査実施期間は平成24年11月5日から13日とした。前期課程で62.3%、後期課程で38.8%、大学院生全体に対して54.0%の回収率となった。全体の回収率は、前回調査（平成22年）の59%よりやや低い数値である。前回は回収率アップを狙って調査期間を14日間としていたが、それに比較してさほど低くなっていないとも言える。より正確な結果を得るためには回収率は高いほどよいが、単に調査期間を長くするだけでは期待ほどの効果は得られないと考えられる。大学院生を対象とした調査の場合、指導教員による協力を強く求める必要がある。また本調査だけでなく、各種報告書作成のために学生を対象とした各種のアンケートが多数行われていることから、教員だけではなく学生の側にも一種の「アンケート疲れ」が生じており、それが回収率の伸び悩みにつながっている可能性もある。本調査においても調査項目を絞り、学生が対応しやすい簡素な調査を目指す必要があると考える。

本学においては「国際的に通用する質の高い教育と研究」を大学院において実現すべく努力を重ねている。大学院生を対象とした学生生活実態調査は、大学院生の実情を的確に把握し、大学として支援すべき事項を見出すことが主な目的である。このような観点に基づいて、以下の総括と提言を取りまとめた。

1. 経済状態について

学生の経済的状況を把握するために最も参考になるのが、授業料支出を除いた1か月の平均支出額であろう。この値が3万円以下という院生が前期課程で20%、後期課程で10%存在する。前期課程ではこの数値は前回調査とほとんど同じであり、切り詰めた生活を送っている院生が多数（アンケート回答者の実数では約130人）存在していることを示している。このことを反映して、奨学金の増額を希望（「現在受給中であるが更に希望する」と回答）している学生が半数近く存在している。また、後期課程院生でも、同様に奨学金の増額希望者が全体の半数を超えている。厳しい経済状態を反映して、アルバイトに従事している学生も前期課程ではほぼ半数、後期課程でも3割に及んでいる。奨学金は主に日本学生支援機構から支給されているため、本学だけの努力では如何ともし難い面があるが、学業に専念できる条件を整備するため、後期課程におけるゆめ奨学金などの支援策を継続する必要がある。

2. 健康状態について

「常に気になる症状がある」と回答した院生は前期課程で約50人、後期課程で約20人と前回調査とほとんど同じ人数である。症状の内容としては頭痛、腹部症状が多く、基本的な生活リズムを整え、適度な運動などによりストレス解消を図れるように啓発を行う必要があると考えられる。

主な悩み・不安の内容は前期課程、後期課程ともに「就職や進路」、「勉強」が最も多くなっている。これらの項目は前回調査と同じであり、学生にとって普遍的な悩みであると言える。相談相手としては友人や家族が最も多く挙げられているが、誰にも相談しないという学生の割合も15%程度あり、問題をこじらせて休退学につながる要因になっていることが危惧される。学生相談室や保健管理センターの存在を知らない学生は少数であるが、身近にある相談施設としてより一層の周知が必要である。

3. 生活上の問題点について

各種迷惑行為のうち、セクハラ、アカハラ、飲酒の強要は大学として対策に取り組まなければならない項目である。セクハラは前回調査の5名から3名に減少している。アカハラを受けたと回答している学生は前期課程で18名、後期課程で11名存在し、そのうち15名が先端技術科学教育部である

ことが非常に懸念される。教員に対しての啓発活動、学生に対しては被害を受けた際の対処方法に関する周知が必要である。

違法薬物使用経験の有無については、前期課程、後期課程を合わせると、総合科学教育部、薬科学教育部を除く全ての教育部で経験者が存在するという結果であった。いわゆる脱法ドラッグが社会的に問題になっている状況を踏まえて大学としても対策が必要である。

4. 修学状況について

大学院における教育の満足度に関しては前期課程、後期課程両方において、「満足している」「どちらかといえば満足している」という回答を合わせて80%以上の結果が得られている。研究テーマに関する満足度も同程度以上の高い数値を示している。指導教員とのコミュニケーションも「充分とれている」「ある程度とれている」を合わせると前期課程、後期課程ともに80%を超えており、今後もこの程度の数値が維持されるよう努力を継続することが求められる。研究環境に対する不満点としては施設・設備および研究費用が多くなっている。これらの改善には、大学院生を指導している教員の研究レベルアップが最も重要であるが、設備運用面での対策としては、大学における研究設備の共用化をこれまで以上に推進する必要があるだろう。

図書館の利用頻度に関してはほぼ毎日の利用から1年に1回程度かそれ以下の利用頻度まで非常にばらつきがあるが、これは、大学院生の場合、図書館そのものの利用よりも図書館ウェブサイトの文献検索利用が主になっているためであろう。図書館ウェブサイトの満足度は90%程度の数値が得られており、今後も電子ジャーナルの維持と更なる充実が求められる。

入学後の海外渡航経験は前期課程で70%、後期課程でもほぼ半分がなしとしている。本学独自の短期留学に対する支援制度を利用して渡航する学生が増加することが望まれる。

5. 進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望せず就職することを考えている学生は、最も所属学生数が多い先端技術科学教育部において82%に達している。これは、主な就職希望職種が技術職や企業等の研究職であることを反映していると考えられる。後期課程への進学を促すためには、修了後の就職先の開拓が急務である。

6. 留学生について

本学大学院における留学生の割合は前期課程で6%、後期課程で21%である。留学生の悩みとしては「勉強」「就職や進学」「経済状態」が多くなっている。特に経済状態に関しては恵まれているとは言えず、留学生のほぼ全員が奨学金の受給を希望しており、前期課程院生の71%がアルバイトを行っている。RAへの採用など一層の支援策が必要であろう。

あ と が き

この第4回大学院生生活実態調査は平成17年度に第1回を実施し、その後、20年度、22年度と実施されたものを引き継いで行われました。今後も学部生対象の学生生活実態調査と隔年で実施される予定です。質問内容は連続性の観点から文言の修正を除きこれまでの調査とほぼ同じとなっています。質問は80項目で多岐にわたり、結果を細かく見ていくと学生の実情をかなりリアルに感じることができます。2年毎の調査となっているため、前回の調査結果と比べて数値が大きく変化している項目は少ないという印象でしたが、これは逆に言えば、大幅に改善または悪化している項目は少ないということを示しています。大学における改革を急激に行うことは難しく、何事も漸進的な改革によらざるを得ませんが、貴重な調査結果の分析は、大学院生の皆さんがより良い環境で研究を行うことができるよう、学生支援の改善に生かしていく必要があります。

アンケートの回収率は頭打ちの状況が続いています。調査期間を長く取ればそれに比例して回収率が上昇するものではないことは、前回との比較から分かります。今後は回収率向上のために指導教員の協力を得る必要があるものと思います。また、質問数が多く、分析がやや羅列的で散漫な印象になったことも反省点として挙げられます。学生支援に直結する内容に絞った簡素なアンケートを目指すことも考えてみる必要があると思います。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた大学院生諸君、調査・分析、報告書の執筆を担当された委員の先生方、事務職員の皆様に深く感謝します。

平成25年3月

学生生活支援室長

岡 田 達 也

徳島大学 平成25年3月

第4回 大学院生生活実態調査報告書 **CAMPUS LIFE** キャンパスライフ



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成19年3月28日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・認証期間：7年間(平成19年4月1日～平成26年3月31日)